



## Cisco Unified Serviceability のアラームと CiscoLog メッセージ

この章では、Cisco Unified Serviceability のアラームとエラー メッセージ、および CiscoLog メッセージの形式について説明します。Cisco Unified Communications Manager のために、Cisco Unified Serviceability によって追跡されるネットワーク アラームは、エラー メッセージを生成します。



(注)

履歴表に、Cisco Unified Communications Manager Release 7.0(1) で追加、変更、削除された Cisco Unified Serviceability のエラー メッセージの一覧を示します。

この章の構成は、次のとおりです。

- 「Cisco Unified Serviceability のアラームと CiscoLog メッセージ」 (P.6-2)
- 「事前設定されているシステム アラーム通知」 (P.6-19)
- 「事前設定されている CallManager アラーム通知」 (P.6-31)
- 「緊急レベルのアラーム」 (P.6-51)
- 「アラートレベルのアラーム」 (P.6-60)
- 「重要レベルのアラーム」 (P.6-78)
- 「エラーレベルのアラーム」 (P.6-92)
- 「警告レベルのアラーム」 (P.6-203)
- 「通知レベルのアラーム」 (P.6-304)
- 「情報レベルのアラーム」 (P.6-326)
- 「デバッグレベルのアラーム」 (P.6-405)
- 「Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(1) で廃止されたアラーム」 (P.6-406)

# Cisco Unified Serviceability のアラームと CiscoLog メッセージ

Cisco Unified Serviceability のアラームは、実行時のステータスとシステムの状態に関する情報を提供するため、システムに関する問題をトラブルシューティングできます。アラームやエラー メッセージ情報には、アプリケーション名、マシン名、推奨される対処方法、トラブルシューティングに役立つその他の重要な情報が含まれています。

アラーム情報を複数の場所に送信するようにアラーム インターフェイスを設定でき、それぞれの場所に独自のアラーム イベント レベル（デバッグから緊急まで）を持たせることができます。アラームを Syslog ビューア（ローカル syslog）、SNMP トラップ、Syslog ファイル（リモート syslog）、SDI トレース ログ ファイル、SDL トレース ログ ファイル（Cisco Unified CM サービスおよび CTIManager サービスの場合に限る）、またはすべての宛先に送ることができます。

Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の [Trace & Log Central] オプションを使用して、SDI または SDL トレース ログ ファイルに送信されるアラームを収集できます。ローカルの syslog に送信されたアラーム情報を表示するには、RTMT の SysLog ビューアを使用します。



(注)

すべてのアラームは、アラームの重大度およびアラーム イベント レベルの設定に基づいて記録されます。アラーム設定の表示については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

## CiscoLog のフォーマット

Cisco ソフトウェア アプリケーションの統一されたロギングのための仕様である CiscoLog は、Cisco Unified RTMT で使用されています。CiscoLog では、メッセージがファイルに記録される際や syslog プロトコルによって使用される際のメッセージ フォーマットが定義されています。Cisco ソフトウェア アプリケーションからの出力は、これらのアプリケーションによって提供されるサービスの監査、障害管理、トラブルシューティングに使用されます。

CiscoLog メッセージのフォーマットは、Cisco IOS ソフトウェアを次のコマンドで設定した場合に、syslog プロトコルを使用して Cisco IOS Release 12.3 によって生成されるメッセージのフォーマットの 1 つと互換性があることに注意してください。

- service sequence-numbers** : Cisco IOS によって生成されるデフォルトのシーケンス番号。このコマンドでは、追加のシーケンス番号もイネーブルにできます。このコマンドを実行すると、シーケンス番号が端末の出力に表示されますが、syslog 出力には 2 つのシーケンス番号が書き込まれることになります。CiscoLog は、シーケンス番号を 1 つだけ持つフォーマットについて標準化されています。そのため、Cisco IOS ソフトウェアの設定に対応するのは、**no service sequence-numbers** コマンドを使用して第 2 の番号をディセーブルにした場合です。
- logging origin-id hostname** : CiscoLog の HOST フィールドは、このコマンドを使用して設定した場合、Cisco IOS Release 12.3 によって生成されるフィールドと一致します。このコマンドは、Cisco IOS ソフトウェアのマニュアルに記載されていませんが、Cisco IOS Release 12.3 で使用できます。CiscoLog は、Cisco IOS ソフトウェアがこのフィールドに生成する結果と互換性があります。
- service timestamps log datetime localtime msec show-timezone year** : CiscoLog の TIMESTAMP フィールドは、このコマンドを使用して設定した場合、Cisco IOS Release 12.3 によって生成されるタイムスタンプ フォーマットと一致します。



(注) CiscoLog では、Cisco IOS ソフトウェア Release 12.3 と同じフィールド区切りを使用します。

この項では次の内容について説明しています。

- 「ログ ファイルと Syslog 出力」 (P.6-3)
- 「標準の syslog サーバの実装」 (P.6-4)
- 「クロックの同期」 (P.6-4)
- 「マルチパート メッセージ」 (P.6-4)
- 「CiscoLog メッセージのフォーマット」 (P.6-5)
- 「国際対応」 (P.6-18)
- 「バージョン設定」 (P.6-18)

## ログ ファイルと Syslog 出力

CiscoLog メッセージを、アプリケーションによって直接ログ ファイルに書き込んだ場合、各メッセージは個別の行に書き込まれます。行区切りは、所定のプラットフォームで使用されている標準的な行区切りです。Windows での行区切りは、復帰文字と改行文字 (ASCII 10 進数値 13 および 10。プログラミング言語では「\r\n」と指定します) です。Solaris および Linux では、行区切りは単一の改行文字 (ASCII 10 進数値 10。プログラミング言語では一般に「\n」と指定します) です。2 つの行区切りが連続して現れることはありません。たとえば、Windows では「\r\n\r\n」を使用できませんが、「\r\n」は問題ありません。これは、これらの 2 つの文字で 1 つの行区切りであるためです。

実際には、既存のログ ファイルにデータを追加する際にアプリケーション側で注意する必要があります。最初に改行が必要な場合とそうでない場合があります。たとえば、CiscoLog メッセージを書き込んでいるアプリケーションが、改行をファイルに書き込む前にクラッシュした場合、アプリケーション起動時に、次のメッセージを書き込む前に最初に改行を書き込む必要があります。アプリケーションは、起動時に最初の改行が必要かどうかを、追加用に使用されるログ ファイル中の最後の文字シーケンスを確認することで判断できます。

CiscoLog メッセージフォーマットは、2 つの軽微な例外を除き、ログ ファイルに直接書き込まれるメッセージや、syslog プロトコルを使用して生成されたメッセージと同じです。CiscoLog メッセージがファイルに直接書き込まれる場合、行区切りを使用して追加する必要があります。CiscoLog メッセージが syslog プロトコルを使用して送信される場合、syslog RFC 3164 のプロトコル PRI ヘッダーを各 CiscoLog メッセージの前に追加する必要があります。

syslog PRI フィールドには、syslog メッセージの重大度と syslog ファシリティが符号化されます。PRI フィールドで符号化された重大度は、CiscoLog の SEVERITY フィールドの値と一致する必要があります。メッセージの内容にかかわらず、任意の syslog ファシリティを使用できます。一般に、既定のアプリケーションは、そのすべてのメッセージを 1 つの syslog ファシリティに送信するように設定されます (通常は RFC 3164 ファシリティの local 0 ~ local 7)。PRI フィールドの符号化方法の詳細については、RFC 3164 を参照してください。次に、重大度「通知 (5)」とファシリティ値 local4 を符号化した、syslog プロトコルの PRI フィールドが <165> の CiscoLog メッセージの例を示します。

```
<165>11: host.cisco.com: Jun 13 2003 12:11:52.454 UTC: %BACC-5-CONFIG: Configured from console by vty0 [10.0.0.0]
```

RFC 3164 のロギング メカニズムを使用した場合、前述の例に示すメッセージを UDP ポート 514 に送信できます。

Syslog RFC 3164 は、PRI フィールド以外のメッセージ内容のフォーマット用の追加のガイドラインを提供します。ただし、RFC 3164 は単なる情報であり (IETF の標準トラックにない)、実際には任意の形式でメッセージを syslog UDP ポート 514 に生成できます (RFC 3164 のセクション 4.2 を参照)。

RFC には、実装に頻繁に見られる内容の構造についての所見が記載されていますが、その使用を要求または推奨しているわけではありません。CiscoLog フォーマットは、RFC で定義されているフォーマットの実用上の制限から、これらの所見に従っていません。たとえば、タイムスタンプが年、時間帯、ミリ秒なしで指定されていたり、ホスト名にドメイン名が指定できないという制限があります。

CiscoLog メッセージは、リレー時に変更されることが必要です。PRI フィールドは CiscoLog メッセージの一部ではなく、プロトコルヘッダーの一部です。これは、必要に応じて除去または置換できます。転送用に、CiscoLog メッセージにヘッダーやフッターを追加または除去できます。

## 標準の syslog サーバの実装

標準の syslog サーバの実装は、受信したログメッセージを転送したり、メッセージをローカルに保存するように設定できます。ほとんどの syslog サーバの実装は、受信したメッセージから PRI フィールドを除去し、保存前にメッセージの先頭に追加の情報を付与します。一般に、この追加の情報には、メッセージを生成または中継したサーバのローカルタイムスタンプとホスト ID (IP または DNS 名) の 2 つのフィールドが含まれます。

次の CiscoLog メッセージの例は、Solaris 8 syslog サーバによってログに記録された後の出力を示します。

```
Jun 13 12:12:09 host.cisco.com 11: host.cisco.com: Jun 13 2003 12:11:52.454 UTC:
%BACC-5-CONFIG: Configured from console by vty0 [10.0.0.0]
```

syslog サーバがメッセージを保存する方法を定義する標準はありません。実装は大きく異なります。CiscoLog は、メッセージが syslog サーバに送信されるフォーマットだけを扱い、それを受信したサーバが保存する方法は扱っていません。特に、syslog ログファイル中の追加のヘッダーフィールドのフォーマットや存在確認は、この仕様の範囲外です。



(注)

CiscoLog 仕様では、syslog サーバの実装が CiscoLog メッセージを保存する際、受信したメッセージから PRI フィールドだけを除去し、ヘッダーを追加しない形式であることを推奨しています。これにより、アプリケーションによってログファイルに直接書き込まれた CiscoLog メッセージや、syslog プロトコルを通じてログに記録されたメッセージと同じ格納形式になります。

## クロックの同期

分散アプリケーションのすべてのホストのクロックが、1 つの信頼できるクロックに同期していることは重要です。そのためには、NTP などのプロトコルを使用します。クロックの同期が推奨されるのは、複数のプロセスや複数のホストで生成されたメッセージに基づいて正しいイベントシーケンスを再構築するために、ログメッセージ中のタイムスタンプが必要なためです。それでもクロックのズレが発生する可能性があります。継続的に同期することで、この問題を最小限に抑えることができます。

## マルチパート メッセージ

ASCII 制御文字は、CiscoLog メッセージフォーマットのどのフィールドでも使用できません。制御文字には、改行、フォームフィード、復帰などの文字が含まれます。これは、次の目的以外で複数行のメッセージが使用できないことを意味します。

- 見やすさ (たとえば、スタックトレース)
- 800 オクテットの制限を超えるメッセージの分割

マルチパート CiscoLog メッセージは、複数の有効な CiscoLog メッセージのセットで構成されます。メッセージは、特別なタグキー「part」を使用してグループ化されます。これは、元のメッセージのパート番号とシーケンス番号を示します。

マルチパート メッセージに含まれるすべてのメッセージは、「part」タグを含むとともに、HOST、TIMESTAMP、APPNAME、SEVERITY の各フィールドとその他の TAG 値と同じ値を含んでいる必要があります。ただし、各メッセージのシーケンス番号は、通常どおり 1 ずつ増える必要があります。

マルチパート メッセージの例

```
16: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.468 UTC: %BACC-3-UNEXPECTED_EXCEPTION:
%[pname.orig=rdu][part=16.1/3]: Null pointer exception
17: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.468 UTC: %BACC-3-UNEXPECTED_EXCEPTION:
%[pname.orig=rdu][part=16.2/3]: com.cisco.Source:123
18: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.468 UTC: %BACC-3-UNEXPECTED_EXCEPTION:
%[pname.orig=rdu][part=16.3/3]: com.cisco.Main:1112
```

この例で、最初のメッセージのパート番号は 1 であり、そのシーケンス番号 16 は、part タグに埋め込まれています。以降のメッセージには、最初のメッセージ パートのシーケンス番号が埋め込まれ、固有のパート番号が設定されます。各 part タグの後ろに付与されている「/3」の値は、そのメッセージが 3 つのパートで構成されていることを意味しています。

## CiscoLog メッセージのフォーマット

CiscoLog メッセージのフォーマットは次のとおりです。

```
<SEQNUM>: <HOST>: <TIMESTAMP>: %<HEADER>: [TAGS: ]<MESSAGE>
```

すべてのフィールドは、1 個のコロン文字 (ASCII 10 進数値 58) と 1 個の空白文字 (ASCII 10 進数値 32) で区切られます。また、HEADER フィールドの前には、パーセント文字 (ASCII 10 進数値 37) が付与されます。

TIMESTAMP、HEADER、TAGS の各フィールドには内部的なフォーマットがあります。

TIMESTAMP フィールドと HEADER フィールドの完全なフォーマットと詳細は次のとおりです。

```
<SEQNUM>: <HOST>: [ACCURACY]<MONTH> <DAY> <YEAR>
<HOUR>:<MINUTES>:<SECONDS>.<MILLISECONDS> <TIMEZONE>:
%<APPNAME>-<SEVERITY>-<MSGNAME>: [TAGS: ]<MESSAGE>
```

ACCURACY と TAGS 以外のすべてのフィールドは必須です。

次の例では、CiscoLog メッセージを示します。

```
11: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC: %BACC-5-CONFIG: Configured from
console by vty0 [10.10.10.0]
```

次の例では、CiscoLog メッセージにおけるオプションの TAGS フィールドと ACCURACY フィールドを示します。

```
12: host.cisco.com: *Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC: %BACC-4-BAD_REQUEST:
%[pname.orig=rdu][comp=parser][mac=1,6,aa:bb:cc:11:22:33][txn=mytxn123]: Bad request
received from device [1,6,aa:bb:cc:11:22:33]. Header missing.
```

前述の例の、各フィールドの値は次のとおりです。

- SEQNUM : 「12」
- HOST : 「host.cisco.com」
- ACCURACY : 「\*」
- MONTH : 「Jun」
- DAY : 「13」
- YEAR : 「2003」
- HOUR : 「23」

- MINUTES : 「11」
- SECONDS : 「52」
- MILLISECONDS : 「454」
- TIMEZONE : 「UTC」
- APPNAME : 「BACC」
- SEVERITY : 「4」
- MSGNAME : 「BAD\_REQUEST」
- TAGS : 「%[pname.orig=rdu][comp=parser][mac=1,6,aa:bb:cc:11:22:33][txn=mytxn123]」
- MESSAGE : 「Bad request received from device [1,6,aa:bb:cc:11:22:33].Header missing.」

## メッセージ長の制限

CiscoLog メッセージ全体の長さは、800 オクテットを超えてはなりません。オクテットという用語は、バイトの代わりに 8 ビット データ タイプを表すために使用されます。これは、一部のプラットフォームでは 1 バイトが 8 ビットでないためです。「文字」および「オクテット」という単語は、この仕様の中では同義ではありません。国際対応がサポートされている場合、1 文字を複数のオクテットで表現する必要があります。この制限は RFC 3164 によって定められています。1024 オクテットの制限により、後の仕様で形式化される可能性がある syslog 転送ヘッダーやフィールドのための領域が予約されます。

CiscoLog メッセージに syslog PRI フィールドが含まれている場合、結合された CiscoLog メッセージと PRI フィールドの長さは 805 オクテットを超えてはなりません。

## SEQNUM フィールド

SEQNUM フィールドには、シーケンス番号が格納されます。これは、同じプロセスによって、同じタイムスタンプで複数のメッセージが生成される場合に、メッセージを時間の順に並べるために使用されます。シーケンス番号は、プロセスが起動してから最初に送信されるメッセージを 0 とし、同じプロセスによって生成される以降のロギング メッセージに対して 1 ずつ増やされます。アプリケーション プロセスが再起動されるたびに、そのシーケンス番号は 0 にリセットされます。各メッセージのシーケンス番号は、メッセージがアプリケーションによって送信/ログ記録された順番に付与する必要があります。

マルチスレッド化されたアプリケーションでは、そのための何らかの同期処理が必要となる可能性があります。また、JNI によるネイティブな (C) コードを含む Java アプリケーションでは、それ以外にも注意が必要になります。同じプロセスのネイティブな部分と Java 部分でログ メッセージを生成する場合、プロセスの 2 つの部分で同じシーケンス番号カウンタを使用し、シーケンス番号の順にメッセージを送信するには、実装を同期させる必要があります。

SEQNUM フィールドの最大値は 4,294,967,295 です。この値になったら、カウンタを 0 にリセットする必要があります。これは、Cisco IOS で使用されている 32 ビット符号なし整数の最大の正の値です。Cisco IOS は、シーケンス番号カウンタに `ulong` を使用しています。`ulong` は、`mips`、`ppc`、および `68k` を含む、現在のすべての Cisco IOS プラットフォームでの、32 ビット符号なし整数です。

シーケンス番号はプロセス固有です。単一のホスト上に、1 つのロギング デモンを共有する複数のアプリケーション プロセスがあるアプリケーション アーキテクチャの場合でも、シーケンス番号はプロセス固有である必要があります。そのため、各プロセスは独自のシーケンス番号を保持して増分します。

シーケンス番号は、失われたメッセージの検出にも役立ちます。そのため、シーケンス番号は省略できません。つまり、シーケンスの順のすべての番号に対してメッセージを生成する必要があります。

## HOST フィールド

HOST フィールドは、メッセージの生成元のシステムを、Fully Qualified DNS Name (FQDN)、ホスト名、IPv4/IPv6 アドレスのいずれかで示します。FQDN またはホスト名がわかっている場合、2 つのうちのいずれかを HOST フィールドで使用する必要があります。ほとんどの展開ではホスト名で十分であると予想されます。ただし、展開が複数のドメインにまたがっている場合は、FQDN を使用することを推奨します。アプリケーションを両方のシナリオに展開することが予想される場合、デフォルトで FQDN を使用し、設定可能なオプションにすることを推奨します。

FQDN もホスト名も特定できない場合は、ホストの IP アドレスを使用する必要があります。IP アドレスを特定できない場合は、HOST フィールドの代わりに定数 0.0.0.0 を使用します。



(注)

Cisco IOS フォーマットに関して、Cisco IOS Release 12.3 では、ホスト名、IP アドレス、任意のユーザ定義文字列を HOST フィールドで使用できます。ホスト名を使用するように設定されており、デバイスでホスト名が設定されていない場合は、「Router」などの文字列を使用します。

HOST フィールドの長さは 255 オクテットを超えてはなりません。

### FQDN とホスト名

1 台のシステムに対して複数の FQDN またはホスト名がわかっている場合、アプリケーションはプライマリ FQDN/ホスト名を使用する必要があります。プライマリが指定されていない場合は、任意の FQDN/ホスト名を使用できます。ただし、関連する設定変更が行われるまで、アプリケーションは同じ HOST フィールドの値を使用する必要があります。つまり、システムに複数の FQDN/ホスト名が設定されている場合、FQDN/ホスト名の値をメッセージごとに自由に変えることはできません。

FQDN またはホスト名を符号化する際、印刷可能な US ASCII 文字 (10 進数値 32 ~ 126) と外国語の文字だけを HOST フィールドで使用できます。HOST の適切な文字セットと符号化については、RFC 1123/STD-3 に準拠する必要があります。

これらの標準に従った使用可能な文字セットには、US ASCII 文字、数字、ダッシュ、およびドット区切り文字が含まれます (ただし先頭と末尾にはダッシュを使用できません)。標準に準拠することが推奨にとどまっている理由は、実際には、多くのホストがこの規約に従っておらず、アンダースコアなどの文字をホスト名で使用しているためです。ただし、HOST フィールドには文字シーケンス「:」(コロンと空白)を含めることができません。このシーケンスは、CiscoLog フォーマットでフィールド区切りとして使用されているためです。

印刷可能な US ASCII 文字以外の外国語の文字は、国際対応ルールに従って符号化する必要があります。

印刷不可能な (制御) ASCII 文字は、HOST フィールドでは使用できません。制御文字には、ASCII 10 進数値 0 ~ 31 と 127 が含まれます。アプリケーションが、1 つ以上の制御文字を含む CiscoLog 準拠のライブラリとホスト文字列を提供している場合、ロギングライブラリでは次のことを実行する必要があります。水平タブ文字 (ASCII 10 進数値 9) が見つかったら、1 つ以上の空白文字 (ASCII 10 進数値 32) で置き換える必要があります。タブあたり 8 個のスペースを推奨します。これは、ほとんどの Unix および Windows プラットフォームでこれが規約になっているためです。その他の制御文字は、疑問符文字 (ASCII 10 進数値 63) で置き換える必要があります。

DNS で大文字と小文字が区別されない場合、CiscoLog では、HOST フィールドの読みやすさのために、小文字だけを使用することも推奨します。FQDN の最後のドットの使用はオプションです。次の例は有効な HOST フィールドです。

- host123
- host-123
- host123.cisco.com
- host123.cisco.com.

## IP アドレス

HOST フィールドで使用される IP アドレスの値は、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスです。デバイスに複数の IP アドレスがある場合は、CiscoLog メッセージを syslog サーバに送信する際に経由するインターフェイスにかかわらず、デバイスのプライマリ IP アドレスを使用する必要があります。プライマリ IP アドレスが指定されていない場合は、動的に割り当てられたアドレスよりも固定または静的 IP アドレスを優先させます。複数の静的 IP アドレスが存在する場合は、どれを使用しても構いませんが、関連する設定イベントがシステムで実行されるまでは、すべてのメッセージで一貫して使用する必要があります。

- IPv4 アドレス : IPv4 アドレスは、ドット表記「x.x.x.x」で表現します。ここで、x は 10 進数値 0 ~ 255 を ASCII テキストとして符号化したものです。IP アドレスが不明な場合は、プレースホルダとして 0.0.0.0 を使用します。有効な IPv4 アドレスの例は、0.0.0.0 と 212.1.122.11 です。

次に、HOST フィールドで IPv4 アドレスを使用したメッセージの例を示します。

```
11: 212.1.122.11: Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC: %BACC-3-BAD_REQUEST: Bad request
received from device [1.2.3.4]. Missing header.
```

次に、FQDN、ホスト名、IP がすべてわからない場合の CiscoLog メッセージの例を示します。

```
11: 0.0.0.0: Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC: %BACC-3-BAD_REQUEST: Bad request received
from device [1.2.3.4]. Missing header.
```

- IPv6 アドレス : IPv6 アドレス表現は、RFC 3513 のセクション 2.2.1、2.2.2、および 2.2.3 に記載されている表記法に従います。具体的には 3 つの表記法すべてがサポートされています。IPv6 アドレスでは小文字と大文字の両方を使用できますが、小文字を推奨します。IP アドレスが不明な場合は、IP アドレスとして 0.0.0.0 を使用します。次に、有効な IPv6 アドレスの例を示します。

- 1080:0:0:800:ba98:3210:11aa:12dd (完全表記)
- 1080::800:ba98:3210:11aa:12dd (「::」表記を使用)
- 0:0:0:0:0:13.1.68.3 (最後の 4 オクテットを IPv4 として展開)
- 0.0.0.0 (FQDN、ホスト名、および IP アドレスが不明)

次に、HOST フィールドで IPv6 アドレスを使用したメッセージの例を示します。

```
11: 1080:0:0:800:ba98:3210:11aa:12dd: Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC:
%BACC-3-BAD_REQUEST: Bad request received from device [1.2.3.4]. Missing header.
```

## TIMESTAMP フィールド

TIMESTAMP フィールドには、年を含む日付、ミリ秒単位の時刻、時間帯識別子が、次の形式で表示されます。

```
[ACCURACY]<MONTH> <DAY> <YEAR>
<HOUR>:<MINUTES>:<SECONDS>.<MILLISECONDS> <TIMEZONE>
```

次に、有効なタイムスタンプの例をいくつか示します。

```
Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC
Jun  3 2003 23:11:52.454 UTC
Jun 22 2003 05:11:52.525 -0300
*Feb 14 2003 01:02:03.005 EST
```

場合によっては、ハードウェアやソフトウェアの制限により、デバイスで日付または時刻が認識されないことがあります。その場合には、文字列「--- 00 0000 00:00:00.000 ---」が TIMESTAMP フィールドに表示されます。次に日付と時刻が認識されていないデバイスからの CiscoLog メッセージの例を示します。

```
11: host.domain.com: --- 00 0000 00:00:00.000 ---: %BACC-3-BAD_REQUEST: Bad request
received from device [1.2.3.4]. Missing header.
```

クロックがないデバイスは、相対的な時刻の指標として動作期間を設定できます。デバイスが動作期間を設定できる場合は、タイムスタンプが使用できない場合の代わりとして動作期間を設定することを推奨します。動作期間を設定する場合は、CiscoLog 標準タグ仕様で規定されているように、標準の動作期間タグを使用して設定します。

表 6-1 に各フィールドの仕様を示します。

表 6-1 TIMESTAMP フィールドの仕様

フィールド	仕様
ACCURACY	<p>これはオプションのフィールドです。このフィールドが存在する場合、単一のアスタリスク文字 (ASCII 10 進数値 42) か、単一のドット文字 (ASCII 10 進数値 46) のどちらかである必要があります。このフィールドの後には区切り文字を使用しません。このフィールドは、クロック同期のステータスを示します。</p> <p>Cisco IOS では、タイムスタンプの精度を示すために、時刻プレフィクスで特殊な表記法を使用します。ドット文字が日付の前にある場合、ローカル時刻が NTP を通じていくつかの時点で同期されたものの、現在 NTP サーバが利用できないことを意味します。日付の前のアスタリスク文字は、ローカル時刻が正しくない (つまり NTP サーバが設定されていない) ことを意味します。</p> <p>CiscoLog では、この表記法の使用をサポートしていますが、必須ではありません。アプリケーションが NTP クライアント ソフトウェアと統合されており、その時刻が同期されていないことが認識されている場合、オプションでメッセージの前にアスタリスク文字が追加されることがあります。ただし、アプリケーションによってはこの方式を使用しないものもあるため、「.」や「*」が CiscoLog メッセージにないからといって、ローカル時刻が同期されていることを意味するわけではありません。</p>
MONTH	3 文字の月の指定 (Jan、Feb、Mar、Apr、May、Jun、Jul、Aug、Sep、Oct、Nov、Dec) の後に 1 個の空白 (ASCII 10 進数値 32) を区切り文字として使用します。
DAY	2 文字で指定します。日が 1 桁の場合は、1 個の空白文字を先頭に付与します。値の範囲は 1 ~ 31 です。日の値の後には、区切り文字として 1 個の空白を追加します。
YEAR	4 桁の文字の後に、区切り文字として空白を付与します。
HOURL	2 個の数字で設定します。時間は 24 時間制で指定します。値の範囲は 00 ~ 23 です。時間の値が 1 桁の場合は、先頭に 0 を 1 個付与します。時間の値の後には、区切り文字としてコロンを 1 個追加します。
MINUTES	2 個の数字で設定します。値の範囲は 00 ~ 59 です。分の値が 1 桁の場合は、先頭に 0 を 1 個付与します。分の値の後には、区切り文字としてコロンを 1 個追加します。
SECONDS	2 個の数字で設定します。値の範囲は 00 ~ 59 です。秒の値が 1 桁の場合は、先頭に 0 を 1 個付与します。秒の値の後には、区切り文字としてピリオドを 1 個追加します。
MILLISECONDS	3 桁の文字で指定します。値の範囲は 000 ~ 999 です。ミリ秒の値が 3 桁未満の場合は、先頭にゼロを追加して 3 桁のフィールドにする必要があります。ミリ秒の値の後には、区切り文字としてスペースを付与します。

表 6-1 TIMESTAMP フィールドの仕様 (続き)

フィールド	仕様
TIMEZONE	<p>1 から 7 文字の、ASCII 10 進数値 32 ~ 126 の範囲の文字を使用します。値には、コロン、空白、パーセントの文字「: %」の組み合わせ (ASCII 10 進数値 58、32、37) を含めることはできません。これは、この文字の組み合わせが、タイムスタンプの後のフィールド区切りとして予約されているためです。</p> <p>時間帯のための標準の頭字語はありません<sup>1</sup>。一般的な時間帯の頭字語と対応する UTC からの時刻オフセットが、UTC の仕様で規定されています。</p> <p>時間帯の頭字語の値としては、大文字を推奨します。CiscoLog では、このフィールドで、時間帯の識別子の代わりに、時刻オフセットの使用を推奨します。オフセットを指定する場合、UTC からの時間と分のオフセットを示すために、「-hhmm」または「+hhmm」の形式に従う必要があります。</p> <p>この形式の時間帯フィールドは常に 5 文字で指定し、最後の 4 文字は数字だけを使用します。テキストの時間帯識別子と異なり、このフォーマットはグリニッジ標準時からの時刻オフセットを示します。</p> <p>Cisco IOS Release 12.3 は、任意の 7 文字の文字列を時間帯識別子としてサポートしているため、この推奨と互換性のある方法で設定できます。複数のメッセージを同じタイムスタンプで生成することが必要な場合があります。これは、ノンプリエンプティブなオペレーティングシステムでは必然的に発生します。マルチパートメッセージの場合のように、意図的に使用することが必要な場合もあります。その場合、メッセージの順序を決定するために、シーケンス番号が役立ちます。アプリケーションのパフォーマンスが大幅に低下しない限り、タイムスタンプは、ミリ秒単位で正確であることが必要です。</p> <p>いずれの場合でも、アプリケーションは、ミリ秒単位で正確なタイムスタンプでメッセージを出力するためのオプションを管理者に必ず提供する必要があります。アプリケーションが秒単位で (ミリ秒単位ではなく) 正確なタイムスタンプを使用する場合、最後にわかっているミリ秒の値または 000 を、ミリ秒の代わりに設定します。アプリケーションがどの表記法に従うにしても、一貫して従う必要があります。</p>

1. Cisco IOS でも CiscoLog でも、標準の時間帯の頭字語は定義されていません。これは、確立された標準がないためです。

## HEADER フィールド

HEADER フィールドの形式は次のとおりです。

```
<APPNAME>-<SEVERITY>-<MSGNAME>
```

1 個のダッシュ文字 (ASCII 10 進数値 45) を 3 つのフィールドの区切りとして使用します。

## APPNAME フィールド

HEADER 中の APPNAME フィールドは、メッセージを生成するアプリケーションの名前を定義します。Cisco IOS は、APPNAME の代わりに、メッセージを生成する論理コンポーネントの名前を示す FACILITY を使用します。Cisco IOS 12.3 では、3950 個のメッセージに対して約 287 個のファシリティが定義されています。わかりやすいファシリティの例としては、AAAA、SYS、ATM、BGP、CRYPTO、ETHERNET、FTPSERVER、CONFIG\_I、IP、ISDN、RADIUS、SNMP、SYS、TCP、UBR7200、X25 などがあります。定義されているファシリティの全リストについては、Cisco IOS のマニュアルを参照してください。

Cisco IOS の外部では、同じホスト上の複数のアプリケーションがログメッセージを生成する可能性があります。そのため、APPNAME フィールドで指定のアプリケーションを確認する必要があります。追加の生成元の識別子は、HOST フィールドと、標準の TAGS フィールドのさまざまな値 (pname、pid、comp など) で使用できます。

APPNAME フィールドは、2 つ以上の大文字または数字で指定し、アンダースコア文字を含んでいる必要があります。より正確には、使用できる文字セットは、ASCII 10 進数値 48 ~ 57 (数字)、65 ~ 90 (大文字)、および 95 (アンダースコア) に限定されています。

APPNAME フィールドの長さは 24 文字を超えてはなりません。

アプリケーション名は、他の Cisco ソフトウェア アプリケーションや Cisco IOS ファシリティと競合してはなりません。

Solaris プラットフォームでは、APPNAME フィールドで使用するアプリケーション名の値を、アプリケーションのインストールパッケージ名と同じにし、大文字だけを使用し、CSCO プレフィックスを付けないことを推奨します (必須ではありません)。たとえば、Solaris 上で「CSCObacc」と登録されるアプリケーションでは、APPNAME フィールドの値として「BACC」を使用します。

一部のアプリケーションは、APPNAME フィールドの一部としてバージョンを指定します。それで問題はなく、特定のメッセージの意味がリリースごとに再定義される場合にはこのほうが便利です。たとえば、BACC バージョン 2.5 の APPNAME の値を、「BACC\_2\_5」とします。アプリケーション名の中でのバージョンの使用は任意であり、任意のリリースのアプリケーションで採用できます。

## SEVERITY フィールド

SEVERITY フィールドは 0 ~ 7 の数値で示され、8 段階の重大度を示します。次に示す重大度は、Cisco IOS の重大度に一致しています。これは標準的な syslog の重大度でもあります。

メッセージで正しい重大度を使用することが大切です。特定のコンポーネントにおけるエラーは、コンポーネントに関する限りは重大であっても、アプリケーション全体がそれを適切に扱うことで、アプリケーション全体としては重大度を下げることができる場合があります。表 6-2 に、メッセージの重大度を決定する際に従うべきガイドラインを示します。

表 6-2 エラー メッセージにおける名前と重大度と説明

名前/重大度	説明
緊急 (0)	<p>システムおよびサービスは使用できません。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サービスの起動に何度も失敗する。</li> <li>このシステムの動作に必要なディスク領域が不足していた。</li> <li>アプリケーションが動作するためには root 権限が必要だが、権限がない。</li> </ul>
アラート (1)	<p>すぐに対処が必要です。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーションのライセンスの期限が近づいている。</li> <li>アプリケーションのディスク領域が不足しつつある。</li> <li>不正アクセスが多数検出された。</li> <li>Denial of Service (DoS; サービス拒絶) 攻撃が検出された。</li> </ul>
重要 (2)	<p>危険な状態です。アラートに似ていますが、必ずしもすぐに対処が必要なわけではありません。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無効な認証要求を受信した。</li> <li>メモリ不足状態など、対処できないエラーによりサービスがクラッシュした (再起動するためのウォッチドッグ プロセスがある場合、必ずしもすぐに対処が必要なわけではない)。</li> <li>処理できない予期せぬコードエラー。</li> </ul>
エラー (3)	<p>エラー状態。サービスが動作し続ける機能に必ずしも影響があるわけではありません。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の要求の解析または処理上の問題が発生したが、アプリケーションは他の要求を処理できる。</li> <li>予期していないが対処されたコード例外。</li> </ul>
警告 (4)	<p>何らかの悪条件に関する警告。必ずしもエラーではありません。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一部のリソースへのネットワーク接続の切断。</li> <li>応答待ちでのタイムアウト。</li> </ul>
通知 (5)	<p>エラー状態でない、システムレベルの状態に関する通知。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設定が更新された (監査レベルの情報でない場合)。</li> <li>プロセスが起動された。</li> <li>プロセスが要求に従って正常にシャットダウンしようとしている。</li> </ul>

表 6-2 エラー メッセージにおける名前と重大度と説明 (続き)

名前/重大度	説明
情報 (6)	<p>情報メッセージは、システム全体に関する通知ではなく、アプリケーションの内部フローに対する情報や、要求ごとの情報を提供する点で、通知と区別されます。情報メッセージは、基本的なアプリケーション フローを十分理解しているユーザがトラブルシューティングに使用します。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 要求を受信した。</li> <li>• 要求を正常に解析した。</li> <li>• 要求を処理中である。</li> <li>• 応答を返送した。</li> <li>• 確認を受信した。</li> <li>• 詳細な監査情報。</li> </ul>
デバッグ (7)	<p>デバッグ メッセージは情報メッセージに似ていますが、より詳しい内容を提供します。ユーザはシステムの内部処理について十分理解している必要があります。これらのメッセージは、一般に、非常に高度な知識を持つユーザや Cisco Technical Support 向けに予約されています。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 要求パケットの完全な詳細。</li> <li>• 内部状態マシンの状態変更。</li> <li>• 内部プロファイリング統計。</li> <li>• 内部イベント。</li> </ul>

アプリケーションがデフォルトの重大度を使用してログに記録するメッセージを判断する場合、このレベルを 5 (通知) に設定することを推奨します。これにより、重大度が 5 以上のすべてのメッセージがデフォルトでログに記録されます。

### MSGNAME フィールド

HEADER の MSGNAME フィールドは、特定の APPNAME のコンテキスト内でメッセージを一意に識別します。固定の重大度と論理的な意味が、特定の APPNAME の中で特定の MSGNAME に関連付けられています。つまり、メッセージが異なるプロセスによって生成される場合であっても、同じ APPNAME 値に対して、同じメッセージ名を異なる重大度で使用したり、論理的にまったく異なる意味で使用できません。

メッセージが標準的なメッセージの 1 つでない限り、メッセージ名は特定のアプリケーション (特定の値の APPNAME) に対してだけ固有です。そのため、CiscoLog メッセージを解釈するアプリケーション側で、特定の名前を持つメッセージが、このメッセージ名を使用するすべてのアプリケーションで同じ意味であることを仮定しないように注意する必要があります。メッセージが標準的なメッセージの 1 つでない場合は、アプリケーションごとにその重大度と意味が違うことがあります。

MSGNAME フィールドには、2 文字以上を設定する必要があります。使用できる文字は、ASCII 10 進数の 48 ~ 57 (数字)、65 ~ 90 (大文字)、および 95 (アンダースコア) に限定されています。IOS では小文字も使用できますが、大多数の IOS メッセージは大文字だけを使用しています。確立された表記法に合わせるため、文字セットを大文字、数字、アンダースコアに限定しています。

メッセージ名は数字だけでも英数字でも構いません。ただし、IOS の表記法に従って、数値だけのラベルよりも、わかりやすい英数字のラベルを使用することを推奨します。たとえば、「341234」という識別子よりも、メッセージ名「NO\_MEMORY」が推奨されます。

CiscoLog 標準タグ仕様では、メッセージ名に対応する数値の ID を示すための特殊なタグ *mid* が定義されています。このタグは、MSGNAME に加えて数値のメッセージを提供するために使用できます。このタグを使用する場合、特定の MSGNAME は、必ず 1 つのメッセージ ID 値に対応する必要があります。CiscoLog では、各標準メッセージに対して *mid* タグ値が定義されています。

MSGNAME フィールドの長さは 30 文字を超えてはなりません、ほとんどのメッセージ名はこれよりも短くします。MSGNAME の値は、この標準で定義されている名前と競合してはなりません。

論理的に異なる各メッセージに対しては、個別のメッセージ名を定義する必要があります。つまり、あるメッセージ名のメッセージテキストは、いくつかの置換可能なパラメータによって変化できますが、論理的に異なるメッセージのメッセージ名は異なっている必要があります。

メッセージ名の正しい使用例を次に示します。

```
11: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC: %BACC-4-CONNECTION_LOST:
%[pname.orig=rdu]: Server lost connection to host [1.1.1.1]
12: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.458 UTC: %BACC-4-CONNECTION_LOST:
%[pname.orig=rdu]: Server lost connection to host [2.2.2.2]
```

ホストの IP アドレスが変化しても、論理的に同じ種類のメッセージであることに注意してください。次に、メッセージ名での **INCORRECT** の使用例を示します。

```
15: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.458 UTC: %BACC-4-CONNECTION:
%[pname.orig=rdu]: Server lost connection to host [2.2.2.2]
16: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.468 UTC: %BACC-4-CONNECTION:
%[pname.orig=rdu]: Server re-established connection to host [2.2.2.2]
```

前述の例では、2 つの異なるイベントに対して 1 つのメッセージ名を使用していますが、これは正しくなく、許容できません。これは、「catch-all」（何にでも使用できる）メッセージ名と呼ばれ、避ける必要があります。もう 1 つの極端な例は、「ERROR」という名前のメッセージを定義し、すべてのエラー ログメッセージを同じメッセージ名で生成することです。これにより、メッセージ外部フィルタリングや容易なアクションのトリガを可能にするという、メッセージ名フィールドの目的が失われてしまいます。

「no-catch-all」（特定のものにしか使用できない）ルールに対する唯一の例外は、前もって一般的な記述よりも詳しくメッセージを識別できない場合や、メッセージのサブタイプをいくつかに区別してもユーザにとってのメリットがない場合です。

通常、すべてのデバッグメッセージに対して個別のメッセージ名を定義する必要はありません（ただし、一部のアプリケーションはそのようにしています）。これは、デバッグメッセージが、メッセージ名に基づく自動的なフィルタリングとアクションのトリガで使用することを目的としていないためです。デバッグメッセージは数が多く、その中で生成される内容が非常に動的であるという性質から、個別のメッセージを定義することは非常に困難です。

この仕様では、特定のメッセージを定義する方法に関して疑問がある場合に、相談のためにグループで使用するメーリングリストを構築することを提案しています。現在、そのためのメーリングリストのエイリアスは「cmn-logging」です。

## TAGS フィールド

メッセージフォーマット内では、TAGS フィールドはオプションです。このフィールドは、メッセージセットを外部的に分類またはフィルタするために使用できる、キーと値のペアの形で構造化された内容を提供するためのアプリケーションに対し、標準的なメカニズムを提供します。

タグは、仮想的なロギングチャンネルを示すために使用できます。同じタグでフラグを設定されたメッセージのセットは、後で同じグループに分類できます。たとえば、アプリケーションは、特定のスレッドに属するメッセージに対応するタグを付与することで、フラグを設定できます。これにより、スレッドに基づくメッセージのフィルタリングと参照が可能になります。

仮想的なロギング チャンネルは、複数のアプリケーションにまたがって確立することもできます。たとえば、すべてのアプリケーションが、あるデバイスからの要求をデバイス ID (MAC、IP など) でタグ付けできる場合、複数のコンポーネントと通信する場合でも、そのデバイスに関するすべてのメッセージを簡単にフィルタできます。

各アプリケーションは、サポートされるタグの独自のセットを定義できます。1 つのタグは、[KEY=VALUE] の形式のように、等号記号で区切られたキーと値のペアからなり、角カッコ文字で囲まれます。[ip=123.23.22.22] は有効なタグのキーと値のペアの例です。

TAGS フィールドの先頭にはパーセント文字 (ASCII 10 進数値 37) が付与され、コロンと空白文字 (ASCII 10 進数値 58 および 32) のシーケンスで終わります。複数のタグを組み合わせる場合、タグの間に区切り文字として文字を入れません。次の例は、4 つのタグがある完全な CiscoLog メッセージです。

```
12: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC: %BACC-4-BAD_REQUEST:
%[pname.orig=rdu][comp=parser][mac=1,6,aa:bb:cc:11:22:33][txn=mytxn123]: Bad request
received from device [1,6,aa:bb:cc:11:22:33]. Missing header.
```

TAGS フィールドがない場合、パーセント文字のプレフィクスと、後続のコロンと空白を省略します。このように、TAGS フィールドがない場合は、HEADER フィールドと MESSAGE フィールドを、HEADER フィールドの後の 1 個のコロンと空白だけで区切ります。次に例を示します。

```
12: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC: %BACC-4-BAD_REQUEST: Bad request
received from device [1,6,aa:bb:cc:11:22:33]. Missing header.
```

同じタグ キーを持つ複数のタグを同じメッセージで使用できます。これにより、複数の値を持つキーの処理が可能になります。次に、デバイスに 2 つの IP アドレスがあり、アプリケーションでプロセス名とともに TAGS フィールドで両方の IP アドレスを生成する場合に生成されたメッセージの例を示します。

```
12: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC: %BACC-4-BAD_REQUEST:
%[pname.orig=rdu][ip.orig=1.1.1.1][ip.orig=1.1.1.2]: Bad request received from device
[1,6,aa:bb:cc:11:22:33]. Missing header.
```

メッセージではタグをいくつでも使用できます。唯一の制限は、CiscoLog メッセージ全体の長さが 800 オクテットに制限されることです。

複数のタグがある場合、キーを英数字の順に並べることを推奨します。これにより、タグが常に同じ順序で生成されます。ただし、タグの順序を使用して何らかの意味を示す場合は、アプリケーションでこれ以外の順序を選択してもかまいません。

### タグ キー

タグ キーには 1 つ以上の文字が含まれている必要があります。文字は ASCII 文字の 10 進数値 48 ~ 57 (数字)、65 ~ 90 (大文字)、95 (アンダースコア)、97 ~ 122 (小文字) に制限されます。小文字を使用することを推奨します。タグ キーの長さに対する厳格な制限はありませんが、一般的なメッセージ制限の 800 オクテットが適用され、短いタグ キー名を定義することが求められます。

### タグの意味拡張

タグは標準的な値の構文を持つこともありますが、使用されているコンテキストに応じて異なる意味を持ちます。タグの意味拡張は、タグの文脈上の意味を区別するために使用されます。

意味拡張タグは、タグ キー、単一のドット文字 (ASCII 10 進数値 46)、正しい文字セットのテキスト文字列を追加することで作成されます。

たとえば、"ip" タグは、IP アドレス表現のための構文を定義しますが、意味的な価値はありません。CiscoLog メッセージで使用されている "ip" タグは、一般にこの IP アドレスがメッセージに何らかの形で関係していることを意味します。場合によっては、そのような漠然とした関連付けで十分です。しかし、意味的な価値を伝えることが有効な場合もあります。

メッセージに、送信元と宛先の 2 つの IP アドレス タグが関連付けられているとします。この場合、タグ「ip.from」と「ip.to」を使用することで、タグの構文と意味的価値の両方を示すことができます。もう 1 つの例は、標準的なタグ「ip.orig」です。これは、メッセージの送信元のホストの IP アドレスを示します。3 つのタグすべてを使用した例を次に示します。

```
[ip.from=1.1.1.1][ip.to=2.2.2.2][ip.orig=123.12.111.1]
```

複数のレベルの意味拡張タグを使用でき、それぞれの拡張でより詳細な意味を示すことができます。たとえば、タグキー「ip.to.primary」は有効であり、宛先ホストのプライマリ IP アドレスを意味します。コンテキストによってある値に無限の数の意味が考えられるため、意味的価値の標準化は構文よりもはるかに困難です。そのため、タグの意味拡張を定義する作業は、アプリケーション固有となることが予想されます。

### タグの値

タグの値には、0 個以上の文字を指定できます。空の (0 文字の) 値は、不明または未確定の値と解釈されます。値には、印刷可能な US ASCII 文字 (ASCII 10 進数値範囲 32 ~ 126) と、外国語の文字だけを使用できます。

「[」、「」および「\」の 3 つの文字の使用については制限があります。カッコ文字 (ASCII 10 進数値 91 と 93) は、バックスラッシュ文字 (ASCII 10 進数値 92) でエスケープする必要があります。これにより、タグの開始と終了を示すカッコとの混同を避けることができます。このように、タグの値で文字「[」または「]」を表現する必要がある場合は、代わりにそれぞれ「\[」または「\]」のシーケンスを使用します。エスケープ文字自体をタグの値で表現する必要がある場合は、文字「\」の代わりに文字シーケンス「\\」を使用します。

印刷不可能な (制御) ASCII 文字は、TAG の値フィールドでは使用できません。制御文字には、ASCII 10 進数値 0 ~ 31 と 127 が含まれます。アプリケーションが、1 つ以上の制御文字を含む CiscoLog 準拠のライブラリとタグ値の文字列を提供している場合、ロギングライブラリでは次のことを実行する必要があります。水平タブ文字 (ASCII 10 進数値 9) が見つかったら、1 つ以上の空白文字 (ASCII 10 進数値 32) で置き換える必要があります。タブあたり 8 個のスペースを推奨します。これは、ほとんどの Unix および Windows プラットフォームでこれが規約になっているためです。その他の制御文字は、疑問符文字 (ASCII 10 進数値 63) で置き換える必要があります。技術的には、閉じカッコだけをエスケープすれば済みます。ただし、開きカッコと閉じカッコの両方でエスケープを必須とすることにより、パーサーコードが単純になり、そのままの形式でより一貫した表示になります。

タグ値の長さに対する厳格な制限はありませんが、一般的なメッセージ長制限の 800 オクテットが適用され、長さを控えめにすることが求められます。

### タグのガイドライン

CiscoLog メッセージフォーマット内では、TAGS フィールドはオプションです。タグは、メッセージ本体の中の置換可能パラメータを置き換えるものではありません。タグは、メッセージを識別および分類するための追加の方法を提供するだけです。

タグはオプションであるため、必要に応じてアプリケーションまたはユーザにより有効または無効にできます。同じメッセージが常に同じタグセットで生成されることに対する要件はありません。アプリケーションが特定のタグをサポートしている場合、必ずしもそれを常に生成する必要があるわけではありません。これは設定可能です。実際には、アプリケーションが管理者に対し、少なくとも生成されるタグに対する制限された制御を提供することを推奨します。

アプリケーション開発者は、タグに設定する情報の内容と、メッセージ本体に設定する情報の内容について選択できます。場合によっては、情報が 2 つの間で重複しても構いません。これは許容可能です。

一般的なガイドラインは、必要なすべての情報をメッセージ本体に設定し、適切な情報をタグで設定することです。つまり、メッセージは、すべてのタグが無効にされた場合でも、十分な意味を提供する必要があります。タグは、単に追加の便利な情報を、標準的でフィルタしやすい形式で提供します。

メッセージとメッセージ タグの両方に MAC アドレスが含まれる、2 つの有効なメッセージの例を次に示します。タグを無効にした例

```
11: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC: %BACC-3-BAD_REQUEST: Bad request
received from device [1,6,aa:bb:11:22:33:aa]. Missing header.
```

上の例で、MAC アドレスは、タグではなくメッセージ フィールドの一部として出力されています。次の例では、タグが有効になっています。MAC アドレスがタグとメッセージの両方で重複していますが、これは許容されます。

```
11: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC: %BACC-3-BAD_REQUEST:
%[mac=1,6,aa:bb:11:22:33:aa][tid=thread1][txn=mytxn123]: Bad request received from
device [1,6,aa:bb:11:22:33:aa]. Missing header.
```

### プロセス識別タグ

標準的なタグの 1 つ `pname.orig` は、メッセージの生成元の論理的なプロセス名を示すために使用されます。生成元プロセス情報を提供するアプリケーションは、必ず「`pname.orig`」タグを使用する必要があります。

このタグは、`APPNAME` フィールドの情報に加えて、非常に価値があります。アプリケーションによっては複数のプロセスが含まれ、それぞれがロギング メッセージを生成する場合があります。複数のプロセスで構成されるアプリケーションは、常に「`pname.orig`」タグを生成することを推奨します。

## MESSAGE フィールド

MESSAGE フィールドは、ロギング イベントに関する説明のメッセージを提供します。このフィールドは、1 つ以上の文字からなります。文字セットは、印刷可能な US ASCII 文字 (ASCII 10 進数値 32 ~ 126) と、外国語の文字に制限されています。

印刷できない (制御) ASCII 文字は、MESSAGE フィールドでは使用できません。制御文字には、ASCII 10 進数値 0 ~ 31 と 127 が含まれます。アプリケーションが、1 つ以上の制御文字を含む CiscoLog 準拠のライブラリとメッセージ文字列を提供している場合、ロギング ライブラリでは次のことを実行する必要があります。水平タブ文字 (ASCII 10 進数値 9) が見つかったら、1 つ以上の空白文字 (ASCII 10 進数値 32) で置き換える必要があります。タブあたり 8 個のスペースを推奨します。これは、ほとんどの Unix および Windows プラットフォームでこれが規約になっているためです。その他の制御文字は、疑問符文字 (ASCII 10 進数値 63) で置き換える必要があります。

MESSAGE フィールドの最大長は、メッセージ全体の最大長だけによって制限されます。CiscoLog メッセージの最大長は 800 オクテットを超えてはなりません。もう 1 つの実用上の制限は、TAGS フィールドの長さが大きく変化する可能性があることです。

メッセージ テキストは、メッセージに関する必要な詳細を提供する、置換可能パラメータを含むことができます。たとえば、次の例の IP アドレスは置換可能パラメータです。

```
11: host.cisco.com: Jun 13 2003 23:11:52.454 UTC: %BACC-3-INVALID_REQUEST: Invalid
request received from device [1.22.111.222]. Missing header.
```

置換可能パラメータは、上の例のように、カッコ文字「`[`」と「`]`」で囲むことを推奨します (必須ではありません)。さらに、置換可能パラメータのメッセージ テキストと値にカッコ文字を含めないことを推奨します。置換可能パラメータの値の中でカッコ文字を使用することが避けられない場合は、値に少なくともカッコが片方しか含まれない状態 (閉じカッコなしの開きカッコなど) にならないようにしてください。これらの推奨事項に従うことで、CiscoLog メッセージから置換可能パラメータの値をプログラムによって抽出できるようになります。ただし、この推奨事項は、厳格な要件ではありません。

メッセージ テキストはスペル チェックする必要があります。編集上のレビューをすることを推奨します。これは、お客様が目にする可能性があるすべてのメッセージが対象となり、デバッグ メッセージも含まれます。

メッセージの最初の単語が英語の場合、先頭文字は大文字にします。単文のメッセージでは、末尾のピリオドは不要です。

## 国際対応

外国語の文字は、ASCII 10 進数値 0 ~ 126 の文字として定義されます。外国語の文字は、HOST フィールド、TAGS フィールドの値の部分、および MESSAGE フィールドでサポートされています。

外国語の文字は、Unicode 標準の UTF-8 を使用して符号化する必要があります。UTF-8 ではいかなる言語も符号化でき、アプリケーションが特定の言語に対するローカルの符号化/復号化ルールを認識している必要はありません。実際に、メッセージを符号化するアプリケーションは、メッセージの言語すら知る必要がありません。UTF-8 では、すべての Unicode 文字を符号化できます。

UTF-8 では、US ASCII 文字が、7 ビット ASCII 規約で通常どおり符号化された場合と同じように符号化されます。そのため、CiscoLog メッセージを解釈するアプリケーションは、メッセージ全体が UTF-8 で符号化されていると仮定できます。ただし、CiscoLog メッセージを生成するアプリケーションは、その製品で外国語をサポートする必要がないことがわかっている場合、メッセージ全体を US-ASCII 7 ビット規約で符号化できます。

UTF-8 は任意の言語で文字符号化できるため、異なる言語を組み合わせることができます。たとえば、1 つの使用例として、外国語を使用しない場合に英語が生成されるメッセージにおいて、外国語のいくつかのパラメータだけを含めることが考えられます。たとえば、ユーザ認証に関する英語のメッセージでユーザ名に日本語を含めることが考えられます。同様に、任意の数の言語を CiscoLog メッセージで組み合わせることができます。

外国語を含むメッセージを活用するためには、ログ ビューアで UTF-8 を解釈できることが必要です。また、多くの場合、システムに適切な言語のフォントがインストールされていることも必要になります。US-ASCII 専用のエディタでは、UTF-8 で符号化された US-ASCII 以外の文字は文字化けして表示されますが、US-ASCII テキストはすべて表示されます。

国際対応のサポートは、ローカル ファイルに書き込まれた CiscoLog メッセージとともに容易に使用できます。ただし、syslog RFC 3164 では、現在外国語のサポートが定義されていません。そのため、syslog サーバで国際対応のメリットを享受するためには、各オクテットの 8 ビットすべてをそのまま正しくリレーまたは保存することがテスト済みのサーバ実装を使用する必要があります。これにより、外国語を使用した場合に、メッセージの UTF-8 で符号化された部分ですべての情報が保持されます。

UTF-8 では、1 つの文字が 1 つ以上のオクテットに符号化されます。CiscoLog メッセージの長さの制限は、800 オクテットと規定されています。外国語では、800 オクテットの長さの制限は 800 文字よりも短くなる点に注意してください。「マルチパート メッセージ」(P.6-4) で説明したガイドラインに従ってメッセージをマルチパート メッセージに分割する場合、1 つの文字に属する複数のオクテットを複数の行に分けることはできません。

## バージョン設定

CiscoLog では、メッセージ フォーマット中でバージョン情報が提供されません。フォーマットに対する拡張は、フォーマットの制限の中で行う必要があります。CiscoLog メッセージ フォーマットでは、追加のタグを定義することで拡張できます。

アプリケーションで既存のメッセージに対する変更が必要な場合、APPNAME の値により新しい空間でメッセージを再定義できます。たとえば、BACC 2.5 の場合、BACC\_2\_5 のようにアプリケーション名にアプリケーションのバージョンを追加できます。

## 事前設定されているシステム アラーム通知

次に、RTMT に事前設定されているシステム アラートを示します。設定の詳細については、『*Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』を参照してください。

- 「AuthenticationFailed」 (P.6-19)
- 「CiscoDRFFailure」 (P.6-20)
- 「CoreDumpFileFound」 (P.6-20)
- 「CpuPegging」 (P.6-21)
- 「CriticalServiceDown」 (P.6-22)
- 「HardwareFailure」 (P.6-22)
- 「LogFileSearchStringFound」 (P.6-23)
- 「LogPartitionHighWaterMarkExceeded」 (P.6-23)
- 「LogPartitionLowWaterMarkExceeded」 (P.6-24)
- 「LowActivePartitionAvailableDiskSpace」 (P.6-25)
- 「LowAvailableVirtualMemory」 (P.6-25)
- 「LowInactivePartitionAvailableDiskSpace」 (P.6-26)
- 「LowSwapPartitionAvailableDiskSpace」 (P.6-26)
- 「ServerDown」 (P.6-27)
- 「SparePartitionHighWaterMarkExceeded」 (P.6-27)
- 「SparePartitionLowWaterMarkExceeded」 (P.6-28)
- 「SyslogSeverityMatchFound」 (P.6-29)
- 「SyslogStringMatchFound」 (P.6-30)
- 「SystemVersionMismatched」 (P.6-30)
- 「TotalProcessesAndThreadsExceededThreshold」 (P.6-31)

## AuthenticationFailed

認証では、ログイン時に送信されたユーザ ID とパスワードが検証されます。無効なユーザ ID またはパスワードが使用された場合、アラームが生成されます。

表 6-3 に、AuthenticationFailed RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

**表 6-3 AuthenticationFailed RTMT アラートのデフォルト設定**

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の頻度を超えた AuthenticationFailed イベントの数 最近 1 分間に 1 回

表 6-3 AuthenticationFailed RTMT アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable e-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## CiscoDRFFailure

このアラートは、Disaster Recovery Framework (DRF; 障害回復フレームワーク) バックアップまたは復元処理でエラーが発生したときに生成されます。

表 6-4 に、CiscoDRFFailure RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-4 CiscoDRFFailure RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 CiscoDRFFailure イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## CoreDumpFileFound

このアラートは、CoreDumpFileFound イベントが生成されたときに発生します。このアラートは、コア アンプ ファイルがシステムに存在することを示します。

表 6-5 に、CoreDumpFileFound RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-5 CoreDumpFileFound RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効

表 6-5 CoreDumpFileFound RTMT アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 CoreDumpFileFound イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Trace download Parameters	オフ
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## CpuPegging

CPU 使用率は、設定可能なしきい値に基づいてモニタされます。使用率が、設定されているしきい値を上回ると、このアラートが生成されます。

表 6-6 に、CpuPegging RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-6 CpuPegging RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 99%
Duration	値がしきい値を 60 秒間継続的に下回った場合または超えた場合にだけアラートをトリガーする
Frequency	30 分以内に最大 3 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## CriticalServiceDown

CriticalServiceDown アラートは、サービスのステータスがダウン状態の場合に生成されます（その他の状態の場合には生成されません）。

表 6-7 に、CriticalServiceDown RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-7 CriticalServiceDown RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 サービス ステータスが DOWN である
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Trace download Parameters	[Enable Trace Download] はオフになっている
Enable e-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## HardwareFailure

このアラートは、ハードウェア障害イベント（ディスク ドライブの障害、電源の障害など）がトリガーされたときに発生します。

表 6-8 に、HardwareFailure RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-8 HardwareFailure RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 HardwareFailure イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間

表 6-8 HardwareFailure RTMT アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Enable e-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## LogFileSearchStringFound

このアラートは、LogFileSearchStringFound イベントが生成されたときに発生します。これは、検索文字列がログ ファイル中に見つかったことを示します。

表 6-9 に、LogFileSearchStringFound RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-9 LogFileSearchStringFound RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	警告
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 LogFileSearchStringFound イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable e-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## LogPartitionHighWaterMarkExceeded

このアラートは、ログパーティションの使用済みディスク領域のパーセンテージが、設定された上限を超えると発生します。このアラートが生成された場合、Log Partition Monitoring Tool (LPM) はログパーティション中のファイルを削除し (下限に達するまで)、ディスク領域が不足するのを防ぎます。



(注) LPM により、保持しておきたいファイルが削除される可能性があります。LogPartitionHighWaterMarkExceeded アラートを受信した場合はすぐに対処してください。

表 6-10 に、LogPartitionHighWaterMarkExceeded RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-10 LogPartitionHighWaterMarkExceeded RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要

表 6-10 LogPartitionHighWaterMarkExceeded RTMT アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 ログパーティションの使用済みディスク領域が上限 (95%) を超えている
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## LogPartitionLowWaterMarkExceeded

このアラートは、LogPartitionLowWaterMarkExceeded イベントが生成されたときに発生します。これは、ログパーティションの使用済みディスク領域のパーセンテージが、設定されている下限を超えたことを示します。



**(注)** このアラートは早期に発生する警告であることに注意してください。管理者は、ディスク領域を空ける作業を開始する必要があります。RTMT/TLC を使用すると、トレースおよびログファイルの収集や、サーバからの削除を行うことができます。管理者は、再度下限を超えないように、トレースファイルの数を調整することを推奨します。

表 6-11 に、LogPartitionLowWaterMarkExceeded RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-11 LogPartitionLowWaterMarkExceeded RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 ログパーティションの使用済みディスク領域が下限 (95%) を超えている
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## LowActivePartitionAvailableDiskSpace

このアラートは、アクティブ パーティションの利用可能なディスク領域のパーセンテージが、設定されている値を下回ると発生します。

表 6-12 に、LowActivePartitionAvailableDiskSpace RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-12 LowActivePartitionAvailableDiskSpace RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 アクティブ パーティションの利用可能ディスク領域が（4%）未満である
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	30 分以内に最大 3 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## LowAvailableVirtualMemory

RTMT は、仮想メモリの使用率をモニタしています。メモリが少なくなると、LowAvailableVirtualMemory アラートが生成されます。

表 6-13 に、LowAvailableVirtualMemory RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-13 LowAvailableVirtualMemory RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 利用可能な仮想メモリが（30%）未満である
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	30 分以内に最大 3 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## LowInactivePartitionAvailableDiskSpace

このアラートは、非アクティブパーティションの利用可能なディスク領域のパーセンテージが、設定されている値を下回ると発生します。

表 6-14 に、LowInactivePartitionAvailableDiskSpace RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-14 LowInactivePartitionAvailableDiskSpace RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 非アクティブパーティションの利用可能ディスク領域が (4%) 未満である
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	30 分以内に最大 3 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## LowSwapPartitionAvailableDiskSpace

このアラートは、スワップパーティションの利用可能ディスク領域が少ないことを示します。



(注) スワップパーティションは仮想メモリの一部なので、スワップパーティションとして利用可能なディスク領域が不足すると仮想メモリも不足することになります。

表 6-15 に、LowSwapPartitionAvailableDiskSpace RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-15 LowSwapPartitionAvailableDiskSpace RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 スワップパーティションの利用可能ディスク領域が (105) 未満である
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	30 分以内に最大 3 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間

表 6-15 LowSwapPartitionAvailableDiskSpace RTMT アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## ServerDown

このアラートは、リモート ノードに到達できない場合に発生します。



(注) *Cisco Unified CM* クラスタのみ : ServerDown アラートは、現在アクティブな AMC (プライマリ AMC、または プライマリ AMC が使用不可の場合にはバックアップ AMC) がクラスタ内の別のサーバに到達できない場合に生成されます。このアラートは、サーバ ダウン状態以外に、ネットワーク接続の問題も示します。

表 6-16 に、ServerDown RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-16 ServerDown RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 ServerDown が発生した
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	60 分以内に最大 1 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## SparePartitionHighWaterMarkExceeded

このアラートは、SparePartitionHighWaterMarkExceeded イベントが生成されたときに発生します。このアラートは、予備パーティション内の使用済みディスク領域のパーセンテージが、設定されている上限を超えたことを示します。予備パーティションの使用済みディスク領域のパーセンテージが、設定されている下限を下回るまで、いくつかのコア ファイルまたはログ ファイルがパーージされます。予備パーティションの使用済みディスク領域に設定されている上限が低すぎないかどうかを確認します。

Cisco Log Partition Monitoring Tool (LPM) は、予備パーティション内のトレース ログ ファイルのパーージを開始し、予備パーティションのディスク使用率が下限を下回るまで予備パーティション内のトレース ログ ファイルを削除し続けます。

このアラームを生成するサービスの名前は、Cisco Log Partition Monitoring Tool です。

予備パーティションの使用済みディスク領域に設定されている上限が低すぎないかどうかを確認します。上限が低すぎる場合、上限の設定を高い値に変更します。また、予備パーティションの下にある各アプリケーションのトレース ログ ファイルを調べ、古すぎる、または大きすぎるトレース ログ ファイルを削除します。



(注)

Intercompany Media Engine サーバでは、予備パーティションは使用されません。そのため、Intercompany Media Engine ではこのアラートはトリガーされません。

表 6-17 に、SparePartitionHighWaterMarkExceeded RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-17 SparePartitionHighWaterMarkExceeded RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 予備パーティションの使用済みディスク領域が上限（95%）を超えている
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## SparePartitionLowWaterMarkExceeded

このアラートは、SparePartitionLowWaterMarkExceeded イベントが生成されたときに発生します。このアラートは、予備パーティションの使用済みディスク領域のパーセンテージが、設定されている下限しきい値を超えたことを示します。Cisco Log Partition Monitoring Tool (LPM) により、ファイルがパージされます。予備パーティションのディスク使用率が、設定されている上限を超えるまで増加し続ける場合、Cisco LPM は予備パーティション内のトレース ログ ファイルのパージを開始します。予備パーティションのディスク使用率が変わらない場合、Cisco LPM はこのアラームを定期的送信します。

このアラームを生成するサービスの名前は、Cisco Log Partition Monitoring Tool です。

予備パーティションの使用済みディスク領域に設定されている下限が低すぎないかどうかを確認します。下限が低すぎる場合、下限および上限の設定を高い値に変更します。また、予備パーティションの下にある各アプリケーションのトレース ログ ファイルを調べ、使用済みディスク領域が上限を超える前に古すぎる、または大きすぎるトレース ログ ファイルをクリーンアップします。



(注)

Intercompany Media Engine サーバでは、予備パーティションは使用されません。そのため、Intercompany Media Engine ではこのアラートはトリガーされません。

表 6-18 に、SparePartitionLowWaterMarkExceeded RTMT アラートのデフォルト設定を示します。

表 6-18 SparePartitionLowWaterMarkExceeded RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 予備パーティションの使用済みディスク領域が下限（90%）を超えている
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## SyslogSeverityMatchFound

このアラートは、SyslogSeverityMatchFound イベントが生成されたときに発生します。このアラートは、一致する重大度を含む syslog メッセージが存在することを示します。

表 6-19 SyslogSeverityMatchFound RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 SyslogSeverityMatchFound イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Syslog Severity Parameters	重要
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## SyslogStringMatchFound

このアラートは、SyslogStringMatchFound イベントが生成されたときに発生します。このアラートは、一致する検索文字列を含む syslog メッセージが存在することを示します。

表 6-20 SyslogStringMatchFound RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 SyslogStringMatchFound イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Syslog Alert Parameters	(検索文字列のテキスト ボックス)
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## SystemVersionMismatched

このアラートは、システムのバージョンが一致しない場合に発生します。

表 6-21 SystemVersionMismatched RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 SystemVersionMismatched が発生した
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	60 分以内に最大 1 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## TotalProcessesAndThreadsExceededThreshold

このアラートは、TotalProcessesAndThreadsExceededThreshold イベントが生成されたときに発生します。このアラートは、プロセスおよびスレッドの現在の合計数が、Cisco RIS Data Collector サービスパラメータに設定されている最大タスク数を超過していることを示します。この場合、プロセスがリークしているか、プロセスでスレッドリークが発生している可能性があります。

表 6-22 TotalProcessesAndThreadsExceededThreshold RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 TotalProcessesAndThreadsExceededThreshold イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## 事前設定されている CallManager アラーム通知

次に、RTMT の事前設定された CallManager アラートを示します。設定の詳細については、『*Real-Time Monitoring Tool Administration Guide*』を参照してください。

- 「BeginThrottlingCallListBLFSubscriptions」 (P.6-32)
- 「CallProcessingNodeCpuPegging」 (P.6-33)
- 「CDRAgentSendFileFailed」 (P.6-33)
- 「CDRFileDeliveryFailed」 (P.6-34)
- 「CDRHighWaterMarkExceeded」 (P.6-34)
- 「CDRMaximumDiskSpaceExceeded」 (P.6-35)
- 「CodeYellow」 (P.6-35)
- 「DBChangeNotifyFailure」 (P.6-36)
- 「DBReplicationFailure」 (P.6-36)
- 「DDRBlockPrevention」 (P.6-37)
- 「DDRDown」 (P.6-38)
- 「ExcessiveVoiceQualityReports」 (P.6-38)
- 「IMEDistributedCacheInactive」 (P.6-39)
- 「IMEOverQuota」 (P.6-39)
- 「IMEQualityAlert」 (P.6-40)

- 「InsufficientFallbackIdentifiers」 (P.6-41)
- 「IMEServiceStatus」 (P.6-42)
- 「InvalidCredentials」 (P.6-42)
- 「LowCallManagerHeartbeatRate」 (P.6-43)
- 「LowTFTPSTServerHeartbeatRate」 (P.6-44)
- 「MaliciousCallTrace」 (P.6-44)
- 「MediaListExhausted」 (P.6-45)
- 「MgcpDChannelOutOfService」 (P.6-45)
- 「NumberOfRegisteredDevicesExceeded」 (P.6-46)
- 「NumberOfRegisteredGatewaysDecreased」 (P.6-46)
- 「NumberOfRegisteredGatewaysIncreased」 (P.6-47)
- 「NumberOfRegisteredMediaDevicesDecreased」 (P.6-47)
- 「NumberOfRegisteredMediaDevicesIncreased」 (P.6-48)
- 「NumberOfRegisteredPhonesDropped」 (P.6-48)
- 「RouteListExhausted」 (P.6-49)
- 「SDLLinkOutOfService」 (P.6-49)
- 「TCPSetupToIMEFailed」 (P.6-50)
- 「TLSConnectionToIMEFailed」 (P.6-50)

## BeginThrottlingCallListBLFSubscriptions

このアラートは、BeginThrottlingCallListBLFSubscriptions イベントが生成されたときに発生します。このアラートは、Cisco Unified Communications Manager がシステムのオーバーロードを防ぐために CallList Busy Lamp Field (CallList BLF; コールリスト ビジー ランプ フィールド) サブスクリプションの制御を開始したことを示します。

表 6-23 BeginThrottlingCallListBLFSubscriptions RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 BeginThrottlingCallListBLFSubscriptions イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## CallProcessingNodeCpuPegging

このアラートは、コール処理サーバの CPU 負荷率が、設定された時間で設定された割合を超えたときに発生します。



(注) 管理者が対処しない場合、特に CallManager サービスで、CPU の高い使用率が原因でクラッシュするおそれがあります。また、CoreDumpFound アラートと CriticalServiceDown アラートも発行される場合があります。

CallProcessingNodeCpuPegging アラートにより、Cisco Unified Communications Manager のクラッシュを未然に防ぐことができます。

表 6-24 CallProcessingNodeCpuPegging RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 プロセッサの負荷が (90%) を超えている
Duration	値がしきい値を 60 秒間継続的に下回った場合または超えた場合にだけアラートをトリガーする
Frequency	30 分以内に最大 3 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## CDRAgentSendFileFailed

このアラートは、Call Detail Record (CDR; コール詳細レコード) Agent が CDR ファイルを Cisco Unified Communications Manager ノードから Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の CDR リポジトリ ノードに送信できない場合に発生します。

表 6-25 CDRAgentSendFileFailed RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 CDRAgentSendFileFailed イベントが生成された

表 6-25 CDRAgentSendFileFailed RTMT アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## CDRFileDeliveryFailed

このアラートは、外部の課金サーバへの CDR ファイルの FTP 配信が失敗した場合に発生します。

表 6-26 CDRFileDeliveryFailed RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 CDRFileDeliveryFailed イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## CDRHighWaterMarkExceeded

このアラートは、CDR ファイルの上限を超えた場合に発生します。また、このアラートは、正常に配信された CDR ファイルのいくつか削除されたことも示します。

表 6-27 CDRHighWaterMarkExceeded RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 CDRHighWaterMarkExceeded イベントが生成された

表 6-27 CDRHighWaterMarkExceeded RTMT アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## CDRMaximumDiskSpaceExceeded

このアラームは、CDR ファイルのディスク使用率が最大ディスク割り当てを超えたときに発生します。また、このアラームは、配信不能なファイルがいくつか削除されたことも示します。

表 6-28 CDRMaximumDiskSpaceExceeded RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 CDRMaximumDiskSpaceExceeded イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## CodeYellow

AverageExpectedDelay カウンタは、着信メッセージを処理する現在の平均予測遅延を表します。値が Code Yellow Entry Latency サービス パラメータで指定されている値を超えた場合、CodeYellow アラームが生成されます。CodeYellow アラームは、トラブルシューティングの目的でトレース ファイルをダウンロードするように設定できます。

表 6-29 CodeYellow RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効

表 6-29 CodeYellow RTMT アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 Cisco CallManager CodeYellowEntry イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Trace download Parameters	[Enable Trace Download] はオフになっている
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## DBChangeNotifyFailure

このアラートは、Cisco Database Notification サービスに問題が発生し、このサービスが停止する可能性がある場合に発生します。この状態は、データベース内でキューに入れられている変更通知要求が停止し、システムに加えられた変更内容が有効にならないことを示します。アラートが存在するノードで Cisco Database Layer Monitor が実行されているかどうかを確認します。実行されている場合、このサービスを再起動します。サービスを再起動してもこのアラートが安全な範囲に戻らない場合、**show tech notify** および **show tech dbstateinfo** の出力を収集し、対処方法についてシスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) までお問い合わせください。

表 6-30 DBChangeNotifyFailure RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 DBChangeNotify キューの遅延が 2 分を超えている
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	30 分以内に最大 1 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## DBReplicationFailure

このアラームは、Informix Dynamic Server (IDS) の複製に障害があることを示し、データベース管理者の介入を必要とします。



(注) DBReplicationFailure は、(従来の DBReplicationFailure アラームではなく) 複製ステータス perfmon カウンタに基づいていることに注意してください。このアラートは、対応する複製ステータス perfmon カウンタの値が **3** (不正な複製) または **4** (複製の設定失敗) になったときにトリガーされます。

表 6-31 DBReplicationFailure RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 DBReplicationFailure が発生した
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	60 分以内に最大 1 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## DDRBlockPrevention

このアラートは、アラーム番号 31 の IDSReplicationFailure アラームが発生したときにトリガーされます。このアラームは、サービスの拒否を避けるための予防的なプロシージャを呼び出します。このプロシージャはコール処理に影響を与えないので、このプロセス中に複製アラームを無視できます。

このプロシージャは、完了するまでに最大 60 分かかります。このプロシージャが完了したことを確認するには、各ノードの RTMT 複製ステータスが 2 になっていることを確認します。このプロセス中にシステムをリポートしないでください。

表 6-32 DDRBlockPrevention RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 アラーム番号 31 の IDSReplicationFailure アラームが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	60 分以内に最大 1 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間

表 6-32 DDRBlockPrevention RTMT アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## DDRDown

このアラートは、アラーム番号 32 の IDSReplicationFailure アラームが発生したときにトリガーされます。バックグラウンドで自動回復プロシージャが実行されるので、対処は必要ありません。

このプロシージャは、完了するまでに約 15 分かかります。このプロシージャが完了したことを確認するには、各ノードの RTMT 複製ステータスが 2 になっていることを確認します。

表 6-33 DDRDown RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 アラーム番号 32 の IDSReplicationFailure アラームが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	60 分以内に最大 1 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## ExcessiveVoiceQualityReports

このアラートは、設定されている時間間隔中に報告された Quality Report Tool (QRT) の回数が、設定されている値を超えたときに生成されます。デフォルトのしきい値は、60 分以内に 0 回です。

表 6-34 ExcessiveVoiceQualityReports RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 品質レポートの回数が最近 60 分間で 0 回を超えている
Duration	すぐにアラートをトリガーする

表 6-34 ExcessiveVoiceQualityReports RTMT アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## IMEDistributedCacheInactive

このアラームは、Cisco Unified Communications Manager が Cisco IME サーバに接続を試行したものの、IME 分散キャッシュがアクティブでない場合に生成されます。

Cisco IME サーバの証明書がプロビジョニングされていることと、IME 分散キャッシュがアクティブ化されていることを CLI を使用して確認します。

### デフォルト設定

表 6-35 IMEDistributedCacheInactive RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	エラー
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 非アクティブな IME 分散キャッシュ
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## IMEOverQuota

このアラートは、この Cisco IME サービスを使用する Cisco Unified Communications Manager サーバが、IME 分散キャッシュに対してパブリッシュされた Direct Inward Dialing (DID; ダイヤルイン) 数の割り当てを超えたことを示します。アラートには、Cisco IME サーバの名前に加え、現在およびターゲットの割り当て値が含まれます。

この Cisco IME サービスを使用するすべての Cisco Unified Communications Manager サーバで DID プレフィックスが正しくプロビジョニングされていることを確認します。

プレフィックスが正しくプロビジョニングされている場合は、Cisco IME サービスの容量を超えています。サービスをもう 1 つ設定し、異なる Cisco IME サービス上の Cisco IME クライアントインスタンス (Cisco Unified Communications Manager) に DID プレフィックスを分割する必要があります。

## デフォルト設定

表 6-36 IMEOverQuota アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	アラート
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 VAP 割り当て超過
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## IMEQualityAlert

このアラートは、ネットワーク品質の問題によってかなりの数の Cisco IME コールが PSTN にフェールバックされたか、コールが確立されなかったことを Cisco Unified Communications Manager が特定したときに生成されます。このアラートは次の 2 種類のイベントによってトリガーされます。

現在アクティブな多数の Cisco IME コールがすべてフォールバックを要求した、または PSTN にフォールバックされた場合。

直近の多数のコールの試行が PSTN に送信されたが、IP 上に確立されなかった場合。

このアラートを受信したときは、IP 接続を確認します。IP 接続に問題がない場合、CDR、CMR、およびファイアウォールのログを確認し、コールが PSTN にフォールバックされた理由または IP 上に確立されなかった理由を判別します。

## デフォルト設定

表 6-37 IMEQualityAlert アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	エラー
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 Cisco IME リンク品質の問題
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間

表 6-37 IMEQualityAlert アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## InsufficientFallbackIdentifiers

このアラートは、同一のフォールバック DID を使用する現在進行中の Cisco IME コールが多すぎて、Cisco Unified Communications Manager が処理している新しい Cisco IME コールに割り当てる DTMF デジタルシーケンスが足りないときに生成されます。新しいコールは継続しますが、音声品質が低下しても PSTN にフォールバックすることができません。

このアラームが生成された場合、このコールに関連付けるフォールバック プロファイルを確認します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページでプロファイルを確認し、「Fallback Number of Correlation DTMF Digits」フィールドの現在の設定を調べます。このフィールドの値を 1 つ上げて、新しい値によってこれらのアラートが解消されるかどうかを確認します。一般に、このパラメータは十分大きい値にする必要があり、このプロファイルに関連付ける登録数に対して作成された Cisco IME 同時コール数が、この登録数を指数とする 10 の累乗の値よりも常にずっと低くなるようにします。たとえば、このフォールバック プロファイルに関連付けるパターンの Cisco IME 同時コール数が常に 10,000 未満である場合、この値を 5 に設定する (10 の 5 乗は 100,000) ことで、Cisco Unified Communications Manager からこのアラートが生成されなくなります。

ただし、この値を大きくすると、フォールバックに要する時間が若干長くなります。このため、「Fallback Number of Correlation DTMF Digits」フィールドの値は、このアラートが生成されない程度に大きい値を設定する必要があります。

DTMF デジタルフィールドの値を大きくする代わりに、異なるフォールバック DID を持つ別のフォールバック プロファイルを追加して、より少ない数の登録パターンをそのフォールバック プロファイルに関連付けることができます。この方法を使用すると、より少ない桁数を使用できます。

### デフォルト設定

表 6-38 InsufficientFallbackIdentifiers アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	エラー
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 フォールバック ID を割り当てることができない
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	1 分以内に最大 1 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## IMEServiceStatus

このアラートは、特定の Cisco IME クライアント インスタンス (Cisco Unified Communications Manager) の Cisco IME サービスに対する接続の全体的な健全性を示します。アラートは次の状態を示します。

- 0 : 不明。Cisco IME サービスがアクティブ化されていないことを示している可能性があります。
- 1 : 健全。Cisco Unified Communications Manager が Cisco IME クライアント インスタンスのプライマリおよびバックアップ サーバ (設定されている場合) への接続を正常に確立したことを示します。
- 2 : 動作不良。Cisco IME はアクティブ化されているが、Cisco IME サーバとのハンドシェイク手順を正常に完了していないことを示します。このカウンタの値はプライマリ IME サーバとセカンダリ IME サーバの両方のハンドシェイク ステータスを反映していることに注意してください。

### デフォルト設定

表 6-39 IMEServiceStatus アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 VAP 接続の問題
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	60 分ごとに最大 1 回のアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## InvalidCredentials

このアラートは、Cisco Unified Communications Manager で設定されたユーザ名とパスワードが Cisco IME サーバで設定されたものと一致しないために、Cisco Unified Communications Manager が Cisco IME サーバに接続できないことを示します。

アラートには、Cisco IME サーバへの接続に使用されたユーザ名とパスワードに加え、ターゲット Cisco IME サーバの IP アドレスおよび名前が含まれます。このアラートを解決するには、Cisco IME サーバにログインし、設定されているユーザ名およびパスワードが Cisco Unified Communications Manager で設定されているユーザ名およびパスワードと一致することを確認します。

## デフォルト設定

表 6-40 InvalidCredentials アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	アラート
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 Cisco IME サーバへのクレデンシャルが失敗した
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## LowCallManagerHeartbeatRate

このアラートは、CallManager のハートビート率が、設定されている値を下回ると発生します。

表 6-41 LowCallManagerHeartbeatRate RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	警告
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 CallManager サーバのハートビート率が 1 分間あたり 24 ビート未満である
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## LowTFTPServerHeartbeatRate

このアラートは、Trivial File Transfer Protocol (TFTP; トリビアル ファイル転送プロトコル) サーバのハートビート率が、設定されている値を下回ると発生します。

表 6-42 LowTFTPServerHeartbeatRate RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	警告
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 TFTP サーバのハートビート率が 1 分あたり 24 ビート未満である
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## MaliciousCallTrace

これは、Cisco Unified Communications Manager に迷惑呼が存在することを示します。Malicious Call Identification (MCID; 迷惑呼の識別) 機能が呼び出されます。

表 6-43 MaliciousCallTrace RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 迷惑呼トレースが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## MediaListExhausted

このアラートは、MediaListExhausted イベントの回数が、設定されている時間間隔中に、設定されているしきい値を超えたときに発生します。このアラートは、メディア リストで定義されている使用可能なメディア リソースがすべて使用中であることを示します。デフォルトの値は、60 分以内に 0 回です。

表 6-44 MediaListExhausted RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	警告
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 MediaListExhausted イベントの回数が最近 60 分間で 0 回を超えている
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## MgcpDChannelOutOfService

このアラートは、Media Gateway Control Protocol (MGCP; メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル) D チャンネルがアウト オブ サービスのままである場合にトリガーされます。

表 6-45 MgcpDChannelOutOfService RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 MGCP D チャンネルがアウト オブ サービスである
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## NumberOfRegisteredDevicesExceeded

このアラートは、NumberOfRegisteredDevicesExceeded イベントが生成されたときに発生します。

表 6-46 NumberOfRegisteredDevicesExceeded RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 NumberOfRegisteredDevicesExceeded イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## NumberOfRegisteredGatewaysDecreased

このアラートは、クラスタに登録されたゲートウェイの数が、連続したポーリング間で減少したときに発生します。

表 6-47 NumberOfRegisteredGatewaysDecreased RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 登録されたゲートウェイの数が減少した
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## NumberOfRegisteredGatewaysIncreased

このアラートは、クラスタに登録されたゲートウェイの数が、連続したポーリング間で増加したときに発生します。

表 6-48 NumberOfRegisteredGatewaysIncreased RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 登録されたゲートウェイの数が増加した
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## NumberOfRegisteredMediaDevicesDecreased

このアラートは、クラスタに登録されたメディア デバイスの数が、連続したポーリング間で減少したときに発生します。

表 6-49 NumberOfRegisteredMediaDevicesDecreased RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 登録されたメディア デバイスの数が減少した
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## NumberOfRegisteredMediaDevicesIncreased

このアラートは、クラスタに登録されたメディア デバイスの数が、連続したポーリング間で増加したときに発生します。

表 6-50 NumberOfRegisteredMediaDevicesIncreased RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 登録されたメディア デバイスの数が増加した
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## NumberOfRegisteredPhonesDropped

このアラートは、クラスタに登録された電話機の数、連続したポーリング間で、設定されている割合を超えて減少したときに発生します。

表 6-51 NumberOfRegisteredPhonesDropped RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 クラスタに登録された電話機の数 (10%) 減少した
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## RouteListExhausted

示されたルート リストで使用可能なルートが見つかりませんでした。

表 6-52 RouteListExhausted RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	警告
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 RouteListExhausted の回数が最近 60 分間で 0 回を超えている
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## SDLLinkOutOfService

このアラートは、SDLLinkOutOfService イベントが生成されたときに発生します。このイベントは、ローカルの Cisco Unified Communications Manager がリモートの Cisco Unified Communications Manager と通信できないことを示します。通常、このイベントは、ネットワーク エラーまたはリモートの Cisco Unified Communications Manager が実行されていないことを示します。

表 6-53 SDLLinkOutOfService RTMT アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 SDLLinkOutOfService イベントが生成された
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## TCPSetupToIMEFailed

このアラートは、Cisco Unified Communications Manager が Cisco IME サーバへの TCP 接続を確立できないときに発生します。このアラートは一般に、Cisco IME サーバの IP アドレスとポートが Cisco Unified Communications Manager の管理ページで正しく設定されていない場合か、イントラネット接続の問題が存在するために接続が確立されない場合に発生します。

アラートの Cisco IME サーバの IP アドレスとポートが有効であることを確認します。問題が解決しない場合は、Cisco Unified Communications Manager サーバと Cisco IME サーバ間の接続をテストします。

表 6-54 TCPSetupToIMEFailed アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	重要
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 Cisco IME サーバへの接続に失敗した
Duration	すぐにアラートをトリガーする
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## TLSConnectionToIMEFailed

このアラートは、Cisco IME サービスによって提示された証明書の期限が切れていたか、証明書が Cisco Unified Communications Manager CTL になかったために、Cisco IME サービスへの TLS 接続を確立できなかったときに発生します。

Cisco IME サービス証明書が Cisco Unified Communications Manager に設定されていることを確認します。

### デフォルト設定

表 6-55 TLSConnectionToIMEFailed アラートのデフォルト設定

値	デフォルト設定
Enable Alert	オン
Severity	アラート
Enable/Disable this alert on the following servers	一覧表示されたサーバで有効
Threshold	次の条件が満たされたときにアラートをトリガーする。 Cisco IME サービスへの TLS 障害が発生した
Duration	すぐにアラートをトリガーする

表 6-55 TLSConnectionToIMEFailed アラートのデフォルト設定 (続き)

値	デフォルト設定
Frequency	ポーリングごとにアラートをトリガーする
Schedule	毎日 24 時間
Enable E-mail	オン
Trigger Alert Action	デフォルト

## 緊急レベルのアラーム

緊急レベルのアラームはゼロ (0) で表され、システムまたはサービスが使用できないことを意味します。通常、このアラームはプラットフォームの障害を示します。次に例を示します。

- サービスの起動に何度も失敗する。
- このシステムの動作に必要なディスク領域が不足していた。
- システムのメモリが不足していた。
- マザーボードの障害が発生した。

このレベルは、個々のエンドポイントに関連付けられているイベントには適していません。

## BDINotStarted

エラーが発生したため、BDI アプリケーションを起動できませんでした。

### ファシリティ/サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

### 重大度

緊急 (0)

### パラメータ

Reason [String]

### 推奨処置

アプリケーション ログで、エラーがないかどうかを確認します。

## CallDirectorCreationError

CallDirector の作成中にエラーが発生しました。

### ファシリティ/サブファシリティ

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## CiscoDirSyncStartFailure

Cisco DirSync アプリケーションを正常に起動できませんでした。アプリケーションの起動中にエラーが発生しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

緊急 (0)

**推奨処置**

アプリケーション ログで、エラーがないかどうかを確認します。アプリケーションの再起動が必要になる場合もあります。

## ExceptionInInitSDIConfiguration

InitSDIConfiguration 関数で例外が発生しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## FileWriteError

プライマリ ファイル パスに書き込めませんでした。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/汎用

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

Primary File Path (String)

**推奨処置**

プライマリ ファイル パスが有効であり、対応するドライブに十分なディスク領域があることを確認します。また、このパスにデフォルトのログ ファイル パスと同等のセキュリティ権限があることも確認します。

## GlobalSPUtilsCreationError

GlobalSPUtils の作成中にエラーが発生しました。

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## HuntGroupControllerCreationError

HuntGroupController の作成中にエラーが発生しました。

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## HuntGroupCreationError

Hunt Group の作成中にエラーが発生しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## IPAddressResolveError

ホスト IP アドレスが解決されませんでした。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

HostName [String]

**推奨処置**

なし

## IPMANotStarted

エラーが発生したため、IP Manager Assistant (IPMA) アプリケーションを起動できませんでした。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

Servlet Name [String] Reason [String]

**推奨処置**

アプリケーション ログで、エラーがないかどうかを確認します。

## LineStateSrvEngCreationError

LineStateSrvEng の作成中にエラーが発生しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## LostConnectionToCM

CallManager への Telephony Call Dispatcher (TCD) 接続が失われました。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## NoCMEntriesInDB

データベースに CallManager エントリが存在しません。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## NoFeatureLicense

機能ライセンスが見つかりません。Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) を使用するには、ライセンスが必要です。また、Unified CM のライセンスはバージョン固有であるため、ライセンスが、実行しようとしているバージョン用のものであることを確認します。Cisco Unified CM の管理ページでライセンス ユニット レポートを実行できます ([システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス ユニット レポート (License Unit Report)] の順に選択)。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「緊急」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

緊急

**推奨処置**

使用しているバージョンの Unified CM 用の Cisco Unified Communications Manager SW FEATURE のライセンスの生成を依頼し、Cisco Unified CM の管理ページでライセンスをアップロードします ([システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス ファイルのアップロード (License File Upload)] の順に選択)。

## OutOfMemory

プロセスからオペレーティング システムに対してメモリが要求されていますが、使用可能なメモリが不足しています。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/汎用

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## ServiceNotInstalled

実行可能ファイルの開始が試行されていますが、サービス制御マネージャでサービスとして設定されていないため、開始できません。サービス名は %s です。サービスがインストールされていません。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/汎用

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

Service (String)

**推奨処置**

サービスを再インストールします。

## SyncDBCreationError

SysController で SyncDB の作成中にエラーが発生しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCO

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCO SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## SysControllerCreationError

SysController の作成中にエラーが発生しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCO

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCO SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## TapiLinesTableCreationError

TapiLinesTable の作成中にエラーが発生しました。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TCD-TCDD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCDD SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## TimerServicesCreationError

TimerServices の作成中にエラーが発生しました。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TCD-TCDD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCDD SRV

**重大度**

緊急 (0)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## TestAlarmEmergency

緊急アラームのテストです。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/テスト

**重大度**  
緊急 (0)

**推奨処置**  
なし

## WdNotStarted

エラーが発生したため、WebDialer アプリケーションを起動できませんでした。

**ファシリティ / サブファシリティ**  
CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/Java アプリケーション

**重大度**  
緊急 (0)

**パラメータ**  
Servlet Name [String] Reason [String]

**推奨処置**  
アプリケーション ログで、エラーがないかどうかを確認します。

## アラートレベルのアラーム

アラートレベルのアラームは 1 で表され、早急な対処が必要です。システム エラーが発生しており、復旧のためには手動による操作が必要です。次に例を示します。

- アプリケーションのライセンスの期限が近づいている。
- アプリケーションのディスク領域が不足しつつある。
- アプリケーションのメモリが不足しそうである。
- CPU 使用率が長時間 100% に達している。

このレベルは、個々のエンドポイントに関連付けられているイベントには適していません。

## CertValidLessthanADay

証明書が 24 時間以内で期限切れになるか、すでに期限切れになっています。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/CertMonitorAlarmCatalog

**重大度**  
アラート (1)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Message (String)

**推奨処置**

Cisco Unified Operating System にアクセスし Certificate Management に進むことで、期限切れになるうとしている証明書を再生成します。証明書が CA によって発行されている場合は、CSR を生成し、CSR を CA に送信して、CA から新しい証明書を入手し、Cisco Unified CM にアップロードします。

## CMIException

データベースの読み取り中にエラーが発生しました。

このアラームは、CMI サービス パラメータを無効な値で設定するか、シリアル ポートから無効なハンドル値が返されることでトリガーされる、他のアラームに常に関連付けられます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCMIException から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CMIAlarmCatalog/CMI

**重大度**

アラート

**ルーティング リスト**

イベント ログ

SDI

**パラメータ**

CMI Exception (String)

**推奨処置**

詳細については、関連するアラームを参照してください。

## CMOverallInitTimeExceeded

Cisco Unified Communications Manager システムの初期化にかかる時間が、System Initialization Timer サービス パラメータで指定された値の許容時間よりも長くかかっています。このため、システムは自動的に再起動され、初期化が再試行されます。初期化が失敗した理由には、データベース エラー、システムに追加された大量の新しいデバイス、またはその他のいくつかの潜在的な原因が考えられます。Cisco Unified Communications Manager の初期化に必要な時間が、Cisco CallManager サービス パラメータの System Initialization Timer で許容される時間を超えています。システム サイズの増加が、このエラーの原因である可能性があります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CUCMOverallInitTimeExceeded から名前が変更されました。</li> <li>• 重大度は「エラー」から「アラート」に変更されました。</li> </ul>

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

アラート

### パラメータ

Cisco Unified Communications Manager Overall Initialization Time (分単位) [Int]

### 推奨処置

Cisco Unified CM の管理ページのサービス パラメータ設定ウィンドウで、Cisco CallManager サービス パラメータの System Initialization Timer の値を増加してみます。RTMT を使用してシステム内のデバイス数とユーザ数を確認し、その数が正確であるかどうかを評価します。Cisco Unified CM の管理ページのサービス パラメータ設定ウィンドウで、Cisco CallManager サービス パラメータの System Initialization Timer の値を増加してみます。System Initialization Timer サービス パラメータの時間を増やしてもこの問題が解決しない場合、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) にお問い合わせください。

## ConfigThreadChangeNotifyServerInstanceFailed

データベースからの設定変更通知を処理するためのリソースを割り当てることができませんでした。通常、リソース不足などのシステム問題が発生した場合にメモリ不足を示します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kConfigThreadChangeNotifyServerInstanceFailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「エラー」から「アラート」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

### 重大度

アラート

### 推奨処置

RTMT を使用してシステム メモリのリソースおよび消費量をモニタし、システム リソース量の減少の原因と考えられるシステム問題を修正します。

## ConfigThreadChangeNotifyServerSingleFailed

データベースからの設定変更通知を処理するためのリソースを割り当てることができませんでした。通常、リソース不足などのシステム問題が発生した場合にメモリ不足を示します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kConfigThreadChangeNotifyServerSingleFailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「エラー」から「アラート」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

### 重大度

アラート

**推奨処置**

RTMT を使用してシステム メモリのリソースおよび消費量をモニタし、システム リソース量の減少の原因と考えられるシステム問題を修正します。

## ConfigThreadChangeNotifyServerStartFailed

データベースからの設定変更通知の受信を開始できませんでした。通常、リソース不足などのシステム問題が発生した場合にメモリ不足を示します。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kConfigThreadChangeNotifyServerStartFailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「エラー」から「アラート」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TFTP-TFTP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/TFTP

**重大度**

アラート

**推奨処置**

RTMT を使用してシステム メモリのリソースおよび消費量をモニタし、システム リソース量の減少の原因と考えられるシステム問題を修正します。

## CiscoLicenseApproachingLimit

ライセンス ユニットの消費量が、許可されている上限に近づいています。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS\_TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

アラート (1)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

なし

## CiscoLicenseOverDraft

オーバードラフト ライセンスを使用中です。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS\_TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

アラート (1)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

なし

## CMVersionMismatch

クラスタ内の 1 台以上の Unified CM ノードで異なるバージョンの Cisco CallManager が動作しています。

このアラームは、ソフトウェアのバージョンが一致しないためにローカルの Unified CM がリモートの Unified CM との通信を確立できないことを示します。このアラームは一般的に、Unified CM ノードのアップグレード中に通常発生します。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

アラート

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

**パラメータ**

Remote Application Link Protocol Version (String)

Local Application Link Protocol Version (String)

Remote Node ID (UInt)  
 Remote Application ID (Enum)  
 Remote Application Version (String)

**Enum 定義 : Remote Application ID**

値	定義
100	CallManager
200	CTIManager

**推奨処置**

このアラームの詳細には、ローカルおよびリモートの Unified CM ノードのバージョンが含まれていません。バージョンを比較し、必要に応じてノードをアップグレードします。

## CreateThreadFailed

新しいスレッドの作成に失敗しました。Reason 文字列で、エラーの発生場所を確認します。通常、メモリ リソース不足などのシステム問題が発生したときに起こります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kCreateThreadFailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「エラー」から「アラート」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TFTP/TFTP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/TFTP

**重大度**

アラート

**パラメータ**

Error [Int] Reason [String]

**推奨処置**

RTMT を使用してシステム メモリのリソースおよび消費量をモニタし、システム リソース量の減少の原因と考えられるシステム問題を修正します。

## DBLException

データベース アクティビティの実行中にエラーが発生しました。重大なデータベース レイヤ インターフェイス エラーが発生しました。このエラーの原因には、データベースが到達不能または停止していることや、DNS エラーが考えられます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「アラート」に変更されました。

### ファシリティ/サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

アラート

### パラメータ

ErrorCode [Int] ExceptionString [String]

### 推奨処置

Cisco Unified Reporting ツールで提供されるシステム レポート（具体的には Cisco Unified CM データベース ステータス レポート）を確認し、異常なアクティビティがないかどうかを調べます。データベースを実行しているサーバへのネットワーク接続を確認します。システムで DNS を使用する場合、DNS 設定を確認してエラーがないかどうかを調べます。

## InvalidCredentials

IME サーバへのクレデンシャルが失敗しました。

Unified CM で設定されているユーザ名またはパスワードが、IME サーバで設定されているものに一致しないため、IME サーバへの接続を完了できませんでした。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	このリリースで新たに追加されたアラームです。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

アラート

**推奨処置**

このアラームには、IME サーバに接続するために使用されたユーザ名およびパスワードと、ターゲット IME サーバの IP アドレスおよびその名前が格納されています。IME サーバにログインし、そこで設定されているユーザ名とパスワードが Unified CM で設定されているものに一致することを確認します。

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

Alert Manager

**パラメータ**

User name (String)

IP address (String)

Server name (String)

## MemAllocFailed

メモリの割り当てに失敗しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kMemAllocFailed から名前が変更されました。 重大度がアラートに変更されました。 推奨処置が変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_SUMI-CMI

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Service Manager

**重大度**

アラート

**パラメータ**

Memory Allocation Failure (String)

**推奨処置**

1. syslog でシステム エラー番号を確認します。
2. アラートが繰り返し発生する場合は、Service Manager を再起動します。
3. 問題が解決されない場合は、Cisco Unified CM ノードをリブートします。

## NoDbConnectionAvailable

データベース接続を使用できません。データベース レイヤで、稼動中のデータベース接続が見つかりませんでした。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_DB\_LAYER-DB

Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ  
System/DB

重大度  
アラート (1)

### 推奨処置

Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで、Cisco Database Layer Monitor サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にします。ネットワーク接続と SQL サーバ サービスの動作を確認します。

## ParityConfigurationError

CMI サービス パラメータ Parity の設定が無効です。

ボイス メッセージング システムに接続するために CMI が使用するシリアル ポートに設定されているパリティが無効です。値の検証が行われない AXL または CLI コマンドを使ってパリティ値が更新された可能性があります。このため、この値は、Cisco Unified CM の管理ページのサービス パラメータ設定ウィンドウで設定することを推奨します。これにより、値がこのフィールドの値の許容範囲に収まっていることが確認されます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kParityConfigurationError から名前が変更されました。

Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ  
CMIAlarmCatalog/CMI

重大度  
アラート

ルーティング リスト  
イベント ログ  
SDI

パラメータ  
Illegal Parity (String)

**推奨処置**

Cisco Messaging Interface サービス パラメータ Parity に有効な（許容される）値が設定されていることを確認します。

## SerialPortOpeningError

CMI がシリアル ポートを開こうとしたときに、オペレーティング システムがエラーを返しました。

CMI を実行しているシステムでは、ボイス メッセージング システムに接続するために使用するシリアル ポートは常に USB0 であり、その値は Cisco Messaging Interface サービス パラメータ Serial Port で設定されます。値の検証が行われない AXL または CLI コマンドを使って Serial Port の値が更新された可能性があります。Serial Port サービス パラメータの値が USB0 以外に設定されている場合、CMI はこのアラームをトリガーします。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kSerialPortOpeningError から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CMIArmCatalog/CMI

**重大度**

アラート

**ルーティング リスト**

イベント ログ

SDI

**パラメータ**

Serial Port Opening Error (String)

**推奨処置**

Cisco Messaging Interface サービス パラメータ Serial Port に USB0 が設定されていることを確認します。また、ケーブルが USB0 ポートにしっかりと接続されていることを物理的に確認します。

## SDIControlLayerFailed

新しい設定のためにトレース ログまたはアラーム サブシステムの更新に失敗しました。このアラームは通常、システム リソース不足、またはトレース ログまたはアラーム サブシステムによるデータベース アクセスの失敗を示します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「重要」から「アラート」に変更されました。
7.0(1)	kSDIControlLayerFailed から名前が変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP\_TFTP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

### 重大度

アラート

### パラメータ

Error [Int] Reason [String]

### 推奨処置

Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで、TFTP サービスと Cisco Database Layer Monitor サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にします。また、RTMT を使用して、アラームが発生した前後に生じた可能性のあるエラーを検索します。データベース サーバが実行されていることと、Cisco Database Layer Monitor サービスが問題なく実行されていることを確認します。このアラームが解消されない場合は、TFTP サービスとデータベースのトレース ファイルを用意して、TAC までお問い合わせください。

## SDLLinkOOS

リモートアプリケーションへの SDL リンクがアウト オブ サービスです。このアラームは、ローカルの Unified CM とリモートの Unified CM との通信が切断されたことを示します。通常、このアラームは、ノードがアウト オブ サービスになったことを示します（メンテナンス目的や新しい負荷をインストールするためなどに意図的に状態を変更したか、サービス障害または接続障害によって意図せず状態が変化）。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「アラート」に変更されました。

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

## 重大度

アラート

## パラメータ

Remote IP address of remote application [String] Unique Link ID. [String] Local node ID [UInt] Local Application ID. [Enum] RemoteNodeID [UInt] Remote application ID. [Enum]

## LocalApplicationID と RemoteApplicationID の Enum 定義

コード	理由
100	CallManager
200	CTI

## 推奨処置

Cisco Unified Reporting ツールで、CM Cluster Overview レポートを実行し、すべてのサーバがパブリッシュと通信できることを確認します。また、CallManager の障害を示す何らかのアラームが発生していないかどうかを確認し、障害がある場合は適切な処置を実施します。ノードを意図的にアウトオブサービスにした場合は、ノードをインサービスに戻します。

## SocketError

ファイル要求を受信するためのネットワーク接続を開けませんでした。このアラームは通常、TFTP サービスがネットワーク接続を開くために使用する IP アドレスが無効である場合に発生します。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kSocketError から名前が変更されました。

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

## 重大度

アラート (1)

## パラメータ

Error [Int] Reason [String]

**推奨処置**

TFTP サービス パラメータ (TFTP IP アドレス) が TFTP 経由でファイルを提供するために使用する Network Interface Card (NIC; ネットワーク インターフェイス カード) の IP アドレスを正しく指定しているかどうかを確認します。詳細については、(拡張) TFTP IP アドレス サービス パラメータのヘルプを参照してください。問題が解決しない場合は、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Trace Configuration] ウィンドウで TFTP サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にして、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) までお問い合わせください。

## StopBitConfigurationError

Cisco Messaging Interface サービス パラメータ Stop Bits の設定が無効です。

ボイス メッセージング システムに接続するために CMI が使用するシリアル ポートに、無効なストップ ビットが設定されています。値の検証が行われない AXL または CLI コマンドを使って Stop Bits の値が更新された可能性があります。このため、この値は、Cisco Unified CM の管理ページのサービス パラメータ設定ウィンドウで設定することを推奨します。これにより、値がこのフィールドの値の許容範囲に収まっていることが確認されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kStopBitConfigurationError から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CMIArmCatalog/CMI

**重大度**

アラート

**ルーティング リスト**

イベント ログ

SDI

**パラメータ**

Illegal Stop Bit (String)

**推奨処置**

Cisco Messaging Interface サービス パラメータ Stop Bits に有効な (許容される) 値が設定されていることを確認します。

## TFTPServerListenSetSockOptFailed

ファイル要求を受信するためのネットワーク バッファのサイズを増加できませんでした。通常、リソース不足などのシステム問題が発生した場合にメモリ不足を示します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kTFTPServerListenSetSockOptFailed から名前が変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

### 重大度

アラート (1)

### パラメータ

Error [Int] IPAddress [String] Port [Int]

### 推奨処置

RTMT を使用してシステム メモリのリソースおよび消費量をモニタし、システム リソース量の減少の原因と考えられるシステム問題を修正します。

## TFTPServerListenBindFailed

ファイル要求の受信に使用するネットワーク ポートに接続できません。このアラームは通常、ネットワーク ポートがシステム上の他のアプリケーションで使用されている場合、または TFTP サーバの前の実行時にネットワーク ポートが正常に閉じなかった場合に発生します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kTFTPServerListenBindFailed から名前が変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

### 重大度

アラート (1)

**パラメータ**

Error [Int] IPAddress [String] Port [Int]

**推奨処置**

ポートが他のアプリケーションで使用されていないことを確認します。TFTP サーバを停止した後、TFTP サーバの Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で、show network status listen というコマンドを実行します。このアラームで指定されたポート番号がこの CLI コマンド出力に表示された場合、このポートは使用されています。Cisco Unified Communications Manager システムを再起動すると、ポートを開放できることがあります。問題が解決しない場合は、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Trace Configuration] ウィンドウで TFTP サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にして、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) までお問い合わせください。

## TestAlarmAlert

アラート アラームのテストです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/テスト

**重大度**

アラート (1)

**推奨処置**

なし

## TLSConnectionToIMEFailed

IME サービスへの TLS 障害が発生しました。

IME サーバによって提示された証明書に問題があったため、IME サーバへの TLS 接続を確立できませんでした (たとえば、証明書が Unified CM CTL がない場合や、CTL にあっても有効期限が切れている場合)。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	このリリースで新たに追加されたアラームです。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

アラート

**推奨処置**

IME サーバの証明書が Unified CM で適切に設定されていることを確認します。

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

Alert Manager

**パラメータ**

SSLErrorCode (UInt)

SSLErrorText (String)

## TVSServerListenBindFailed

ファイル要求の受信に使用するネットワーク ポートに接続できません。このアラームは通常、ネットワーク ポートがシステム上の他のアプリケーションで使用されている場合、または TVS サーバの前回の実行時にネットワーク ポートが正常に閉じなかった場合に発生します。

**Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ**

System/TVS

**重大度**

アラート

**ルーティング リスト**

SDI

イベント ログ

データ コレクタ

システム ログ

**パラメータ**

nError (Int)

IPAddress (String)

Port (Int)

**推奨処置**

ポートが他のアプリケーションで使用されていないことを確認します。TVS サーバを停止した後、TVS サーバの Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で、`show network status listen` コマンドを実行します。このアラームで指定されたポート番号がこの CLI コマンド出力に表示された場合、このポートは使用されています。Cisco Unified Communications Manager システムを再起動すると、ポートを開放できることがあります。問題が解決しない場合は、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Trace Configuration] ウィンドウで TVS サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にして、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) までお問い合わせください。

## TVSServerListenSetSockOptFailed

ファイル要求を受信するためのネットワーク バッファのサイズを増加できませんでした。通常、リソース不足などのシステム問題が発生した場合にメモリ不足を示します。

### Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ

System/TVS

#### 重大度

アラート

#### ルーティング リスト

SDI

イベント ログ

データ コレクタ

システム ログ

#### パラメータ

nError (Int)

IPAddress (String)

Port (Int)

#### 推奨処置

RTMT を使用してシステム メモリのリソースおよび消費量をモニタし、システム リソース量の減少の原因と考えられるシステム問題を修正します。

## UnknownException

データベースへの接続中に不明なエラーが発生しました。

CMI サービスは、起動時に CMI サービス パラメータを DB から読み込もうとします。その際に不明なエラーが発生すると、CMI からこのアラームがトリガーされます。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CMIAAlarmCatalog/CMI

#### 重大度

アラート

#### ルーティング リスト

イベント ログ

SDI

#### 推奨処置

カスタマー サービス担当者に報告してください。

## VMDNConfigurationError

CMI のボイスメール DN が無効です。

ボイスメール DN が無効なため、CMI は Cisco Unified Communications Manager に登録できません。このアラームは、Cisco Messaging Interface サービス パラメータ Voice Mail DN が空か、数字（0～9）以外の無効な文字が含まれている場合に発生します。値の検証が行われない AXL または CLI コマンドを通じて Voice Mail DN の値が更新された可能性があります。このため、この値は、Cisco Unified CM の管理ページのサービス パラメータ設定ウィンドウで設定することを推奨します。これにより、値がこのフィールドの値の許容範囲に収まっていることが確認されます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kVMDNConfigurationError から名前が変更されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CMIAAlarmCatalog/CMI

#### 重大度

アラート

#### ルーティング リスト

イベント ログ

SDI

#### パラメータ

Invalid Voice Mail DN (String)

#### 推奨処置

CMI サービス パラメータ Voice Mail DN に有効なディレクトリ番号が設定されていることを確認します。

## 重要レベルのアラーム

重要レベルのアラームは 2 で表され、早急な対処が必要になる場合もあります。自動回復が見込まれませんが、状況をモニタしてください。

このアラームはアラートレベルのアラームと同様に動作しますが、必ずしもすぐに対処が必要なわけではありません。システムに影響を与えるサービスに障害が発生しましたが、ユーザが介入することなく回復しています。次に例を示します。

- 処理不可能なエラーのためにサービスがクラッシュしましたが、サービスを再起動するウォッチドッグプロセスが存在します。このクラッシュでは、必ずしもすぐに対処が必要なわけではありません。次に例を示します。
  - メモリ不足状態
  - 初期化されていない変数
  - メモリ スクリブラ

- 処理不可能な、予期しないコードエラーが発生しましたが、このエラーを解決するためにシステムは自動的に再起動します。

## BChannelOOS

B チャンネルがアウト オブ サービスです。このアラームによって示された B チャンネルはアウト オブ サービスになっています。B チャンネルがアウト オブ サービスになる一般的な理由には、次のようなものがあります。

- ニアエンドまたはファーエンドでメンテナンスを行うために、チャンネルを意図的にアウト オブ サービスにしている
- MGCP ゲートウェイが、Cisco Unified Communications Manager (Cisco Unified CM) から送信された MGCP コマンドに対してエラーコード 501 または 510 を返した
- MGCP ゲートウェイが、Cisco Unified CM が送信した MGCP コマンドに 3 回応答しない
- Cisco Unified CM と MGCP ゲートウェイ間のイーサネット ポートで、速度とデュプレックスが一致しない

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度がエラーから重要に変更されました。

### ファシリティ/サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

重要

### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

### パラメータ

Unique channel Id [String] Device Name. [String] Reason. [Enum]Channel Id. [UInt]

### Enum 定義

- 0 : 定義なし

**推奨処置**

Cisco Unified CM 拡張サービス パラメータを確認します。[B チャンネル メンテナンス ステータス (B-channel Maintenance Status)] を変更して、B チャンネルが意図的にアウト オブ サービスにされているかどうかを確認します。PRI サービス メッセージの Q.931 トレースを確認して、公衆網プロバイダーによって B チャンネルがアウト オブ サービスにされているかどうかを判定します。MGCP ゲートウェイをリセットします。イーサネット ポート上の速度とデュプレックスの設定を確認します。

## CallManagerFailure

Cisco Unified Communications システムの内部的な障害を示します。サービスを再起動して障害をクリアする必要があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「重要」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

重要

**パラメータ**

Additional Text [Optional] [String] Host name of hosting node.[String] IP address of hosting node.[String] Reason code.[Enum]

**Enum 定義**

コード	理由
1	Unknown : Unified CM は不明な理由でエラーになりました。
2	HeartBeatStopped : ハートビート間隔の後、内部的なハートビートが停止しました。
3	RouterThreadDied : 内部のスレッドがエラーになりました。
4	TimerThreadDied : 内部のスレッドがエラーになりました。
5	CriticalThreadDied : 内部のスレッドがエラーになりました。

**推奨処置**

その他のエラーをモニタし、必要に応じて Cisco CallManager サービスを再起動します。このアラームが解消されない場合は既存のトレース ファイルを収集します。

**CISCO-CCM-MIB**

ccmCallManagerAlarmEnable に含まれます。第 7 章「シスコ管理情報ベース」の「CISCO-CCM-MIB」(P.7-1) を参照してください。

## CertExpiryCritical

証明書が 7 日未満で期限切れになります。証明書を再生成または再インポートします。このアラームを生成するサービスの名前は、Cisco Certificate Expiry Monitor です。このアラームは、システムによって生成された証明書またはシステムにアップロードされた証明書が期限切れになる場合に生成されます。Cisco Unified CM では、Tomcat (Web サーバ)、CallManager、IPSEc、および Directory の証明書を使用します。各証明書の詳細については、セキュリティ ガイドを参照してください。証明書が Cisco Unified CM によって生成された場合、自己署名証明書のデフォルトの有効期限は 5 年間です。証明書が CA によって署名されている場合、証明書の有効性は、証明書の発行の際に CA が設定した有効期限によって決まります。証明書の期限が近づくと、Cisco Certificate Expiry Monitor サービスによってアラームが生成されます。アラームの重大度は、証明書が期限切れになるまでの残り時間によって決まります。

システムの動作への影響は、期限切れになった証明書によって異なります。この情報は、アラームに含まれます。Tomcat の証明書が期限切れになった場合、Cisco Unified CM Web ページに接続中に、証明書が期限切れになったことを示すエラーがブラウザに表示されます。ただし、この警告を無視して Cisco Unified CM ページへの接続を続行できます。

Directory-trust の場合、Cisco Unified CM にアップロードされたディレクトリ信頼証明書が期限切れになると、Cisco Unified CM は外部 LDAP サーバとの SSL 接続を確立できないことがあります。システム全体の影響として、Cisco Unified CM と他の外部サーバ間の SSL 接続ができなくなります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。

ファシリティ / サブファシリティ  
/CERT

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Cert モニタ

### 重大度

重要 (2)

### パラメータ

なし

### 推奨処置

CUOS ページにログインします。[セキュリティ (Security)] > [証明書の管理 (Certificate Management)] の順に移動し、(アラーム内の情報に基づいて) 期限切れになった証明書を再生成します。これにより、新しい有効期限を持つ新しい自己署名証明書が生成されます。証明書が CA によって署名されている場合、新しい CSR を生成して CA に送信し、CA が署名した証明書を取得して新しい証明書をアップロードします。

## CertValidfor7days

このアラームは、証明書の有効期限が切れたか、7 日以内に期限が切れることを示します。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/CertMonitorAlarmCatalog

#### 重大度

重要 (2)

#### ルーティング リスト

イベント ログ

システム ログ

#### パラメータ

Message (String)

#### 推奨処置

Cisco Unified Operating System にアクセスし Certificate Management に進むことで、期限切れになるようになっている証明書を再生成します。証明書が CA によって発行されている場合は、CSR を生成し、CSR を CA に送信して、CA から新しい証明書を手し、Cisco Unified CM にアップロードします。

## CDRMaximumDiskSpaceExceeded

CDR ファイルのディスク使用率が最大ディスク割り当てを超えました。ディスク使用率を下げるために、いくつかの配信不能なファイルが削除された可能性があります。CDR ファイルのディスク使用率は、割り当てられた最大ディスク領域を超えています。CDRM は、ディスク使用率を上限未満まで下げるために、外部の課金サーバにまだ送信されていない CDR ファイルをいくつか削除した可能性があります。配信不能なファイルを削除するかどうかは、CDRM 設定ページでの deletionDisable フラグの設定方法によって決まります。電子メール アラートが管理者に送信されます。

#### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	ファシリティとサブファシリティが変更されました。ルーティングリストが追加され、Data Collector が Alert Manager に変更されました。

#### ファシリティ / サブファシリティ

CDRREP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CDR 管理

#### 重大度

重要 (2)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

Alert Manager

**パラメータ**

DiskUsageInMB [String]

**推奨処置**

1. 配信不能な CDR ファイルが何らかの条件で蓄積されすぎているかどうかを確認します。
2. ネットワーク リンク ステータスを確認します。
3. 課金サーバが動作しているかどうかを確認します。
4. 課金サーバ上の (s) FTP サーバが実行中で要求を受け入れているかどうかを確認します。
5. Serviceability の [Tools] で、課金サーバの CDRM 設定が正しいかどうかを確認します。
6. Serviceability の [Tools] で、CDR ファイルの最大ディスク割り当てが低すぎるかどうかを確認します。
7. /var/log/active/cm/trace/cdrrep/log4j で、CDR Repository Manager トレースを確認します。

## CiscoDirSyncProcessFailToStart

特定の同期アグリーメントで LDAPSync プロセスを開始できませんでした。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

重要 (2)

**パラメータ**

AgreementId [String]

**推奨処置**

アプリケーション ログで、エラーがないかどうかを確認します。

## CodeRedEntry

Unified CM は Code Red 状態になり、再起動します。

Unified CM は長期間 Code Yellow 状態になっており、それ自身で回復できる可能性がほとんどありません。Cisco CallManager サービスは自動的に再起動し、Code Yellow 状態の原因になっている状況をクリアしようとします。システムが Code Yellow 状態のままになる期間は、Code Yellow Duration サービス パラメータで設定できます。このパラメータの期間を 99999 に設定すると、Code Red 状態は発生しません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「重要」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

重要

### パラメータ

Expected Average Delay [UInt] Entry Latency [UInt] Exit Latency [UInt] Sample Size [UInt] Code Yellow Duration [UInt] Number of Calls Rejected Due to Call Throttling [UInt] Total Code Yellow Entry [UInt] Total Code Yellow Exit [UInt]

### 推奨処置

CodeYellowEntry アラームで定義されている推奨処置の手順を試みるべきでした。まだ試みていない場合は、システムがオンラインになった後で試みます。唯一の動作は自動的に実行される再起動だけであるため、Code Red に対する他の処置はありません。

## CodeYellowEntry

着信コール処理で許容できないほど大きな遅延が発生したため、CallManager はコール スロットリングを開始しました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「重要」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

重要

**パラメータ**

Expected Average Delay [UInt] Entry Latency [UInt] Exit Latency [UInt] Sample Size [UInt] Total Code Yellow Entry [UInt]

**推奨処置**

Code Yellow 状態になる根本的な原因は、一般にメモリの問題や高い CPU 使用率です。ディスクの不良も原因になる可能性があります。また、トレース レベルの設定によっては、CPU を大量に消費します（特に、Cisco Unified Serviceability の [SDL Trace Configuration] ウィンドウで [Enable SDL TCP Event Trace] チェックボックスをオンにしている場合）。これらの領域を確認し、Code Yellow 状態から回復するよう試みます。また、CLI からトレース ディレクトリに対して File Fragmentation コマンドを実行し、ハードディスクのフラグメンテーションの進み具合を確認することもできます。状況をモニタし、既存のトレース ファイルを収集します。組織で予想される妥当な時間内に CodeYellowExit アラームが発行されない場合や、システムが頻繁に Code Yellow 状態になる場合は、TAC に問い合わせ、収集したトレース情報を渡します。

**CoreDumpFileFound**

新しいコア ダンプ ファイルがシステム内で見つかりました。コンポーネントの 1 つがクラッシュし、コア ダンプが生成されました。admin CLI または RTMT を使用してバックトレースを取得します。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TCT-LPMTCT

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/LpmTct

**重大度**

重要 (2)

**パラメータ**

TotalCoresFound [String] CoreDetails [String] Core1 [String] Core2 [String] Core3 [String] Core4 [String] Core5 [String] Core6 [String]

**推奨処置**

この重大な内部エラーは、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) で調査する必要があります。TAC に連絡する前に、CCM サーバの CLI にログインし、「active analyze core file name」コマンドを実行して、コア ダンプのバックトレースを生成します。コア ファイル名は、アラートの詳細に格納されています。analyze コマンドを実行した後、CLI コマンド「file get activelog analyze」または RTMT の [Collect Traces] オプションを使用してバックトレースを収集します。これらのバックトレースをシスコ TAC に送付し、詳細な解析を依頼します。

## DChannelOOS

D チャンネルがアウト オブ サービスです。このアラームによって示された D チャンネルはアウト オブ サービスになっています。D チャンネルがアウト オブ サービスになる一般的な理由は次のようなものがあります。T1/E1/BRI ケーブル接続の切断。内部または外部の問題によるゲートウェイ データ リンク (レイヤ 2) の切断。ゲートウェイのリセット。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「重要」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

重要

### パラメータ

Channel Id. [UInt] Unique channel Id [String] Device Name. [String] Device IP address [String] Reason. [Enum]

### Enum 定義

- 0: 定義なし

### 推奨処置

T1/E1/BRI ケーブルの接続を確認します。ゲートウェイをリセットしてレイヤ 2 の接続を復元します。ゲートウェイのリセットが意図的であったかどうかを調査します。リセットが意図的ではなかった場合、Cisco Unified Communications Manager Administration のゲートウェイ設定のウィンドウとゲートウェイ端末へのアクセスを制限する処置を行います。

## DUPLEX\_MISMATCH

このアラームは、ローカル インターフェイスとスイッチ インターフェイス間でデュプレックスが一致しない場合に Cisco CDP によって生成されます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.1	DUPLEX_MISMATCH が CDPAlarmCatalog に追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CDP/CDP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/CDP

**重大度**

重要 (2)

**パラメータ**

Switch Duplex Settings (String)

Local Interface Duplex Settings (String)

**推奨処置**

ローカル インターフェイスおよびスイッチ インターフェイスでデュプレックス設定が自動二重または全二重に設定されていることを確認します。

## ErrorChangeNotifyClientBlock

変更通知クライアントがビジー状態です (ブロックされています)。変更通知クライアントが 10 分間ブロックされ続けると、システムによってブロックが自動的にクリアされ、変更通知が正常に再開します。データベースに加えられた変更は、いずれの受信者からも使用されません。このエラーは、必ずしも問題になるわけではありません。ただし、変更通知クライアントが 10 分間ブロックされ続けると、ブロックされているクライアントを除くすべてのクライアントのブロックがシステムによって自動的にクリアされます。これにより、その他のすべてのクライアントの変更通知が正常に再開します。ブロックされているクライアントをクリアするには、サーバを再起動する必要があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「重要」に変更されました。

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_DB\_LAYER-DB

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DB

**重大度**

重要 (2)

**推奨処置**

データベース サーバのコマンドライン インターフェイス (CLI) で、次のコマンドを実行します。

```
show tech notify
```

ブロックに関する情報が、CLI コマンド出力に表示されます。Cisco Unified Serviceability を使用して、アラームで示されたサーバを再起動します。トレースを収集して調査し、クライアントがブロックされていた時間内に異常なアクティビティがなかったかどうかを調べることも推奨します。Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで、Cisco Database Layer Monitor サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にします。また、RTMT を使用して、アラームが発生した前後に生じた可能性がある変更を検索します。

## LogPartitionHighWaterMarkExceeded

ログパーティションの使用済みディスク領域のパーセンテージが、設定されている上限を超えています。ログパーティションの使用済みディスク領域のパーセンテージが、設定されている下限を下回るまで、いくつかのコアファイルまたはトレースファイル（場合によっては両方）がパージされます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「重要」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TCT-LPMTCT

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/LpmTct

### 重大度

重要

### パラメータ

UsedDiskSpace [String] MessageString [Optional]. [String]

### 推奨処置

RTMT にログインし、Alert Central で、LogPartitionHighWaterMarkExceeded アラートに設定されているしきい値を確認します。設定されている値が、意図せずデフォルトのしきい値よりも小さい値に設定されている場合は、値をデフォルトに変更します。

最初のアラートを受信した後 30 分間このアラートを受信し続ける場合は、RTMT の [Disk Usage] タブで共通パーティションのディスク使用率を確認します。このタブに表示されているディスク使用率が LogPartitionLowWaterMarkExceeded アラート設定で設定されている値よりも大きい場合は、TAC に問い合わせ、共通パーティションのディスク使用率が高い原因をトラブルシューティングします。

## MaxCallsReached

Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) ノードでの最大同時接続数に到達しました。これは内部的に設定された値であり、これを超えると、Unified CM は、コール数を内部的なしきい値未満にするために、コールの制御を開始します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「重要」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

重要

**パラメータ**

Description [Int]

**推奨処置**

リアルタイム モニタリング ツールで、Cisco CallManager オブジェクトの CallsActive カウンタのコール数が異常に多くないか確認します。内部メカニズムにより、この状態を修正しようと試みられます。このアラームが継続的に発生する場合は、既存の SDL および CCM トレース ファイルを収集し、Cisco Unified CM Serviceability の CM Services トレース コレクションが Detailed レベルになっていることを確認します。

**MGCPGatewayLostComm**

MGCP ゲートウェイで Cisco Unified Communications Manager (Cisco Unified CM) との通信が失われました。このアラームは次のような場合に発生する可能性があります。Cisco Unified CM がゲートウェイから RSIP グレースフル/強制などの MGCP 登録解除信号を受信した場合、Cisco Unified CM が、ゲートウェイから MGCP KeepAlive 信号を受信しない場合、MGCP ゲートウェイが、Cisco Unified CM によって送信された MGCP コマンドに 3 回応答しない場合、Cisco Unified CM と MGCP ゲートウェイ間のイーサネット ポートで、速度とデュプレックスが一致しない場合、ゲートウェイがリセットされた場合。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

重要 (2)

**パラメータ**

Device Name [String]

**推奨処置**

Cisco Unified CM との通信の復元を試行するために MGCP ゲートウェイをリセットします。次に、イーサネット ポート上の速度とデュプレックスの設定を確認します。ゲートウェイの不要なリセットが原因で通信が切断された場合、権限のない人が Cisco Unified CM の管理ページまたはゲートウェイ端末からゲートウェイをリセットできないようにするために予防策を取ります。

**CISCO-CCM-MIB**

[第 7 章「シスコ管理情報ベース」](#) を参照してください。

## StationTCPInitError

初期化中にエラーが発生しました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 重大度は「エラー」から「重要」に変更されました。</li> <li>• 次のパラメータが削除されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– Error Number [String]</li> <li>– ErrorCode [Int]</li> </ul> </li> </ul>

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

重要

### 推奨処置

Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスが設定されており、IP バージョンのループバックアドレスとして設定されていないことを確認します。IP 設定が正しい場合は、SDL と SDI のトレースを収集し、TAC にお問い合わせください。

## TCPSetupToIMEFailed

IME サーバへの接続に失敗しました。

このアラームは、Unified CM が IME サーバへの TCP 接続を確立できない場合に発生します。一般に、IME サーバの IP アドレスとポートの設定が正しくないか、イントラネット接続の問題により接続が確立できない場合に発生します。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

CRITICAL\_ALARM

### 推奨処置

アラームに含まれている IME サーバの IP アドレスとポートが正しいことを確認します。正しい場合は、ネットワーク接続の問題が原因である可能性があります。Unified CM サーバと IME サーバの間の接続をテストします。

### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

Alert Manager

**パラメータ**

IP address (String)

Port number (UInt)

## TimerThreadSlowed

Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) の内部タイミング メカニズムの確認が、許容可能な範囲を超えて低速になりました。これは、一般に、システムの負荷が高いか内部的な異常を示します。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「警告」から「重要」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

重要

**推奨処置**

このアラームがほぼ同じ日や同じ時刻に発生する場合や、発生頻度が徐々に高くなっている場合は、リアルタイム モニタリング ツールですべてのシステム パフォーマンス データを収集するとともに、このアラームが発生する直前の 30 分間のすべてのトレース情報を収集し、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) にお問い合わせください。

## TestAlarmCritical

重大アラームのテストです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/テスト

**重大度**  
重要 (2)

**推奨処置**  
なし

## エラーレベルのアラーム

エラーレベルのアラームは 3 で表されます。このアラームの場合、重要なデバイスまたはサブシステムを調査し、すぐに対処が必要かどうかを判断する必要があります。ただし、このエラーにより、必ずしもサービスが機能を継続できなくなるわけではなく、システム障害も起こりません。このエラーと関連が深いのはデバイスまたはサブシステムです。

たとえば、予期しない理由により、デバイスまたはサブシステムに障害が発生することがあります。

## ANNDeviceRecoveryCreateFailed

ANN デバイス リカバリの作成に失敗しました。おそらくメモリ不足が原因で、ANN デバイス リカバリ クラスの作成に失敗しました。エラー コードがゼロでない場合、エラーの原因を特定するのに役立つことがあります。アナウンス デバイスは使用できません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
8.0(1)	ルーティング リスト要素とパラメータが追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

**重大度**  
エラー (3)

### ルーティング リスト

SDI

イベント ログ

システム ログ

### パラメータ

OS Error Code (Int)

OS Error Description (String)

**推奨処置**

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。

## AwaitingResponseFromPDPTimeout

Cisco Unified Communication Manager が、Policy Decision Point (PDP; ポリシー デシジョン ポイント) からのルーティング応答待ちでタイムアウトしました。Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) が、Cisco CallManager サービス パラメータ Call Intercept Routing Request Timer か、Cisco Unified CM の管理ページにあるコールの代行受信のプロファイル設定ウィンドウで指定した時間内に、ポリシー デシジョン ポイント (PDP) からのコール ルーティング応答を受信しませんでした。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

ERROR\_ALARM

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Policy Decision Point (String)

**推奨処置**

PDP がイン サービスで正常に機能していることを確認します。PDP が過負荷になっていないことを確認します。過負荷になっている場合は、次の推奨事項のいずれかまたはすべてに従い、PDP の負荷を減らすための適切な処置を実施します。

- PDP を追加し、Cisco Unified CM の管理ページにある [ コール ルーティング (Call Routing) ] メニューの各種設定ページで、追加のコール代行受信プロファイルとコール代行受信トリガー ポイントを使用して Unified CM をプロビジョニングすることを検討します。
- コール代行受信プロファイルごとにポリシー サーバのペアをプロビジョニングし、ロードバランシングをイネーブルにします。  
または
- 展開されている PDP サーバが、Cisco Enterprise Policy Manager (CEPM) または展開したサードパーティ製 PDP ソリューションで指定されているハードウェア要件を満たしているかそれを上回っていることを確認します。必要に応じて、この PDP に対する Cisco CallManager サービス パラメータ Call Intercept Routing Request Timer または Call Intercept Profile の値を増やします。

## BadCDRFileFound

CDR または CMR の不正なフラット ファイルが、CAR データベースへの CDR のロード中に見つかりました。このファイルは、破損している可能性があります。ただし、CAR ローダは、不正なレコードをスキップし、正常なレコードを CAR データベースにロードできます。このアラームを生成するサービスの名前は、CAR Loader (DailyCdrLoad) ジョブです。このジョブは、Cisco CAR Scheduler サービスに含まれます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	既存のパラメータが追加されました。
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CAR\_SCH-CAR

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CDR Rep

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

File Name (String)

First Bad Record Cause (String)

File Summary (String)

### 推奨処置

cdr\_repository フォルダから不正なファイルを探し、原因および概要から得られる情報に基づいて問題となるレコードを確認します。できるだけ早く、このファイル内で見つかった不正なレコードに関連付けられている SDI および SDL トレースを収集します。CAR Scheduler トレースを収集および確認して、詳細情報を取得します。

## BDIApplicationError

BDI ファシリティ / サブファシリティ エラーです。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

### 重大度

エラー (3)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

詳細については、アプリケーション ログを参照してください。

## BDIOverloaded

BDI ファシリティ / サブファシリティが過負荷になりました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

詳細については、アプリケーション ログを参照してください。

## CARSchedulerJobError

CAR でスケジュールされたジョブが失敗しました。事前生成済みの日単位、週単位、月単位、月単位課金のレポートジョブなど、CAR でスケジュールされた通常のジョブが失敗しました。特定の CAR スケジューラジョブが失敗し、正常に実行できません。このエラーにより、CAR 機能に大きな影響が生じることはありません。事前生成済みの CAR レポートの場合、このエラーのために特定のレポートが実行できなくなり、CAR レポートの消失につながります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	既存のパラメータが追加されました。
7.0(1)	エラーメッセージが追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CAR\_SCH-CAR

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CAR

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Job Name (String)

Job Failure Cause (String)

Job Failure Detail (String)

**推奨処置**

1. Cisco CAR Scheduler サービスのステータスを確認します。
2. CAR ページでイベント ログを確認します。
3. tbl\_system\_preferences テーブルの内容を確認します。
4. tbl\_billing\_data テーブル、tbl\_billing\_error テーブル、および tbl\_error\_id\_map テーブルのレコード数を確認します。
5. CAR ページで、スケジュールされたジョブ設定が正しいかどうかを確認します。
6. CAR Scheduler トレースを収集および確認して、詳細情報を取得します。

## CARSchedulerJobFailed

CDR Analysis and Reporting (CAR; CDR 分析とレポート) でスケジュールされた重要なジョブが失敗しました。このジョブは、PopulateSchedules、DailyCdrLoad、TaskMonitor、または DatabaseMaintenance です。特定の CAR スケジューラ ジョブが失敗し、正常に実行できませんでした。このエラーにより、CAR 機能に大きな影響が生じる可能性があります。

- PopulateSchedules ジョブが失敗した場合、CAR スケジューラは、ジョブがその日に実行されるようにスケジュール設定できません。このため、一部またはすべての CAR スケジューラ ジョブを開始できません。
- DailyCdrLoad ジョブが失敗した場合、CAR ロードは、CDR/CMR レコードを CDR/CMR フラットファイルから CAR データベースにロードできません。このため、実行中の CAR レポートでレコードが検出され、未処理の CDR/CMR フラットファイルが蓄積されます。
- TaskMonitor ジョブが失敗した場合、CAR スケジューラは、日々の DB IDS メモリ クリーンアップタスクを実行できません。このため、DB 共有メモリの使用率が高くなります。
- DatabaseMaintenance ジョブが失敗した場合、CAR スケジューラは、データベース最適化メンテナンスによる日々の統計更新プロシージャを実行できません。このため、CAR データベースは運用に合わせて最適化されなくなります。

このアラームを生成するサービスの名前は、CAR Scheduler サービスです。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	ルーティングリストが Data Collector から Alert Manager に変更され、既存のパラメータが追加されました。
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CAR

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CAR アラーム カタログ

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

アラート マネージャ

**パラメータ**

Job Name (String)

Job Failure Cause (String)

Job Failure Detail (String)

**推奨処置**

1. Cisco CAR DB サービスのステータスを確認します。
2. Cisco CAR Scheduler サービスのステータスを確認します。
3. CAR ページでイベント ログを確認します。
4. tbl\_system\_preferences テーブルの内容を確認します。
5. tbl\_billing\_data テーブル、tbl\_billing\_error テーブル、および tbl\_error\_id\_map テーブルのレコード数を確認します。
6. CAR ページで、スケジュールされたジョブ設定が正しいかどうかを確認します。
7. CAR Scheduler トレースを収集および確認して、詳細情報を取得します。

## CCDIPReachableTimeOut

CCD Requesting Service IP Reachable Duration タイムアウトが発生しました。

CCD 要求サービスは、IP を通じて学習したパターンに到達できなくなったことを検出しました。このフォワードから学習したすべてのパターンは、IP では到達不能と見なされ、IP が再度到達可能になるまで学習したパターンへのコールがルーティングされ続けるようにするために、学習したパターンへのすべてのコールは PSTN を通じてルーティングされます。PSTN フェールオーバーがタイムアウトするまでは、一定の期間 PSTN を通じてコールがルーティングされます。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**推奨処置**

IP 接続を確認し、ネットワークの TCP または IP の問題を解決します。

## CCDPSTNFailOverDurationTimeOut

PSTN フェールオーバーの内部的な期限が満了しました。

学習したパターンが IP を通じて到達不能である場合、Unified CM は代わりに PSTN を通じてコールをルーティングします。コールは、内部的に制御された期間の間 PSTN を通じてルーティングされます。このアラームが発生した場合、PSTN フェールオーバー期間が満了し、学習したパターンへのコールがルーティングできなくなります。学習したすべてのパターンは Unified CM からページされます。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**推奨処置**

ネットワークのトラブルシューティングを行い、IP 接続を復旧します。IP 接続が復旧した後、Unified CM は自動的にホステッド DN パターンを再学習し、学習したパターンへのコールが IP を通じてルーティングされます。

## CDRAgentSendFileFailed

タイムアウトまたはその他の原因のため、CDR Agent が CDR ファイルを CCM ノードから CCM クラスタ内の CDR Repository ノードに送信できません。電子メール アラートが管理者に送信されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	Data Collector ルーティング リスト要素は Alert Manager に変更されました。

ファシリティ / サブファシリティ  
CDRREP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
CallManager/CDR Rep

**重大度**  
エラー (3)

**ルーティング リスト**  
イベント ログ  
システム ログ  
Alert Manager

**パラメータ**  
CDRRepositoryNodeAddress [String]  
CDRAgentNodeAddress [String]

#### 推奨処置

1. ネットワーク リンク ステータスを確認します。
2. CDR Repository ノード (クラスタ内の最初のノード) が動作しているかどうかを確認します。
3. CDR Repository Manager が最初のノードでアクティブになっているかどうかを確認します。
4. Serviceability の [Tools] で CDRM 設定を確認します。
5. エラーが発生した特定のノードで、CDR Agent トレースを確認します。
6. CDR Repository Manager トレースを確認します。
7. パブリッシャがアップグレードされているかどうかを確認します。  
CDRAgentSendFileFailureContinues アラームが表示されなくなったら、状況が解決されたこととなります。

## CDRAgentSendFileFailureContinues

CDR Agent が、CDR ファイルを CCM ノードから CDR Repository ノードに再試行で送信できません。CDR Agent は、最初の送信失敗後の再試行で CDR ファイルを CCM ノードからクラスタ内の CDR Repository ノードに送信できません。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_CDR\_REP-CDRREP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
CallManager/CDR Rep

**重大度**  
エラー

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

データ コレクタ

**パラメータ**

CDRRepositoryNodeAddress [String]

CDRAgentNodeAddress [String]

**推奨処置**

1. ネットワーク リンク ステータスを確認します。
2. CDR Repository ノード（クラスタ内の最初のノード）が動作しているかどうかを確認します。
3. CDR Repository Manager が最初のノードでアクティブになっているかどうかを確認します。
4. Serviceability の [Tools] で CDRM 設定を確認します。
5. エラーが発生した特定のノードで、CDR Agent トレースを確認します。
6. CDR Repository Manager トレースを確認します。
7. パブリッシャがアップグレードされているかどうかを確認します。

## CDRFileDeliveryFailed

クラスタ外の課金サーバへの CDR ファイルの FTP 配信が、タイムアウトまたはその他の原因で失敗しました。電子メール アラートが管理者に送信されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	Data Collector ルーティング リスト要素は Alert Manager に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CDRManagement/CDRREP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CDR Rep

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

Alert Manager

**パラメータ**

BillingServerAddress [String]

**推奨処置**

1. ネットワーク リンク ステータスを確認します。
2. 課金サーバが動作しているかどうかを確認します。
3. 課金サーバ上の (s) FTP サーバが実行中で要求を受け入れているかどうかを確認します。
4. Serviceability の [Tools] で、CDRM 設定が正しいかどうかを確認します。
5. CDR Repository Manager トレースを確認します。

## CDRFileDeliveryFailureContinues

クラスタ外の課金サーバへの CDR ファイルの (s) FTP 配信が、最初の配信失敗後の再試行で失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CDR\_REP-CDRREP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CDR Rep

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

データ コレクタ

**パラメータ**

BillingServerAddress [String]

**推奨処置**

1. ネットワーク リンク ステータスを確認します。
2. 課金サーバが動作しているかどうかを確認します。
3. 課金サーバ上の (s) FTP サーバが実行中で要求を受け入れているかどうかを確認します。
4. Serviceability の [Tools] で、CDRM の設定が正しいことを確認します。
5. CDR Repository Manager トレースを確認します。

## CFBDeviceRecoveryCreateFailed

おそらくメモリ不足が原因で、CFB デバイスの開始に失敗しました。エラー コードがゼロでない場合、エラーの原因を特定するのに役立つことがあります。会議ブリッジ デバイスは使用できません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	ルーティング リスト要素とパラメータが追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

エラー (3)

### ルーティング リスト

SDI

イベント ログ

システム ログ

### パラメータ

OS Error Code (Int)

OS Error Description (String)

### 推奨処置

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。

## CiscoDhcpdFailure

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) デーモンの実行が停止されました。設定エラーまたはクラッシュが原因で、DHCP デーモンを起動できません。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

### 重大度

エラー (3)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

アプリケーション ログでエラーがないかどうかを確認し、設定を修正します。前の手順でエラーが見つからなかった場合、アプリケーションの再起動が必要になることもあります。

## CiscoDirSyncProcessFailedRetry

特定の同期アグリーメントで LDAPSync プロセスが失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

AgreementId [String] Reason [String]

**推奨処置**

同期プロセスは自動的に再試行されます。詳細については、アプリケーション ログを参照してください。

## CiscoDirSyncProcessFailedNoRetry

特定の同期アグリーメントで LDAPSync プロセスが失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

AgreementId [String] Reason [String]

**推奨処置**

詳細については、アプリケーション ログを参照してください。アプリケーションは、次の予定時刻に同期を再試行します。

## CiscoDirSyncProcessConnectionFailed

LDAPSync プロセスが、LDAP サーバに接続できませんでした。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

AgreementId [String] LDAPHost [String] Reason [String]

### 推奨処置

LDAP サーバがオンラインになっているかどうかを確認します。SSL を使用する場合、必要な証明書がローカルの CM サーバで使用できることを確認してください。アプリケーションは自動的に再試行されます。

## CiscoDirSyncDBAccessFailure

LDAPSync プロセスが、ローカル データベースにアクセスできませんでした。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

AgreementId [String] Reason [String]

### 推奨処置

ローカルの CallManager データベースが正常に機能しているかどうかを確認します。失敗した同期プロセスは、次の予定時刻に再開されます。

## CiscoLicenseManagerDown

License Manager のダウンにより、ライセンス プロビジョニングが失敗します。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

指定されたノードで License Manager サービスを再起動します。

## CiscoLicenseRequestFailed

ライセンス要求は、要求を処理することができないために失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

アプリケーション ログで、エラーがないかどうかを確認します。

## CiscoLicenseDataStoreError

要求を処理できないため、ライセンス データベース エラーが発生しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

アプリケーション ログで、エラーがないかどうかを確認します。

## CiscoLicenseInternalError

ライセンスの内部エラーです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

アプリケーション ログで、エラーがないかどうかを確認します。

## CiscoLicenseFileError

ライセンス ファイルが無効または改ざんされているため、ライセンス ファイル エラーが発生しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

アプリケーション ログを参照し、ライセンス ファイルが適切かどうかを確認します。

## CLM\_MsgIntChkError

ClusterMgr メッセージの整合性チェックでエラーが発生しました。ClusterMgr は、メッセージの整合性チェックに失敗したメッセージを受信しました。これは、クラスタ内の別のノードが誤ったセキュリティ パスワードで設定されていることを示す場合があります。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CLUSTERMANAGER/CLUSTERMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Cluster Manager

### 重大度

エラー (3)

### オペレーティング システム

アプライアンス

### パラメータ

Sender IP address (String)

### 推奨処置

予期された IP アドレスからメッセージが送信されたかどうかを確認します。そのノードのセキュリティ パスワードを確認します。

## CLM\_UnrecognizedHost

ClusterMgr がホストを認識できませんでした。ClusterMgr は、このクラスタ内でノードとして設定されていない IP アドレスからメッセージを受信しました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CLUSTERMANAGER/CLUSTERMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Cluster Manager

### 重大度

エラー (3)

### オペレーティング システム

アプライアンス

### パラメータ

Node IP address (String)

### 推奨処置

この IP アドレスがこのクラスタ内でサーバとして現在設定されているかどうかを確認します。

## ConfigItAllBuildFilesFailed

すべてのデバイス設定ファイルの完全な再構築が失敗しました。このアラームの可能性のある原因には、Unified Communications Manager データベースへのアクセスの失敗、または一部のデバイスの誤設定が考えられます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kConfigItAllBuildFilesFailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「情報」から「エラー」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

### 重大度

エラー

### 推奨処置

Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで、TFTP サービスと Cisco Database Layer Monitor サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にします。また、RTMT を使用して、アラームが発生した前後に生じた可能性のあるエラーを検索します。

## ConfigItAllReadConfigurationFailed

すべての設定ファイルの再構築中に、データベースからエンタープライズパラメータ値を取得できませんでした。この原因は通常、Cisco Unified Communications Manager データベースへのアクセスの失敗です。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kConfigItAllReadConfigurationFailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「情報」から「エラー」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

### 重大度

エラー

**推奨処置**

Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで、TFTP サービスと Cisco Database Layer Monitor サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にします。また、RTMT を使用して、アラームが発生した前後に生じた可能性のあるエラーを検索します。

## ConfigThreadBuildFileFailed

TFTP サービスの起動時にすべてのデバイス設定ファイルを構築できませんでした。この原因は通常、データベース アクセス障害です。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kConfigThreadBuildFileFailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「情報」から「エラー」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TFTP-TFTP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/TFTP

**重大度**

エラー

**推奨処置**

Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで、TFTP サービスと Cisco Database Layer Monitor サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にします。また、RTMT を使用して、アラームが発生した前後に生じた可能性のあるエラーを検索します。

## ConfigThreadCNCMGrpBuildFileFailed

Cisco Unified Communications Manager Group 設定が変更されたために、設定ファイルの再構築に失敗しました。この原因は通常、Cisco Unified Communications Manager データベースへのアクセスの失敗です。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kConfigThreadCNCMGrpBuildFileFailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「情報」から「エラー」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TFTP-TFTP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/TFTP

**重大度**

エラー

**推奨処置**

Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで、TFTP サービスと Cisco Database Layer Monitor サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にします。また、RTMT を使用して、アラームが発生した前後に生じた可能性のあるエラーを検索します。

**ConfigThreadCNGrpBuildFileFailed**

デバイス プール設定または共通のデバイス設定などのグループ レベル設定が変更されたために、設定ファイルの再構築に失敗しました。この原因は通常、Cisco Unified Communications Manager データベースへのアクセスの失敗です。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kConfigThreadCNGrpBuildFileFailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「情報」から「エラー」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TFTP-TFTP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/TFTP

**重大度**

エラー

**推奨処置**

Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで、TFTP サービスと Cisco Database Layer Monitor サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にします。また、RTMT を使用して、アラームが発生した前後に生じた可能性のあるエラーを検索します。

## ConfigThreadReadConfigurationFailed

TFTP サービスの起動時にデータベースからエンタープライズ パラメータ値を取得できませんでした。この原因は通常、データベース アクセス障害です。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kConfigThreadReadConfigurationFailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「情報」から「エラー」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

### 重大度

エラー

### 推奨処置

Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで、TFTP サービスと Cisco Database Layer Monitor サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にします。また、RTMT を使用して、アラームが発生した前後に生じた可能性のあるエラーを検索します。

## ConfigThreadUnknownExceptionCaught

メイン処理ルーチンで例外が検出されました。このアラームは、設定ファイルの構築時または TFTP サービスがシステムのエンタープライズ パラメータの値を取得しようとしたときにエラーが発生した場合に、他のアラームと一緒に送信されます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kConfigThreadUnknownExceptionCaught から名前が変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

### 重大度

エラー (3)

**推奨処置**

Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで、TFTP サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にします。また、RTMT を使用して、アラームが発生した前後に生じた可能性のあるエラーを検索します。

## ConflictingDataIE

着信 PRI/BRI Setup メッセージの Information Element (IE; 情報要素) が無効であるため、コールが拒否されました。

着信 PRI/BRI Setup メッセージの、Bearer Capability 情報要素 (IE) 中に無効な Coding Standard 値が含まれていたため、コールが拒否されました。Unified CM は、Coding Standard の値が 0 または 1 の PRI/BRI Setup メッセージだけを受け付けます。無効な IE を受信した場合、Unified CM はコールセットアップを拒否し、このアラームを発行します。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Device Name (String)

**推奨処置**

Setup メッセージの送信に対して責任を持つサービス プロバイダーに、Coding Standard の値が 0 または 1 の IE が Setup メッセージに含まれている必要があることを知らせます。

## ConnectionFailure

Cisco CallManager が、示されたデバイスの TLS 接続を開くことができませんでした。原因としては、「Device Security Mode」や「X.509 Subject Name」の設定が正しくないか、暗号化アルゴリズムがサポートされていないことが考えられます。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Device Name. [String] IP Address [String] Device type.[Optional] [Enum]Device description [Optional]. [String] Reason code [Enum]

**DeviceType の Enum 定義**

値	定義
1	CISCO_30SP+
2	CISCO_12SP+
3	CISCO_12SP
4	CISCO_12S
5	CISCO_30VIP
6	CISCO_7910
7	CISCO_7960
8	CISCO_7940
9	CISCO_7935
12	CISCO_ATA_186
20	SCCP_PHONE
61	H323_PHONE
72	CTI_PORT
115	CISCO_7941
119	CISCO_7971
131	SIP_TRUNK
255	UNKNOWN
302	CISCO_7989
307	CISCO_7911
308	CISCO_7941G_GE
309	CISCO_7961G_GE
335	MOTOROLA_CN622
336	BASIC_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
348	CISCO_7931
358	CISCO_UNIFIED_COMMUNICATOR
365	CISCO_7921
369	CISCO_7906
374	ADVANCED_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
375	CISCO_TELEPRESENCE
404	CISCO_7962
412	CISCO_3951
431	CISCO_7937

434	CISCO_7942
435	CISCO_7945
436	CISCO_7965
437	CISCO_7975
446	CISCO_3911
468	CISCO_UNIFIED_MOBILE_COMMUNICATOR
478	CISCO_TELEPRESENCE_1000
479	CISCO_TELEPRESENCE_3000
480	CISCO_TELEPRESENCE_3200
481	CISCO_TELEPRESENCE_500
484	CISCO_7925
493	CISCO_9971
495	CISCO_6921
496	CISCO_6941
497	CISCO_6961
20000	CISCO_7905
30002	CISCO_7920
30006	CISCO_7970
30007	CISCO_7912
30008	CISCO_7902
30016	CISCO_IP_COMMUNICATOR
30018	CISCO_7961
30019	CISCO_7936
30035	IP_STE

**Enum 原因**

コード	理由
1	AuthenticationError
2	InvalidX509NameInCertificate
4	InvalidTLSCipher

**推奨処置**

示されたデバイスのセキュリティ プロファイルを確認します。「Device Security Mode」が「Authenticated」または「Encrypted」になっていることを確認します。[X.509 の件名 (X.509 Subject Name) ] フィールドの内容が正しいことを確認します。これは、ピアから渡された証明書のサブジェクト名に一致する必要があります。Unified CM は、AES\_128\_SHA 暗号化アルゴリズムだけをサポートしています。正しいアルゴリズムを使用してピアに証明書を再生成させます。

## ConnectionFailureToPDP

Unified CM から Policy Decision Point (PDP; ポリシー デシジョン ポイント) への接続要求でエラーが発生しました。このエラーは、次の状態の結果である可能性があります。

- Unified CM と PDP の間の接続が制限または阻害される原因となるネットワーク エラー。
- Unified CM が PDP への HTTPS 接続を確立するときの認証エラー。
- PDP がイン サービスでない。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

エラー (3)

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

#### パラメータ

Policy Decision Point (String)

The cause of the connection failure (String)

#### 推奨処置

Cisco Unified OS の管理ページからポリシー サーバホストに ping を実行して、Unified CM と PDP の間の接続を確認し、接続が失われている場合は接続を確立するための手順を実行します。接続の失敗の原因が認証の問題にある場合は、PDP の有効な証明書が Cisco Unified OS の管理ページにインポートされていることと、Unified CM クラスタ内のすべてのノードの証明書が PDP のすべてのノードにインポートされていることを確認します。また、PDP サービスがアクティブかどうかを確認します。

## CNFFBuffWriteToFilefopenfailed

ディスクの設定ファイルの作成、またはディスクの既存の設定ファイルの更新に失敗しました。このアラームは、ディスクがいっぱいになっている場合、またはファイルが使用中の場合に発生する可能性があります。

#### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kCNFFBuffWriteToFilefopenfailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「情報」から「エラー」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TFTP-TFTP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/TFTP

**重大度**

エラー

**パラメータ**

FileName [String]

**推奨処置**

RTMT を使用して、ディスクの使用率を確認し、見つかった問題を修正します。ディスク領域の問題が見つからなかった場合、Cisco Unified Serviceability で ([Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に移動して)、TFTP サービスの再起動を試行します。TFTP サービスが保存しようとしている設定ファイルが、使用中の既存のファイルである可能性があるため、TFTP サービスを停止して再起動することは有効です。それでもこのエラーが表示される場合、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Trace Configuration] ウィンドウで TFTP サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にして、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) までお問い合わせください。

## CNFFBuffWriteToFilewritefailed

ディスクに設定ファイルを保存できませんでした。このアラームは、ディスクがいっぱいになっている場合、またはファイルが使用中の場合に発生する可能性があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kCNFFBuffWriteToFilewritefailed から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「情報」から「エラー」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TFTP-TFTP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/TFTP

**重大度**

エラー

**パラメータ**

FileName [String]

**推奨処置**

RTMT を使用して、ディスクの使用率を確認し、見つかった問題を修正します。ディスク領域の問題が見つからなかった場合、Cisco Unified Serviceability で ([Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に移動して)、TFTP サービスの再起動を試行します。TFTP サービスが保存しようとしている設定ファイルが、使用中の既存のファイルである可能性があるため、TFTP サービスを停止して再起動することは有効です。それでもこのエラーが表示される場合、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Trace Configuration] ウィンドウで TFTP サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にして、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) までお問い合わせください。

## CtiProviderOpenFailure

CTI アプリケーションはプロバイダーをオープンできません。IP アドレスは、アプリケーションの IP アドレッシング モードに応じて、IPv4 または IPv6 のいずれかの形式で表示されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiProviderOpenFailure から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

**パラメータ**

Login User Id (String)

Reason code (Enum)

IPAddress (String)

IPV6Address (String)

## Enum 定義 : 原因コード

値	定義
0	不明
0x8CCC0075 (2362179701)	ユーザを認証するためのログイン要求がタイムアウトしました。原因としては、LDAP サーバの照会の設定ミスなどの LDAP サーバの設定ミスや、Unified CM の CPU 使用率が高いことが考えられます。推奨される処置は、CPU 使用率が Unified CM にとって安全な範囲にあることを確認することです (これは、RTMT の CPU Pegging Alert を使ってモニタできます)。
0x8CCC0060 (2362179680)	ディレクトリ ログインに失敗しました。クレデンシャルが誤って設定されていないことを確認し、アプリケーションで設定されているユーザ ID とパスワードが、Unified CM の管理ページで設定されている内容 ([ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] または [アプリケーションユーザ (Application User)]) に一致していることを確認します。
0x8CCC005E (2362179678)	ディレクトリが使用できません。LDAP サーバが Unified CM ノードから到達可能であることを確認し、Cisco Unified OS の管理ページから LDAP サーバ ホストに ping を実行することで、Unified CM と LDAP サーバの間のネットワーク接続を確認します。接続が失われている場合は、接続を確立するための手順を実行します。
0x8CCC00D1 (2362179793)	アプリケーションは、セキュアでないポートに接続しようとしていますが、アプリケーションに関連付けられているユーザに対してセキュリティ特権がイネーブルになっています。Unified CM の管理ページの [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] または [アプリケーションユーザ (Application User)] でユーザのユーザグループ設定を確認します。ユーザを選択して、関連付けられている権限情報を確認します。
0x8CCC005F (2362179679)	標準 CTI 使用権限がイネーブルになっていません。アプリケーションに関連付けられているユーザは、「Standard CTI Enabled」ユーザグループに属している必要があります。Unified CM の管理ページの [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] または [アプリケーションユーザ (Application User)] でユーザのユーザグループ設定を確認します。ユーザを選択して、関連付けられている権限情報をチェックします。
0x8CCC00D0 (2362179792)	ユーザに対してセキュアな接続がイネーブルになっていませんが、アプリケーションがセキュアなポートに接続しようとしています。アプリケーションの設定とユーザのセキュリティ設定を検討し、TAPI アプリケーションの場合は、[コントロールパネル (Control Panel)] > [電話とモデムのオプション (Phone and Modem Options)] > [詳細設定 (Advanced)] で、[CiscoTSP] > [構成... (Configure...)] > [セキュリティ (Security)] の順に選択し、[CTIManager へのセキュア接続 (Secure Connection to CTIManager)] をディセーブルにします。JTAPI アプリケーションの場合は、[JTPrefs] で [セキュリティ (Security)] を選択し、[セキュア接続を有効にする (Enable Secure Connection)] をディセーブルにします。また、Unified CM の管理ページの [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] または [アプリケーションユーザ (Application User)] でユーザのユーザグループ設定を確認します。ユーザを選択して、関連付けられている権限情報を確認します。

**推奨処置**

原因コードと、原因コード内の推奨処置を確認します。

## DBLGetVersionInfoError

Database Layer (DBL; データベース レイヤ) GetVersionInfo 関数が NULL を返しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

エラー (3)

**推奨処置**

なし

## DeviceTypeMismatch

デバイスの TFTP 設定ファイルに格納されている情報と、そのデバイスのデータベースに設定されている情報の間で、デバイス タイプが一致しません。

デバイスの設定ファイルで示されているデバイス タイプがデータベースの設定に一致しません。これは、データベースの設定が変更され、デバイス自身が更新されていないことを示している可能性があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	次の情報が更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DBDeviceType の Enum 定義</li> <li>DeviceType の Enum 定義</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**パラメータ**

Database device type [Enum]Device type. [Enum]Name of device. [String]

## DBDeviceType の Enum 定義

コード	デバイス タイプ
1	CISCO_30SP+
2	CISCO_12SP+
3	CISCO_12SP
4	CISCO_12S
5	CISCO_30VIP
6	CISCO_7910
7	CISCO_7960
8	CISCO_7940
9	CISCO_7935
12	CISCO_ATA_186
20	SCCP_PHONE
61	H323_PHONE
72	CTI_PORT
115	CISCO_7941
119	CISCO_7971
255	UNKNOWN
302	CISCO_7989
307	CISCO_7911
308	CISCO_7941G_GE
309	CISCO_7961G_GE
335	MOTOROLA_CN622
336	BASIC_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
348	CISCO_7931
358	CISCO_UNIFIED_COMMUNICATOR
365	CISCO_7921
369	CISCO_7906
374	ADVANCED_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
375	CISCO_TELEPRESENCE
404	CISCO_7962
412	CISCO_3951
431	CISCO_7937
434	CISCO_7942
435	CISCO_7945
436	CISCO_7965
437	CISCO_7975
446	CISCO_3911
468	CISCO_UNIFIED_MOBILE_COMMUNICATOR
478	CISCO_TELEPRESENCE_1000

479	CISCO_TELEPRESENCE_3000
480	CISCO_TELEPRESENCE_3200
481	CISCO_TELEPRESENCE_500
484	CISCO_7925
493	CISCO_9971
495	CISCO_6921
496	CISCO_6941
497	CISCO_6961
20000	CISCO_7905
30002	CISCO_7920
30006	CISCO_7970
30007	CISCO_7912
30008	CISCO_7902
30016	CISCO_IP_COMMUNICATOR
30018	CISCO_7961
30019	CISCO_7936
30035	IP_STE

#### DeviceType の Enum 定義

コード	デバイス タイプ
1	CISCO_30SP+
2	CISCO_12SP+
3	CISCO_12SP
4	CISCO_12S
5	CISCO_30VIP
6	CISCO_7910
7	CISCO_7960
8	CISCO_7940
9	CISCO_7935
12	CISCO_ATA_186
20	SCCP_PHONE
61	H323_PHONE
72	CTI_PORT
115	CISCO_7941
119	CISCO_7971
255	UNKNOWN
302	CISCO_7989
307	CISCO_7911
308	CISCO_7941G_GE
309	CISCO_7961G_GE

335	MOTOROLA_CN622
336	BASIC_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
348	CISCO_7931
358	CISCO_UNIFIED_COMMUNICATOR
365	CISCO_7921
369	CISCO_7906
374	ADVANCED_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
375	CISCO_TELEPRESENCE
404	CISCO_7962
412	CISCO_3951
431	CISCO_7937
434	CISCO_7942
435	CISCO_7945
436	CISCO_7965
437	CISCO_7975
446	CISCO_3911
468	CISCO_UNIFIED_MOBILE_COMMUNICATOR
478	CISCO_TELEPRESENCE_1000
479	CISCO_TELEPRESENCE_3000
480	CISCO_TELEPRESENCE_3200
481	CISCO_TELEPRESENCE_500
484	CISCO_7925
493	CISCO_9971
495	CISCO_6921
496	CISCO_6941
497	CISCO_6961
20000	CISCO_7905
30002	CISCO_7920
30006	CISCO_7970
30007	CISCO_7912
30008	CISCO_7902
30016	CISCO_IP_COMMUNICATOR
30018	CISCO_7961
30019	CISCO_7936
30035	IP_STE

**推奨処置**

Cisco Unified Reporting で Unified CM Database Status レポートを確認し、データベースの複製が機能していることを確認します。また、リアルタイム モニタリング ツール (RTMT) の [Database Summary] ページで [Replication Status] を確認することもできます。ステータスに 2 が表示されていれば、複製は機能しています。電話機を再起動して TFTP から新しい設定ファイルをダウンロードします。また、その他の推奨処置について原因コードの定義も参照してください。

## DbInfoCorrupt

返されたデータベース情報が破損しています。データベース設定エラーが発生しました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Name of Device (String)

**推奨処置**

アラームで示されるデバイスの設定を調査します。

## DbInfoError

取得したデータベース情報にエラーがあります。データベース設定エラーが発生しました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Name of Device (String)

**推奨処置**

特定されたデバイスの設定を調査します。

## DbInfoTimeout

データベース情報要求がタイムアウトしました。データベース設定の読み取り中にタイムアウトが発生しました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Name of Device (String)

**推奨処置**

特定されたデバイスの設定を調査します。

## DeviceCloseMaxEventsExceeded

5 秒間の間に大量のイベントが発生したため、SCCP デバイスの TCP ソケットが閉じました。通常の状態下では、デバイスは自動的に再登録します。

アラームが示す SCCP デバイスは、SCCP デバイスあたりに許可されている最大イベント数を超えました。イベントには、通話のコール、KeepAlive メッセージ、過剰な SCCP または非 SCCP メッセージがあります。許可される最大イベント数は、Cisco CallManager サービス パラメータ Max Events Allowed で制御されます。個々のデバイスがこのサービス パラメータで設定されている数値を超えると、Unified CM によってそのデバイスへの TCP 接続が閉じられ、その後一般に再登録が自動的に実行されます。この動作は、Unified CM への悪意のある攻撃を防いだり、CPU 使用率が高くなりすぎるのを避けることを目的としています。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**Total Events Received [UInt] IP Address [String] TCP Handle [String] Max Events Allowed [UInt]  
Number Of Skinny Device Throttled [UInt]**推奨処置**

指定の SCCP デバイスの CCM トレース データを確認し、イベント数が非常に多くなっている原因を特定します。Cisco CallManager サービス パラメータ Max Events Allowed で設定されている値が、展開環境に適した数値になっていることを確認します。

## DeviceInitTimeout

デバイス初期化タイムアウトが発生しました。このアラームは、通常の動作状態では発生せず、デバイスが初期化要求に応答しなかった場合にだけ発生します。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Device Name [String] Protocol [String] Side Number [UInt]

**推奨処置**

特定されたデバイスを調査します。

## DirSyncSchedulerFailedToUpdateNextExecTime

スケジューラは、次の実行時に更新に失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Message [String]

**推奨処置**

DirSync 設定およびログを確認します。

## DirSyncScheduledTaskFailed

ディレクトリ同期タスクが失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

SchedulerID [String] ErrorMessage [String]

**推奨処置**

DirSync 設定およびログを確認します。

## DirSyncSchedulerFailedToGetDBSchedules

DB からディレクトリ同期スケジュールを取得できませんでした。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Message [String]

**推奨処置**

DirSync 設定およびログを確認します。

## DirSyncSchedulerInvalidEventReceived

DirSync スケジューラが、データベースから無効なイベントを受信しました。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/Java アプリケーション

**重大度**  
エラー (3)

**パラメータ**  
Action [String] Message [String]

**推奨処置**  
DirSync 設定およびログを確認します。

## DirSyncInvalidScheduleFound

DirSync スケジューラが、データベースから無効なスケジュールを読み取りました。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/Java アプリケーション

**重大度**  
エラー (3)

**パラメータ**  
ScheduleID [String]

**推奨処置**  
DirSync 設定およびログを確認します。

## DirSyncSchedulerFailedToRegisterDBEvents

DirSync スケジューラが、DB 通知を登録できませんでした。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/Java アプリケーション

**重大度**  
エラー (3)

**パラメータ**

ScheduleTable [String]

**推奨処置**

DirSync 設定およびログを確認します。

## DirSyncSchedulerEngineFailedToStart

DirSync スケジューラ エンジンの開始に失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

ScheduleTable [String]

**推奨処置**

DirSync 設定およびログを確認します。

## DirSyncScheduleDeletionFailed

DirSync スケジュールの削除要求が失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

ScheduleID [String]

**推奨処置**

DirSync 設定およびログを確認します。

## DirSyncScheduleUpdateFailed

DirSync スケジュールの更新要求が失敗しました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

ScheduleID [String]

### 推奨処置

DirSync 設定およびログを確認します。

## DRFMasterAgentStartFailure

ポート 4040 をオープンできなかったため、DRF Master Agent を開始できませんでした。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFMasterAgentStartFailure から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。 説明文と推奨処置が変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DRF

### 重大度

エラー

### ルーティング リスト

イベント ログ

システム ログ

### パラメータ

Reason [String]

**推奨処置**

ポート 4040 がすでに使用されていないことを確認します。

## DRFLocalAgentStartFailure

DRF Local Agent は、ポート 4040 で Master Agent に接続できなかったため、開始できませんでした。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFLocalAgentStartFailure から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。 説明文と推奨処置が変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

CiscoDRFMaster サービスと CiscoDRFLocal サービスが動作しているかどうかを確認します。

## DRFRestoreFailure

DRF Restore プロセスでエラーが発生しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFRestoreFailure から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。 説明文と推奨処置が変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

詳細については、DRF ログを確認してください。

## DRFInternalProcessFailure

DRF 内部プロセスで問題が発生しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFInternalProcessFailure から名前が変更されました。 ルーティング リストが追加され、推奨処置が変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

詳細については、DRF ログを確認してください。

## DRFTruststoreMissing

DRF は、MA と LA サービスの間の通信のセキュリティを高めるために、ipsec トラストストア証明書を使用します。この証明書がノードになく、DRF LA は MA に接続できません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFTruststoreMissing から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。
7.0(1)	エラー メッセージが削除されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

パブリッシャから ipsec.pem ファイルをダウンロードし、見つからないノードに ipsec トラストだけとしてファイルをアップロードして、Cisco DRF Local サービスを再起動します。

## DRFUnknownClient

パブリッシャで動作する DRF Master Agent が、クラスタ外の不明なサーバからクライアント接続要求を受信しました。この要求は拒否されました

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFUnknownClient から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。
7.0(1)	エラー メッセージが削除されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DRF

### 重大度

エラー (3)

### ルーティング リスト

イベント ログ

システム ログ

### パラメータ

Reason (String)

### 推奨処置

未確認のサーバをネットワークから削除します。未確認のサーバのホスト名および IP アドレスについては、Reason セクションを参照してください。

## DRFSecurityViolation

DRF システムにより、セキュリティ違反の原因となる可能性がある悪質なパターンが検出されました。DRF ネットワーク メッセージには、コード インジェクションやディレクトリ トラバーサルなどのセキュリティ違反の原因となる可能性がある悪質なパターンが含まれています。DRF ネットワーク メッセージはブロックされました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFSecurityViolation から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

Cisco DRF Master Agent サービスおよび Cisco DRF Local Agent サービスを停止します。

## DRFBackupDeviceError

バックアップ デバイス エラーが原因で、DRF バックアップ プロセスが失敗しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFBackupDeviceError から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

適切なデバイスが DRF 設定で指定されているかどうかを確認します。

## DRFTapeDeviceError

DRF はテープ デバイスにアクセスできません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFTapeDeviceError から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

テープ ドライブが正常に動作しているかどうか、テープ ドライブに有効なテープが挿入されているかどうかを確認します。

## DRFRestoreInternalError

DRF 復元オペレーションでエラーが発生しました。復元は内部的にキャンセルされました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFRestoreInternalError から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

詳細については、DRF ログを確認してください。

## DRFMABackupComponentFailure

エラーが原因で、DRF は少なくとも 1 つのコンポーネントをバックアップできませんでした。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFMABackupComponentFailure から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

コンポーネントのバックアップ ログを確認し、必要に応じてサポートに連絡します。

## DRFMARestoreComponentFailure

エラーが原因で、DRF は少なくとも 1 つのコンポーネントを復元できませんでした。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFMARestoreComponentFailure から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

コンポーネントの復元ログを確認し、必要に応じてサポートに連絡します。

## DRFMABackupNodeDisconnect

DRF Master Agent は CCM クラスタでバックアップ オペレーションを実行中でしたが、バックアップ オペレーションが完了する前にいずれかのノードが切断されました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFMABackupNodeDisconnect から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

バックアップ中に切断されたコンピュータを確認します。コンピュータが誤ってシャットダウンされた場合は、バックアップを再開します。

## DRFNoRegisteredComponent

使用可能な登録済みコンポーネントがないため、バックアップが失敗しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFNoRegisteredComponent から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

バックアップの試行前に少なくとも 1 つのコンポーネントが登録されていることを確認します。

## DRFNoRegisteredFeature

バックアップの機能が選択されていません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFNoRegisteredFeature から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

バックアップの試行前に少なくとも 1 つの機能が設定されていることを確認します。

## DRFMARestoreNodeDisconnect

復元が完了する前に、復元中のノードが Master Agent から切断されました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFMARestoreNodeDisconnect から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

復元中に切断されたコンピュータを確認します。コンピュータが誤ってシャットダウンされた場合は、復元を再開します。

**DRFSftpFailure**

DRF (s) FTP オペレーションが失敗しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFSftpFailure から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

宛先サーバが使用可能で適切な権限を持っており、(s) FTP デーモンが実行されていることを確認します。

## DRFRegistrationFailure

内部エラーが原因で、DRF 登録オペレーションが失敗しました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFRegistrationFailure から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DRF

### 重大度

エラー (3)

### ルーティング リスト

イベント ログ

システム ログ

### パラメータ

Reason (String)

### 推奨処置

DRF ログを確認し、必要に応じてサポートに連絡します。

## DRFBackupCancelInternalError

DRF バックアップ オペレーションでエラーが発生しました。バックアップは内部的にキャンセルされました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFBackupCancelInternalError から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

詳細については、DRF ログを確認してください。

## DRFLogDirAccessFailure

DRF は、ログ ディレクトリにアクセスできませんでした。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFLogDirAccessFailure から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

DRF ユーザの DRF Log and Trace ディレクトリに必要な権限および十分な空き領域があることを確認します。

## DRFFailure

エラーが発生したため、DRF バックアップまたは復元プロセスが失敗しました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFFailure から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素 Data Collector が Alert Manager に変更され、システム ログが追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ System/DRF

### 重大度

エラー (3)

### ルーティング リスト

イベント ログ

Alert Manager

システム ログ

### パラメータ

Reason (String)

### 推奨処置

詳細については、DRF ログを確認してください。

## DRFLocalDeviceError

DRF はローカル デバイスにアクセスできません。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ System/DRF

### 重大度

エラー

### ルーティング リスト

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

ローカルな場所が存在しアクセスできるかどうかを確認します。

## DuplicateLearnedPattern

このアラームは、重複するホステッド DN を CCD 要求サービスが受信した場合に発生します。

Call Control Discovery (CCD; コール制御ディスカバリ) 要求サービスは、Unified CM Express や別の Unified CM クラスターなど、複数のコール制御エンティティから同じホステッド DN を受信しました。Cisco CallManager サービス パラメータ Issue Alarm for Duplicate Learned Patterns は、このアラームを発行するかどうかを制御します。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Client Handle (String)

Service ID (UInt)

Sub Service ID (UInt)

InstanceID1 (UInt)

InstanceID2 (UInt)

InstanceID3 (UInt)

InstanceID4 (UInt)

**推奨処置**

RTMT で、Pattern Report を確認し ([CallManager] > [Report] > [Learned Pattern]) の順に選択します)、このアラームが示す重複パターンを探します。学習したパターンは固有であることが必要です。重複するパターンをなくすために、どのコール制御エンティティ (Unified CM や Unified CM Express など) を変更する必要があるかを判断します。ホステッド DN パターンを更新する方法については、コール制御エンティティのコンフィギュレーションガイド (ヘルプ テキスト) を参照してください。Unified CM でホステッド DN パターンを変更するには、Cisco Unified CM の管理ページで、ホステッド DN パターンの設定を更新します ([ コール ルーティング (Call Routing) ] > [ コール制御ディスカバリ (Call Control Discovery) ] > [ ホステッド DN パターン (Hosted DN Patterns) ])。

## EMAppInitializationFailed

EM アプリケーションが起動していません。アプリケーションの起動中にエラーが発生しました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/EMAlarmCatalog

#### 重大度

エラー

#### ルーティング リスト

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

#### パラメータ

Servlet Name (String)

#### 推奨処置

アプリケーション ログで、エラーがないかどうかを確認します。ログはデフォルトで /var/log/active/tomcat/logs/em/log4j/ に格納されます。

## EMCCFailedInLocalCluster

次のいずれかの状態が原因で、EMCC ログインに失敗しました。

- デバイスに EMCC との互換性がない。
- リモート クラスタ情報を取得できない。
- EMCC はローカル クラスタによって制限されている。
- 接続の確立を試みているときに、リモート エンドから信頼できない証明書を受信した。

原因コード

- 31 : ユーザが EMCC でイネーブルになっていません。
- 211/38 : EMCC または PSTN が InterClusterServiceProfile ページでアクティブ化されていません。
- 23 : ユーザがエンド ユーザ テーブルに存在しません。
- 35 : ホーム クラスタのリモート クラスタ エントリが存在しません。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/EMAlarmCatalog

#### 重大度

エラー (3)

#### ルーティング リスト

システム ログ

イベント ログ

Alert Manager

### パラメータ

Device Name (String)

Login Date/Time (String)

Login UserID (String)

Reason (String)

### 推奨処置

次の作業を行います。

- 
- ステップ 1** デバイス モデルが EMCC をサポートしているかどうかを確認します。
  - ステップ 2** リモート クラスタの管理ウィンドウ (Unified CM の管理ウィンドウで、[ システム (System) ] -> [EMCC] -> [ リモート クラスタ (Remote Cluster) ] の順に選択) で、EMCC 用に追加されたすべてのリモート クラスタの EM 用ホスト名/IP アドレスが正しく、PSTN アクセスが可能であることを確認します。
  - ステップ 3** エントリがイネーブルになっていることを確認します。
  - ステップ 4** すべての Tomcat 証明書のバンドル (PKCS12) がローカルの tomcat-trust キーストアにインポートされていることを確認します (OS の管理ウィンドウで、[ セキュリティ (Security) ] -> [ 証明書の管理 (Certificate Management) ] の順に移動し、tomcat-trust 内の証明書を確認します)。
- 

## EMServiceConnectionError

EM サービスが到達できません。クラスタの 1 台以上のノードで EM サービスが停止している可能性があります。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/EMAlarmCatalog

#### 重大度

エラー

#### ルーティング リスト

システム ログ

イベント ログ

#### パラメータ

Servlet Name (String)

#### 推奨処置

Cisco エクステンション モビリティ サービスが、クラスタ内のこのサービスがアクティブ化されているすべてのノードで動作していることを確認します。

## EndPointTransientConnection

エンドポイントの一時的な接続が試行されました。

接続が確立されましたが、登録が完了する前にすぐに切断されました。登録が不完全な場合、登録中にデバイスがリホームしている可能性があります。また、このアラームは、デバイスの誤設定、データベースエラー、または不正あるいは不明なデバイスが接続を試行していることを示す場合があります。ネットワーク接続の問題は、デバイスの登録に影響を与える可能性があります。また、プライマリ Unified CM を復元することで登録が中断される可能性があります。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

エラー

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

Data Collector

SNMP トラップ

代替 syslog

#### パラメータ

Device IP address (String)

Device name (String)

Device MAC address (String)

Protocol (String)

Device type (Enum)

Reason Code (Enum)

Connecting Port (UInt)

Registering SIP User (String)

IPv6Address (String)

IPAddressAttributes (Enum)

IPv6AddressAttributes (Enum)

#### Enum 定義 : デバイス タイプ

値	定義
1	CISCO_30SP+
2	CISCO_12SP+
3	CISCO_12SP
4	CISCO_12S

## ■ エラーレベルのアラーム

5	CISCO_30VIP
6	CISCO_7910
7	CISCO_7960
8	CISCO_7940
9	CISCO_7935
12	CISCO_ATA_186
20	SCCP_PHONE
61	H323_PHONE
72	CTI_PORT
115	CISCO_7941
119	CISCO_7971
255	UNKNOWN
302	CISCO_7989
307	CISCO_7911
308	CISCO_7941G_GE
309	CISCO_7961G_GE
335	MOTOROLA_CN622
336	BASIC_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
348	CISCO_7931
358	CISCO_UNIFIED_COMMUNICATOR
365	CISCO_7921
369	CISCO_7906
374	ADVANCED_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
375	CISCO_TELEPRESENCE
404	CISCO_7962
412	CISCO_3951
431	CISCO_7937
434	CISCO_7942
435	CISCO_7945
436	CISCO_7965
437	CISCO_7975
446	CISCO_3911
468	CISCO_UNIFIED_MOBILE_COMMUNICATOR
478	CISCO_TELEPRESENCE_1000
479	CISCO_TELEPRESENCE_3000
480	CISCO_TELEPRESENCE_3200
481	CISCO_TELEPRESENCE_500
484	CISCO_7925
493	CISCO_9971
495	CISCO_6921

496	CISCO_6941
497	CISCO_6961
20000	CISCO_7905
30002	CISCO_7920
30006	CISCO_7970
30007	CISCO_7912
30008	CISCO_7902
30016	CISCO_IP_COMMUNICATOR
30018	CISCO_7961
30019	CISCO_7936
30035	IP_STE

## Enum 定義 : 原因コード

値	定義
1	Unknown : (SCCP のみ) デバイスは不明な理由で登録に失敗しました。このアラームが解消されない場合は、[Enable SCCP Keep Alive Trace] を有効にして SDL/SDI トレースを収集し、TAC にお問い合わせください。
2	NoEntryInDatabase : (MGCP のみ) デバイスが Cisco Unified CM データベース内に設定されておらず、自動登録がそのデバイス タイプに対してサポートされていないか、イネーブルになっていません。この問題を解決するには、Cisco Unified CM の管理ページでこのデバイスを設定します。
3	DatabaseConfigurationError : デバイスが Cisco Unified CM データベース内に設定されておらず、自動登録がそのデバイス タイプに対してサポートされていないか、イネーブルになっていません。この問題を解決するには、Cisco Unified CM の管理ページでこのデバイスを設定します。
4	DeviceNameUnresolveable : SIP サードパーティ デバイスの場合、この原因コードは、Cisco Unified CM が REGISTER メッセージの Authorization ヘッダーからデバイスの名前を特定できなかったことを意味します。Cisco Unified CM が 401 Unauthorized メッセージで確認を要求した後、デバイスは Authorization ヘッダーを提供しませんでした。ダイジェスト信用証明書を使用してデバイスが設定されていることと、401 チャレンジに Authorization ヘッダーで応答できることを確認します。この電話機がシスコの IP 電話である場合、設定が同期していない可能性があります。まず Cisco Unified Reporting Web ページを開き、Unified CM Database Status レポートを生成し、「すべてのサーバの複製ステータスが正しいこと」を確認します。DB の複製が正しいと思われる場合は、電話機をリセットします。それでも問題が解決しない場合は、TFTP および Cisco CallManager サービスを再起動します。その他すべてのデバイスで、この原因コードは DNS 検索に失敗したことを意味します。OS の管理の CLI で設定した DNS サーバが正しいことと、デバイスが使用している DNS 名が DNS サーバに設定されていることを確認します。
5	maxDevRegExceeded : デバイスの登録が最大数に達しました。

6	ConnectivityError : デバイスが完全に登録される前に、デバイスと Cisco Unified CM の間の接続がドロップしました。考えられる原因としては、デバイスの停電、ネットワークの停電、ネットワークの設定エラー、ネットワーク遅延、パケットドロップ、パケット破損が挙げられます。また、Cisco Unified CM ノードの CPU 使用率が高い場合にもこのエラーが発生する可能性があります。デバイスの電源がオンになっていて稼働していることを確認し、デバイスと Cisco Unified CM の間のネットワーク接続を確認し、CPU 使用率が安全な範囲にあることを確認します (これは、RTMT を使用し、CPU Pegging Alert を通じてモニタできます)。
7	InitializationError : デバイス登録の処理中に Cisco Unified CM 内で内部エラーが発生しました。Cisco CallManager サービスを再起動することを推奨します。このアラームが繰り返し発生する場合は、Cisco CallManager サービスで [Enable SIP Keep Alive (REGISTER Refresh) Trace] と [Enable SCCP Keep Alive Trace] をオンにして SDL/SDI 詳細トレースを収集し、TAC にお問い合わせください。
8	DeviceInitiatedReset : デバイスがリセットを開始したことがエラーの原因です。
9	CallManagerReset : Call Manager がリセットされたことがエラーの原因です。
10	AuthenticationError : デバイスが TLS または SIP のダイジェストセキュリティ認証に失敗しました。デバイスが SIP 電話機で、ダイジェスト認証がイネーブされている場合は ([システム (System)] > [セキュリティプロファイル (Security Profile)] > [電話セキュリティプロファイル (Phone Security Profile)] で、[ダイジェスト認証を有効化 (Enable Digest Authentication)] チェックボックスがオンになっていることを確認)、[エンドユーザ (End User)] 設定ページの [ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)] を確認します。また、電話機の設定ページで、電話機が [ダイジェストユーザ (Digest User)] ドロップボックスで指定したエンドユーザに関連付けられていることを確認します。デバイスがサードパーティ製の SIP 電話機である場合、電話機に設定されているダイジェスト信用証明書が [エンドユーザ (End User)] ページで設定されている [ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)] と一致していることを確認します。
11	InvalidX509NameInCertificate : 設定されている「X.509 サブジェクト名」が、デバイスから渡された証明書のものに一致しません。アラームが示すデバイスのセキュリティプロファイルで、「Device Security Mode」が「Authenticated」または「Encrypted」になっていることを確認します。[X.509 の件名 (X.509 Subject Name)] フィールドの内容が正しいことを確認します。これは、ピアから渡された証明書のサブジェクト名に一致する必要があります。
12	InvalidTLSCipher : サポートされていない暗号化アルゴリズムがデバイスによって使用されています。Cisco Unified CM では、AES_128_SHA 暗号化アルゴリズムだけがサポートされています。推奨される処置は、デバイスで AES_128_SHA 暗号化アルゴリズムを使用して証明書を再生成することです。
13	DirectoryNumberMismatch : SIP デバイスの登録に使用されているディレクトリ番号が、Cisco Unified CM で設定されている SIP デバイスのディレクトリ番号と一致しません。
14	MalformedRegisterMsg : (SIP のみ) 形式が不正なため SIP REGISTER メッセージを処理できませんでした。原因としては、Call-ID ヘッダーの欠落、To ヘッダー内の AoR の欠落、有効期限の値が小さすぎるものが考えられます。REGISTER メッセージにこれらの問題がないことを確認します。

15	<p><b>ProtocolMismatch</b> : デバイスのプロトコル (SIP または SCCP) が、Cisco Unified CM で設定されているプロトコルに一致しません。</p> <p><b>推奨措置 :</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デバイスで目的のプロトコルが設定されていることを確認します。</li> <li>2. [デバイスのデフォルト] ページのファームウェア ロード ID が正しく、TFTP サーバに実際に存在することを確認します。</li> <li>3. デバイス ページでファームウェア ロード ID が設定されている場合、それが正しく、TFTP サーバに存在することを確認します ([Cisco Unified OS の管理] ページで、[ソフトウェア アップグレード] &gt; [TFTP ファイルの管理] の順に選択し、ロード ID で指定されるファイル名を探します)。</li> <li>4. TFTP と Cisco CallManager サービスを再起動します。Cisco Unified OS の管理の [TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management)] ページを使用し、設定されているファームウェア ロードが存在することを確認します。</li> </ol>
16	<p><b>DeviceNotActive</b> : デバイスがアクティブ化されていません。</p>
17	<p><b>AuthenticatedDeviceAlreadyExists</b> : 同じ名前のデバイスがすでに存在します。このアラームが繰り返し発生する場合は、Cisco CallManager サービスで [Enable SIP Keep Alive (REGISTER Refresh) Trace] と [Enable SCCP Keep Alive Trace] をオンにして SDL/SDI 詳細トレースを収集し、TAC にお問い合わせください。不正なデバイスが登録を試みた可能性があります。</p>
18	<p><b>ObsoleteProtocolVersion</b> : (SCCP のみ) SCCP デバイスが古いプロトコルバージョンで登録されています。電話機の電源を再投入します。TFTP サービスがアクティブ化されていることを確認します。デバイスから TFTP サーバに到達可能であることを確認します。電話の設定ページでファームウェア ロード ID が設定されている場合は、TFTP サーバにファームウェア ロード ID が存在することを確認します (Cisco Unified OS の管理ページで、[ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] &gt; [TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management)] の順に選択し、ロード ID で指定されるファイル名を探します)。</p>
23	<p><b>DatabaseTimeout</b> : Cisco Unified CM がデータベースにデバイス設定データを要求しましたが、10 分以内に応答が受信されませんでした。</p>
25	<p><b>RegistrationSequenceError</b> : (SCCP のみ) 予期しないときにデバイスが Cisco Unified CM に設定情報を要求しました。要求された情報はまだ Cisco Unified CM で取得されていません。</p>
26	<p><b>InvalidCapabilities</b> : (SCCP のみ) Cisco Unified CM が、登録時にデバイスによって報告されたメディア機能でエラーを検出しました。この機能は、StationCapabilitiesRes メッセージでデバイスによって報告されました。</p>
27	<p><b>CapabilityResponseTimeout</b> : (SCCP のみ) Cisco Unified CM が、メディア機能の報告要求に対するデバイスの応答の待機中にタイムアウトしました。</p>
28	<p><b>SecurityMismatch</b> : Cisco Unified CM が、デバイスまたは Unified CM (あるいはその両方) のセキュリティ設定の不一致を検出しました。検出される不一致を次に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. セキュアな接続を確立したデバイスで、認証されたシグナリングを実行できないとの報告がされている。</li> <li>2. セキュアな接続を確立しなかったデバイスで、セキュアな接続を確立するセキュリティモードが設定されている。</li> <li>3. セキュアな接続を確立したデバイスで、セキュアな接続を確立しないセキュリティモードが設定されている。</li> </ol>

29	<p>AutoRegisterDBError : (SCCP のみ) デバイスの自動登録が次のいずれかの原因で失敗しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デバイス タイプで自動登録が許可されていない。</li> <li>2. 自動登録のストアードプロシージャでエラーが発生した。</li> </ol>
30	<p>DBAccessError : (SCCP のみ) 端末登録プロファイルの作成中にエラーが発生したためにデバイスの自動登録に失敗しました。</p>
31	<p>AutoRegisterDBConfigTimeout : (SCCP のみ) デバイスの自動登録中に Cisco Unified CM がタイムアウトしました。デバイスの登録プロファイルが時間内にデータベースに挿入されませんでした。</p>
32	<p>DeviceTypeMismatch : (SCCP のみ) デバイスによって報告されたデバイス タイプが、Cisco Unified CM で設定されているデバイス タイプと一致しません。</p>
33	<p>AddressingModeMismatch : (SCCP のみ) Cisco Unified CM が、デバイスに対して設定されているアドレッシング モードに関連するエラーを検出しました。検出されるエラーを次に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. IPv4 アドレッシングのみを使用するように設定されているデバイスで IPv4 アドレスが指定されませんでした。</li> <li>2. IPv6 アドレッシングのみを使用するように設定されているデバイスで IPv6 アドレスが指定されませんでした。</li> </ol>

**Enum 定義 : IPAddressAttributes**

値	定義
0	Unknown : デバイスは、この IPv4 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。
2	Signal only : デバイスは、この IPv4 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

**Enum 定義 : IPv6AddressAttributes**

値	定義
0	Unknown : デバイスは、この IPv6 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。
2	Signal only : デバイスは、この IPv6 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal : デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

**推奨処置**

システム内のネットワーク接続の問題を調査します。最大デバイス数に達した可能性があります。Cisco Unified Communications Manager サービスパラメータ Maximum Number of Registered Devices は、システム内で許可するデバイスの数を制御します。ライセンス、システムハードウェア、その他の関連事項を考慮しつつ、このサービスパラメータの値を増やすことができます。また、推奨処置について原因コードの定義も参照してください。このイベントがデバイスの通常のリホームの結果として発行された場合、処置は必要ありません。

## EndPointUnregistered

以前 Cisco Unified Communications Manager に登録したエンドポイントが登録を解除しました。原因コードが「CallManagerReset」、「CallManagerRestart」、「DeviceInitiatedReset」、「EMLoginLogout」、または「EMCCLoginLogout」の正常な登録解除の場合、このアラームの重大度は情報に下げられます。エンドポイントは多くの理由で登録解除することがあります。たとえば、設定変更後にデバイスを手動でリセットするという意図的なものや、ネットワーク接続の切断など意図しないものがあります。このアラームのそれ以外の原因としては、電話機がセカンダリノードに登録されていてプライマリノードがオンラインに復旧し、電話機がプライマリ Cisco Unified CM ノードにリホームする場合や、このエンドポイントが登録された Cisco Unified CM ノードから KeepAlive が返されないことが考えられます。また、登録解除は、Cisco Unified CM がこの同じデバイスから重複する登録要求を受信した場合にも起こります。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティングリスト**

SDL

SDI

システム ログ

データ コレクタ

SNMP トラップ

代替 syslog

**パラメータ**

Device name (String)

Device MAC address (String)

Device IP address (String)

Protocol (String)

Device type (Enum)

Device description (String)

Reason Code (Enum)

IPv6Address (String)

IPAddressAttributes (Enum)

IPV6AddressAttributes (Enum)

**Enum 定義 : デバイス タイプ**

値	定義
1	CISCO_30SP+
2	CISCO_12SP+
3	CISCO_12SP
4	CISCO_12S
5	CISCO_30VIP
6	CISCO_7910
7	CISCO_7960
8	CISCO_7940
9	CISCO_7935
12	CISCO_ATA_186
20	SCCP_PHONE
61	H323_PHONE
72	CTI_PORT
115	CISCO_7941
119	CISCO_7971
255	UNKNOWN
302	CISCO_7989
307	CISCO_7911
308	CISCO_7941G_GE
309	CISCO_7961G_GE
335	MOTOROLA_CN622
336	BASIC_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
348	CISCO_7931
358	CISCO_UNIFIED_COMMUNICATOR
365	CISCO_7921
369	CISCO_7906
374	ADVANCED_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
375	CISCO_TELEPRESENCE
404	CISCO_7962
412	CISCO_3951
431	CISCO_7937
434	CISCO_7942
435	CISCO_7945
436	CISCO_7965
437	CISCO_7975
446	CISCO_3911
468	CISCO_UNIFIED_MOBILE_COMMUNICATOR

478	CISCO_TELEPRESENCE_1000
479	CISCO_TELEPRESENCE_3000
480	CISCO_TELEPRESENCE_3200
481	CISCO_TELEPRESENCE_500
484	CISCO_7925
493	CISCO_9971
495	CISCO_6921
496	CISCO_6941
497	CISCO_6961
20000	CISCO_7905
30002	CISCO_7920
30006	CISCO_7970
30007	CISCO_7912
30008	CISCO_7902
30016	CISCO_IP_COMMUNICATOR
30018	CISCO_7961
30019	CISCO_7936
30035	IP_STE

**Enum 定義 : 原因コード**

値	定義
1	Unknown : デバイスは不明な理由で登録解除しました。デバイスが 5 分以内に再登録しない場合は、デバイスの電源が投入されていることと、デバイスと Cisco Unified CM の間のネットワーク接続を確認します。
2	NoEntryInDatabase : デバイスが Cisco Unified CM データベースで正しく設定されていません。
3	DatabaseConfigurationError : Cisco Unified CM データベースでデバイス設定エラーが検出されました。
4	DeviceNameUnresolveable : Cisco Unified CM がデバイス名を内部で IP アドレスに解決できません。
5	MaxDevRegExceeded : デバイスの登録が最大数に達しました。
6	ConnectivityError : デバイスと Cisco Unified CM の間のネットワーク通信が中断されました。考えられる原因としては、デバイスの停電、ネットワークの停電、ネットワークの設定エラー、ネットワーク遅延、パケット ドロップ、パケット破損が挙げられます。また、Cisco Unified CM ノードの CPU 使用率が高い場合にもこのエラーが発生する可能性があります。デバイスの電源がオンになっていて稼働していることを確認し、デバイスと Cisco Unified CM の間のネットワーク接続を確認し、CPU 使用率が安全な範囲にあることを確認します (これは、RTMT を使用し、CPU Pegging Alert を通じてモニタできます)。
7	InitializationError : Cisco Unified CM がデバイスを初期化しようとしたときにエラーが発生しました。
8	DeviceInitiatedReset : デバイスがリセットを開始しました。電源の再投入や内部エラーが考えられます。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。

9	<b>CallManagerReset</b> : Cisco Unified CM の管理ページからデバイス リセットが開始されました。管理者による明示的なコマンドが実行されたか、内部エラーが発生したことが原因です。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
10	<b>DeviceUnregistered</b> : デバイスは明示的に登録解除しました。原因としては、デバイスの IP アドレスまたはポートの変更などが考えられます。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
11	<b>MalformedRegisterMsg</b> : (SIP のみ) 形式が不正なため SIP REGISTER メッセージを処理できませんでした。原因としては、Call-ID ヘッダーの欠落、To ヘッダー内の AoR の欠落、有効期限の値が小さすぎることが考えられます。REGISTER メッセージにこれらの問題がないことを確認します。
12	<b>SCCPDeviceThrottling</b> : (SCCP のみ) アラームで示される SCCP デバイスは、SCCP デバイスあたりに許可されている最大イベント数を超えました。イベントには、通話のコール、KeepAlive メッセージ、過剰な SCCP または非 SCCP メッセージがあります。許可される最大イベント数は、Cisco CallManager サービス パラメータ Max Events Allowed で制御されます。個々のデバイスがこのサービス パラメータで設定されている数値を超えると、Unified CM によってそのデバイスへの TCP 接続が閉じられ、その後一般に再登録が自動的に実行されます。この動作は、Unified CM への悪意のある攻撃を防いだり、CPU 使用率が高くなりすぎるのを避けることを目的としています。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
13	<b>KeepAliveTimeout</b> : KeepAlive メッセージが受信されませんでした。考えられる原因としては、デバイスの停電、ネットワークの停電、ネットワークの設定エラー、ネットワーク遅延、パケット ドロップ、パケット破損が挙げられます。また、Unified CM ノードの CPU 使用率が高い場合にもこのエラーが発生する可能性があります。デバイスの電源が投入されていて稼動していることと、デバイスと Unified CM の間のネットワーク接続、CPU 使用率が安全な範囲にあることを確認します (これは、RTMT を使用し、CPU Pegging Alert を通じてモニタできます)。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
14	<b>ConfigurationMismatch</b> : (SIP のみ) デバイス上の設定が Unified CM の設定に一致しません。こうなる原因としては、データベース複製エラーや、その他の内部的な Unified CM 通信エラーが考えられます。まず Cisco Unified Reporting Web ページを開き、Unified CM Database Status レポートを生成し、「すべてのサーバの複製ステータスが正しいこと」を確認します。このデバイスが、この原因コードで何度も登録解除する場合は、デバイスの Cisco Unified CM の管理の [デバイス (Device)] Web ページを開き、[保存 (Save)] をクリックします。これにより Unified CM および TFTP サービスに対する変更通知が生成され、新しい設定ファイルが再構築されます。それでも問題が解決されない場合は、TFTP サービスと Unified CM サービスを再起動します。
15	<b>CallManagerRestart</b> : 管理者が明示的にコマンドを実行したか、デバイスに関連付けられている DN の追加、削除、変更などの設定変更により、デバイスの再起動が Cisco Unified CM から開始されました。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
16	<b>DuplicateRegistration</b> : Cisco Unified CM は、デバイスが同時に 2 台のノードに登録しようとしたことを検出しました。Cisco Unified CM は、電話機が 1 台のノードにリホームするよう強制するため、電話機の再起動を開始します。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
17	<b>CallManagerApplyConfig</b> : ApplyConfig コマンドが Unified CM の管理ページから実行され、その結果登録が解除されました。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
18	<b>DeviceNoResponse</b> : デバイスがリセット通知または再起動通知に応答しなかったため、強制的にリセットされます。デバイスが 5 分以内に再登録しない場合は、デバイスの電源が投入されていることと、デバイスと Cisco Unified CM の間のネットワーク接続を確認します。
19	<b>EMLoginLogout</b> : エクステンション モビリティ ログインまたはログアウトが原因で、デバイスが登録解除されました。

20	EMCCLoginLogout : クラスタ間エクステンション モビリティ ログインまたはログアウトが原因で、デバイスが登録解除されました。
21	PowerSavePlus : デバイスで有効になっている Power Save Plus 機能によってデバイスの電源がオフになりました。電源がオフになったデバイスは、そのデバイスの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration) ] で定義されている電話機がオンになる時刻まで、Unified CM で未登録のままになります。
22	CallManagerForcedRestart : (SIP のみ) デバイスが設定の適用要求に応答しなかったため、Unified CM がデバイスに再起動要求を送信しました。停電またはネットワークの問題によってデバイスがオフラインになっている可能性があります。デバイスの電源が投入されていることを確認し、デバイスと Unified CM の間のネットワーク接続を確認します。
23	SourceIPAddrChanged : (SIP のみ) REGISTER メッセージの Contact ヘッダーの IP アドレスが変更されたため、デバイスが登録解除されました。デバイスは自動的に再登録されます。処置は不要です。
24	SourcePortChanged : (SIP のみ) REGISTER メッセージの Contact ヘッダーのポート番号が変更されたため、デバイスが登録解除されました。デバイスは自動的に再登録されます。処置は不要です。
25	RegistrationSequenceError : (SCCP のみ) 予期しないときにデバイスが Unified CM に設定情報を要求しました。要求された情報はもう Unified CM のメモリにありません。
26	InvalidCapabilities : (SCCP のみ) Unified CM が、デバイスによって報告された更新済みのメディア機能でエラーを検出しました。この機能は、StationUpdateCapabilities メッセージのいずれかのバリエーションで報告されました。
28	FallbackInitiated : デバイスがフォールバックを開始しました。このデバイスは、より優先順位の高い Unified CM に自動的に再登録されます。処置は不要です。
29	DeviceSwitch : 同じデバイス名のエンドポイントの別のインスタンスが登録されて制御を引き継ぎました。処置は不要です。

## Enum 定義 : IPAddressAttributes

値	定義
0	Unknown : デバイスは、この IPv4 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。
2	Signal only : デバイスは、この IPv4 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

## Enum 定義 : IPV6AddressAttributes

値	定義
0	Unknown : デバイスは、この IPv6 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。
2	Signal only : デバイスは、この IPv6 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal : デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

**推奨処置**

実施すべき処置は、エンドポイントの登録解除で指定された原因によって変わります。原因が ConfigurationMismatch の場合は、Cisco Unified CM の管理ページの [ デバイス設定 (Device configuration) ] ページに移動し、このデバイスの [ 説明 (Description) ] フィールドに変更を加えて保存してから、[ 保存 (Save) ] をクリックし、デバイスをリセットします。ネットワーク接続または KeepAlive の損失の問題の場合は、ネットワーク診断ツールや Cisco Unified CM Reporting ツールを使用して、レポートされたネットワークまたは Unified CM システムのエラーを修正します。エンドポイントのプライマリ Unified CM ノードへのリホームの場合、デバイスがプライマリ ノードに正常に登録することを確認します。重複する登録要求の場合は、エンドポイントの登録と登録解除のタイミングによる悪意のない要求と考えられます。重複する登録要求が続く場合や、同じエンドポイントが異なる IP アドレスを持っている場合は、デバイスの設定を確認することで、物理的なデバイス自身の IP アドレスを確認します ([ 設定 (settings) ] ボタン)。このデバイスの登録解除が予想されたものである場合、処置は不要です。また、推奨処置について原因コードの説明も参照してください。

## ErrorChangeNotifyClientTimeout

変更通知クライアントの応答が遅いため、このクライアントは除外されました。変更通知の受信者は、数分以内に変更通知に応答しなかったため除外されました。これにより、自動転送などのコール処理機能に遅延が発生する場合があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	ルーティング リスト要素が追加され、Data Collector 要素が削除されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DB\_LAYER-DB

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DB

**重大度**

エラー (3)

**ルーティング リスト**

SDI

イベント ログ

システム ログ

**推奨処置**

ボックスをリブートすると、この状況が解決します。または、dbnotify トレースを分析して、除外されたクライアントを見つけ、このサービスを Cisco Unified Serviceability で再起動します。

## ErrorParsingDirectiveFromPDP

Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) は、Policy Decision Point (PDP; ポリシー デシジョン ポイント) からのコール ルーティング応答内のコール ルーティング ディレクティブまたは転送宛先を解釈できませんでした。

ルーティング応答が受信されましたが、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) は、応答内の必須要素を解釈できませんでした。これは、コール ルーティング ディレクティブまたはコール 転送宛先を正しく解釈できなかったか、コール ルーティング ディレクティブが認識されなかったことを意味します。エラーの原因としては、構文エラーや、コール ルーティング応答にコール ルーティング ディレクティブがないか、コール転送宛先がないことが考えられます。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

エラー

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

#### パラメータ

Policy Decision Point (String)

Called Party Number (String)

Calling Party Number (String)

Calling User Id (String)

Response XML Data (String)

#### 推奨処置

該当する API マニュアルなど、外部コール制御のマニュアルを参照して、コール ルーティング応答内のポリシー義務の一部として含まれているコール ルーティング ディレクティブが、外部コール制御のマニュアルで定義されている情報に従って正しく入力されていることを確認します。

## ErrorReadingInstalledRPMS

インストールされている RPM を読み取り、コンポーネント バージョン テーブルを作成することができませんでした。RPM バージョン情報を読み取り、データベースを作成する機能が失敗しました。

#### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DB\_LAYER-DB

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DB

**重大度**

エラー (3)

**推奨処置**

このエラーを管理者に報告します。

## FailureResponseFromPDP

Policy Decision Point (PDP; ポリシー デシジョン ポイント) が、HTTP 応答で、4xx (クライアント) または 5xx (サーバ) ステータス コードを返しました。

Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) は、ポリシー デシジョン ポイント (PDP) から、4xx または 5xx の応答を受信しました。4xx の応答は、Unified CM からのコール ルーティング要求内のエラーを示します。たとえば、400 の応答は、コール ルーティング要求を PDP が理解できなかったことを示し、404 は、PDP で一致する要求 URI が見つからなかったことを示します。5xx エラーは PDP サーバ エラーを示します。たとえば、500 の応答は PDP の内部エラーを示し、501 の応答は、PDP がコール ルーティング応答を生成するための機能をサポートしていないことを示します。503 は、PDP がビジーであり一時的に応答を生成できないことを示し、505 は、Unified CM からのコール ルーティング要求に含まれている HTTP バージョン番号がサポートされていないことを示します。他にも同様のエラー応答が返されることがあります。HTTP についての一般に利用可能なガイドラインを参照するか、HTTP のステータス コードの定義について RFC 2616 を確認してください。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Policy Decision Point (String)

The status code and reason phrase for the failure (String)

**推奨処置**

4xx 応答がアラームの原因である場合は、PDP が、実行が期待される機能とコール ルーティングに対して正しく設定されていることを確認します。500 応答がアラームの原因である場合は、PDP サービスがアクティブかどうかを確認し、PDP サーバのログ ファイルでエラーを確認します。503 がアラームの原因である場合は、PDP が要求によって過負荷になっている可能性があります。次のいずれかまたはすべての推奨処置に従って、PDP の負荷を軽減するための適切な処置を実施します。1) PDP を追加し、Cisco Unified CM の管理ページの [コール ルーティング (Call Routing)] メニューにある各種設定ページで、追加のコール代行受信プロファイルとコール代行受信トリガー ポイントを使用して Unified CM をプロビジョニングします。2) ポリシー サーバのコール代行受信ごとのプロファイルをプロビジョニングし、ロード バランシングをイネーブルにします。3) 展開環境の PDP サーバが、展開されている Cisco Enterprise Policy Manager (CEPM) またはサードパーティの PDP ソリューショ

ンのマニュアルに記載されているハードウェア要件を満たしているかそれを上回っていることを確認します。505 応答がアラームの原因である場合は、PDP が HTTP バージョン 1.1 をサポートしていることを確認します。

## FailedToReadConfig

Service Manager が、設定ファイルの読み取りに失敗しました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_SERVICEMANAGER-GENERIC

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Service Manager

#### 重大度

エラー (3)

#### パラメータ

File Name (String)

Reason (String)

#### 推奨処置

なし

## FirewallMappingFailure

ファイアウォールが到達不能です。

このアラームは、Unified CM が、IME コールを行うためにファイアウォールに接続できなかったことを示します。その結果、発信コールが PSTN 経由で送信され、着信コールはパートナー企業により PSTN 経由でルーティングされる可能性があります。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

エラー

#### 推奨処置

ファイアウォールが稼動していることを確認します。マッピング サービスがイネーブルになっていることを確認します。そのマッピング サービス用のファイアウォールの IP アドレスとポートが、Unified CM の管理ページの設定に一致することを確認します。Unified CM とファイアウォールの間の一般的な IP 接続を確認します。

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

### パラメータ

IP address (String)

Port number (UInt)

## ICTCallThrottlingStart

Cisco CallManager は、H.323 トランク上の大量のトラフィックまたはルート ループが原因で、アラームが示す H.323 デバイスに対するコールの処理を停止しました。

Cisco Unified Communications Manager は、このアラームが示す H.323 トランク上でルート ループを検出しました。そのため、Unified CM は、アラームが示す H.323 トランクに対するコールの受け付けを一時的に停止しました。クラスタ間トランク上で大量のコールが発生し、制御が起動された可能性もあります。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

Device Name [String] IP Address [String] Device type.[Optional] [Enum]Device description [Optional]. [String]

### DeviceType の Enum 定義

125 : TRUNK

### 推奨処置

リアルタイム モニタリング ツールの CallsActive カウンタと CallsInProgress カウンタで、指定の H.323 トランク上の異常なアクティビティを確認します。CallsActive カウンタが通常よりも大幅に大きい場合は、トラフィック負荷の問題が発生しており、そのトランク上でコールを送信する要求がトランクの容量を上回っている可能性があります。状況をモニタし、既存のトレース ファイルを収集します。想定された妥当な時間内に ICTCallThrottlingEnd アラームが発行されない場合は、TAC に問い合わせ、収集したトレース情報を渡してください。ルーティング ループ状態の場合、CallsInProgress カウンタが通常よりもかなり大きくなります。アラームが示すトランク上で発生したコールのトレース ファイルと CDR データを調べることで、ループの一部となっている変換パターン、ルート リスト、その他のルーティング メカニズムを検出できます。ループの原因となっているルーティング メカニズムを更新し (一般には同じ番号が近端のデバイスと遠端のデバイスで設定されています)、影響のあるルート リストをリセットして、ルート ループのクリアを試みます。それでうまくいかない場合は、影響のあるトランクをリセットします。

## IDSEngineCritical

このアラームによってデータが損なわれたりシステムが使用できなくなることはありませんが、管理者はこのアラームをモニタする必要があります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「重要」から「エラー」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DB\_LAYER-DB

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DB

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

Event Class ID [String] Event class message [String] Event Specific Message [String]

### 推奨処置

このアラームは、DB 管理者がモニタする必要があります。

## IDSEngineFailure

緊急状態とエラー状態が組み合せられたアラームです。予期せぬ事態が発生したことにより、データまたはデータへのアクセスに支障が出たり、IDS にエラーが生じる可能性があります。このアラームは、緊急状態とエラー状態が組み合せられたアラームを示します。予期せぬ事態が発生したことにより、データまたはデータへのアクセスに支障が出たり、IDS にエラーが生じる可能性があります。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DB\_LAYER-DB

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DB

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

Event Class ID [String] Event class message [String] Event Specific Message [String]

### 推奨処置

データベース管理者の介入が必要です。

## IDSReplicationFailure

緊急状態とエラー状態が組み合せられたアラームです。IDS の複製に失敗しました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	ルーティング リスト要素 Data Collector が Alert Manager に変更され、既存のパラメータが追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

DB

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DB

### 重大度

エラー (3)

### ルーティング リスト

SDI

イベント ログ

システム ログ

Alert Manager

### パラメータ

Event Class ID [String]

Event class message [String]

Event Specific Message [String]

### 推奨処置

データベース管理者の介入が必要です。

## InsufficientFallbackIdentifiers

フォールバック ID を割り当てるできません。

このアラームは、Unified CM が IME コールを処理していて、このコールに関連付ける PSTN フォールバック DID と DTMF デジットシーケンスを割り当てようとしているときに生成されます。しかし、この同じフォールバック DID を使用している多数の IME コールが現在進行中であるため、このコールに割り当てることができる DTMF デジットシーケンスがありません。そのため、このコールは処理されるものの、このコールではコール途中のフォールバックができなくなります。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

Alert Manager

**パラメータ**

Fallback profile name (String)

Fallback E.164 number (UInt)

Current number of DTMF digits (UInt)

E.164 called party number (String)

**推奨処置**

最初に行うべきことは、このコールに関連付けられているフォールバック プロファイルを特定することです。その名前はアラーム中にあります。そのプロファイルを管理インターフェイスから確認し、「Fallback Number of Correlation DTMF Digits」の現在の設定を調べます。その値を 1 だけ増やし、このアラームが消えるかどうか確認します。一般に、このパラメータは、そのプロファイルに関連付けられている登録番号への同時 IME コールの数、10 の n 乗 (n はこのパラメータの値) よりもかなり小さくなるようにする必要があります。「かなり」とは、少なくとも 1 桁を意味します。たとえば、このフォールバック プロファイルに関連付けられているパターンへの同時 IME コール数が常に 10,000 未満である場合は、この値に 5 を設定する (10 の 5 乗は 100,000) ことで十分な余裕が得られ、このアラームは生成されなくなります。

ただし、この値を大きくすると、フォールバックに要する時間が若干長くなります。そのため、いくらでも大きくしてよいという訳ではありません。このアラームが発生しない程度の大きさにすることを推奨します。このパラメータを大きくすることの代替方法としては、異なるフォールバック DID を持つ別のフォールバック プロファイルを追加し、そのフォールバック プロファイルをより少ない数の登録 DID パターンに関連付けることです。これにより少ない桁数でも問題なく運用できます。

## InvalidIPNetPattern

Cisco Unified CM の管理ページで、1 つ以上の SIP ルート パターンに無効な IP アドレスが設定されています。

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER/CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Description (String)

IPAddress (String)

DeviceName (String)

**推奨処置**

Cisco Unified CM の管理ページで、このアラームで指定されたデバイスに関連付けられているルートパターンの IP アドレスが正確かつ機能しているかどうかを確認します。IP アドレスの有効性を確認する方法についての詳細は、RFC 2373 を参照してください。

## InvalidPortHandle

オープンされているシリアル ポートのハンドルが無効です。

シリアル ポートから無効なハンドル値が CMI に返されたため、CMI はシリアル ポートに対して読み書きできません。システムが USB ケーブルを適切に検出しなかったことが原因でシリアル ポートから無効なハンドルが返された可能性があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kInvalidPortHandle から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CMIAAlarmCatalog/CMI

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

イベント ログ

SDI

**パラメータ**

Error Information (String)

**推奨処置**

USB0 ポートとボイス メッセージング システムを接続しているケーブルがしっかりと接続されていることを確認します。

## IPMAApplicationError

IPMA ファシリティ / サブファシリティ エラーです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

#### 重大度

エラー (3)

#### パラメータ

Servlet Name [String] Reason [String]

#### 推奨処置

詳細については、アプリケーション ログを参照してください。

## IPMAOverloaded

IPMA ファシリティ / サブファシリティが過負荷になりました。

#### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

#### 重大度

エラー (3)

#### パラメータ

Servlet Name [String] Reason [String]

#### 推奨処置

詳細については、アプリケーション ログを参照してください。

## IPMAFilteringDown

IPMA アプリケーション フィルタリングがダウンしています。

#### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

#### 重大度

エラー (3)

#### パラメータ

Servlet Name [String] Reason [String]

**推奨処置**

Cisco IP Manager Assistant Service を再起動します。

## IPv6InterfaceNotInstalled

IPv6 ネットワーク インターフェイスがインストールされていません。TFTP サービスの [IPv6] オプションは有効になっていますが、IPv6 ネットワーク インターフェイスまたはアドレスはシステムに設定されていません。IPv6 ネットワークが動作するまで、IPv6 だけで設定されているデバイスは登録できません。IPv6 または IPv4 を使用するように設定されているデバイスは、IPv4 を使用して登録されます。IPv6 ネットワークがオンラインの場合、IPv4 として登録されている IPv6 対応デバイスは、IPv6（設定されている場合）を使用するときにはリセットされるまで IPv4 のままです。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	CallManager カタログに追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TFTP-TFTP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/TFTP

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

IPv6 ネットワーク インターフェイスをインストールし、TFTP サービスを再起動します。

## kANNDeviceRecordNotFound

ANN デバイス レコードが見つかりません。アナウンサ デバイスのデバイス レコードがデータベースで見つかりませんでした。通常、ANN デバイスは、サーバがデータベースに追加されるときに自動的に追加されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「警告」から「エラー」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

エラー

**推奨処置**

ANN デバイスをデータベースに追加するためには、サーバを削除して再度追加する必要があります。警告：この処置を実行すると、メディア リソース グループ、CallManager グループなど、多数の設定を手作業で再設定することが必要になる場合があります。

**kCFBDeviceRecordNotFound**

CFB デバイス レコードが見つかりません。会議ブリッジ デバイスのデバイス レコードがデータベースで見つかりませんでした。通常、CFB デバイスは、サーバがデータベースに追加されるときに自動的に追加されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。重大度が情報からエラーに変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

エラー

**推奨処置**

CFB デバイスをデータベースに追加するためには、サーバを削除して再度追加する必要があります。警告：この処置を実行すると、メディア リソース グループ、CallManager グループなど、多数の設定を手作業で再設定することが必要になる場合があります。

**kCreateAudioSourcesFailed**

オーディオ ソース クラスの作成に失敗しました。ストリーミング用の音声を提供するためのオーディオ ソース サブコンポーネントを作成できません。原因としてはメモリ不足が考えられます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 次のパラメータが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- OS Error Code (Int)</li> <li>- OS Error Description (String)</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

OS Error Code (Int)

OS Error Description (String)

**推奨処置**

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。

## kCreateControlFailed

ストリーム制御の作成に失敗しました。ストリーム制御サブコンポーネントを作成してください。エラーの原因としてはメモリ不足が考えられます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 次のパラメータが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- OS Error Code (Int)</li> <li>- OS Error Description (String)</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

Codec Type [String]

OS Error Code [Int]

OS Error Description [String]

### 推奨処置

MOH デバイスをリセットします。失敗が続く場合は、Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。

## kDbConnectionFailed

データベース接続に失敗しました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DB\_LAYER-DB

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DB

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

Additional Information [String]

### 推奨処置

データベース レイヤ モニタのトレースを有効にし、特定のエラー情報を取得します。

## kIPVMSDeviceDriverNotFound

Cisco IP 音声メディア ストリーミング ドライバが見つかりません。Cisco IP 音声メディア ストリーミング ドライバが見つからないかインストールされていません。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスは、このエラーが解決されるまで実行できません。このサーバのすべてのソフトウェアメディア デバイス (ANN、CFB、MOH、MTP) は使用できません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

エラー (3)

**推奨処置**

システムが最後のサーバ起動時に IpVms ドライバをロードしようとした場合は、システム ログでエラーを確認してください。ドライバをロードするにはサーバの再起動が必要です。

## kIpVmsMgrNoLocalHostName

ローカル ホスト サーバ名を取得できません。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスは終了します。サービスが停止している間、ソフトウェア メディア デバイス (ANN、CFB、MOH、MTP) は使用できません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

エラー (3)

**推奨処置**

サーバ名、DHCP、DNS の設定を確認します。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスのステータスをモニタします。有効なサーバ名がないとサービスは動作しません。

## kIpVmsMgrNoLocalNetworkIPAddr

ホスト サーバのネットワーク IP アドレスを取得できません。ネットワーク IP（ドット表記）アドレスを取得できません。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスは終了します。このサービスが停止している間、ソフトウェア メディア デバイス（ANN、CFB、MOH、MTP）は使用できません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

エラー (3)

### 推奨処置

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスのステータスをモニタします。このサービスは自動的に再起動されます。エラーが再発する場合は、サーバの IP 設定（DHCP、IP アドレス）を確認します。

## kIPVMSMgrWrongDriverVersion

デバイス ドライバのバージョンが正しくありません。互換性のないデバイス ドライバが見つかりました。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスは終了します。サービスが停止している間、ソフトウェア メディア デバイス（ANN、CFB、MOH、MTP）は使用できません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 次のパラメータが削除されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Found [ULong]</li> <li>• Need [ULong]</li> </ul>

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

エラー (3)

**推奨処置**

サーバを再起動し、最新のドライバが起動されるようにします。エラーが続く場合は、Cisco Unified Communications Manager を再インストールして、適切なバージョンのドライバをインストールします。

**kMOHTFTPGoRequestFailed**

MOH ソース ファイルのワーキング パスへの転送に失敗しました。Music-on-Hold オーディオ ソース ファイルのコピーまたは更新中にエラーが発生しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 次のパラメータが追加されました。 Error Description [String] Source Path [String] Destination Path [String] OS Error Code [Int] OS Error Description [String]

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Error Description [String] File Name [String] Source Path [String] Destination Path [String]  
OS Error Code [Int] OS Error Description [String]

**推奨処置**

プラットフォーム CLI を使用して、ソース パスとファイルが存在することを確認します。ファイルが存在しない場合は、Cisco Unified CM の管理ページを使用し、不足しているオーディオ ソースをこのサーバに再度アップロードします。Cisco Unified Communications Manager を再インストールして必要なすべてのパスを作成します。

## kPWavMgrThreadxFailed

WAV 再生スレッドの作成が失敗しました。WAV ファイルの再生に使用されるプロセス コンポーネントの開始に失敗しました。システム リソースの不足が考えられます。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

OS Error Description (String)

### 推奨処置

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。

## kReadCfgUserLocaleEnterpriseSvcParm

エンタープライズ ユーザ ロケール設定の読み取り中にエラーが発生しました。デフォルトのエンタープライズ ユーザ ロケール設定を読み取るときに、データベース例外が発生しました。デフォルトの米国英語が使用されます。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

エラー (3)

### 推奨処置

CCM の管理 Web ページを使用して、ユーザ ロケールのエンタープライズ パラメータ設定が指定されていることを確認します。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動します。

## kRequestedANNStreamsFailed

設定されているアナンシエータ コール数 (Call Count サービス パラメータ) のために要求されるリソースが利用できませんでした。値が「Allocated」と表示される場合、値は非ゼロです。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	説明文と推奨処置が追加されました。 次のパラメータが削除されました。 Requested streams [ULong] Allocated streams [ULong]

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

エラー (3)

### 推奨処置

ANN Call Count サービス パラメータが正しいことを確認します。リソースを回復するためには、サーバの再起動が必要な場合があります。

## LostConnectionToSAFForwarder

SAF フォワーダへの接続が失われました。

TCP 接続障害により、SAF フォワーダと Unified CM の間の接続が失われました。TCP 接続が復旧すると、Unified CM は SAF フォワーダに自動的に接続しようとします。IP 接続が、Cisco CallManager サービス パラメータ CCD Learned Pattern IP Reachable Duration よりも長い間到達不能になった場合、学習したパターンへのコールは、代わりに PSTN を通じてルーティングされます。学習したパターンへの PSTN を通じたコールは、PSTN フェールオーバーがタイムアウトするまで、一定の期間継続されます。

### Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

エラー

### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ  
データ コレクタ

#### パラメータ

IP Address (String)  
SafClientHandle (UInt)

#### 推奨処置

電源障害、ケーブルの緩み、スイッチの設定ミスなど、TCP 接続障害の考えられる原因を調査し、発見した問題を修正します。接続が復旧すると、CCD は SAF フォワーダへの登録/同期を自動的に試みます。

## MultipleSIPTrunksToSamePeerAndLocalPort

同じ宛先およびローカル ポートに複数のトランクが設定されていたため、競合が発生しました。1 つの宛先およびローカル ポートの組み合わせに許可されるトランクは 1 つだけです。最後に設定されたトランクが無効にされました。

#### ファシリティ/サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

#### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

エラー

#### パラメータ

Peer IP Address. [String] Local IP Port [UInt] Old Device name. [String] Old Device Instance. [String] New Device name. [String] New Device Instance. [String]

#### 推奨処置

Cisco Unified CallManager Administration で [SIP トランク設定 (SIP Trunk Configuration)] を調べ、同じ宛先アドレスおよびローカル ポートに SIP トランクが 1 つだけ設定されていることを確認します。

## NodeNotTrusted

信頼できないノードとの通信を行いました。アプリケーションは別のアプリケーションとのセキュアな接続を確立できませんでした (SSL ハンドシェイク障害)。アプリケーションがホストされている tomcat サービスの証明書が信頼できない (キーストアに存在しない) 可能性があります。

#### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/EMAlarmCatalog

#### 重大度

エラー

**ルーティング リスト**

システム ログ

イベント ログ

Alert Manager

**パラメータ**

Date/Time (String)

Hostname/Ip Address (String)

**推奨処置**

1. 各 CCM ノードの「tomcat-trust」キーストアに、クラスタ内の他のすべてのノードの tomcat 証明書が格納されていることを確認します (OS の管理ページにログオンし、[セキュリティ (Security)] -> [証明書の管理 (Certificate Management)] の順に移動して、tomcat-trust 内の証明書を確認します)。
2. EMCC がイネーブルになっている場合は、すべての tomcat 証明書のバンドル (PKCS12) がローカルの tomcat-trust キーストアにインポートされていることを確認します (OS の管理ページにログオンし、[セキュリティ (Security)] -> [証明書の管理 (Certificate Management)] の順に移動して、tomcat-trust 内の証明書を探します)。

## NumDevRegExceeded

登録可能な最大デバイス数を超えました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Maximum Devices [Int]

**推奨処置**

デバイス数を超えることが予想外であり、自動登録をイネーブルにしてある場合は、Cisco Unified CM の管理ページで [デバイス (Device)] > [電話 (Phones)] の順に選択し、「auto」で始まる電話機を探します。システムに属さない予期せぬデバイスがある場合は (侵入者のデバイスなど)、IP アドレスを使用してデバイスを見つけ、システムから除去します。または、ライセンスとシステム リソースが許す場合には、Cisco CallManager サービス パラメータ Maximum Number of Registered Devices の値を大きくします。

## PublishFailedOverQuota

各 IME サーバには、IME 分散キャッシュに書き込むことができる DID の総数が固定で割り当てられています。このアラームが生成された場合、割り当てに達していない場合でも、非常に起こりにくい統計的な異常により、IME の分散キャッシュによって割り当てが超えているものと判断され、パブリケーションが拒否されたことを意味します。このアラームは、割り当てに達していないものの、それに近い場合にだけ発生します。このエラーは長く続く可能性が高く、アラームに対応する E.164 番号が IME 分散キャッシュにパブリッシュされません。そのため、その番号宛ての VoIP コールは受信されず、PSTN 経由のままになります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	このリリースで新たに追加されたアラームです。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

ERROR\_ALARM

#### 推奨処置

アラームには IME サーバの名前と、現在の割り当て値およびターゲット割り当て値が格納されています。最初に確認すべきことは、同じ IME 分散キャッシュ上のその同じ IME サーバを共有するすべての Unified CM クラスタ上で、DID プレフィックスのセットが正しくプロビジョニングされていることを確認することです。プロビジョニングが正しい場合、IME サーバの容量を超えたため、別の IME サーバが必要であることを意味します。別の IME サーバを追加した場合、DID プレフィックスを、それぞれ異なる IME サーバ上の 2 つの異なる IME クライアント インスタンスに分割できます。これにより割り当ての問題が軽減されます。

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

#### パラメータ

The DID for which the Publish was attempted (String)

Server name (String)

Current quota (UInt)

Maximum target quota (UInt)

## ReadConfigurationUnknownException

TFTP サービスの起動時にデータベースからエンタープライズ パラメータ値を取得中に、例外が検出されました。この原因は通常、Cisco Unified Communications Manager データベースへのアクセスの失敗です。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kReadConfigurationUnknownException から名前が変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

### 重大度

エラー (3)

### 推奨処置

Cisco Unified Serviceability の [Trace Configuration] ウィンドウで、TFTP サービスと Cisco Database Layer Monitor サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にします。また、RTMT を使用して、アラームが発生した前後に生じた可能性のあるエラーを検索します。

## ReadingFileFailure

CMI がシリアル ポートから SMDI メッセージを読み込むことができませんでした。

CMI はシリアル ポートをオープンしたが、シリアル ポートから無効なハンドル値が CMI に返されたため、シリアル ポートからデータを正常に読み込むことができませんでした。システムが USB ケーブルを適切に検出しなかったことが原因でシリアル ポートから無効なハンドルが返された可能性があります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kReadingFileFailure から名前が変更されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CMIAAlarmCatalog/CMI

### 重大度

エラー

**ルーティング リスト**

イベント ログ

SDI

**パラメータ**

Error Information (String)

**推奨処置**

USB0 ポートとボイス メッセージング システムを接続しているケーブルがしっかりと接続されていることを確認します。

## RsvpNoMoreResourcesAvailable

RSVP Agent リソースの割り当てに失敗しました。

このアラームは、Media Resource Group List (MRGL; メディア リソース グループ リスト) またはデフォルト リストに属する、登録されているすべての RSVP Agent (RSVP Agent は、基本的に RSVP 機能を提供する MTP またはトランスコーダ デバイスです) について RSVP Agent の割り当てに失敗した場合に発生します。各 RSVP Agent は、さまざまな理由で失敗することがあります。RSVP Agent の割り当てに失敗する理由としては、使用可能な MTP/トランスコーダが RSVP 機能をサポートしていない、デバイス エンドポイントと MTP/トランスコーダ間の機能の不一致、エンドポイントと MTP/トランスコーダ間でのコーデックの不一致、エンドポイントと MTP/トランスコーダ間での利用可能帯域幅の不足、MTP/トランスコーダ リソースが使用中であることなどが挙げられます。

機能の不一致の原因としては、MTP/トランスコーダが、コールに必要な 1 つ以上の機能をサポートしていないことが考えられます。これには、Transfer Relay Point (QoS またはファイアウォール トランザクションが必要)、RFC 2833 DTMF (コールの一方の側が DTMF デジットを転送するための RFC 2833 形式をサポートしておらず、他方の側が DTMF デジットを RFC2833 形式で受け取る必要があり、その結果 DTMF デジットが変換される場合に必要)、RFC 2833 DTMF パススルー (この場合、MTP またはトランスコーダはある形式から別の形式に DTMF を変換する必要はありませんが、あるエンドポイントから受信した DTMF デジットをそのまま他のエンドポイントに送信する必要があります)、パススルー (コーデック変換は行われず、メディア デバイスはメディア ストリームを任意のコーデック形式で受信し、コーデック変換を行わずに他方に転送します) IPv4 から IPv6 への変換 (コールの一方の側が IPv4 だけをサポートし、コールの他方の側が IPv6 だけをサポートしている場合、IPv4 パケットと IPv6 パケットの間で必要な変換を実行するために MTP を挿入する必要があります)、またはマルチメディア機能 (オーディオに加えてビデオまたはデータを扱うコールで MTP またはトランスコーダの挿入が必要な場合、マルチメディアをサポートする MTP/トランスコーダが挿入されます)。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	Media Resource List Name (String) パラメータが追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Media Resource List Name (String)

**推奨処置**

RSVP Agent は、基本的に RSVP 機能を提供する Cisco IOS MTP またはトランスコーダ デバイスです。設定されている MTP またはトランスコーダが RSVP 機能をサポートしているかどうかを確認するには、それぞれのユーザ マニュアルを参照してください。いずれも RSVP 機能をサポートしていない場合は、アップグレードするか (アップグレード後のバージョンが RSVP 機能をサポートしている場合)、RSVP 機能をサポートする追加の MTP またはトランスコーダを設置する必要があります。機能の不一致が原因で RSVP Agent (MTP またはトランスコーダ) の割り当てに失敗する場合、メディア デバイスが要求された機能 (IPv4 から IPv6 への変換やパススルーなど) をサポートしていないか、その機能がデバイスで設定されていない可能性があります。メディア デバイスのユーザ ガイドおよびマニュアルを参照し、デバイスが必要な機能をすべてサポートしていることを確認してください。

また、すべての MTP またはトランスコーダで、サポートされているすべての機能を設定する場合には注意が必要です。使用しているデバイスによっては、ほとんどの MTP またはトランスコーダでサポートされている機能 (RFC 2833 DTMF または RFC 2833 DTMF パススルー、またはパススルー) や、単一の MTP またはトランスコーダだけでサポートできる機能 (IPv4 から IPv6 またはその逆の変換や、RSVP Agent 機能、Transfer Relay Point、マルチメディア機能など) があります。

たとえば、さまざまな場所に属するエンド デバイスがあり、2 つの場所の間の帯域幅だけを予約する必要があり、他の場所の間のコールでは帯域幅を予約する必要がないとします。このとき、すべての MTP またはトランスコーダで、サポートされているすべての機能を設定し、1 台の MTP/トランスコーダだけが RSVP 機能をサポートしているとします。この MTP/トランスコーダでサポートされているすべての機能 (同じ MRGL またはデフォルト MRGL に属する他のすべての MTP またはトランスコーダもサポートしている機能) を設定した場合、Transfer Relay Point、RFC 2833 DTMF または RFC 2833 DTMF パススルー、パススルーのいずれかのためにこの MTP が割り当てられる可能性があります。その結果、帯域幅を予約する必要が生じたときに (同じ MRGL またはデフォルト MRGL に属する他の MTP またはトランスコーダはこれをサポートしていません)、この MTP/トランスコーダのすべてのリソースが使用中となり、RSVP Agent の割り当てに失敗する可能性があります。

この状況を避けるため、メディア リソースのプライオリティを適切に設定します。この設定は、メディア リソース グループ リストだけで行うことができ、メディア リソースのデフォルト リストでは設定できません。どのメディア リソース グループ リストでも、すべてのメディア リソース グループには異なるプライオリティがあり、割り当て時には、最初のメディア リソース グループに対して、要求されたメディア デバイスのタイプが使用可能かどうかを確認されます。メディア リソース グループ リスト内の最初のメディア リソース グループのプライオリティが最も高くなり、2 番めのメディア リソース グループのプライオリティが次に高くなり、以降同様になります。すべてのメディア リソース グループとそのプライオリティを確認するには、Cisco Unified CM の管理ページの [メディア リソース (Media Resources)] および [メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)] に移動し、適切なメディア リソース グループ リストをクリックして、[選択されたメディア リソース グループ (Selected Media Resource Groups)] を確認します。上から下に向かってプライオリティが低くなります。基本的な機能に対して選択されるようにする MTP またはトランスコーダを、プライオリティが高いメディア リソース グループに配置し、まれにしか使用されない機能を持つ MTP またはトランスコーダを、プライオリティが低いメディア リソース グループに配置します。RSVP Agent 割り当ては、エンドポイントと RSVP Agent または MTP/トランスコーダ間のコーデックの不一致によって失敗することがあります。

解決策としては、MTP/トランスコーダでサポートされるすべてのコーデックを設定することが考えられますが (MTP/トランスコーダのユーザ ガイドを参照)、そうすることでコールに過大な帯域幅が割り当てられる可能性があることに注意してください。使用可能な総帯域幅、平均コール数、コールあたりの適切な帯域幅の使用量 (MTP/トランスコーダとは無関係) など、さまざまな要因について慎重に

検討し、それによって MTP/トランスコーダが関係するコールあたりに割り当て可能な最大帯域幅を計算し、それを考慮しつつ MTP およびトランスコーダでサポートされているコーデックを設定する必要があります。メディア デバイスでサポートされているすべてのコーデックを設定し、過大な帯域幅の使用を制限するためにリージョン帯域幅を設定するのも良い考えです（リージョンと場所の設定については、Unified CM のマニュアルを参照してください）。

また、MTP/トランスコーダとエンドポイントの間でリージョン帯域幅を検討した後、エンドポイントと MTP/トランスコーダの間でコーデックの不一致が存在する可能性があります。リージョン帯域幅を増やすことがこの問題に対する解決策になることもありますが、そのような決定は、複数のリージョンの間でコールあたりに割り当てる帯域幅の量を慎重に計算した後で行うようにしてください。

MTP/トランスコーダが割り当てられないもう 1 つの原因として、コールで利用可能な帯域幅が十分になかったことが考えられます。これは、MTP/トランスコーダとエンドポイントが異なる場所に属し、その場所の間で設定される帯域幅が他のコールですでに使用されている場合に発生します。展開環境の帯域幅要件を調べ、これらの場所の間の帯域幅を増やすことができるかどうかを判断します。ただし、これら 2 つの場所の間の帯域幅を増やすためには、場合によっては、他の場所の間の帯域幅を減らすことが必要であることに注意してください。

詳細については、システム ガイド、SRND、および関連する Unified CM マニュアルを参照してください。帯域幅を減らしたり、多くの帯域幅が必要なコーデックを設定から削除したりすると、コール中の音声の品質が低下する可能性があることに注意してください。ネットワークの総帯域幅を増やすことを検討します。最後に、MTP/トランスコーダが RSVP 機能をサポートしていないことや、機能の不一致、すべてのリソースが使用中であることが原因で RSVP Agent の割り当てが失敗する場合は、RSVP 機能をサポートする追加の MTP またはトランスコーダ デバイスを設置することを検討します。

## RTMT\_ALERT

AMC サービス内のリアルタイム モニタリング ツール (RTMT) プロセスは、アラーム メカニズムを使用して、RTMT AlertCentral または電子メールを通じた RTMT アラートの配信を容易にします。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/RTMT

#### 重大度

エラー

#### ルーティング リスト

イベント ログ

システム ログ

#### パラメータ

Name (String)

Detail (String)

#### 推奨処置

RTMT の AlertCentral か、電子メールを通じて受信したアラートで、発生した問題とそれを解決するための推奨処置を確認します。AlertCentral では、アラートを右クリックすることでアラート情報が開きます。

## RTMT-ERROR-ALERT

このアラートは、RTMT AlertMgr によって生成されます。詳細については、アラートに関して説明したページを参照してください。

**ファシリティ / サブファシリティ**  
CCM\_RTMT-RTMT

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/RTMT

**重大度**  
エラー (3)

**パラメータ**  
Name [String] Detail [String]

**推奨処置**  
詳細については、アラートに関して説明したページを参照してください。

## SAFForwarderError

SAF フォワーダ エラー応答が Unified CM に送信されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ**  
CallManager/CallManager

**重大度**  
エラー

**ルーティング リスト**  
SDL  
SDI

システム ログ  
イベント ログ  
データ コレクタ

**パラメータ**  
IP Address (String)  
SafClientHandle (UInt)  
Application User Name (String)  
Reason Code and Description (Enum)  
SAF Protocol Version Number (String)  
Service ID (UInt)  
Sub Service ID (UInt)

**推奨処置**

このアラームの詳しい情報と処置（該当する場合）については、原因コードと説明（ヘルプテキスト）を参照してください。

Enum 定義：原因コード

値	定義
400	SAF_BAD_REQUEST : SAF フォワーダは、不正な構文（不正な形式）、必須属性の不足などの理由により、要求を受け付けることができませんでした。SAF フォワーダと Unified CM の間の設定を調査し、すべての設定が展開環境にとって正しいことを確認します。特に、ルータで設定されているクライアントラベルが、Cisco Unified CM の管理ページの [SAF フォワーダの設定 (SAF Forwarder Configuration)] ウィンドウ ([SAF] > [SAF フォワーダ (SAF Forwarder)] の順に選択します) で設定されているクライアントラベルに一致することを確認します。
431	SAF_INTEGRITY_CHECK_FAILURE : メッセージが SAF フォワーダのセキュリティ検証に合格しませんでした。このエラーは、設定ミスや攻撃によっても発生しますが、より可能性が高いのは、フォワーダと SAF クライアント上でのパスワードのプロビジョニングが正しくないことです。パスワードを再度プロビジョニングし、さらに SAF INTEGRITY CHECK FAILURE アラームが発生するかどうか監視します。SAF INTEGRITY CHECK FAILURE アラームが引き続き発生する場合は、SAF フォワーダと Unified CM の間のインターフェイスを閉じ、IP パケットの送信元を調査します。
435	**INFO LEVEL** SAF_MISSING_NONCE : ナンス（メッセージが送信されるときに生成されるランダムなパラメータ）がメッセージにありません。システムは新しいナンスで自動的に再送します。処置は必要ありません。
436	SAF_UNKNOWN_USERNAME : Unified CM が、SAF フォワーダに、ルータで設定されていないかルータの設定に一致しないアプリケーションユーザ名を送信しました。ルータと Cisco Unified CM の管理ページの [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウで、アプリケーションユーザ名が一致していることを確認します。
438	**INFO LEVEL** SAF_STALE_NONCE : ナンス（メッセージが送信されるときに生成されるランダムなパラメータ）が有効期限切れになりました（古くなりました）。システムは新しいナンスで自動的に再送します。処置は必要ありません。
471	**INFO LEVEL** SAF_BAD_CLIENT_HANDLE - SAF_BAD_CLIENT_HANDLE : Unified CM は、必須の CLIENT_HANDLE 値を含む Register メッセージ（キープアライブ目的）または登録解除メッセージを SAF フォワーダに送信しましたが、SAF フォワーダがそのクライアントハンドルを認識しませんでした。Unified CM は、クライアントハンドルなしで SAF フォワーダに再登録を試みます。このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。
472	**INFO LEVEL** SAF_VERSION_NUMBER_TOO_LOW : Unified CM は、以前 SAF フォワーダにパブリッシュしたときよりも小さいバージョン番号を持つサービス（ホステッド DN など）をパブリッシュしました。サービスは SAF フォワーダとの同期がとれていません。Unified CM は、SAF フォワーダと再同期するためにサービスを再パブリッシュします。このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

値	定義
473	<b>**INFO LEVEL** SAF_UNKNOWN_SERVICE</b> : Unified CM は SAF ネットワークからサービスをパブリッシュ解除しようとしたますが、SAF フォワーダにはそのサービスに対するパブリッシュ記録がありません。このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。
474	<b>**INFO LEVEL** SAF_UNREGISTERED</b> : Unified CM が、SAF フォワーダにパブリッシュまたはサブスクライブしようとしたますが、Unified CM は SAF フォワーダに登録されていません。Unified CM は、パブリッシュまたはサブスクライブを試みる前に自動的に SAF フォワーダに再登録します。このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。
475	<b>**INFO LEVEL** SAF_BAD_FILTER</b> : Unified CM は、SAF フォワーダの現在のフィルタのどれにも一致しないフィルタを使用して SAF フォワーダにサブスクライブしようとした。Unified CM は、適切なフィルタ値でサブスクライブ メッセージを再送信します。このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。
476	<b>SAF_UNKNOWN_SUBSCRIPTION</b> : Unified CM は、サブスクライブまたはサブスクライブ解除メッセージを SAF フォワーダに送信しましたが、メッセージに SAF フォワーダで認識されないサービス ID が含まれていました。認識されるサービス ID がないと、Unified CM は SAF フォワーダにサブスクライブできません。推奨される処置は、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) に問い合わせることです。
477	<b>**INFO LEVEL** SAF_ALREADY_REGISTERED</b> : Unified CM は SAF フォワーダへの登録を試みましたが、SAF フォワーダは、その Unified CM がすでに登録済みであることを通知しました。Unified CM は TCP 接続を閉じて再度開き、クライアント ハンドルのない新しい登録要求を SAF フォワーダに送信します。このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。
478	<b>SAF_UNSUPPORTED_PROTOCOL_VERSION</b> : Unified CM は、SAF フォワーダがサポートしているプロトコルバージョンよりも大きい SAF プロトコルバージョンを使用して SAF フォワーダに登録しようとした。SAF フォワーダの CLI で show version コマンドを実行し、SAF フォワーダのプロトコルバージョンを確認します。SAF プロトコルバージョン番号については、このアラーム内の情報を参照してください。バージョンが一致しない場合は、『Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix』(Cisco.com にあります) で、この Unified CM で使用されているプロトコルバージョン番号が、SAF フォワーダのプロトコルバージョンと互換性があるかどうかを確認します。互換性がない場合は、Unified CM と SAF フォワーダが同じ互換性のあるバージョンを使用するように、バージョンが低いコンポーネントをアップグレードします。

値	定義
479	SAF_UNKNOWN_AS : Unified CM が SAF フォワーダに登録しようとしたが、登録メッセージに、SAF フォワーダルータ上の Autonomous System (AS; 自律システム) が認識できないクライアント ラベルが含まれていました。推奨される処置は、SAF フォワーダ上で適切な CLI コマンドを実行し、クライアント ラベルをルータ上の自律システムに関連付け (ルータのコンフィギュレーションガイドを参照してください)、同じクライアント ラベルを、Cisco Unified CM の管理ページの [SAF フォワーダの設定 (SAF Forwarder Configuration) ] ウィンドウの [クライアント ラベル (Client Label) ] フィールドに設定し、[保存 (Save) ] をクリックします。Cisco Unified CM の管理ページでクライアント ラベルを保存すると、Unified CM は、更新されたクライアント ラベル情報を使用した新しい登録要求を SAF フォワーダに自動的に送信します。
500	**INFO LEVEL** SAF_RESPONDER_ERROR : Unified CM は、メッセージ (登録/登録解除/パブリッシュ/パブリッシュ解除/サブスクライブなど) を SAF フォワーダに送信しましたが、SAF フォワーダが、現在メッセージを処理できないという応答を返しました。原因としては、メッセージキューがあふれているか、内部リソースの問題が考えられます。Unified CM は数秒間待って要求を再試行します。このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。
1000	SAF_INVALID_CONNECTION_DETAILS

## SAFResponderError

SAF 応答側エラー 500 が発生しました。

これは、SAF フォワーダが、この Cisco Unified CM からの SAF 応答内のトランザクション ID を認識できない場合に発生します。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

エラー

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

#### パラメータ

Client Handle (String)

Service Id (UInt)

Sub Service ID (UInt)

Instance ID1 (UInt)

Instance ID2 (UInt)

Instance ID3 (UInt)

Instance ID4 (UInt)

**推奨処置**

処置は必要ありません。

## ScheduledCollectionError

スケジュールされたコレクションの実行中にエラーが発生しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TCT-LPMTCT

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/LpmTct

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

JobID [String] Reason [String]

**推奨処置**

ジョブのステータスのウィンドウで、スケジュールされたコレクション ジョブの設定を確認します。

## SerialPortGetStatusError

CMI がシリアル ポートのステータスを取得しようとしたときに、オペレーティング システムがエラーを返しました。

CMI は、シリアル ポートのステータスを取得できないときにこのアラームをトリガーします。シリアル ポートのステータス情報を取得できない原因としては、USB ケーブルが緩んでいるか抜けていることが考えられます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kSerialPortGetStatusError から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CMIArmCatalog/CMI

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

イベント ログ

SDI

**パラメータ**

Serial Port Getting Status Error (String)

**推奨処置**

USB0 ポートとボイス メッセージング システムを接続しているケーブルがしっかりと接続されていることを確認します。

## SerialPortSetStatusError

CMI がシリアル ポートのステータスを設定しようとしたときに、オペレーティング システムがエラーを返しました。

CMI は、シリアル ポートのステータスを設定できないときにこのアラームをトリガーします。シリアル ポートのステータス情報を取得できない原因としては、USB ケーブルが緩んでいるか抜けていることが考えられます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kSerialPortSetStatusError から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CMIAAlarmCatalog/CMI

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

イベント ログ

SDI

**パラメータ**

Serial Port Setting Status Error (String)

**推奨処置**

USB0 ポートとボイス メッセージング システムを接続しているケーブルがしっかりと接続されていることを確認します。

## ServiceActivationFailed

サービスをアクティブにできませんでした。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_SERVICEMANAGER-GENERIC

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/Service Manager

**重大度**  
エラー (3)

**パラメータ**  
Service Name (String)  
Reason (String)

**推奨処置**  
なし

## ServiceDeactivationFailed

サービスを非アクティブにできませんでした。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_SERVICEMANAGER-GENERIC

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/Service Manager

**重大度**  
エラー (3)

**パラメータ**  
Service Name (String)  
Reason (String)

**推奨処置**  
なし

## ServiceFailed

サービスが終了しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**  
CCM\_SERVICEMANAGER-GENERIC

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/Service Manager

**重大度**  
エラー (3)

**パラメータ**  
Service Name (String)  
Process ID (Int)

**推奨処置**  
なし

## ServiceStartFailed

サービスの起動に失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**  
CCM\_SERVICEMANAGER-GENERIC

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/Service Manager

**重大度**  
エラー (3)

**パラメータ**  
Service Name (String)  
Reason (String)

**推奨処置**  
なし

## ServiceStopFailed

サービスの停止に失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**  
CCM\_SERVICEMANAGER-GENERIC

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Service Manager

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Service Name (String)

Reason (String)

**推奨処置**

なし

## ServiceExceededMaxRestarts

サービスの許容される最大再起動回数を超過しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_SERVICEMANAGER-GENERIC

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Service Manager

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Service Name (String)

Reason (Int)

**推奨処置**

サービスを実行する必要がある場合、このサービスを再起動します。

## SIPNormalizationResourceWarning

正規化スクリプトが内部的なリソースのしきい値を超えています。

アラームで示された SIP デバイスの正規化スクリプトが、リソース消費量の内部的なしきい値を超えています。このアラームは、メモリ消費量について発生する場合と、スクリプトが Lua 命令に対して設定されている割り当て数を超えそうになったときに発生する場合があります。メモリの容量 ([メモリしきい値 (Memory Threshold) ] フィールドで定義) またはこのスクリプトで使用される Lua 命令の数 ([Lua 命令しきい値 (Lua Instruction Threshold) ] で定義) が内部しきい値を超えると、このアラームがトリガーされます。

**例**

1. メモリしきい値が 100 KB に設定されている場合、内部的なしきい値が 80 % であるとする、このスクリプトによるメモリ消費量が 80 KB に達した時点でこのアラームが発生します。内部的なしきい値は設定することはできず、Cisco Unified CM のリリースによって異なる場合があります。
2. [Lua 命令しきい値 (Lua Instruction Threshold) ] が 2000 に設定されている場合、内部的なしきい値が 50 % であるとする、スクリプトによる Lua 命令の実行数が 1000 に達した時点でこのアラームが発生します。

このアラームはリソース（メモリまたは Lua 命令）が内部的な限度を超えたことを警告するものであり、発生した場合は、スクリプトの健全性を確保するためにそれらのリソースの消費量を調査することを推奨します。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>このリリースで新たに追加されたアラームです。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Device Name (String)

Script Name (String)

Script Function (String)

Script Type (String)

Reason Code (Enum)

Reason Text (String)

In Use Memory (UInt)

Memory Threshold (UInt)

In Use Lua Instructions (UInt)

Lua Instruction Threshold (UInt)

## Enum 定義 : 原因コード

値	定義
1	InternalLuaInstructionsThreshold : スクリプトが Lua 命令の数の内部的なしきい値を超えています。
2	InternalMemoryThreshold : スクリプトがスクリプト メモリ使用量の内部的なしきい値を超えています。

## 推奨処置

1. [SIP 正規化スクリプト設定 (SIP Normalization Script Configuration) ] ウィンドウで設定されているしきい値 ([メモリしきい値 (Memory Threshold) ] と [Lua 命令しきい値 (Lua Instruction Threshold) ]) を調べます。
2. しきい値を大きくすることができないかどうかを評価します (これらの値を大きくする場合は CPU リソースとメモリを考慮してください)。また、スクリプトを調べて、メッセージハンドラをより効率よく記述することでスクリプトの命令の数を減らせないかどうかを確認します。
3. スクリプトにロジック エラーがないかどうかを調べます。スクリプトは正常に機能するものの、大きなロジックを含む場合は、[Lua 命令しきい値 (Lua Instruction Threshold) ] フィールドの値を大きくすることを検討します。この場合、コンピューティング リソースの消費量が増えることに注意してください。このリソースの状況に関しては、SDI トレース ファイルでその他の詳細を調べることができます。シスコが提供しているスクリプトについては、シスコテクニカル アシスタンス センター (TAC) までお問い合わせください。
4. スクリプトが閉じる前に、リソースの問題を調査して修正します。[SIP 正規化スクリプト設定 (SIP Normalization Script Configuration) ] ウィンドウの [メモリしきい値 (Memory Threshold) ] フィールドと [Lua 命令しきい値 (Lua Instruction Threshold) ] フィールドに設定されているいずれかまたは両方の値に達すると、スクリプトが閉じ、さらに SIPNormalizationScriptClosed アラームが発生します。トラブルシューティング時のその他の情報としては、SIP Normalization カウンタ MemoryUsagePercentage で現在のリソース使用率を確認できます。

## SIPNormalizationScriptError

## 説明

スクリプト エラーが発生しました。

## 詳細

アラームで示された SIP デバイスの SIP 正規化スクリプトをロード、初期化、または実行しているときに、Cisco Unified CM でエラーが発生しました。エラーの原因がリソースの問題である場合は、SIPNormalizationResourceWarning アラームも発行されます。このアラームで示される Configured Action と Resulting Action は同じにならない場合があります。ロード中のエラーや初期化中のエラーなど、特定のエラーを設定できないためです。エラーが原因でスクリプトが 10 分以内に 3 回閉じた場合、Cisco Unified CM は、設定されている処置を 3 回行います。4 回めのエラーが発生すると、Unified CM はスクリプトを無効にし、SIPNormalizationAutoResetDisabled アラームを発行します。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>このリリースで新たに追加されたアラームです。</li> </ul>

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

## 重大度

エラー

## ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

## パラメータ

Device Name (String)

Script Name (String)

Script Function (String)

Script Type (String)

Error Code (Enum)

Error Code Text (String)

Error Message (String)

Configured Action (String)

Resulting Action (String)

In Use Memory (UInt)

Memory Threshold (UInt)

In Use Lua Instructions (UInt)

Lua Instruction Threshold (UInt)

## Enum 定義 : 原因コード

値	定義
1	<b>LoadError</b> : スクリプトの構文エラーまたはリソース エラーが原因で、スクリプトがロードに失敗しました。処理については推奨処置を確認してください。
2	<b>InitializationError</b> : スクリプトの構文エラーまたはリソース エラーが原因で、初期化中にスクリプトでエラーが発生しました。処理については推奨処置を確認してください。
3	<b>ExecutionError</b> : 実行中にスクリプトでエラーが発生しました。処理については推奨処置を確認してください。
4	<b>InternalError</b> : 実行中にシステムで予期しない状況が発生しました。処理については推奨処置を確認してください。

**推奨処置**

1. SDI トレース ファイルで、関数コールやコール ID など、エラーに関する詳細を調べます。これは、エラーのトラブルシューティングに役立ちます。
2. スクリプトに構文エラーやロジック エラーがないかどうかを調べます。シスコが提供しているスクリプトについては、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) までお問い合わせください。エラーの原因がリソースの問題である場合は、SIPNormalizationResourceWarning アラームも発行されます。その他の情報や推奨処置については、SIPNormalizationResourceWarning アラームを確認してください。

## SIPTrunkOOS

すべてのリモート ピアが停止していて、この SIP トランクのコールを処理できません。

このアラームには、使用できないリモート ピアをセミコロンで区切った一覧が示されます。これには、リモート ピアに送信した Options 要求に対する応答として SIP トランクで受け取った原因コードも含まれます。ピアごとに、ホスト名または SRV (SIP トランクで設定されている場合)、解決された IP アドレス、ポート番号、および原因コードが次の形式で示されます。

ReasonCodeType=ReasonCode

ReasonCodeType は、SIP RFC で定義されるリモート ピアからの SIP 応答 (リモートの場合)、または Unified CM から提供される原因コード (ローカルの場合) によって異なります。

考えられる原因コードの例を次に示します。

- Remote = 503 (標準の SIP RFC エラー コードである「503 サービス使用不可」)
- Remote = 408 (標準の SIP RFC エラー コードである「408 要求タイムアウト」)
- Local = 1 (要求タイムアウト)
- Local = 2 (ローカルの SIP スタックでリモート ピアとのソケット接続を作成できない)
- Local = 3 (DNS クエリーの失敗)

Local = 3 の場合、アラームには IP アドレスが 0 と示されます。また、DNS SRV が SIP トランクで設定されていれば、ポートが 0 と示されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• このリリースで新たに追加されたアラームです。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

エラー

**ルーティング リスト**

SDL

## SDI

システム ログ

イベント ログ

## パラメータ

SIP Trunk Name (String)

Unavailable remote peers with Reason Code (String)

## 推奨処置

- Remote = 503 の原因としては、次のことが考えられます。
  - 発信側のルートまたは SIP トランクがリモート ピアに存在しません。リモート ピアが Unified CM の場合は、リモート ピアの Unified CM の管理ページで新しい SIP トランクを追加し ([デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択)、[接続先アドレス (Destination Address)] フィールドと [接続先ポート (Destination Port)] フィールドが発信側ホストを参照するように設定されていることを確認します (発信側ホストは、このアラームが生成されたノードと同じノードです)。
  - 発信側のルートまたは SIP トランクがリモート ピアに存在しませんが、SIP 電話機または別の SIP トランクにポートが使用されています。リモート ピアが Unified CM の場合は、リモート ピアの Unified CM の管理ページで ([デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択)、発信側の [接続先ポート (Destination Port)] に終端側の SIP トランク セキュリティ プロファイルの着信ポートと同じポートが設定されていることを確認します。
  - リモート ピアで、新しいコールを処理するリソースが制限されています。別のシステム管理者が管理するリモート ピアの場合は、その管理者にリソースの問題について相談します。
- Remote = 408 の原因としては、次のことが考えられます。
  - リモート ピアで、新しいコールを処理するリソースが制限されています。別のシステム管理者が管理するリモート ピアの場合は、その管理者にリソースの問題について相談します。
- Local = 1 の原因としては、発信側の SIP トランクに割り当てられた SIP トランク セキュリティ プロファイルで UDP トランスポートが設定されている場合に、再試行がすべて終了しても OPTIONS 要求に対する応答が得られなかったことが考えられます。

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- リモート ピアが Unified CM の場合は、リモート ピアの Serviceability アプリケーションで、[Tools] > [Control Center] ([Feature Services]) の順に選択し、Cisco CallManager サービスがアクティブ化されて開始されていることを確認します。
- リモート ピアの Unified CM の管理ページで、[デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択し、関連付けられた SIP トランク セキュリティ プロファイルの着信ポートが発信側の SIP トランクの接続先ポートと同じポートに設定された SIP トランクが存在することを確認します。
- 発信側で、CLI コマンド `utils network ping <remote peer>` を使用してネットワーク接続を確認します。
- Local = 2 の原因としては、Unified CM でリモート ピアとのソケット接続を作成できないことが考えられます。

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- リモート ピアが Unified CM の場合は、リモート ピアの Serviceability アプリケーションで、[Tools] > [Control Center] ([Feature Services]) の順に選択し、Cisco CallManager サービスがアクティブ化されて開始されていることを確認します。

- リモートピアの Unified CM の管理ページで、[ デバイス (Device) ] > [ トランク (Trunk) ] の順に選択し、関連付けられた SIP トランク セキュリティ プロファイルの着信ポートが発信側の SIP トランクの接続先ポートと同じポートに設定された SIP トランクが存在することを確認します。
- 発信側で、CLI コマンド `utils network ping <remote peer>` を使用してネットワーク接続を確認します。
- Local = 3 の原因としては、DNS サーバに到達できないか、ローカルの SIP トランクで設定されたホスト名または SRV を解決するように DNS が適切に設定されていないことが考えられます。この問題を解決するには、次の手順を実行します。
  - a. OS の管理ページで、[ 表示 (Show) ] > [ ネットワーク (Network) ] の順に選択し、DNS の詳細が正しいかどうかを確認します。正しくない場合は、CLI コマンド `set network dns primary` を使用して、DNS サーバの正しい情報を設定します。
  - b. CLI コマンド `utils network ping <remote peer>` を使用して DNS サーバとのネットワーク接続を確認し、DNS サーバが適切に設定されていることを確認します。

## SparePartitionLowWaterMarkExceeded

予備パーティションの使用済みディスク領域のパーセンテージが、設定されている下限を下回っています。



(注)

Intercompany Media Engine サーバでは、予備パーティションは使用されません。そのため、Intercompany Media Engine ではこのアラートはトリガーされません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TCT-LPMTCT

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/LpmTct

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

UsedDiskSpace [String] MessageString [Optional]. [String]

### 推奨処置

RTMT にログインし、Alert Central で、LogPartitionLowWaterMarkExceeded アラートに設定されているしきい値を確認します。設定されている値が、意図せずデフォルトのしきい値よりも小さい値に設定されている場合は、値をデフォルトに変更します。また、Cisco Unified CM Serviceability のトレース制御ページで各アプリケーションのトレースとログ ファイルの設定を調べます。

設定されているトレースまたはログの数が 1000 よりも大きい場合は、トレース設定ページでトレース設定をデフォルトに調整します。また、作成から 1 週間未満のトレース ファイルをクリーンアップします。トレースをクリーンアップするには、CLI の「file delete」コマンドを使用するか、RTMT の Trace & Log Central 機能の [Remote Browse] を使用します。

## SystemResourceError

システム コールに失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_SERVICEMANAGER-GENERIC

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Service Manager

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

System Call (String)

Service (String)

Reason (String)

**推奨処置**

なし

## TestAlarmError

エラー アラームのテストです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/テスト

**重大度**

エラー (3)

**推奨処置**

なし

## ThreadPoolProxyUnknownException

ファイル要求の処理中に、不明な例外が検出されました。通常、リソース不足などのシステム問題が発生した場合にメモリ不足を示します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kThreadPoolProxyUnknownException から名前が変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/TFTP

### 重大度

エラー (3)

### 推奨処置

RTMT を使用してシステム メモリのリソースおよび消費量をモニタし、システム リソース量の減少の原因と考えられるシステム問題を修正します。

## UnableToRegisterwithCallManagerService

CTI は、補足サービス機能を登録するために Cisco CallManager サービスと通信できません。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CtiManager

### 重大度

エラー

### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

### 推奨処置

Cisco Unified Serviceability の [Tools] > [Control Center - Featured Services] で、Cisco CallManager サービスのステータスを確認します。機能マネージャを登録するには、少なくとも 1 つの Cisco CallManager サービスが CTIManager のクラスターで実行されている必要があります。問題が解決しない場合は、CTIManager サービスを再起動します。CallManager サービスがアクティブな場合は、CTIManager サービスをホストしている Unified CM ノードと CallManager サービスをホストしている Unified CM ノードの間のネットワーク接続を確認します。

## UserLoginFailed

不正なユーザ ID またはパスワードが原因で、ユーザ ログインに失敗しました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TCD-TCD

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/TCD SRV

### 重大度

エラー (3)

### パラメータ

UserID [String]

### 推奨処置

なし

## WritingFileFailure

CMI がシリアルポートへの SMDI メッセージの書き込みに失敗しました。

CMI はシリアルポートをオープンしましたが、シリアルポートから無効なハンドル値が CMI に返されたため、シリアルポートにデータを正常に書き込むことができませんでした。システムが USB ケーブルを適切に検出しなかったことが原因でシリアルポートから無効なハンドルが返された可能性があります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kWritingFileFailure から名前が変更されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CMIAAlarmCatalog/CMI

### 重大度

エラー

### ルーティング リスト

イベント ログ

SDI

### パラメータ

Error Information (String)

**推奨処置**

USB0 ポートとボイス メッセージング システムを接続しているケーブルがしっかりと接続されていることを確認します。

## WDAplicationError

WebDialer ファシリティ / サブファシリティ エラーです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Servlet Name [String] Reason [String]

**推奨処置**

詳細については、アプリケーション ログを参照してください。

## WDOverloaded

WebDialer ファシリティ / サブファシリティが過負荷になりました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

エラー (3)

**パラメータ**

Servlet Name [String] Reason [String]

**推奨処置**

詳細については、アプリケーション ログを参照してください。

## 警告レベルのアラーム

警告レベルのアラームは 4 で表されます。このアラームの場合、対処が必要ですが、対処の優先順位は条件によって決まります。何らかの悪条件に関する警告。必ずしもエラーではありません。設定エラーまたはアラーム自体は警告を示しませんが、同じアラームのインスタンスが複数ある場合は警告を示します。次に例を示します。

- 設定エラー。
- このレベルのアラームが 1 つの場合、エラーが発生したことを示さない可能性があります。このアラームが複数の場合はエラーと見なされます。

## AnnunciatorNoMoreResourcesAvailable

使用可能な Annunciator リソースがなくなりました。

アナンシエータ リソースの割り当てが、次の 1 つ以上の理由で失敗しました。すべてのアナンシエータ リソースが使用中か、エンドポイントとアナンシエータ リソースの間でコーデックまたは機能が一致しないか（エンドポイントが IPv6 などのあるタイプの IP アドレッシングを使用し、アナンシエータが IPv4 だけをサポートしている場合など）、エンドポイントとアナンシエータの間に十分な帯域幅が存在しません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

警告

### パラメータ

Media Resource List Name (String)

### 推奨処置

アナンシエータのすべてのリソースがすでに使用中である場合は、アラームが示すメディアリソースグループリストおよびデフォルトリストのメディアリソースグループに属するすべてのアナンシエータが、クラスタの該当するすべての Unified CM ノードで設定および登録されていることを確認します。登録ステータスを確認するには、[メディアリソース (Media Resources)] > [アナンシエータ (Annunciator)] メニューを選択し、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。すべてのアナンシエータとそのステータス、デバイスプールなどが表示されます。

ステータス フィールドで、Unified CM に登録されているかどうかを確認します。ステータス フィールドの表示は、デバイスが Unified CM に登録されていることの確認にはならないことに注意してください。Unified CM クラスタでは、パブリッシャが Unified CM データベースにしか書き込むことができずにダウンすることがあります。サブスクリバはデータベースに書き込むことができないため、デバイスが実際には登録解除された後であっても、Unified CM の管理ページで登録済みと表示されることがあります。ただし、パブリッシャがダウンしている場合、このアラームよりもプライオリティの高い別のアラームが生成されます。

アナンシエータの割り当ては、エンドポイントとアナンシエータの間でのコーデックの不一致や機能の不一致が原因で失敗することがあります。コーデックの不一致や機能の不一致がある場合（エンドポイントが IPv6 アドレッシングを使用し、アナンシエータが IPv4 だけをサポートしている場合など）、MTP またはトランスコーダを割り当てる必要があります。そのため、MTP またはトランスコーダが割り当てられない場合、同じメディア リソース グループ リストに対して MediaResourceListExhausted アラーム（Media Resource Type が Media 終端地点またはトランスコーダ）または MtpNoMoreResourcesAvailable アラームが生成されるため、まずそれに注目します。

アナンシエータの割り当ては、通話者が属するリージョンとアナンシエータが属するリージョンの間のリージョン帯域幅のチェックの後でも発生する可能性があります。リージョン帯域幅を増やすことがこの問題に対する解決策になることもありますが、そのような決定は、複数のリージョンの間でコールあたりに割り当てる帯域幅の量を慎重に計算した後で行うようにしてください。利用可能な総帯域幅、平均コール数、アナンシエータを使用する平均コール数、コールあたりに使用される平均帯域幅を慎重に検討し、それに従ってリージョン帯域幅を計算する必要があります。

考えられるもう 1 つの原因は、コールに必要な帯域幅が利用できないことです。これは、アナンシエータとエンドポイントが異なる場所に属し、その場所の間で設定されている帯域幅が他のコールですでに使用されている場合に発生します。展開環境の帯域幅要件を調べ、これらの場所の間の帯域幅を増やすことができるかどうかを判断します。

ただし、これら 2 つの場所の間の帯域幅を増やすためには、場合によっては、他の場所の間の帯域幅を減らすことが必要であることに注意してください。詳細については、システム ガイド、SRND、および関連する Unified CM マニュアルを参照してください。帯域幅を減らしたり、多くの帯域幅が必要なコーデックを設定から削除したりすると、コール中の音声の品質が低下する可能性があることに注意してください。ネットワークの総帯域幅を増やすことを検討します。

## ApplicationConnectionDropped

アプリケーションが CTIManager への接続をドロップしました。

CTIManager とアプリケーションの間の TCP 接続または TLS 接続が切断されています。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CtiManager

#### 重大度

警告

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**推奨処置**

考えられる原因としては、アプリケーション サーバの停電、ネットワークの停電、ネットワークの設定エラー、ネットワーク遅延、パケット ドロップ、またはパケット破損が挙げられます。また、Unified CM ノードまたはアプリケーション サーバの CPU 使用率が高い場合にもこのエラーが発生する可能性があります。アプリケーションが開始され稼動していることを確認し、アプリケーションサーバと Unified CM の間のネットワーク接続を確認し、アプリケーションサーバと Unified CM の CPU 使用率が安全な範囲にあることを確認します（これは、RTMT を使用し、CPU Pegging Alert を通じてモニタできます）。

## ApplicationConnectionError

CTIManager は、アプリケーションからの接続を許可できません。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

警告

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

CTI Connection type (String)

**推奨処置**

CTIManager サービスは TCP 接続を初期化できませんでした。この問題を解決するには、CTIManager サービスを再起動します。

## authAdminLock

ユーザは、管理者によってロックアウトされています。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/IMS

**重大度**

警告 (4)

**パラメータ**

lock (String)

**推奨処置**

管理者は、このユーザをロック解除できます。

## AuthenticationFailed

ログイン認証に失敗しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TOMCAT\_APPS-LOGIN

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/ ログイン

**重大度**

警告

**パラメータ**

Login IP Address/Hostname [String] Login Date/Time [String] Login UserID [String] Login Interface [String]

**推奨処置**

このイベントが繰り返し発生する場合、失敗したログイン試行の原因を調査します。

## authFail

このユーザの認証に失敗しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。
8.0(1)	重大度は「通知」から「警告」に変更されました。
8.5(1)	パラメータが更新されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/IMS

**重大度**

警告 (4)

**パラメータ**

UserID (String)

Message (String)

#### 推奨処置

クレデンシャルが正しいか確認し、再試行します。

## authHackLock

ユーザが多数の不正な認証を試みました。最大試行数は管理者によって設定されます。

#### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。
8.0(1)	説明文を追加し、パラメータを修正しました。

#### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/IMS

#### 重大度

警告 (4)

#### パラメータ

UserID (String)

#### 推奨処置

管理者が指定した時間再試行を待つか、管理者にクレデンシャルのロック解除を依頼します。

## authInactiveLock

ユーザが指定された一定の時間にわたって非アクティブであるため、クレデンシャルがロックされています。

#### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。
8.0(1)	パラメータを変更しました。

#### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/IMS

#### 重大度

警告 (4)

**パラメータ**

UserID (String)

**推奨処置**

クレデンシャルをリセットします。

## authLdapInactive

ユーザがデータベース中に存在し、システムが LDAP 認証を指定したため、認証に失敗しました。ディレクトリの同期がごく最近 (1 日) に実行されました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。
8.0(1)	説明が変更され、推奨処置に文章が追加されました。
8.5(1)	パラメータが更新されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/IMS

**重大度**

警告 (4)

**パラメータ**

UserID (String)

**推奨処置**

このユーザはデータベースから削除されることになっており、アラームは 24 時間以内に自動的にクリアされます。

## BDIStopped

BDI アプリケーションが停止しました。アプリケーションは、Tomcat からアンロードされました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

警告 (4)

**推奨処置**

Tomcat サービスが稼動しているかを確認します。

## CallAttemptBlockedByPolicy

コールが試行されましたが、Policy Decision Point (PDP; ポリシー デシジョン ポイント) によってブロックまたは拒否されました。

コールは、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) で設定されたポリシー デシジョン ポイント (PDP) で定義されているエンタープライズ ポリシーに違反していたため、拒否またはブロックされました。ポリシー サーバは、ポリシー違反がコール拒否の理由であることを示す、コール拒否の決定を返します。許可のないユーザが、自分が許可されていない DN またはパターンにダイヤルしようとした場合や、コール転送ディレクティブが起動され、コール転送操作で指定された宛先がポリシーに違反していることが原因でコールが拒否されることがあります。コールが拒否された場合、リアルタイム モニタリング ツール (RTMT) の電子メール設定に応じて、電子メールのアラートが生成されます。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

警告

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

Alert Manager

#### パラメータ

Policy Decision Point (String)

Reject Reason (String)

Called Party Number (String)

Calling Party Number (String)

Calling User Id (String)

#### 推奨処置

このアラームで提供される情報（発信者のユーザ ID、発信先と発信元の DN など）を評価し、ユーザがルーティングが許可されていない番号と知らずに間違っただけなのか、ユーザが意図的にポリシーの制限を回避しようとしているのかを判断します。単なる誤りが原因でコールが拒否された場合は、影響のあるユーザに、ダイヤルが許可されている番号について知らせます。コールの拒否を調査する際に従うべきポリシーやガイドラインが組織で規定されている場合があります。ここで推奨する手順に加えて、またはその代わりに、自社のガイドラインに従ってください。

## CCDLearnedPatternLimitReached

CCD が学習可能なパターンの最大数に達しました。

CCD 要求サービスでは学習するパターンの数が制限されており、サービス パラメータ CCD Maximum Numbers of Learned Patterns で定義されています。このアラームは、CCD 要求サービスが、学習可能なパターンの最大数に達したことを示します。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

警告

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

#### パラメータ

CCD Maximum Numbers of Learned Patterns (UInt)

System Limit of CCD Learned Patterns (UInt)

#### 推奨処置

このアラームは、Cisco CallManager サービス パラメータ CCD Maximum Numbers of Learned Patterns で設定されている値と、システムで学習可能なパターンの最大数（内部的に制御される最大）を表示します。

指定した学習可能パターンの最大数が展開環境にとって適切であるかどうかを検討します。小さすぎる場合は、このアラームの SystemLimitCCDLearnedPatterns で示される数と比較します。最大数がシステム制限よりも小さい場合は、サービス パラメータ設定ウィンドウで CCD Maximum Numbers of Learned Patterns サービス パラメータを増やすことができます。最大値とシステム制限値が一致している場合、システムは学習したパターンが最大になるようにすでに設定されてるため、処置は不要です。

## CDRHWMExceeded

CDR ファイルのディスク使用率が上限を超えています。CDRM により、ディスク使用率を High Water Mark (HWM; 上限) 未満まで下げるために、まだ保存期間内にある正常に配信された CDR ファイルがいくつか削除されました。電子メール アラートが管理者に送信されます。

#### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	Data Collector ルーティング リスト要素は Alert Manager に変更されました。

ファシリティ / サブファシリティ  
CDRREP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
CallManager/CDR Rep

**重大度**  
警告 (4)

**ルーティング リスト**  
イベント ログ  
システム ログ  
Alert Manager

**パラメータ**  
DiskUsageInMB [String]

**推奨処置**  
ファイルの保存期間が長すぎる可能性があります。Serviceability の [Tools] > [CDRM Configuration] で保存期間を短縮します。  
または、CDR ファイルに割り当てる最大ディスク領域や HWM を増やします。

## CertValidLessThanMonth

このアラームは、証明書が 30 日以内に期限切れになることを示します。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/CertMonitorAlarmCatalog

**重大度**  
警告 (4)

**ルーティング リスト**  
イベント ログ  
システム ログ

**パラメータ**  
Message (String)

**推奨処置**  
Cisco Unified Operating System にアクセスし Certificate Management に進むことで、期限切れになろうとしている証明書を再生成します。証明書が CA によって発行されている場合は、CSR を生成し、CSR を CA に送信して、CA から新しい証明書を手入れし、Cisco Unified CM にアップロードします。

## ConferenceNoMoreResourcesAvailable

次の 1 つ以上の理由により、会議リソースの割り当てに失敗しました。必要な数の会議リソースが利用できません。IOS ベースの会議ブリッジの場合、会議ブリッジに追加される参加者の数が、会議あたりに許可されている最大参加者数を超えました。MLPP プリエンプションがイネーブルになっているものの、プリエンプションのための優先順位が低い会議がありません。優先順位が低い会議ブリッジがプリエンプトされませんでした。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

警告

### パラメータ

Media Resource List Name (String)

### 推奨処置

IOS ベースの会議ブリッジの場合、会議ブリッジで設定されている最大参加者数が、会議あたりに許可されている参加者数を超えていないことを確認します。参加者数の制限については、IOS ベースの会議ブリッジのユーザ マニュアルを参照してください。また、許可される最大参加者数についてエンドユーザに周知します。IOS ベースおよび非 IOS ベースの場合、会議リソースを追加することを検討します。

## CtiDeviceOpenFailure

アプリケーションがデバイスをオープンできません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiDeviceOpenFailure から名前が変更されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CtiManager

### 重大度

警告

## ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

## パラメータ

Device Name (String)

ReasonCode (Enum)

## Enum 定義 : 原因コード

値	定義
0x8CCC0013 (2362179603)	デバイスは別のアプリケーションによってすでにオープンされています。このデバイスを制御しているアプリケーションを特定してください。この情報は RTMT で確認できます ([CallManager] -> [CTI Manager and CallManager] -> [CTI Search] の順に選択します)。
0x8CCC00DA (2362179802)	データベースと通信できません。CPU 使用率が安全な範囲にあることを確認します (これは、RTMT を使用し、CPU Peggging Alert を通じてモニタできます)。
0x8CCC009A (2362179738)	デバイスは登録解除中です。デバイスが登録されるまで待ちます。ユーザが Unified CM からデバイスのリセットまたは再起動を開始したことが原因です。デバイスは自動的に登録されるため、デバイスが登録されるまでしばらく待ちます。
0x8CCC0018 (2362179608)	デバイスがユーザ制御リストにありません。デバイスがこのアプリケーションによって制御されるように設定されているかどうかを確認します。アプリケーションがデバイスを制御するためには、そのデバイスがユーザ制御リストに含まれている必要があります。デバイスがユーザ制御リストに含まれているかどうかを確認するには、アプリケーションでエンドユーザを使用する場合、Cisco Unified CM の管理ページにある [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ([ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] の順に移動) で、[デバイスの割り当て (Device Association)] セクションを確認します。アプリケーションでアプリケーションユーザを使用する場合、Cisco Unified CM の管理ページにある [アプリケーションユーザ (Application User)] ([ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] の順に移動) で、[デバイス情報 (Device Information)] セクションを確認します。
0x8CCC00F3 (2362179827)	アプリケーションで指定された IP アドレス モード (IPv4 または IPv6、あるいはその両方) が、Unified CM の管理ページで設定されている IP アドレッシング モードと一致しません。Cisco Unified CM の管理ページで IP アドレッシング モードを確認してください ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] の順に選択します)。

**推奨処置**

原因コードを確認し、問題を解決するために適切な処置を実施します。

## CtiLineOpenFailure

アプリケーションが回線をオープンできません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiLineOpenFailure から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

警告

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

**パラメータ**

Device Name (String)

Directory Number (String)

Partition (String)

Reason (Enum)

## Enum 定義 : 原因コード

値	定義
0	不明
0x8CCC0018 (2362179608)	デバイスがユーザ制御リストにありません。デバイスがこのアプリケーションによって制御されるように設定されているかどうかを確認します。アプリケーションがデバイスを制御するためには、そのデバイスがユーザ制御リストに含まれている必要があります。デバイスがユーザ制御リストに含まれているかどうかを確認するには、アプリケーションでエンドユーザを使用する場合、Cisco Unified CM の管理ページにある [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ([ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] の順に移動) で、[デバイスの割り当て (Device Association)] セクションを確認します。アプリケーションでアプリケーションユーザを使用する場合、Cisco Unified CM の管理ページにある [アプリケーションユーザ (Application User)] ([ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] の順に移動) で、[デバイス情報 (Device Information)] セクションを確認します。
0x8CCC0005 (2362179589)	回線がデバイス中に見つかりません。原因としては、以前このデバイスに存在していた回線が利用できないことが考えられます。その理由としては、エクステンション モビリティ ログインまたはログアウトが考えられます。
0x8CCC00D3 (2362179795)	管理者は、回線をアプリケーションによって制御可能に制限しました。管理者の意図が、この回線の制御を許可することである場合は、Unified CM の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] で [CTI からデバイスを制御可能 (Allow control of Device from CTI)] というチェックボックスをオンにし、このアプリケーションによって制御する回線を選択します。

## 推奨処置

原因コードを確認し、問題を解決するために適切な処置を実施します。

## CtiIncompatibleProtocolVersion

互換性のないプロトコルのバージョンです。

JTAPI または TAPI アプリケーションバージョンはこのバージョンの CTIManager と互換性がないので、受信されたメッセージは拒否されました。IP アドレスは、アプリケーションの IP アドレッシングモードに応じて、IPv4 または IPv6 のいずれかの形式で表示されます。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiIncompatibleProtocolVersion から名前が変更されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CtiManager

**重大度**

警告

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Unified CM Version (String)

IPAddress (String)

IPv6Address (String)

**推奨処置**

正しいバージョンのアプリケーションが使用されているかを確認します。正しいバージョンがわからない場合は、アプリケーション ベンダーに問い合せて、Cisco Unified Communications Manager で提供されるバージョンに JTAPI または TSP をアップグレードします。JTAPI または TSP プラグインは、Cisco Unified CM の管理ページで入手できます ([アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] の順に移動)。

## CtiMaxConnectionReached

最大 CTI 接続数に達したため、既存の接続がクローズされない限り、新しい接続は受け付けられません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiMaxConnectionReached から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

警告

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**推奨処置**

接続の最大数を CTI Manager サービス パラメータ Maximum CTI Connections で確認します。サービス パラメータ値を増やすか、不要な CTI アプリケーションを切断することを慎重に検討します。CTI でサポートされる最大アプリケーション数とデバイス数については、[www.cisco.com](http://www.cisco.com) にある、使用しているバージョンに該当する『Unified CM Solution Reference Network Design』マニュアルを参照してください。

## CtiProviderCloseHeartbeatTimeout

CTI ハートビート タイムアウトが発生し、CTIManager がアプリケーション接続をクローズしました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiProviderCloseHeartbeatTimeout から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

警告

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**推奨処置**

ハートビート タイムアウトは、高い CPU 使用率またはネットワーク接続の問題が原因で発生する可能性があります。アプリケーション サーバでネットワークの問題があるかどうかや、CPU 使用率が高くなっているかどうかを確認し、問題があれば解決します。アプリケーション サーバで Microsoft Windows OS が動作している場合は、タスク マネージャまたは Perfmon を使用して CPU 使用率を確認します。Linux のアプリケーションの場合は、top コマンドを使用して CPU 使用率を確認します。

## CtiQbeFailureResponse

正常または異常な状態が原因で、アプリケーションから要求された操作を実行できませんでした。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiQbeFailureResponse から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

警告

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Error message (String)

**推奨処置**

影響を受けるアプリケーションに問題が発生していないか確認します。問題が続く場合は、影響のあるアプリケーションのサポート組織に問い合わせ、シーケンス番号とエラーメッセージを伝えて詳しい調査を依頼します。

**DaTimeOut**

Cisco Unified Communications Manager の番号分析コンポーネントがタイムアウトになりました。このエラーは、Cisco Unified Communications Manager がビジー状態になり、要求および応答メッセージの処理に遅延が発生したことで番号分析コンポーネントがタイムアウトになったために発生することがあります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告

**推奨処置**

Cisco Unified CM の管理ページのサービス パラメータ設定ウィンドウで、Cisco CallManager サービス パラメータの Digit Analysis Timer を調べ、デフォルト値が使用されているかどうかを確認します。RTMT を使用してシステム リソースをモニタし、Cisco Unified CM での CPU 使用率が高くなっている原因と考えられるシステム問題を修正します。

## DeviceImageDownloadFailure

Cisco IP Phone のイメージをダウンロードできませんでした。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	FailureReason の Enum 定義。
7.1	DeviceImageDownloadFailure が電話機カタログに追加されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/Phone

#### 重大度

警告 (4)

#### パラメータ

DeviceName (String)

IPAddress (String)

Active (String)

Inactive (String)

FailedLoadId (String)

Method (Enum)

FailureReason (Enum)

Server (String)

#### Method の Enum 定義

コード	定義
1	TFTP
2	HTTP
3	PPID

#### FailureReason の Enum 定義

コード	定義
1	TFTP サーバエラーが発生しました。デバイスでのファームウェアのダウンロードの試行中に同時に他のエラーが発生していないかどうかを TFTP のログで確認し、発生した可能性がある TFTP エラーを修正します。また、TFTP サーバの負荷を調べてデバイスのダウンロード要求が処理中であることを確認し、TFTP サーバへのネットワーク接続を確認します。
2	指定されたファームウェア ロード ID が TFTP サーバに見つかりません。ファイル名が正しいことや、ロード (イメージ) ファイルが TFTP サーバに存在することを確認します。

コード	定義
3	ダウンロードの試行中に電話機の内部エラーが発生しました。この問題を修正するには、電話機をリセットします。
4	ロードサーバまたは TFTP サーバで、電話機のファームウェアロード要求を処理できませんでした。輻輳が原因で TFTP の応答が遅延している可能性があります。電話機で再度ダウンロードを試行できるようにするには、数分待ってから電話機をリセットします。電話機でファームウェアロードのダウンロードが再試行されます。電話機をリセットしても問題が解決しない場合は、ロードサーバまたは TFTP サーバ（ファームウェアロードを提供するサーバ）を再起動します。
5	新しいファームウェアロード（イメージ）のロードの試行中に電話機で暗号化エラーが発生しました。この問題を修正するには、電話機をリセットします。
6	ダウンロードされたファームウェアロード（イメージ）が暗号化されていません。電話機に正しいロード（イメージ）名が指定されていること、およびその暗号化されたロード（イメージ）ファイルがファームウェアロードを提供するサーバにあることを確認します。
7	ダウンロードされたファームウェアロード（イメージ）を電話機の復号化キーで復号化できません（これにより暗号化キーの不一致が発生します）。イメージの暗号化キーを指定している場合は、電話機の既存のキーに一致するキーを使用してイメージの再暗号化を試行し、ダウンロードを再試行します。それ以外の場合は、このアラーム以降の電話機のログを収集し（電話機のログにアクセスする方法については、該当する電話機モデルのアドミニストレータガイドを参照してください）、シスコテクニカルアシスタンスセンター（TAC）までお問い合わせください。
8	ダウンロードされたファームウェアロード（イメージ）の暗号化に問題があります。関連する詳細情報として、デバイスの MAC アドレス、デバイスタイプ、ファームウェアロード ID、このアラーム以降の電話機のログなどを収集し（電話機のログにアクセスする方法については、該当する電話機モデルのアドミニストレータガイドを参照してください）、シスコテクニカルアシスタンスセンター（TAC）までお問い合わせください。
9	電話機にロードサーバ名または IP アドレスが指定されておらず、ファームウェアロードのダウンロードに必要なサーバ情報がありません。Cisco Unified CM の管理ページの [ デバイス設定 (Device Configuration) ] ページで、ロードサーバまたは TFTP サーバの IP アドレスが正しく設定されていることを確認します。情報が正しくない場合や指定されていない場合は、正しい情報を指定してから電話機を再起動します。情報が正しい場合は、電話機を再起動します。このアラームが繰り返し発生する場合は、シスコテクニカルアシスタンスセンター（TAC）までお問い合わせください。
10	ロードサーバまたは TFTP サーバで許可されていない処理が電話機で試行されました。この状況を解消するには、電話機をリセットします。
13	デバイスでのファームウェアロードファイルの要求中に、ロードサーバまたは TFTP サーバからの応答時間として内部的に設定されている許容時間を超えました。輻輳が原因で TFTP の応答が遅延している可能性があります。電話機で再度ダウンロードを試行できるようにするには、数分待ってから電話機をリセットします。電話機でファイルのダウンロードが再試行されます。電話機をリセットしても問題が解決しない場合は、ロードサーバまたは TFTP サーバ（ファームウェアロードファイルを提供するサーバ）を再起動します。
14	ロードサーバまたは TFTP サーバから電話機が受け取ったデータが正しいものではありませんでした。情報が十分ではありません。電話機を再起動して、ダウンロードプロセスをもう一度開始します。
15	ロードサーバまたは TFTP サーバから電話機が受け取ったデータが正しいものではありませんでした。情報が多すぎます。電話機を再起動して、ダウンロードプロセスをもう一度開始します。

コード	定義
16	電話機からネットワークに接続できません。イメージファームウェア ロードサーバまたは TFTP サーバへの接続を確認し、切断されている接続を修正します。自動的に再起動されない場合は、電話機を再起動して接続を再試行します。
17	電話機で接続を試行している DNS サーバ名を解決できませんでした。電話機の設定で DNS サーバ名を調べて情報が正しいことを確認し、正しくない場合は電話機でその名前を更新します。自動的に再起動されない場合は、電話機を再起動します。
18	DNS サーバがありません。電話機の設定で DNS サーバの IP アドレスを設定します。自動的に再起動されない場合は、電話機を再起動します。
19	ロードサーバまたは TFTP サーバへの接続がタイムアウトしました。ロードサーバまたは TFTP サーバへの接続を電話機で試行しましたが、正常に接続できませんでした。ファームウェア ロードの提供元として TFTP サーバを使用する場合は、電話機で設定されている TFTP サーバの IP アドレスを確認し、その IP アドレスが正しいことを確認します。正しくない場合は、IP アドレスを修正して [適用 (Apply)] を押します。電話機が自動的に再起動されます。ファームウェア ロードの提供元としてロードサーバを使用する場合は、このアラームで示される電話機に対する Cisco Unified CM の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ページで IP アドレスまたはホスト名を確認し、その情報が正しいことを確認します。正しくない場合は、IP アドレスまたはホスト名を更新し、電話機を再起動します。さらに、電話機とロードサーバまたは TFTP サーバの間のネットワーク接続が確立されていることを確認します。自動的に再起動されない場合は、電話機を再起動して接続を再試行します。
20	ダウンロードがキャンセルされました。前のダウンロード要求の実行中に新しいダウンロード要求が開始されました。元のダウンロードは、新しいダウンロードを続行するためにキャンセルされました。処置は必要ありません。

### 推奨処置

イメージダウンロードサーバ（ロードサーバまたは TFTP サーバ）の IP アドレスまたはホスト名が正しいことを確認します。ホスト名を使用する場合、電話機から Domain Name Server (DNS; ドメインネームサーバ) にアクセスできるかどうか、DNS がホスト名を解決できるかどうかを確認します。TFTP サービスがアクティブ化されていて、ロードサーバまたは TFTP サーバ（ファームウェアロードファイルの提供元として使用するサーバ）で実行されていることを確認します。電話機からロードサーバまたは TFTP サーバにアクセスできることを確認します。また、推奨処置について原因コードの説明も参照してください。

## DevicePartiallyRegistered

デバイスが部分的に登録されました。デバイスが部分的に Cisco CallManager に登録されています。デバイス上に設定されている回線のすべてではなく、一部が正常に登録されました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	次の情報が更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パフォーマンス モニタ オブジェクト タイプの Enum 定義</li> <li>DeviceType の Enum 定義</li> </ul>

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

## 重大度

警告 (4)

## パラメータ

Device name. [String] Device MAC address [Optional]. [String] Device IP address. [String] Protocol. [String] Device description [Optional]. [String] User ID [Optional]. [String] Load ID.[Optional] [String] Associated directory numbers. [String] Performance monitor object type [Enum]Device type.[Optional] [Enum]

## パフォーマンス モニタ オブジェクトタイプの Enum 定義

コード	理由
1	Cisco CallManager
2	Cisco Phones
3	Cisco Lines
4	Cisco H323
5	Cisco MGCP Gateway
6	Cisco MOH Device
7	Cisco Analog Access
8	Cisco MGCP FXS Device
9	Cisco MGCP FXO Device
10	Cisco MGCP T1CAS Device
11	Cisco MGCP PRI Device

## DeviceType の Enum 定義

コード	理由
1	CISCO_30SP+
2	CISCO_12SP+
3	CISCO_12SP
4	CISCO_12S
5	CISCO_30VIP
6	CISCO_7910
7	CISCO_7960
8	CISCO_7940
9	CISCO_7935
10	CISCO_VGC_PHONE
11	CISCO_VGC_VIRTUAL_PHONE

12	CISCO_ATA_186
20	SCCP_PHONE
30	ANALOG_ACCESS
40	DIGITAL_ACCESS
42	DIGITAL_ACCESS+
43	DIGITAL_ACCESS_WS-X6608
47	ANALOG_ACCESS_WS-X6624
48	VGC_GATEWAY
50	CONFERENCE_BRIDGE
51	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE
52	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_HDV2
53	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_WS-SVC-CMM
61	H323_PHONE
62	H323_GATEWAY
70	MUSIC_ON_HOLD
71	DEVICE_PILOT
72	CTI_PORT
73	CTI_ROUTE_POINT
80	VOICE_MAIL_PORT
83	SOFTWARE_MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
84	CISCO_MEDIA_SERVER
85	CISCO_VIDEO_CONFERENCE_BRIDGE
90	ROUTE_LIST
100	LOAD_SIMULATOR
110	MEDIA_TERMINATION_POINT
111	MEDIA_TERMINATION_POINT_HARDWARE
112	MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
113	MEDIA_TERMINATION_POINT_WS-SVC-CMM
115	CISCO_7941
119	CISCO_7971
120	MGCP_STATION
121	MGCP_TRUNK
122	GATEKEEPER
124	7914_14_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
125	TRUNK
126	TONE_ANNOUNCEMENT_PLAYER
131	SIP_TRUNK
132	SIP_GATEWAY
133	WSM_TRUNK
134	REMOTE_DESTINATION_PROFILE

227	7915_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
228	7915_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
229	7916_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
230	7916_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
232	CKEM_36_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
254	UNKNOWN_MGCP_GATEWAY
255	UNKNOWN
302	CISCO_7989
307	CISCO_7911
308	CISCO_7941G_GE
309	CISCO_7961G_GE
335	MOTOROLA_CN622
336	BASIC_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
348	CISCO_7931
358	CISCO_UNIFIED_COMMUNICATOR
365	CISCO_7921
369	CISCO_7906
374	ADVANCED_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
375	CISCO_TELEPRESENCE
404	CISCO_7962
412	CISCO_3951
431	CISCO_7937
434	CISCO_7942
435	CISCO_7945
436	CISCO_7965
437	CISCO_7975
446	CISCO_3911
468	CISCO_UNIFIED_MOBILE_COMMUNICATOR
478	CISCO_TELEPRESENCE_1000
479	CISCO_TELEPRESENCE_3000
480	CISCO_TELEPRESENCE_3200
481	CISCO_TELEPRESENCE_500
484	CISCO_7925
493	CISCO_9971
495	CISCO_6921
496	CISCO_6941
497	CISCO_6961
20000	CISCO_7905
30002	CISCO_7920
30006	CISCO_7970

30007	CISCO_7912
30008	CISCO_7902
30016	CISCO_IP_COMMUNICATOR
30018	CISCO_7961
30019	CISCO_7936
30027	ANALOG_PHONE
30028	ISDN_BRI_PHONE
30032	SCCP_GATEWAY_VIRTUAL_PHONE
30035	IP_STE

**推奨処置**

Cisco Unified Reporting ツールで、Unified CM Multi-Line Devices レポートを実行し、このアラームが示すデバイス上で設定されることが想定される回線数を確認します。デバイスでこのデバイスの Multi-Line レポートと矛盾する回線数が登録されている場合、すべての回線を再登録できるようにデバイスを再起動します。このアラームが解消されない場合は、デバイスで適切な回線数が設定されていることと、適切なディレクトリ番号が設定されていることを確認します。デバイスがサードパーティ製の SIP 電話機の場合、電話機に設定されているディレクトリ番号が、Unified CM の管理ページでデバイスに設定されているディレクトリ番号と一致していることを確認します。

## DeviceTransientConnection

接続が確立されましたが、登録が完了する前にすぐに切断されました。登録が不完全な場合、登録中にデバイスがリホームしている可能性があります。また、このアラームは、デバイスの誤設定、データベース エラー、または不正あるいは不明なデバイスが接続を試行していることを示す場合があります。ネットワーク接続の問題は、デバイスの登録に影響を与える可能性があります。また、プライマリ Unified CM を復元することで登録が中断される可能性があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>• 次の情報が更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– DeviceType の Enum 定義</li> <li>– Enum 定義</li> <li>– IPAddrAttributes の Enum 定義</li> <li>– IPV6AddrAttributes の Enum 定義</li> </ul> </li> </ul>
7.1	次の IPv6 パラメータが追加されました。 IPV6Address[Optional][String]、 IPAddrAttributes[Optional][Enum]、および IPV6AddrAttributes[Optional][Enum]。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告

**パラメータ**

Device IP address [Optional].[String]

Device name [Optional].[String]

Device MAC address [Optional].[String]

Protocol.[String]

Device type.[Optional][Enum]

Reason Code [Optional].[Enum]

Connecting Port [UInt]

Registering SIP User.[Optional].[String]

IPV6Address [Optional].[String]

IPAddressAttributes [Optional].[Enum]

IPV6AddressAttributes [Optional].[Enum]

**DeviceType の Enum 定義**

コード	理由
10	CISCO_VGC_PHONE
11	CISCO_VGC_VIRTUAL_PHONE
30	ANALOG_ACCESS
40	DIGITAL_ACCESS
42	DIGITAL_ACCESS+
43	DIGITAL_ACCESS_WS-X6608
47	ANALOG_ACCESS_WS-X6624
48	VGC_GATEWAY
50	CONFERENCE_BRIDGE
51	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE
52	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_HDV2
53	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_WS-SVC-CMM
62	H323_GATEWAY
70	MUSIC_ON_HOLD
71	DEVICE_PILOT
73	CTI_ROUTE_POINT
80	VOICE_MAIL_PORT
83	SOFTWARE_MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
84	CISCO_MEDIA_SERVER
85	CISCO_VIDEO_CONFERENCE_BRIDGE

90	ROUTE_LIST
100	LOAD_SIMULATOR
110	MEDIA_TERMINATION_POINT
111	MEDIA_TERMINATION_POINT_HARDWARE
112	MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
113	MEDIA_TERMINATION_POINT_WS-SVC-CMM
120	MGCP_STATION
121	MGCP_TRUNK
122	GATEKEEPER
124	7914_14_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
125	TRUNK
126	tone_announcement_player
131	SIP_TRUNK
132	SIP_GATEWAY
133	WSM_TRUNK
134	REMOTE_DESTINATION_PROFILE
227	7915_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
228	7915_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
229	7916_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
230	7916_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
232	CKEM_36_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
254	UNKNOWN_MGCP_GATEWAY
255	UNKNOWN
30027	ANALOG_PHONE
30028	ISDN_BRI_PHONE
30032	SCCP_GATEWAY_VIRTUAL_PHONE

## Enum 定義

コード	理由
1	Unknown : (SCCP のみ) デバイスは不明な理由で登録に失敗しました。このアラームが解消されない場合は、[Enable SCCP Keep Alive Trace] を有効にして SDL/SDI トレースを収集し、TAC にお問い合わせください。
2	NoEntryInDatabase : (MGCP のみ) デバイスが Unified CM の管理ページのデータベース内に設定されておらず、自動登録がそのデバイス タイプに対してサポートされていないか、イネーブルになっていません。この問題を解決するには、このデバイスを Unified CM の管理ページで設定します。
3	DatabaseConfigurationError : デバイスが Unified CM の管理ページのデータベース内に設定されておらず、自動登録がそのデバイス タイプに対してサポートされていないか、イネーブルになっていません。この問題を解決するには、このデバイスを Unified CM の管理ページで設定します。

4	<p><b>DeviceNameUnresolveable</b> : SIP サードパーティ デバイスの場合、Unified CM が、REGISTER メッセージの Authorization ヘッダーからデバイスの名前を特定できなかったことを意味します。Unified CM が 401 Unauthorized メッセージで確認を要求した後、デバイスは Authorization ヘッダーを提供しませんでした。ダイジェスト信用証明書を使用してデバイスが設定されていることと、401 チャレンジに Authorization ヘッダーで応答できることを確認します。この電話機がシスコの IP 電話である場合、設定が同期していない可能性があります。まず Cisco Unified Reporting Web ページを開き、Unified CM Database Status レポートを生成し、「すべてのサーバの複製ステータスが正しいこと」を確認します。DB の複製が正しいと思われる場合は、電話機をリセットします。それでも問題が解決しない場合は、TFTP および Cisco CallManager サービスを再起動します。その他すべてのデバイスで、この原因コードは DNS 検索に失敗したことを意味します。OS の管理の CLI で設定した DNS サーバが正しいことと、デバイスが使用している DNS 名が DNS サーバに設定されていることを確認します。</p>
6	<p><b>ConnectivityError</b> : デバイスが完全に登録される前に、デバイスと Cisco Unified CM の間の接続がドロップしました。考えられる原因としては、デバイスの停電、ネットワークの停電、ネットワークの設定エラー、ネットワーク遅延、パケットドロップ、パケット破損が挙げられます。また、Cisco Unified CM ノードの CPU 使用率が高い場合にもこのエラーが発生する可能性があります。デバイスの電源がオンになっていて稼動していることを確認し、デバイスと Cisco Unified CM の間のネットワーク接続を確認し、CPU 使用率が安全な範囲にあることを確認します（これは、RTMT を使用し、CPU Pegging Alert を通じてモニタできます）。</p>
7	<p><b>InitializationError</b> : デバイス登録の処理中に Cisco Unified CM 内で内部エラーが発生しました。Cisco CallManager サービスを再起動することを推奨します。このアラームが繰り返し発生する場合は、Cisco CallManager サービスで [Enable SIP Keep Alive (REGISTER Refresh) Trace] と [Enable SCCP Keep Alive Trace] をオンにして SDL/SDI 詳細トレースを収集し、TAC にお問い合わせください。</p>
10	<p><b>AuthenticationError</b> : デバイスが TLS または SIP のダイジェストセキュリティ認証に失敗しました。デバイスが SIP 電話機で、ダイジェスト認証がイネーブルになっている場合は ([システム (System)] &gt; [セキュリティプロファイル (Security Profile)] &gt; [電話セキュリティプロファイル (Phone Security Profile)] で、[ダイジェスト認証を有効化 (Enable Digest Authentication)] チェックボックスがオンになっていることを確認)、[エンドユーザ (End User)] 設定ページの [ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)] を確認します。また、電話機の設定ページで、電話機が [ダイジェストユーザ (Digest User)] ドロップボックスで指定したエンドユーザに関連付けられていることを確認します。デバイスがサードパーティ製の SIP 電話機である場合、電話機に設定されているダイジェスト信用証明書が [エンドユーザ (End User)] ページで設定されている [ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)] と一致していることを確認します。</p>
11	<p><b>InvalidX509NameInCertificate</b> : 設定されている「X.509 サブジェクト名」が、デバイスから渡された証明書のものに一致しません。アラームが示すデバイスのセキュリティプロファイルで、「Device Security Mode」が「Authenticated」または「Encrypted」になっていることを確認します。[X.509 の件名 (X.509 Subject Name)] フィールドの内容が正しいことを確認します。これは、ピアから渡された証明書のサブジェクト名に一致する必要があります。</p>
12	<p><b>InvalidTLSCipher</b> : サポートされていない暗号化アルゴリズムがデバイスによって使用されています。Cisco Unified CM では、AES_128_SHA 暗号化アルゴリズムだけがサポートされています。推奨される処置は、デバイスで AES_128_SHA 暗号化アルゴリズムを使用して証明書を再生成することです。</p>
14	<p><b>MalformedRegisterMsg</b> : (SIP のみ) 形式が不正なため SIP REGISTER メッセージを処理できませんでした。原因としては、Call-ID ヘッダーの欠落、To ヘッダー内の AoR の欠落、有効期限の値が小さすぎるのが考えられます。REGISTER メッセージにこれらの問題がないことを確認します。</p>

15	ProtocolMismatch : デバイスのプロトコル (SIP または SCCP) が、Cisco Unified CM で設定されているプロトコルに一致しません。推奨処置 : 1) デバイスで目的のプロトコルが設定されていることを確認します。2) [デバイスのデフォルト (Device Defaults) ] ページのファームウェア ロード ID が正しく、TFTP サーバに実際に存在することを確認します。3) デバイス ページでファームウェア ロード ID が設定されている場合、それが正しく、TFTP サーバに存在することを確認します (Cisco Unified OS の管理ページで、[ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades) ] > [TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management) ] の順に選択し、ロード ID で指定されるファイル名を探します)。4) TFTP と Cisco CallManager サービスを再起動します。Cisco Unified OS の管理の [TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management) ] ページを使用し、設定されているファームウェア ロードが存在することを確認します。
16	DeviceNotActive : デバイスがアクティブ化されていません。
17	AuthenticatedDeviceAlreadyExists : 同じ名前前のデバイスがすでに存在します。このアラームが繰り返し発生する場合は、Cisco CallManager サービスで [Enable SIP Keep Alive (REGISTER Refresh) Trace] と [Enable SCCP Keep Alive Trace] をオンにして SDL/SDI 詳細トレースを収集し、TAC にお問い合わせください。不正なデバイスが登録を試みた可能性があります。
18	ObsoleteProtocolVersion : (SCCP のみ) SCCP デバイスが古いプロトコルバージョンで登録されています。電話機の電源を再投入します。TFTP サービスがアクティブ化されていることを確認します。デバイスから TFTP サーバに到達可能であることを確認します。電話の設定ページでファームウェア ロード ID が設定されている場合は、TFTP サーバにファームウェア ロード ID が存在することを確認します (Cisco Unified OS の管理ページで、[ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades) ] > [TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management) ] の順に選択し、ロード ID で指定されるファイル名を探します)。

### IPAddrAttributes の Enum 定義

コード	理由
0	Unknown : デバイスは、この IPv4 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。
2	Signal only : デバイスは、この IPv4 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

### IPV6AddrAttributes の Enum 定義

コード	理由
0	Unknown : デバイスは、この IPv6 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。
2	Signal only : デバイスは、この IPv6 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal : デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

**推奨処置**

Cisco Unified Reporting ツールで、Unified CM Cluster Overview レポートの Active Services セクションを参照し、フェールオーバー/フォールバック シナリオが完了していないことを確認します。接続を試みている電話機で自動登録が設定されている場合は、自動登録がイネーブルになっていることを確認します。自動登録が意図的にディセーブルになっている場合は、自動登録を試みている電話機を探します。このアラームが示すデバイスについて、Cisco Unified CM の管理ページのデバイス登録の詳細が正しいことを確認します。また、推奨処置について原因コードの定義も参照してください。このイベントがデバイスの通常のリホームの結果として発行された場合、処置は必要ありません。

## DeviceUnregistered

以前 Cisco CallManager に登録されていたデバイスが登録解除されました。原因コードが「CallManagerReset」、「CallManagerRestart」、または「DeviceInitiatedReset」の正常な登録解除の場合、アラームの重大度は情報に下げられます。デバイスは多くの理由で登録解除することがあります。たとえば、設定変更後にデバイスを手動でリセットするという意図的なものや、ネットワーク接続の切断など意図しないものがあります。このアラームのそれ以外の原因としては、電話機がセカンダリノードに登録されていてプライマリノードがオンラインに復旧し、電話機がプライマリ Unified CM ノードにリホームする場合や、このデバイスが登録された Unified CM ノードから KeepAlive が返されないことが考えられます。また、登録解除は、Unified CM がこの同じデバイスから重複する登録要求を受信した場合にも起こります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>• 次の情報が更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– DeviceType の Enum 定義</li> <li>– Enum 定義</li> <li>– IPAddrAttributes の Enum 定義</li> <li>– IPV6AddrAttributes の Enum 定義</li> </ul> </li> </ul>
7.1	次のパラメータが追加されました。IPV6Address、IPAddrAttributes、および IPV6AddrAttributes。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告

**パラメータ**

Device name. [String]

Device MAC address [Optional]. [String]

Device IP address [Optional]. [String]

Protocol. [String]  
 Device type.[Optional] [Enum]  
 Device description [Optional]. [String]  
 Reason Code [Optional]. [Enum]  
 IPV6Address [Optional]. [String]  
 IPAddressAttributes [Optional]. [Enum]  
 IPV6AddressAttributes [Optional]. [Enum]

### DeviceType の Enum 定義

コード	デバイス タイプ
10	CISCO_VGC_PHONE
11	CISCO_VGC_VIRTUAL_PHONE
30	ANALOG_ACCESS
40	DIGITAL_ACCESS
42	DIGITAL_ACCESS+
43	DIGITAL_ACCESS_WS-X6608
47	ANALOG_ACCESS_WS-X6624
48	VGC_GATEWAY
50	CONFERENCE_BRIDGE
51	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE
52	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_HDV2
53	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_WS-SVC-CMM
62	H323_GATEWAY
70	MUSIC_ON_HOLD
71	DEVICE_PILOT
73	CTI_ROUTE_POINT
80	VOICE_MAIL_PORT
83	SOFTWARE_MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
84	CISCO_MEDIA_SERVER
85	CISCO_VIDEO_CONFERENCE_BRIDGE
90	ROUTE_LIST
100	LOAD_SIMULATOR
110	MEDIA_TERMINATION_POINT
111	MEDIA_TERMINATION_POINT_HARDWARE
112	MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
113	MEDIA_TERMINATION_POINT_WS-SVC-CMM
120	MGCP_STATION
121	MGCP_TRUNK
122	GATEKEEPER
124	7914_14_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE

125	TRUNK
126	TONE_ANNOUNCEMENT_PLAYER
131	SIP_TRUNK
132	SIP_GATEWAY
133	WSM_TRUNK
134	REMOTE_DESTINATION_PROFILE
227	7915_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
228	7915_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
229	7916_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
230	7916_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
232	CKEM_36_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
254	UNKNOWN_MGCP_GATEWAY
255	UNKNOWN
30027	ANALOG_PHONE
30028	ISDN_BRI_PHONE
30032	SCCP_GATEWAY_VIRTUAL_PHONE

## Enum 定義

コード	理由
1	Unknown : デバイスは不明な理由で登録解除しました。デバイスが 5 分以内に再登録しない場合は、デバイスの電源が投入されていることと、デバイスと Cisco Unified CM の間のネットワーク接続を確認します。
6	ConnectivityError : デバイスと Cisco Unified CM の間のネットワーク通信が中断されました。考えられる原因としては、デバイスの停電、ネットワークの停電、ネットワークの設定エラー、ネットワーク遅延、パケットドロップ、パケット破損が挙げられます。また、Cisco Unified CM ノードの CPU 使用率が高い場合にもこのエラーが発生する可能性があります。デバイスの電源がオンになっていて稼働していることを確認し、デバイスと Cisco Unified CM の間のネットワーク接続を確認し、CPU 使用率が安全な範囲にあることを確認します（これは、RTMT を使用し、CPU Pegging Alert を通じてモニタできます）。
8	DeviceInitiatedReset : デバイスがリセットを開始しました。電源の再投入や内部エラーが考えられます。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
9	CallManagerReset : Cisco Unified CM の管理ページからデバイスリセットが開始されました。管理者による明示的なコマンドが実行されたか、内部エラーが発生したことが原因です。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
10	DeviceUnregistered : デバイスは明示的に登録解除しました。原因としては、デバイスの IP アドレスまたはポートの変更などが考えられます。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
11	MalformedRegisterMsg : (SIP のみ) 形式が不正なため SIP REGISTER メッセージを処理できませんでした。原因としては、Call-ID ヘッダーの欠落、To ヘッダー内の AoR の欠落、有効期限の値が小さすぎるものが考えられます。REGISTER メッセージにこれらの問題がないことを確認します。

12	<p>SCCPDeviceThrottling : (SCCP のみ) アラームで示される SCCP デバイスは、SCCP デバイスあたりに許可されている最大イベント数を超えました。イベントには、通話のコール、KeepAlive メッセージ、過剰な SCCP または非 SCCP メッセージがあります。許可される最大イベント数は、Cisco CallManager サービス パラメータ Max Events Allowed で制御されます。個々のデバイスがこのサービス パラメータで設定されている数値を超えると、Unified CM によってそのデバイスへの TCP 接続が閉じられ、その後一般に再登録が自動的に実行されます。この動作は、Unified CM への悪意のある攻撃を防いだり、CPU 使用率が高くなりすぎるのを避けることを目的としています。</p>
13	<p>KeepAliveTimeout : KeepAlive メッセージが受信されませんでした。考えられる原因としては、デバイスの停電、ネットワークの停電、ネットワークの設定エラー、ネットワーク遅延、パケットドロップ、パケット破損が挙げられます。また、Cisco Unified CM ノードの CPU 使用率が高い場合にもこのエラーが発生する可能性があります。デバイスの電源がオンになっていて稼動していることを確認し、デバイスと Cisco Unified CM の間のネットワーク接続を確認し、CPU 使用率が安全な範囲にあることを確認します (これは、RTMT を使用し、CPU Pegging Alert を通じてモニタできます)。</p>
14	<p>ConfigurationMismatch : (SIP のみ) デバイス上の設定が Cisco Unified CM の設定に一致しません。こうなる原因としては、データベース複製エラーや、その他の内部的な Cisco Unified CM 通信エラーが考えられます。まず Cisco Unified Reporting Web ページを開き、Unified CM Database Status レポートを生成し、「すべてのサーバの複製ステータスが正しいこと」を確認します。このデバイスが、この原因コードで何度も登録解除する場合は、デバイスの CCMAdmin Device Web ページを開き、[保存 (Save)] をクリックします。これにより Unified CM および TFTP サービスに対する変更通知が生成され、新しい設定ファイルが再構築されます。それでも問題が解決されない場合は、TFTP サービスと Cisco Unified CM サービスを再起動します。</p>
15	<p>CallManagerRestart : 管理者が明示的にコマンドを実行したか、デバイスに関連付けられている DN の追加、削除、変更などの設定変更により、デバイスの再起動が Cisco Unified CM から開始されました。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。</p>
16	<p>DuplicateRegistration : Cisco Unified CM は、デバイスが同時に 2 台のノードに登録しようとしたことを検出しました。Cisco Unified CM は、電話機が 1 台のノードにリホームするよう強制するため、電話機の再起動を開始します。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。</p>
17	<p>CallManagerApplyConfig : ApplyConfig コマンドが Unified CM の管理ページから実行され、その結果登録が解除されました。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。</p>
18	<p>DeviceNoResponse : デバイスがリセット通知または再起動通知に応答しなかったため、強制的にリセットされます。デバイスが 5 分以内に再登録しない場合は、デバイスの電源が投入されていることと、デバイスと Cisco Unified CM の間のネットワーク接続を確認します。</p>

### IPAddrAttributes の Enum 定義

コード	理由
0	Unknown : デバイスは、この IPv4 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。
2	Signal only : デバイスは、この IPv4 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

## IPV6AddrAttributes の Enum 定義

コード	理由
0	Unknown : デバイスは、この IPv6 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。
2	Signal only : デバイスは、この IPv6 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal : デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

## 推奨処置

実施すべき処置は、デバイスの登録解除で指定された原因によって変わります。原因が ConfigurationMismatch の場合は、Cisco Unified CM の管理ページの [デバイス設定 (Device configuration)] ページに移動し、このデバイスの [説明 (Description)] フィールドに変更を加えて保存してから、[保存 (Save)] をクリックし、デバイスをリセットします。ネットワーク接続または KeepAlive の損失の問題の場合は、ネットワーク診断ツールや Cisco Unified CM Reporting ツールを使用して、レポートされたネットワークまたは Unified CM システムのエラーを修正します。デバイスのプライマリ Unified CM ノードへのリホームの場合、デバイスがプライマリ ノードに正常に登録することを確認します。重複する登録要求の場合は、デバイスの登録と登録解除のタイミングによる悪意のない要求と考えられます。重複する登録要求が続く場合や、同じデバイスが異なる IP アドレスを持っている場合は、デバイスの設定を確認することで、物理的なデバイス自身の IP アドレスを確認します ([設定 (settings)] ボタン)。このデバイスの登録解除が予想されたものである場合、処置は不要です。また、推奨処置について原因コードの説明も参照してください。

## DigitAnalysisTimeoutAwaitingResponse

Cisco Unified Communications Manager は、ルーティング要求をポリシー デシジョン ポイントに送信しましたが、応答を受信せずに要求がタイムアウトしました。

Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) は、タイムアウト前にルーティング要求を完了できませんでした。このタイムアウトの原因としては、システム リソースの不足、高い CPU 利用率、この Unified CM ノードでの大量のコール アクティビティが考えられます。Unified CM は、このコールに関連付けられた外部コール制御プロファイルに対して設定されている「障害時のコール処理」の内容を適用します。

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

## 重大度

警告

## ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Translation Pattern Triggering Point (String)

Policy Decision Point (String)

**推奨処置**

- リアルタイム モニタリング ツール (RTMT) で External Call Control オブジェクトを参照し、ExternalCallControlEnabledCallAttemp カウンタが急に増えていないかどうかを確認します。急に増えている場合は、現在非常に大量のコールがあり、システム リソースが減少している可能性があることを示します。
- QueueSignalsPresent2-Normal で永続的な長時間高シグナル キューを確認します。長時間高シグナル キューが存在する場合、Code Yellow アラームがすでに発行されているかどうかと、この Unified CM ノードのシステム CPU およびメモリ使用率を確認します。
- Code Yellow アラームが発生している場合は、Code Yellow アラームの推奨処置に従います。

CPU 使用率が高い場合は、RTMT を使用して、高 CPU 使用率の要因になっている領域を特定します。このアラームが続く場合は、システム パフォーマンス データ (すべてのプロセスのメモリのパーセンテージ、ページおよび VM 使用量、秒あたりのパーティションの読み書きバイト数、CPU 使用パーセンテージ、およびプロセッサの IOWait パーセンテージ) を収集し、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) にお問い合わせください。

## DirSyncNoSchedulesFound

ディレクトリ同期の DB にスケジュールが見つかりません。自動 LDAP ディレクトリ同期を実行できません。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

警告 (4)

**パラメータ**

ScheduleTableName [String]

**推奨処置**

DirSync 設定を確認します。

## DirSyncScheduledTaskTimeoutOccurred

ディレクトリ同期タスクのタイムアウトが発生しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

警告 (4)

**パラメータ**

SchedulerID [String] TaskID [String]

**推奨処置**

DirSync 設定を確認します。

**DRFComponentDeRegistered**

DRF により、要求されたコンポーネントが正常に登録解除されました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFComponentDeRegistered から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

警告 (4)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

登録解除されたコンポーネントが以降のバックアップまたは復元のオペレーションに必要なかどうかを確認します。

## DRFDeRegistrationFailure

DRF が、コンポーネントの登録解除要求に失敗しました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFDeRegistrationFailure から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DRF

### 重大度

警告 (4)

### ルーティング リスト

イベント ログ

システム ログ

### パラメータ

Reason (String)

### 推奨処置

DRF ログを確認し、必要に応じてサポートに連絡します。

## DRFDeRegisteredServer

DRF により、サーバのすべてのコンポーネントが登録解除されました。このサーバは、CCM クラスタから切断された可能性があります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFDeRegisteredServer から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DRF

**重大度**

警告 (4)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

なし

## DRFNoBackupTaken

アップグレード、移行、新規インストールの後、現在のシステムの有効なバックアップが見つかりません。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

警告

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

Disaster Recovery System (DRS; 障害復旧システム) を使用してバックアップを行うことを推奨します。

## DRFSchedulerDisabled

設定された機能がバックアップで使用できないため、DRF スケジューラは無効になっています。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFSchedulerDisabled から名前が変更されました。 ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DRF

### 重大度

警告 (4)

### ルーティング リスト

イベント ログ

システム ログ

### パラメータ

Reason (String)

### 推奨処置

実行するようにスケジュール設定されたバックアップに少なくとも 1 つの機能が設定されていることを確認します。

## EMCCFailedInRemoteCluster

リモート Unified CM で EMCC のログインに失敗しました。EMCC ログインは次の理由で失敗することがあります。

- 設定されているリモート クラスタのいずれにもユーザが存在しない。
- ユーザが EMCC でイネーブルになっていない。
- EMCC ベース デバイスが空いていない。
- リモート クラスタによって EMCC アクセスが拒否されました。
- 接続の確立を試行しているときに、リモート エンドから信頼性のない証明書を受信しました。

原因コード

- 38 : EMCC または PSTN が InterClusterServiceProfile ページでアクティブ化されていません。
- 31 : ユーザが EMCC でイネーブルになっていません。
- 39 : デフォルトおよびバックアップ TFTP サービスが設定されていません。

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/EMAlarmCatalog

### 重大度

警告 (4)

### ルーティング リスト

システム ログ

イベント ログ

Alert Manager

### パラメータ

Device Name (String)

Login Date/Time (String)

Login UserID (String)

Reason (String)

### 推奨処置

次の作業を行います。

- ステップ 1** ユーザが有効な EMCC ユーザであり、ユーザのホーム クラスタが EMCC リモート クラスタとして追加されていることを確認します (Unified CM の管理ウィンドウで、[システム (System)] > [EMCC] > [リモート クラスタ (Remote Cluster)] > [新規追加 (Add New)] の順に選択します)。
- ステップ 2** リモート サイトの管理者に連絡し、EMCC でユーザをイネーブルにしてもらいます (Unified CM の管理ウィンドウで、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] > [ユーザの選択 (Select User)] の順に選択し、[クラスタ間のエクステンション モビリティの有効化 (Enable Extension Mobility Cross Cluster)] チェックボックスをオンにします)。
- ステップ 3** リモート サイトの管理者に連絡し、EMCC ベース デバイスの追加または解放を依頼します (Unified CM の管理ウィンドウで、[一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC の挿入/更新 (Insert/Update EMCC)] の順に選択します)。
- ステップ 4** リモート サイトの管理者に連絡し、このクラスタのリモート クラスタ設定の確認を依頼します。
- ステップ 5** すべての Tomcat 証明書のバンドル (PKCS12) がローカルの tomcat-trust キーストアにインポートされていることを確認します (OS の管理ウィンドウで、[セキュリティ (Security)] -> [証明書の管理 (Certificate Management)] の順に移動します)。

## ErrorParsingResponseFromPDP

Cisco Unified Communications Manager は、ポリシー デシジョン ポイントからのコール ルーティング 応答に含まれる 1 つまたは複数のオプション要素または属性の解析に失敗しました。

ポリシー デシジョン ポイント (PDP) からルーティング応答を受信しましたが、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) が、応答内のオプション要素の解釈に失敗しました。オプション要素には、変更された発信者番号または発信先番号、コール拒否またはコール転送理由などが含まれている可能性があります。原因としては、コール ルーティング応答の構文エラーや属性不足が考えられます。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

警告

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

#### パラメータ

Policy Decision Point (String)

Called Party Number (String)  
 Calling Party Number (String)  
 Calling User Id (String)  
 Request XML Data (String)

#### 推奨処置

ポリシー デシジョン ポイントからのコール ルーティング応答が、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルで外部コール制御について指定されたガイドラインに従って構成されていることを確認します。コール ルーティング応答内のポリシー適用として含まれているオプション要素が、適用される API マニュアルを含め、外部コール制御のマニュアルに従って正しく入力されていることを確認します。

## FailedToFulfillDirectiveFromPDP

Cisco Unified Communications Manager は、PDP から返されたコール ルーティング指令に対応できません。この障害は、次の状況で発生する可能性があります。

- Cisco Unified Communications Manager が PDP で定義された場所にコールをルーティングする前に、コールが CTI アプリケーションによってクリアされた。
- ポリシー サーバによって許可されたコールが、CTI アプリケーションによって宛先にリダイレクトされた。
- PDP でアナンシエータ ID が正しく設定されていない。
- Unified CM が、アナンシエータなどのメディア リソースを起動しようとしたが、空きリソースがなかった。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

警告 (4)

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

#### パラメータ

Policy Decision Point (String)  
 Reason, Unified CM failed to fulfill the directive (String)  
 Called Party Number (String)  
 Calling Party Number (String)  
 Calling User Id (String)

**推奨処置**

多くの場合、障害が発生する原因は、Unified CM が PDP のルーティング ディレクティブを満たす前に CTI アプリケーションによって介入され処理されてしまうことです。CTI アプリケーションを調査し、CTI がコールに対する処理を開始する前に、コールがアラート状態または接続済み状態になっていることを確認します。

アナンシエータ ID の問題が原因で障害が発生している場合は、ID が PDP で正しく設定されていることと、ID が Unified CM の管理ページに存在することを確認します。

メディア リソースの不足が原因で障害が発生している場合は、Cisco IP Voice Media Streaming App サービスで Annunciator Call Count サービス パラメータを増やしてみます。

## H323Stopped

Cisco CallManager は、示された H323 デバイスのコールを処理する準備ができていません。

Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) は、示された H.323 デバイスのコールを処理する準備ができていません。原因としては、Unified CM がゲートウェイ名を IP アドレスに解決できないことが考えられます。トランクの場合、このアラームは、システム管理者が、H.323 トランクをリセットするなど、設定を変更した場合にしか発生しません。H.323 クライアントの場合、プライオリティが高い Unified CM ノードが起動したときに、プライオリティが低い Unified CM ノードでこのアラームが発生しますが、正常な動作です。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	次の情報が更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パラメータ</li> <li>DeviceType の Enum 定義</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告 (4)

**パラメータ**

Device Name. [String] IP Address [String] Device type.[Optional] [Enum]Device description [Optional]. [String] Remote CallManager Server 1[Optional]. [String] Remote CallManager Server 2[Optional]. [String] Remote CallManager Server 3[Optional]. [String]

**DeviceType の Enum 定義**

コード	デバイス タイプ
61	H323_PHONE
62	H323_GATEWAY
122	GATEKEEPER
125	TRUNK

**推奨処置**

サービスが意図的に停止された場合、処置は不要です。ドメイン ネーム システム (DNS) の設定でゲートウェイの名前や IP アドレスに誤りがなく正しいことを確認します。

## InvalidSubscription

IME サーバから、このノードで処理されない登録 ID が格納されたメッセージを受信しました。

IME サーバと通信する各ノードは、各 IME クライアント インスタンスに関連付けられている登録 ID を保存します。IME サーバは、以前送信した登録 ID のどれとも一致しない登録 ID が含まれるメッセージを送信しました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告

**推奨処置**

IME クライアント インスタンスが最近追加または削除された場合、競合状態になっている可能性があります。このエラーが続く場合は、このノードと、このメッセージを送信している IME サーバの間で同期上の問題が存在する可能性があります。

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Subscription Identifier (UInt)

IME Server (String)

## InvalidQBEMessage

アプリケーションからの QBE PDU が無効です。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CtiManager

#### 重大度

警告

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

#### パラメータ

CTI Connection type (String)

#### 推奨処置

このアラームは、TSP/JTAPI が、CTIManager が認識できない QBE PDU を報告したことを示します。影響を受けるアプリケーションのサポート組織に連絡し、JTAPI または TSP プラグインをインストールして、アプリケーションを再起動します。JTAPI または TSP プラグインは、Cisco Unified CM の管理ページの [プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウ ([アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)]) から入手できます。

## IPMAManagerLogout

IPMA マネージャからログアウトしました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

#### 重大度

警告 (4)

#### パラメータ

Servlet Name [String] Reason [String]

#### 推奨処置

ユーザを再ログインするには、このユーザの CCMAAdmin IPMA サービス設定ページの更新をクリックします。

## IPMAStopped

IPMA アプリケーションが停止し、Tomcat からアンロードされました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

#### 重大度

警告 (4)

#### パラメータ

Servlet Name [String] Reason [String]

#### 推奨処置

Tomcat サービスが稼動しているかを確認します。

## kANNAudioFileMissing

Announcement ファイルが見つかりません。アナウンシエータは、アナウンス音声ファイルにアクセスできませんでした。原因としては、カスタム アナウンスがクラスタ内の各サーバにアップロードされていないか、サーバにロケールがインストールされていないことが考えられます。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

#### 重大度

警告

#### ルーティング リスト

SDI

イベント ログ

システム ログ

#### パラメータ

Missing filename (String)

#### 推奨処置

カスタム アナウンスをサーバにアップロードするか、不足しているロケール パッケージをインストールします。

## kANNAudioUndefinedAnnID

要求されたアナウンスが見つかりません。原因としては、カスタム アナウンスに対して正しくないアナウンス ID を使用したことが考えられます。Cisco Unified CM の管理ページを使用して、カスタム アナウンス ID を参照し、正しい ID が使用されていることを確認します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>パラメータ リストが削除されました。</li> </ul>

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

### 推奨処置

アナウンスを追加します。

## kANNAudioUndefinedLocale

不明な ANN ロケールです。アナウンスに対して要求されたロケールがインストールされていません。ネットワーク ロケールに対しては、プラットフォーム CLI インターフェイスを使用して (sql select \* from typecountry where enum = #) を実行します (# はロケール)。これにより、要求されている国ロケールがわかります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>パラメータ リストが更新されました。</li> </ul>

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

**パラメータ**

Locale Type [String]

**推奨処置**

ロケール パッケージをインストールするか、デバイス設定で正しくないロケール値を確認します。

## kANNDeviceStartingDefaults

ANN デバイス設定が見つかりませんでした。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスの ANN デバイス設定に関するサービス パラメータが見つかりませんでした。システムは指定のデフォルト設定で起動します。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「情報」から「警告」に変更されました。</li> <li>パラメータ リストが追加されました。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**パラメータ**

Parameter Name [String]

Value Used [String]

**推奨処置**

Cisco Unified CM の管理ページを使用してサービス パラメータ設定を確認し、ANN デバイス設定を正しく設定します。

## kCFBDeviceStartingDefaults

CFB デバイス設定が見つかりません。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスの CFB デバイス設定に関するサービス パラメータが見つかりませんでした。システムは指定のデフォルト設定を使用します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 重大度は「情報」から「警告」に変更されました。</li> <li>• 次の新しいパラメータが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– Parameter Name (String)</li> <li>– Value Used (String)</li> </ul> </li> </ul>

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

### パラメータ

Parameter Name (String)

Value Used (String)

### 推奨処置

Cisco Unified CM の管理ページを使用してサービス パラメータ設定を確認し、CFB デバイス設定を正しく設定します。

## kChangeNotifyServiceCreationFailed

データベース変更通知サブシステムが開始されません。データベースの変更をアクティブ化するためのバックグラウンドプロセスの開始に失敗しました。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスに影響するデータベースの変更は、自動的に有効になりません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>• 次のパラメータが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– OS Error Code (Int)</li> <li>– OS Error Description (String)</li> </ul> </li> </ul>

### ファシリティ/サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

### パラメータ

OS Error Code (Int)

OS Error Description (String)

### 推奨処置

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動し、DB 通知を再度イネーブルにします。

## kChangeNotifyServiceGetEventFailed

データベース変更通知により、無効な通知イベントが返されました。変更通知サブシステムによって無効な通知イベントが返されました。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスは終了します。SW メディア デバイス (ANN、CFB、MOH、MTP) は一時的にアウト オブ サービスとなり、進行中のコールはドロップされることがあります。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>• 次のパラメータが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– OS Error Code (Int)</li> <li>– OS Error Description (String)</li> </ul> </li> </ul>

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

## 重大度

警告

## パラメータ

OS Error Code (Int)

OS Error Description (String)

## 推奨処置

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスの現在のステータスを確認し、繰り返し発生するかどうかをモニタします。

## kChangeNotifyServiceRestartFailed

データベース変更通知の再開に失敗しました。変更通知サブシステムの再開に失敗しました。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>• 次のパラメータが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– OS Error Code (Int)</li> <li>– OS Error Description (String)</li> </ul> </li> </ul>

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

## 重大度

警告

## パラメータ

OS Error Code (Int)

OS Error Description (String)

## 推奨処置

このサービスの変更通知は無効になっています。後で再有効化するか、Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動してすぐに再有効化してください。

## kDeviceDriverError

IP 音声メディア ストリーミング デバイス ドライバのエラーです。IP 音声メディア ストリーミング デバイス ドライバがエラーを返しました。重大なメディア エラーかリソース不足を示している可能性があります。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

## 重大度

警告

## パラメータ

Error [String]

## 推奨処置

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動することで、エラー状態が解決されることがあります。

## kDeviceMgrCreateFailed

デバイス接続マネージャの開始に失敗しました。デバイス コントローラは、デバイス登録を制御するための CallManager との接続を開始できませんでした。原因としてはメモリ不足が考えられます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

### パラメータ

Device Name [String] Server Name [String]

### 推奨処置

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、Cisco Unified CM サーバを再起動します。

## kDeviceMgrOpenReceiveFailedOutOfStreams

受信のオープンに失敗しました。受信チャンネルのオープンに失敗しました。これは、Cisco Unified Call Manager と Cisco IP Voice Media Streaming App サービスの間のメディア リソースの不一致を示していることがあります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**パラメータ**

Trace Name [String]

**推奨処置**

パフォーマンス モニタのカウンタで、Cisco Unified CM および Cisco IP Voice Media Streaming App についてのリソース使用可否を確認します。また、Platform CLI コマンド「Show Media Streams」を実行して、メディア接続リソース リークを見つけることができます。メディア デバイスをリセットするか、Cisco IP Voice Media Streaming App または Cisco Unified CM サーバを再起動することで問題が解決されることがあります。

**kDeviceMgrRegisterKeepAliveResponseError**

Cisco Unified Communications Manager が応答していません。指定された Cisco Unified Communications Manager は、キープアライブ メッセージに応答していません。Cisco Unified CM との接続を終了中であり、セカンダリが設定されている場合、メディア デバイスは別の Cisco Unified Call Manager に再登録します。セカンダリが設定されていない場合、メディア デバイスは、Cisco Unified CM に再登録できるようになるまで使用不能になります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**パラメータ**

Trace Name [String]

**推奨処置**

Cisco Unified Communications Manager がダウンしているか応答できなくなっている可能性があります。Cisco Unified CM のステータスを確認します。メディア デバイスは自動的に再登録します。

## kDeviceMgrRegisterWithCallManagerError

Cisco Unified Communications Manager で接続エラーが生じました。メディア デバイスが、指定された Cisco Unified Communications Manager に登録され、ソケット エラーまたは切断が発生しました。これは、Cisco Unified Communications Manager が停止されたときに発生しますが、正常です。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

### パラメータ

Trace Name [String]

### 推奨処置

処置は不要です。メディア デバイスは再登録します。

## kDeviceMgrSocketDrvNotifyEvtCreateFailed

このアラームは、メディア ストリーミング カーネル ドライバとの通信のためのシグナリング イベントを作成するときに生成されます。原因としては、メモリまたはシステム リソースの不足が考えられます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
8.0(1)	ルーティング リスト要素が追加されました。重大度がエラーから警告に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告 (4)

**ルーティング リスト**

SDI

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Device Name [String]

Trace Name [String]

OS Error Description [String]

**推奨処置**

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、Cisco Unified Communications Manager サーバを再起動します。

## kDeviceMgrSocketNotifyEventCreateFailed

ソケット イベントの作成に失敗しました。ソケット インターフェイスの通知イベントを作成するときにエラーが報告されました。原因としてはリソース不足が考えられます。メディア デバイスは使用不能のままになります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**パラメータ**

Device Name [String] Trace Name [String] OS Error Description [String]

**推奨処置**

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動し再発生をモニタするか、Cisco Unified CM サーバを再起動します。

## kDeviceMgrStartTransmissionOutOfStreams

送信開始に失敗しました。RTP 送信オーディオ ストリームの開始中にエラーが発生しました。これは、Cisco Unified Communications Manager と Cisco IP Voice Media Streaming App サービスの間のリソースの不一致を示していることがあります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

### パラメータ

Trace Name [String]

### 推奨処置

パフォーマンス カウンタで Cisco Unified CM と Cisco IP Voice Media Streaming App のメディア リソースについてリソース リークがないかどうかを確認します。プラットフォーム CLI コマンド「Show Media Streams」を使用し、孤立したメディア RTP 接続がないかどうかを確認します。

## kDeviceMgrThreadxFailed

スレッドの作成に失敗しました。指定したメディア デバイス用のプロセスを開始するときにエラーが報告されました。原因としては、システム リソースの不足が考えられます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>次のパラメータが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>OS Error Code[Int]</li> <li>OS Error Description [String]</li> </ul> </li> </ul>

### ファシリティ/サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

### パラメータ

Device Name [String] Trace Name [String] OS Error Code [Int] OS Error Description [String]

### 推奨処置

このエラーから回復するには、Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、Cisco Unified CM サーバを再起動します。

## kFixedInputCodecStreamFailed

固定の入力コーデック ストリームを初期化できませんでした。サウンドカードコーデック ソース トランスコーディング プロセスに失敗しました。メモリまたはリソースの不足により、固定オーディオソースが再生されない可能性があります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>次のパラメータが削除されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Audio Source ID [ULong]</li> <li>System error code [ULong]</li> </ul> </li> </ul>

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
CallManager/IpVms

**重大度**  
警告

**パラメータ**  
Error text [String] Codec Type [String]

**推奨処置**  
MOH デバイスをリセットするか、Cisco IO Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。

## kFixedInputCreateControlFailed

固定のストリーム制御を作成できませんでした。固定の MOH オーディオ ソース用のオーディオストリーム制御サブシステムを開始できませんでした。MOH 固定オーディオ ソースからのオーディオはストリーム出力に渡されません。原因としては、メモリなどのリソース不足か、固定の MOH オーディオ ソース デバイスが使用できないことが考えられます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>Audio Source ID [ULong] パラメータが削除されました。</li> </ul>

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
CallManager/IpVms

**重大度**  
警告

**パラメータ**  
Codec Type [String]

**推奨処置**

MOH デバイスをリセットします。障害が続く場合はサーバを再起動します。トレース ファイルとシステム ログのエラーをモニタします。

## kFixedInputCreateSoundCardFailed

固定のストリーム サウンド カード インターフェイスを作成できませんでした。MOH 固定オーディオを提供するためにサウンド カードにアクセスするためのインターフェイスの開始時にエラーが発生しました。おそらくメモリ不足が原因で、オーディオ ソースは再生されません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>Audio Source ID [ULong] パラメータが削除されました。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**パラメータ**

Codec Type [String]

**推奨処置**

MOH デバイスをリセットするか、Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。システム ログと Cisco IP Voice Media Streaming App サービスのログを確認します。

## kFixedInputInitSoundCardFailed

固定のストリーム サウンド カード インターフェイスを初期化できませんでした。サウンド カードを初期化できませんでした。おそらく、USB サウンド デバイスが不明または設定されていないことが原因で、固定オーディオ ソースが再生されません。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>次のパラメータが削除されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Audio Source ID [ULong]</li> <li>System error code [ULong]</li> </ul> </li> </ul>

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

## 重大度

警告

## パラメータ

Error text [String] Device name [String]

## 推奨処置

USB サウンドがインストールされていることを確認します。MOH デバイスをリセットするか、Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。システム ログと Cisco IP Voice Media Streaming App のトレースに追加情報が格納されていることがあります。

## kFixedInputTranscoderFailed

固定の入力オーディオストリーム トランスコーダにエラーが発生しました。サウンドカードからのオーディオのトランスコード中にエラーが発生しました。おそらくサウンドカードへのアクセスエラーが原因で、オーディオソースは再生されません。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>次のパラメータが削除されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Audio Source ID [ULong]</li> <li>System error code [ULong]</li> </ul> </li> </ul>

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**パラメータ**

Error text [String]

**推奨処置**

USB サウンドカードが適切にインストールされていることを確認します。USB サウンドデバイスを抜き、USB コネクタに再度差し込みます。MOH デバイスをリセットするか、Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。

**kGetFileNameFailed**

オーディオ ソース ファイル名の取得の失敗。Music-on-Hold オーディオ ソースがオーディオ ファイルに割り当てられていません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>Audio Source ID [ULong] パラメータが削除されました。</li> </ul>

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**パラメータ**

Codec Type [String]

**推奨処置**

オーディオ ソースをオーディオ ファイルに割り当てるか、MOH オーディオ ソースの値を、設定済みの値に変更します。

## kIPVMSMgrEventCreationFailed

必要なシグナリング イベントを作成できませんでした。シグナリング イベント コンポーネントの作成時にエラーが発生しました。原因としてはリソース不足が考えられます。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスは終了します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

### パラメータ

OS Error Description (String)

### 推奨処置

トレース ファイルで詳細を確認します。サービスは自動的に再起動されます。このエラーが何度も再発する場合は、サーバの再起動が必要な場合があります。

## kIPVMSMgrThreadxFailed

IPVMSMgr スレッドの作成失敗。プロセス スレッドの開始中にエラーが発生しました。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスは終了します。サービスが停止している間、ソフトウェア メディア デバイス (ANN、CFB、MOH、MTP) は使用できません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**パラメータ**

OS Error Description (String)

**推奨処置**

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスのステータスをモニタします。サービスは自動的に再起動されます。エラーが再発する場合は、サーバを再起動します。

**kIpVmsMgrThreadWaitFailed**

イベントの非同期通知を待っている間にエラーが発生しました。Cisco IP Voice Media Streaming App のプライマリ制御プロセスが、非同期イベントが通知されるのを待っている間にエラーが発生しました。このサービスは終了し自動的に再起動されます。これにより一時的にソフトウェアメディアデバイス (ANN、CFB、MOH、MTP) が使用できなくなります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**推奨処置**

ソフトウェアメディアデバイスのサービスとステータスをモニタします。サービスは自動的に再起動されます。問題が続く場合は、トレースファイルで追加情報を確認します。この問題が繰り返される場合は、サーバの再起動が必要な場合があります。

## kMOHMgrCreateFailed

MOH オーディオ ソース サブコンポーネントの開始エラーです。ファイルまたはサウンドカードからオーディオを提供するサブコンポーネントの開始中に、Music-on-Hold デバイスでエラーが発生しました。原因としては、リソース（メモリ）の不足が考えられます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>OS Error Description (String) パラメータが追加されました。</li> </ul>

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

### パラメータ

OS Error Description (String)

### 推奨処置

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。

## kMOHMgrExitEventCreationFailed

MOH マネージャの終了イベントの作成の失敗。シグナリング イベントの割り当て時にエラーが発生しました。原因としてはリソース不足が考えられます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**パラメータ**

OS Error Description (String)

**推奨処置**

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。

## kMOHMgrThreadxFailed

MOH オーディオ マネージャを開始できませんでした。Music-on-Hold オーディオ マネージャ サブコンポーネントの開始時にエラーが発生しました。Music-on-Hold オーディオ サービスは利用できません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>OS Error Description (String) パラメータが追加されました。</li> </ul>

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**パラメータ**

OS Error Description (String)

**推奨処置**

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動します。

## kMTPDeviceRecordNotFound

MTP デバイス レコードが見つかりません。ソフトウェア メディア ターミネーション ポイント デバイスのデバイス レコードがデータベースで見つかりませんでした。一般にこのレコードは、サーバをデータベースに追加するときに自動的にデータベースに追加されます。ソフトウェア MTP デバイスがディセーブルになります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。重大度は「情報」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

### 推奨処置

MTP 機能が必要な場合は、CCMAdmin を使用してサーバを削除し、データベースに再度追加し直す必要があります。警告：この操作では、CallManager グループ、メディア リソース グループなど、さらに多数の設定を適用し直すことが必要になります。

## kRequestedCFBStreamsFailed

CFB の要求されたストリームで障害が発生しました。要求された数の全二重ストリームのためのリソースが利用できません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告

**推奨処置**

CFB コールの数についての Cisco IP Voice Media Streaming App サービス パラメータを確認します。サーバを再起動してストリーム リソースをリセットします。

## kRequestedMOHStreamsFailed

MOH の要求されたストリームで障害が発生しました。要求された数のストリームのためのリソースが利用できません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**推奨処置**

Music-on-Hold デバイスのコール数の設定を確認します。サーバを再起動してリソースをリセットします。

## kRequestedMTPStreamsFailed

MTP の要求されたストリームで障害が発生しました。要求された全二重メディア ターミネーション ポイント ストリームの数に対するリソースが利用できません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告

**推奨処置**

MTP コールの数についての Cisco IP Voice Media Streaming App サービス パラメータの設定が正しいことを確認します。サーバを再起動して利用可能なリソースをリセットします。

## LogCollectionJobLimitExceeded

ログ収集ジョブの数が制限数を超えています。サーバからの同時トレース収集数がトレース収集の上限を超えました。上限は Trace and Log Central のマニュアルで規定されており、システム管理者はこの上限を変更できません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「情報」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TCT-LPMTCT

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/LpmTct

### 重大度

警告

### パラメータ

JobType [String]

### 推奨処置

現在実行中のクエリーを 1 つ以上キャンセルし、トレース収集の設定をやり直します。

## LDAPServerUnreachable

認証サーバに到達できませんでした。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	このリリースで新たに追加されたアラームです。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/IMS

### 重大度

警告

### パラメータ

Message (String)

**推奨処置**

認証サーバへの到達可能性を確認します。

## LogPartitionLowWaterMarkExceeded

ログパーティションの使用済みディスク領域のパーセンテージが、設定されている下限を下回っています。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_TCT-LPMTCT

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/LpmTct

**重大度**

警告

**パラメータ**

UsedDiskSpace [String] MessageString [Optional]. [String]

**推奨処置**

RTMT にログインし、Alert Central で、LogPartitionLowWaterMarkExceeded アラームに設定されているしきい値を確認します。設定されている値が、意図せずデフォルトのしきい値よりも小さい値に設定されている場合は、値をデフォルトに変更します。また、CCM Serviceability のトレース制御ページで各アプリケーションのトレースとログファイルの設定を調べます。設定されているトレース/ログの数が 1000 よりも大きい場合は、トレース設定ページでトレース設定をデフォルトに調整します。また、作成から 1 週間未満のトレースファイルをクリーンアップします。トレースをクリーンアップするには、CLI の「file delete」コマンドを使用するか、RTMT の Trace & Log Central 機能の [Remote Browse] を使用します。

## MaliciousCall

Cisco CallManage で Malicious Call Identification 機能が呼び出されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「情報」から「警告」に変更されました。

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

## 重大度

警告

## パラメータ

Called Party Number [String] Called Device Name [String] Called Display Name [String] Calling Party Number [String] Calling Device Name [String] Calling Display Name [String]

## 推奨処置

処置は必要ありません。

## MaxDevicesPerNodeExceeded

アプリケーションが開いたデバイス数は、CTIManager サービス パラメータの Maximum Devices Per Node で設定されている制限数を超過しています。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiMaxDevicesPerNodeExceeded から名前が変更されました。

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CtiManager

## 重大度

警告

## ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

## 推奨処置

1 つ以上のアプリケーションが制御するデバイス数が、指定された Unified CM ノード上で CTI サポートが許容する数を超過しています。アプリケーションの設定を確認し、制御する必要がないデバイスを削除します。アプリケーションが制御するデバイスの総数が、CTIManager サービス パラメータの Maximum Devices Per Node によって指定されたデバイス制限数に適切に制限されないと、システムの安定性が影響を受けます。

## MaxDevicesPerProviderExceeded

アプリケーションが開いたデバイス数は、CTIManager サービス パラメータの Maximum Devices Per Provider で設定されている制限数を超過しています。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiMaxDevicesPerProviderExceeded から名前が変更されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CtiManager

#### 重大度

警告

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

#### 推奨処置

このアプリケーションが制御しているデバイス数は、CTI サポートの許容数を超過しています。アプリケーションの設定を確認し、制御する必要がないデバイスを削除します。アプリケーションがサポートするデバイス数が、CTIManager サービス パラメータの Maximum Devices Per Provider で CTI によって指定されたデバイス制限数に制限されないと、システムの安定性が影響を受けます。

## MediaResourceListExhausted

要求されたデバイス タイプがメディア リソース リストまたはデフォルト リストに見つからないか、設定されているデバイスが登録されていません。

要求されたデバイスがメディア リソース グループ リストまたはデフォルト リストに設定されていないか、メディア リソース グループ リストまたはデフォルト リストで設定されている 1 つ以上のデバイスが Cisco Unified Communications Manager に登録されていない可能性があります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	MediaResourceType の Enum 定義が更新されました。

#### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

## 重大度

警告 (4)

## パラメータ

Media Resource Type [Enum]Media Resource List Name [String]

## MediaResourceType の Enum 定義

コード	定義
1	MediaTerminationPoint
2	Transcoder
3	ConferenceBridge
9	RSVP Agent

## 推奨処置

まず、Cisco Unified CM の管理ページで、アラームで示されているメディア リソース グループ リスト内のメディア リソース グループに属するデバイスの設定を確認します (Unified CM の管理ページの [メディア リソース グループ リストの設定 (Media Resource Group List Configuration)] ウィンドウと [メディア リソース グループの設定 (Media Resource Group Configuration)] ウィンドウ)。

Cisco Unified CM の管理ページで、要求されたデバイスのタイプが、そのメディア リソース グループ リスト内のメディア リソース グループ内で設定されていることを確認します。RSVP Agent の場合、メディア ターミネーション ポイントまたはトランスコーダが、そのメディア リソース グループ リスト内のメディア グループ リストのいずれかで設定されていることを確認します。次に、Cisco Unified CM の管理ページで [メディア リソース (Media Resources)] メニューを選択し、要求されたタイプのすべてのデバイスを参照し、すべてのメディア リソース グループについて (アラームが生成されたメディア リソース グループ リストに属するかどうかに関係なく)、デバイスが 1 つ以上のメディア リソース グループに属しているかどうかを確認します。

要求されたタイプのメディア リソースのうち、どのメディア リソース グループにも属さないものがある場合、これらのデバイスはデフォルト リストに属します。要求されたデバイスのタイプが、アラームが生成されたメディア リソース グループ リストまたはデフォルト リストのどのメディア リソース グループでも設定されていない場合、要求されたデバイスのタイプを指定のメディア リソース グループ リスト内のメディア リソース グループまたはデフォルト リストに追加します。

メディア リソースをデフォルト リストに追加するには、すべてのメディア リソース グループからメディア デバイスを削除します。一般に、新しいメディア デバイスを最初に Unified CM に追加するとき、自動的にデフォルト リストに追加されます。このデフォルト リストは、どのデバイスまたはトランクでも使用できます。しかし、メディア デバイスを特定のメディア リソース グループに追加した場合、デフォルト リストに属さなくなります。そのメディア リソース グループが含まれるメディア リソース グループ リストを使用して設定されたデバイスまたはトランクだけがそのメディア デバイスを使用できます。

特定のメディア リソース グループは、複数のメディア リソース グループ リストに追加できることに注意してください。要求されたデバイスが Cisco Unified CM の管理ページで適切に設定されている場合は、デバイスが Unified CM に登録されているかどうかを確認します。そのためには、要求されたデバイスのタイプ (アナンシエータ、会議ブリッジ、メディア ターミネーション ポイント、保留音サーバ、トランスコーダなど) の [メディア リソース (Media Resources)] メニューを選択し [検索 (Find)] ボタンをクリックします。そのタイプのすべてのデバイスとそのステータス、デバイス プー

ルなどが表示されます。ステータス フィールドで、Cisco Unified CallManager に登録されていることを確認します。ステータス フィールドの表示は、デバイスが Unified CM に登録されていることの確認にはならないことに注意してください。Unified CM クラスタでは、パブリッシャが Unified CM データベースにしか書き込むことができずにダウンすることがあります。サブスクライバはデータベースに書き込むことができないため、デバイスが登録解除された後であっても、Unified CM の管理ページで録済みと表示されることがあります。ただし、パブリッシャがダウンしている場合、このアラームよりも優先度が高い別のアラームが生成されます。デバイスが登録されていない場合は、デバイスの名前をクリックし、デバイスのタイプを確認します。

Cisco Conference Bridge Software や Cisco Media Termination Point Software などのデバイス タイプ、またはクラスタの Unified CM ノードと同じ名前のサーバ名を示すデバイス タイプは、要求されたデバイスがソフトウェア デバイスであり、Cisco IP Voice Media Streaming アプリケーションの一部であることを示します。その Unified CM ノードで IP Voice Media Streaming App サービスがイネーブルになっていることを確認し (Cisco Unified Serviceability の [Tools] > [Service Activation] の順に選択します)、イネーブルになっている場合は、Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブ化します。デバイスは登録を試みます。また、サービスのステータスが Started になっていることも確認します ([Tools] > [Control Center] > [Feature Services] の順に選択します)。デバイス タイプが、Cisco Conference Bridge Software、Cisco Media Termination Point Software、Unified CM ノードと同じ名前のサーバ名以外の場合、デバイスが Unified CM に外部メディア リソースであることを示します。

Cisco Unified CM の管理ページで設定 (会議ブリッジの場合は会議ブリッジタイプ、MAC アドレス、会議ブリッジ名、メディア ターミネーション ポイントの場合はメディア ターミネーション ポイント名、トランスコーダの場合はトランスコーダ タイプ、MAC アドレス、トランスコーダ名) を確認し、実際のデバイスの設定と比較します。実際のデバイスの設定を確認するには、そのメディア デバイスのユーザ マニュアルを参照することが必要になる場合があります。

ユーザ マニュアルには、メディア デバイスに接続して設定を確認する方法や、設定を参照および更新するために必要なコマンドなどが記載されています。Unified CM での設定と実際のデバイスが異なる場合は、設定が一致するように必要な変更を行います。設定が一致していてもデバイスがまだ登録されない場合は、外部メディア デバイスまたは外部メディア デバイスに関連するサービスを再起動します。外部メディア デバイスが引き続き Unified CM への登録に失敗する場合は、Unified CM とメディア デバイスの間のネットワーク接続を確認します。

## MemAllocFailed

CMI はメモリを割り当てるできませんでした。

Cisco Unified Communications Manager は Cisco Messaging Interface サービス パラメータを読み込もうとしましたが、タスクのために十分なメモリが割り当てられず、情報を読み込むことができませんでした。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	CallManager カタログに追加されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CMIAAlarmCatalog/CMI

#### 重大度

警告

**ルーティング リスト**

イベント ログ

SDI

**パラメータ**

Memory Allocation Failure (String)

**推奨処置**

リアルタイム モニタリング ツールを使用して、システム メモリに関するパフォーマンス カウンタを参照し、メモリ リークまたは CPU 使用率の急激な増加が発生していないかどうか確認します。見つかったメモリの問題を修正します。メモリに関する問題が見つからない場合は、システム/アプリケーション イベント ログとパフォーマンス (perfmon) ログを収集し、このアラームをシスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) に報告します。

## MohNoMoreResourcesAvailable

使用可能な Music On Hold (MOH; 保留音) リソースがなくなりました。

このアラームは、メディア リソース グループ リストおよびデフォルト リストに属する登録済みの全 MOH サーバについて、保留音の割り当てができなかったときに発生します。各 MOH サーバは、さまざまな理由で失敗することがあります。MOH サーバの割り当てができない理由としては、MOH サーバのすべてのリソースが使用中、通話者と MOH サーバの間でコーデックまたは機能の不一致、通話者と MOH ソースの間の帯域幅不足、MOH サーバで使用可能なオーディオ ストリームがないことが考えられます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告

**推奨処置**

MOH サーバのすべてのリソースがすでに使用中である場合は、指定のメディア リソース グループ リストおよびデフォルト リストのメディア リソース グループに属するすべての MOH サーバが、該当するすべての Unified CM ノードで設定および登録されていることを確認します。登録ステータスを確認するには、[メディア リソース (Media Resources)] > [保留音サーバ (Music On Hold Server)] メニューを選択し、[検索 (Find)] ボタンをクリックします。すべての MOH サーバとそのステータス、デバイス プールなどが表示されます。

ステータス フィールドで、Unified CM に登録されているかどうかを確認します。ステータス フィールドの表示は、デバイスが Unified CM に登録されていることの確認にはならないことに注意してください。Unified CM クラスタでは、パブリッシャが Unified CM データベースにしか書き込むことができずにダウンすることがあります。サブスクリバはデータベースに書き込むことができないため、デバイスが実際には登録解除された後であっても、Unified CM の管理ページで登録済みと表示されることがあります。ただし、パブリッシャがダウンしている場合、このアラームよりもプライオリティが高い別のアラームが生成されます。

MOH の割り当ては、エンドポイントと MOH サーバの間でのコーデックの不一致や機能の不一致が原因で発生することもあります。コーデックの不一致や機能の不一致がある場合（エンドポイントが IPv6 アドレッシングを使用し、MOH サーバが IPv4 だけをサポートしている場合など）、MTP またはトランスコーダを割り当てる必要があります。そのため、MTP またはトランスコーダが割り当てられない場合、同じメディア リソース グループ リストに対して `MediaResourceListExhausted` アラーム（Media Resource Type が Media 終端地点またはトランスコーダ）または `MtpNoMoreResourcesAvailable` アラームが生成されるため、まずそれに注目します。

MOH の割り当ては、通話者が属するリージョンと MOH サーバが属するリージョンの間のリージョン帯域幅のチェックの後でも発生する可能性があります。リージョン帯域幅を増やすことがこの問題に対する解決策になることもありますが、そのような決定は、複数のリージョンの間でコールあたりに割り当てる帯域幅の量を慎重に計算した後で行うようにしてください。

利用可能な総帯域幅、平均コール数、MOH サーバを使用する平均コール数、コールあたりに使用される平均帯域幅を慎重に検討し、それに従ってリージョン帯域幅を計算する必要があります。考えられるもう 1 つの原因は、コールに必要な帯域幅が利用できないことです。これは、MOH サーバとエンドポイントが異なる場所に属し、その場所の間で設定されている帯域幅が他のコールですでに使用されている場合に発生します。

展開環境の帯域幅要件を調べ、これらの場所の間の帯域幅を増やすことができるかどうかを判断します。ただし、これら 2 つの場所の間の帯域幅を増やすためには、場合によって、他の場所の間の帯域幅を減らすことが必要であることに注意してください。

詳細については、システム ガイド、SRND、および関連する Unified CM マニュアルを参照してください。帯域幅を減らしたり、多くの帯域幅が必要なコーデックを設定から削除したりすると、コール中の音声の品質が低下する可能性があることに注意してください。ネットワークの総帯域幅を増やすことを検討します。MOH の割り当てができないもう 1 つの理由は、MOH サーバでサポートされるユニキャストまたはマルチキャスト ストリームの最大数に達したことです。

使用可能なすべてのストリームがすでに使用中の場合、割り当てることはできません。最後に、Cisco Unified CM の管理ページで保留音オーディオ ソースの設定ウィンドウを参照し、1 つ以上のオーディオ ソースが設定されていることを確認します。オーディオ ソースが設定されていない場合、オーディオ ファイルをアップロードした後、Cisco Unified CM の管理ページでオーディオ ソースを設定します（詳細については、保留音の設定に関するマニュアルを参照してください）。

## MtpNoMoreResourcesAvailable

メディア ターミネーション ポイントまたはトランスコーダを割り当てるできませんでした。

このアラームは、メディア リソース グループ リストおよびデフォルト リストに属する登録済みの全メディア ターミネーション ポイント（MTP）またはトランスコーダについて、MTP の割り当てができなかったときに発生します。各 MTP またはトランスコーダは、さまざまな理由で失敗することがあります。MTP またはトランスコーダの割り当てに失敗する理由としては、デバイス エンドポイントと MTP/トランスコーダ間の機能の不一致、エンドポイントと MTP/トランスコーダ間でのコーデックの不一致、エンドポイントと MTP/トランスコーダ間での利用可能帯域幅の不足、MTP/トランスコーダ リソースが使用中であることなどが挙げられます。

機能の不一致の原因としては、MTP/トランスコーダが、コールに必要な 1 つ以上の機能をサポートしていないことが考えられます。これには、Transfer Relay Point (QoS またはファイアウォール トラバーサルで必要)、RFC 2833 DTMF (コールの一方の側が DTMF デジットを転送するための RFC 2833 形式をサポートしておらず、他方の側が DTMF デジットを RFC2833 形式で受け取る必要があり、その結果 DTMF デジットが変換される場合に必要)、RFC 2833 DTMF パススルー (この場合、MTP またはトランスコーダはある形式から別の形式に DTMF を変換する必要はありませんが、あるエンドポイントから受信した DTMF デジットをそのまま他のエンドポイントに送信する必要があります)、パススルー (コーデック変換は行われず、メディア デバイスはメディア ストリームを任意のコーデック形式で受信し、コーデック変換を行わずに他方に転送します) IPv4 から IPv6 への変換 (コールの一方の側が IPv4 だけをサポートし、コールの他方の側が IPv6 だけをサポートしている場合、IPv4 パケットと IPv6 パケットの間で必要な変換を実行するために MTP を挿入する必要があります)、またはマルチメディア機能 (オーディオに加えてビデオまたはデータを扱うコールで MTP またはトランスコーダの挿入が必要な場合、マルチメディアをサポートする MTP/トランスコーダが挿入されます)。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>Media Resource List Name パラメータが追加されました。</li> </ul>

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

警告

### パラメータ

Media Resource List Name (String)

### 推奨処置

機能の不一致が原因で RSVP Agent (MTP またはトランスコーダ) の割り当てに失敗する場合、メディア デバイスはその機能 (IPv4 から IPv6 への変換やパススルーなど) をサポートしていないか、その機能がデバイスで設定されていない可能性があります。メディア デバイスのユーザ ガイドおよびマニュアルを参照し、デバイスが必要な機能をすべてサポートしていることを確認してください。また、すべての MTP またはトランスコーダで、サポートされているすべての機能を設定する場合には注意が必要です。

使用しているデバイスによっては、ほとんどの MTP またはトランスコーダでサポートされている機能 (RFC 2833 DTMF または RFC 2833 DTMF パススルー、またはパススルー) や、単一の MTP またはトランスコーダだけでサポートできる機能 (IPv4 から IPv6 またはその逆の変換や、Transfer Relay Point、マルチメディア機能など) があります。たとえば、IPv4 プロトコルだけをサポートしている IP 電話機と、IPv6 プロトコルだけをサポートしている IP 電話機があるとします。

IPv4 専用の電話機と IPv6 専用の電話機の間でコールを行うには、IPv4 と IPv6 の間で変換を実行するように MTP を設定する必要があります。しかし、すべての MTP またはトランスコーダで、サポートされているすべての機能を設定し、1 台の MTP だけが IPv4 から IPv6 への変換をサポートしているとします。この MTP でサポートされているすべての機能 (同じ MRGL またはデフォルト MRGL に属する他のすべての MTP またはトランスコーダもサポートしている機能) を設定した場合、Transfer

Relay Point、RFC 2833 DTMF または RFC 2833 DTMF パススルー、パススルーのいずれかのためにこの MTP が割り当てられる可能性があります。その結果、IPv4 から IPv6 への変換の必要が生じたときに (同じ MRGL またはデフォルト MRGL に属する他の MTP またはトランスコーダはこれをサポートしていません)、この MTP のすべてのリソースが使用中となり、IPv4 から IPv6 への変換の割り当てに失敗する可能性があります。このような問題を避けるため、メディア リソースのプライオリティを設定することを推奨します。

この設定は、メディア リソース グループ リストだけで行うことができ、メディア リソースのデフォルト リストでは設定できません。どのメディア リソース グループ リストでも、すべてのメディア リソース グループには異なるプライオリティがあり、割り当て時には、最初のメディア リソース グループに対して、要求されたメディア デバイスのタイプが使用可能かどうかを常に確認されます。メディア リソース グループ リスト内の最初のメディア リソース グループのプライオリティが最も高くなり、2 番目のメディア リソース グループのプライオリティが次に高くなり、以降同様になります。

すべてのメディア リソース グループとそのプライオリティを確認するには、Cisco Unified CM の管理ページの [メディア リソース (Media Resources)] および [メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)] に移動し、適切なメディア リソース グループ リストをクリックして、[選択されたメディア リソース グループ (Selected Media Resource Groups)] を確認します。上から下に向かってプライオリティが低くなります。そのため、最も基本的な機能に対して選択されるようにする MTP またはトランスコーダを、プライオリティが高いメディア リソース グループに配置し、まれにしか使用されない機能を持つ MTP またはトランスコーダを、プライオリティが低いメディア リソース グループに配置します。MTP/トランスコーダの割り当ては、エンドポイントと MTP/トランスコーダ間のコーデックの不一致によって失敗することがあります。

解決策としては、MTP/トランスコーダでサポートされるすべてのコーデックを設定することが考えられますが (MTP/トランスコーダのユーザ ガイドを参照)、そうすることでコールに過大な帯域幅が割り当てられる可能性があることに注意してください。使用可能な総帯域幅、平均コール数、コールあたりの適切な帯域幅の使用量 (MTP/トランスコーダとは無関係) など、さまざまな要因について慎重に検討し、それに従って MTP/トランスコーダが関係するコールあたりに割り当て可能な最大帯域幅を計算し、それを考慮しつつ MTP およびトランスコーダでサポートされているコーデックを設定する必要があります。メディア デバイスでサポートされているすべてのコーデックを設定し、過大な帯域幅の使用を制限するためにリージョン帯域幅を設定するのも良い考えです (リージョンと場所の設定については、Unified CM のマニュアルを参照してください)。

また、MTP/トランスコーダとエンドポイントの間でリージョン帯域幅を検討した後、エンドポイントと MTP/トランスコーダの間でコーデックの不一致が存在する可能性があります。リージョン帯域幅を増やすことがこの問題に対する解決策になることもあります。そのような決定は、複数のリージョンの間でコールあたりに割り当てる帯域幅の量を慎重に計算した後で行うようにしてください。MTP/トランスコーダが割り当てられないもう 1 つの原因として、コールで利用可能な帯域幅が十分になかったことが考えられます。

これは、MTP/トランスコーダとエンドポイントが異なる場所に属し、その場所の間で設定される帯域幅が他のコールですでに使用されている場合に発生します。展開環境の帯域幅要件を調べ、これらの場所の間の帯域幅を増やすことができるかどうかを判断します。

ただし、これら 2 つの場所の間の帯域幅を増やすためには、場合によっては、他の場所の間の帯域幅を減らすことが必要であることに注意してください。詳細については、システム ガイド、SRND、および関連する Unified CM マニュアルを参照してください。帯域幅を減らしたり、多くの帯域幅が必要なコーデックを設定から削除したりすると、コール中の音声の品質が低下する可能性があることに注意してください。ネットワークで利用可能な総帯域幅を増やすことを検討します。最後に、機能の不一致またはすべてのリソースが使用中であることが原因で MTP またはトランスコーダの割り当てが失敗する場合は、追加の MTP またはトランスコーダ デバイスを設置することを検討します。

## MTPDeviceRecoveryCreateFailed

MTP デバイス リカバリの作成に失敗しました。メディア ターミネーション ポイント デバイスを再起動しようとしたときにエラーが発生しました。原因としては、アプリケーション メモリの不足が考えられます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。また、既存の Routing List 要素とパラメータが追加されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

#### 重大度

警告

#### ルーティング リスト

SDI

イベント ログ

システム ログ

#### パラメータ

OS Error Description (String)

#### 推奨処置

IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。

## NotEnoughChans

要求されたゲートウェイ チャネルを割り当てることができなかったため、コール試行が拒否されました。チャネルが発信コールを行うことができない一般的な理由としては、大量のコールトラフィックによりデバイスの B チャネルがフルに使用されているか、次の理由により B チャネルがアウトオブサービスになったことが挙げられます。近端または遠端でメンテナンスを行うために意図的にチャネルをアウトオブサービスにしたか、Cisco Unified Communications Manager から送信した MGCP コマンドに対し MGCP ゲートウェイがエラーコード 501 または 510 を返したか、Unified CM が送信した MGCP コマンドに MGCP ゲートウェイが 3 回応答しないか、Unified CM と MGCP ゲートウェイの間でイーサネットポートの速度と二重化が一致しません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>Device Name (String) は唯一のパラメータです。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告

**パラメータ**

Device Name (String)

**推奨処置**

ゲートウェイ リソースを追加します。Cisco Unified CM 拡張サービス パラメータを確認します。[B チャンネル メンテナンス ステータス (B-channel Maintenance Status)] を変更して、B チャンネルが意図的にアウト オブ サービスにされているかどうかを確認します。PRI サービス メッセージの Q.931 トレースを確認して、公衆網プロバイダーによって B チャンネルがアウト オブ サービスにされているかどうかを判定します。MGCP ゲートウェイをリセットします。イーサネット ポート上の速度とデバッグ レックスの設定を確認します。

## NoCallManagerFound

Cisco Unified Communications Manager (Cisco Unified CM、旧称 Cisco Unified CallManager) ノードが設定されていません。Cisco Unified Communications Manager Group は存在しますが、それに Cisco Unified CM ノードがグループ メンバーとして設定されていません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kNoCallManagerFound から名前が変更されました。
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TFTP-TFTP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/TFTP

**重大度**

警告

**パラメータ**

Error [String]

**推奨処置**

Cisco Unified CM の管理ページで ([ システム (System) ] > [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group) ] の順に移動)、このアラームで参照された Cisco Unified CM Group に Cisco Unified CM ノードを少なくとも 1 つ設定します。Cisco Unified CM Group は、指定された電話機が属するデバイス プールに含まれます。

## PublishFailed

パブリッシュに失敗しました。

Unified CM は IME 分散キャッシュに番号を格納しようとしたのですが、失敗しました。通常は、IME 分散キャッシュの一時的な問題が原因です。通常の状態では、問題は自動的に修復されます。ただし、この障害の結果、アラームに含まれている E.164 DID が短い期間 IME 分散キャッシュに存在しなくなることに注意してください。その結果、その番号に対して実行された VoIP コールを受信するまでに遅延が生じ、一部の発信者について PSTN を使用し続けることとなります。コールが VoIP 上で実行されない理由を理解しようとする際には、この点に注意してください。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告

**推奨処置**

これらのアラームが単発的に発生している場合は、ユーザ側での処置は不要です。しかし、アラームが大量に発生する場合は、IME 分散キャッシュの問題を意味しており、インターネット接続に問題がある可能性があります。インターネット接続を確認してください。

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

DID (String)

## QRTRequest

ユーザが Quality Report Tool を使用して、問題に関するレポートを送信しました。ユーザの電話機に問題が発生し、ユーザはその問題に関するレポートを送信しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	Data Collector ルーティング リスト要素は Alert Manager に変更されました。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_CBB-CALLBACK

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
CallManager/CEF

**重大度**  
警告 (4)

**ルーティング リスト**  
SDI

システム ログ  
イベント ログ  
Alert Manager  
SNMP トラップ

**パラメータ**  
Category (String)  
Reason Code (String)  
Report Timestamp (String)  
Device name (String)  
Device IP address (String)  
Directory number (String)

**推奨処置**  
報告された問題の原因を調査します。

## RejectedRoutes

Untrusted ステータスが原因でルートが拒否されました。

このアラームは、Unified CM が IME サーバからルートを学習したときに生成されます。ただし、設定されている Trusted または Untrusted リストのために、ルートが拒否されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
CallManager/CallManager

**重大度**  
WARNING\_ALARM

**推奨処置**  
この状態はエラーではありません。しかし、ユーザの 1 人が、IME 経由で到達可能であるものの、Trusted リストまたは Untrusted リストが設定されているために、IME コールが行われないことを示しています。ドメインまたはプレフィックスを Trusted リストに追加するか、Untrusted リストから削除することを検討します。

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Domain name (String)

Phone number (String)

## RouteListExhausted

示されたルート リストで使用可能なルートが見つかりませんでした。このアラームは、すべてのメンバーのステータスが使用不能かビジーの場合や、メンバーがダウン（アウト オブ サービス）、未登録、ビジーの場合に生成されます。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告 (4)

**パラメータ**

Route List Name [String]

**推奨処置**

アラームが示すルート リストでルートを追加することを検討します。共有回線で一部の電話機が呼び出されない場合、共有回線の電話機のビジー トリガーと最大コール設定を参照し、その DN に未処理のコールがないか確認します。

1 台の共有回線電話機が着信コールに応答し、他の共有回線電話機でその `remote-in-use` コールが認識できない場合は、コールに応答する電話機のプライバシー設定を確認します。

ルート リストを迂回して直接メンバーにコールし、デバイスまたは接続性に問題がないことを確認します。これらの手順で原因を特定できない場合は、CCM (SDI) トレースを収集し、シスコ テクニカル アシスタンス センターに問い合わせます。TAC は、このアラームの追加の説明を提供する原因コードを特定できることがあります。

## ServiceStartupFailed

サービス起動の障害です。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/ 汎用

**重大度**

警告 (4)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

サービスを再起動します。

## ServingFileWarning

ファイル要求の処理中にエラーが発生しました。このアラームは、ファイル要求の処理中に、要求されたファイルがサーバで見つからなかったり、「Reason」句でその他のエラーが示された場合に発生する可能性があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	kServingFileWarning から名前が変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TFTP-TFTP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/TFTP

**重大度**

警告 (4)

**パラメータ**

ErrorNumber [Int] FileName [String] IPAddress\_Port [String] Mode [String] OpCode [Int]  
Reason [String]

**推奨処置**

このアラームで表示される理由が「ファイルが見つかりません」であり、そのファイル名が、自動登録されている電話機の MAC アドレスに基づいている場合は、このアラームを無視してかまいません。この場合、電話機はデータベースにまだ登録されていないので、電話機のファイルが見つからないのは当然です。自動登録が無効になっている場合、このアラームは Cisco Unified Communications Manager (Cisco Unified CM) に電話機またはデバイスが追加されていないことを示します。Cisco Unified CM に電話機を追加するか、ネットワークから電話機を削除します。電話機を削除してもこのエラーが表示される場合、Cisco Unified Serviceability に移動し、[Trace Configuration] ウィンドウで TFTP サービスの [Detailed] レベルのトレースを有効にして、シスコテクニカルアシスタンスセンター (TAC) までお問い合わせください。

## SparePartitionHighWaterMarkExceeded

予備パーティションの使用済みディスク領域のパーセンテージが、設定されている上限を超えています。予備パーティションの使用済みディスク領域のパーセンテージが、設定されている下限を下回るまで、いくつかのトレース ファイルがパージされます。



(注) Intercompany Media Engine サーバでは、予備パーティションは使用されません。そのため、Intercompany Media Engine ではこのアラートはトリガーされません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TCT-LPMTCT

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/LpmTct

### 重大度

警告

### パラメータ

UsedDiskSpace [String] MessageString [Optional]. [String]

### 推奨処置

RTMT にログインし、Alert Central で、SparePartitionHighWaterMarkExceeded アラートに設定されているしきい値を確認します。設定されている値が、意図せずデフォルトのしきい値よりも小さい値に設定されている場合は、値をデフォルトに変更します。

最初のアラートを受信した後 30 分間このアラートを受信し続ける場合は、RTMT の [Disk Usage] タブで予備パーティションのディスク使用率を確認します。このタブに表示されているディスク使用率が SparePartitionLowWaterMarkExceeded アラート設定で設定されている値よりも大きい場合は、TAC に問い合わせ、共通パーティションのディスク使用率が高い原因をトラブルシューティングします。

## SSOuserNotInDB

ユーザがデータベースで見つかりませんでした。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	このリリースで新たに追加されたアラームです。

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

## 重大度

警告

## パラメータ

Message (String)

## 推奨処置

手動で同期を実行するか、スケジュールされた次の同期まで待ちます。

## SIPStopped

Cisco CallManager は、示された SIP デバイスのコールを処理する準備ができていません。原因としては、内部的なデータベース エラー、SIP デバイスがこのノードでアクティブ化されていない、SIP デバイスの登録失敗、SIP デバイスが管理ページから削除されていることが考えられます。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	InTransportType および OutTransportType の Enum 定義が更新されました。 推奨処置が変更されました。
7.0(1)	IPV6Address パラメータが追加されました。

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

## 重大度

警告 (4)

## パラメータ

Device Name. [String] IP Address [String] Device type.[Optional] [Enum]Device description [Optional]. [String] Incoming Port Number. [UInt] Outgoing Port Number. [UInt] Incoming Transport Type [Enum]Outgoing Transport Type [Enum]IPV6Address [Optional]. [String]

## DeviceType の Enum 定義

131—SIP\_TRUNK

**InTransportType の Enum 定義**

コード	定義
1	TCP
2	UDP
3	TLS
4	TCP/UDP

**OutTransportType の Enum 定義**

コード	定義
1	TCP
2	UDP
3	TLS

**推奨処置**

このアラームは必ずしもエラーを意味するわけではありません。通常の管理上の変更の結果発生することもあります。アラームが予期せぬものである場合、StationPortInitError アラームも発生しているかどうかを確認します。このアラームが示す SIP デバイスに割り当てられているデバイス プールについて、デバイス プールの Cisco Unified Communications Manager グループに、アラームが発生した Unified CM ノードが含まれていることを確認します。

## SIPLineRegistrationError

Session Initiation Protocol (SIP; セッション開始プロトコル) 回線が CallManager への登録を試行しましたが、原因コードのパラメータに示されたエラーのために失敗しました。このアラームは、デバイスの誤設定、データベース エラー、または不正あるいは不明なデバイスが接続を試行していることを示す場合があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>DeviceType の Enum 定義が更新されました。</li> <li>Enum Reasons の表が更新されました。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告

**パラメータ**

Device IP address. [String] Device Port. [UInt] Device name [Optional]. [String] Device MAC address [Optional]. [String] Device type.[Optional] [Enum]Reason Code [Optional]. [Enum]Connecting Port [UInt] Configured DNSs. [String] Registering SIP User. [String]

**DeviceType の Enum 定義**

コード	デバイス タイプ
1	CISCO_30SP+
2	CISCO_12SP+
3	CISCO_12SP
4	CISCO_12S
5	CISCO_30VIP
6	CISCO_7910
7	CISCO_7960
8	CISCO_7940
9	CISCO_7935
12	CISCO_ATA_186
20	SCCP_PHONE
61	H323_PHONE
72	CTI_PORT
115	CISCO_7941
119	CISCO_7971
255	UNKNOWN
302	CISCO_7989
307	CISCO_7911
308	CISCO_7941G_GE
309	CISCO_7961G_GE
335	MOTOROLA_CN622
336	BASIC_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
348	CISCO_7931
358	CISCO_UNIFIED_COMMUNICATOR
365	CISCO_7921
369	CISCO_7906
374	ADVANCED_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
375	CISCO_TELEPRESENCE
404	CISCO_7962
412	CISCO_3951
431	CISCO_7937
434	CISCO_7942
435	CISCO_7945
436	CISCO_7965

437	CISCO_7975
446	CISCO_3911
468	CISCO_UNIFIED_MOBILE_COMMUNICATOR
478	CISCO_TELEPRESENCE_1000
479	CISCO_TELEPRESENCE_3000
480	CISCO_TELEPRESENCE_3200
481	CISCO_TELEPRESENCE_500
484	CISCO_7925
493	CISCO_9971
495	CISCO_6921
496	CISCO_6941
497	CISCO_6961
20000	CISCO_7905
30002	CISCO_7920
30006	CISCO_7970
30007	CISCO_7912
30008	CISCO_7902
30016	CISCO_IP_COMMUNICATOR
30018	CISCO_7961
30019	CISCO_7936
30035	IP_STE

## Enum 原因

コード	理由
2	MisconfiguredDirectoryNumber : 電話機で設定されているディレクトリ番号と、Cisco Unified CM データベースで設定されているディレクトリ番号が一致しません。この電話機がサードパーティ製である場合は、電話機の設定が正しいことと、Cisco Unified CM の設定に一致することを確認します。この電話機がシスコの IP 電話である場合は、Unified CM Database Status レポートで、データベースの複製が「good status」になっていることを確認します。これは、Cisco Unified Reporting Web ページで参照できます。データベースの複製ステータスが正常な場合は、デバイスをリセットします。問題が続く場合は、TFTP サービスと Cisco Unified CM サービスを Control Center - Feature Services Web ページから再起動します。
3	MalformedRegisterMessage : Cisco Unified CM は、メッセージ形式の問題が原因で、REGISTER メッセージを処理できません。デバイスがサードパーティ製の電話機である場合は、エンドポイントが適切な形式の REGISTER メッセージを送信していることを確認します。

4	<p><b>AuthenticationError</b> : 電話機から送信されたダイジェスト ユーザ ID またはパスワードが、Cisco Unified CM で設定されているユーザ ID またはパスワードと一致しません。ダイジェスト ユーザ ID は、電話の設定ページの [ダイジェスト ユーザ (Digest User)] ドロップダウン ボックスで電話機に関連付けられたエンドユーザです。パスワードは [エンド ユーザ (End User)] ページの [ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)] ボックスで設定します。この電話機がサードパーティ製である場合は、ダイジェスト信用証明書が [エンド ユーザ (End User)] Web ページで設定されているダイジェスト信用証明書と一致することを確認します。この電話機がシスコの IP 電話である場合は、Unified CM Database Status レポートで、データベースの複製が「good status」になっていることを確認します。これは、Cisco Unified Reporting Web ページで参照できます。データベースの複製ステータスが正常な場合は、デバイスをリセットします。問題が続く場合は、TFTP サービスと Cisco Unified CM サービスを Control Center - Feature Services Web ページから再起動します。</p>
6	<p><b>MaxLinesExceeded</b> : 電話機が許可される回線を超える回線に登録しようとしています。デバイスあたりの最大回線数は 1024 です。このデバイスで設定されている回線数を減らします。</p>
7	<p><b>TransportProtocolMismatch</b> : REGISTER メッセージを受信したトランスポート プロトコル (UDP、TCP、または TCL) が正しくありません。デバイスがサードパーティ製の電話機である場合は、電話機が CCMAdmin のデバイス ページで電話機に割り当てられている Phone Security Profile と一致するトランスポート プロトコルを使用していることを確認します。デバイスがシスコの電話機である場合は、Unified CM Database Status レポートで、データベースの複製が「good status」になっていることを確認します。これは、Cisco Unified Reporting Web ページで参照できます。データベースの複製ステータスが正常な場合は、デバイスをリセットします。問題が続く場合は、TFTP サービスと Cisco Unified CM サービスを Control Center - Feature Services Web ページから再起動します。</p>
8	<p><b>BulkRegistrationError</b> : 予期せぬ一括登録メッセージを受信しました。このアラームが繰り返し発生する場合は、Cisco CallManager で [SIP キープアライブ (REGISTER Refresh) トレースをイネーブルにする (Enable SIP Keep Alive (REGISTER Refresh) Trace)] をイネーブルにして SDL/SDI 詳細トレースを収集し、TAC にお問い合わせください。</p>

### 推奨処置

デバイス自身のディレクトリ番号が、Cisco Unified CM の管理ページでそのデバイスに設定されているディレクトリ番号に一致することを確認します。また、データベースの複製が機能していることを確認します。その他の推奨処置について原因コードの定義を参照してください。

## SIPTrunkPartiallyISV

一部のリモート ピアでこの SIP トランクのコールを処理できません。

このアラームには、使用可能なリモート ピアをセミコロンで区切った一覧と、使用できないリモート ピアをセミコロンで区切った一覧が示されます。使用可能なピアごとに、解決された IP アドレス、ポート番号、およびホスト名または SRV (SIP トランクで設定されている場合) が示されます。使用できないピアごとに、ホスト名または SRV (SIP トランクで設定されている場合)、解決された IP アドレス、ポート番号、および原因コードが ReasonCodeType=ReasonCode の形式で示されます。

ReasonCodeType は、SIP RFC で定義されるリモート ピアからの SIP 応答 (リモートの場合)、または Unified CM から提供される原因コード (ローカルの場合) によって異なります。

考えられる原因コードの例を次に示します。

- Remote = 503 (標準の SIP RFC エラー コードである「503 サービス使用不可」)
- Remote = 408 (標準の SIP RFC エラー コードである「408 要求タイムアウト」)
- Local = 1 (「要求タイムアウト」)

- Local = 2 (ローカルの SIP スタックでリモートピアとのソケット接続を作成できない)
  - Local = 3 (DNS クエリーの失敗)
- Local = 3 の場合、アラームには IP アドレスが 0 と示されます。また、DNS SRV が SIP トランクで設定されていれば、ポートが 0 と示されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• このリリースで新たに追加されたアラームです。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

SIP Trunk Name (String)

Unavailable remote peers with Reason Code (String)

Available remote peers for this SIP trunk (String)

**推奨処置**

使用可能なピアの一覧は通知だけを目的としているため、処置は必要ありません。使用できないピアについては、次の修正処置を行います。

- Remote = 503 の原因としては、次のことが考えられます。
  - 発信側のルートまたは SIP トランクがリモートピアに存在しません。リモートピアが Unified CM の場合は、リモートピアの Unified CM の管理ページで新しい SIP トランクを追加し ([デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] の順に選択)、[接続先アドレス (Destination Address)] フィールドと [接続先ポート (Destination Port)] フィールドが発信側ホストを参照するように設定されていることを確認します (発信側ホストは、このアラームが生成されたノードと同じノードです)。また、新しい SIP トランクに関連付けられた SIP トランクセキュリティプロファイルの着信ポートに発信側の SIP トランクの接続先ポートと同じポートが設定されていることを確認します。

- 発信側のルートまたは SIP トランクがリモート ピアに存在しませんが、SIP 電話機または別の SIP トランクにポートが使用されています。リモート ピアが Unified CM の場合は、リモート ピアの Unified CM の管理ページで ([ デバイス (Device) ] > [ トランク (Trunk) ] の順に選択)、関連付けられた SIP トランク セキュリティ プロファイルの着信ポートに発信側の SIP トランクの接続先ポートと同じポートが設定されていることを確認します。
- リモート ピアで、新しいコールを処理するリソースが制限されています。別のシステム管理者が管理するリモート ピアの場合は、その管理者にリソースの問題について相談します。
- Remote = 408 の原因としては、次のことが考えられます。
  - リモート ピアで、新しいコールを処理するリソースが制限されています。別のシステム管理者が管理するリモート ピアの場合は、その管理者にリソースの問題について相談します。
- Local = 1 の原因としては、発信側の SIP トランクに割り当てられた SIP トランク セキュリティ プロファイルで UDP トランスポートが設定されている場合に、再試行がすべて終了しても OPTIONS 要求に対する応答が得られなかったことが考えられます。

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- リモート ピアが Unified CM の場合は、リモート ピアの Serviceability アプリケーションで、[Tools] > [Control Center] ([Feature Services]) の順に選択し、Cisco CallManager サービスがアクティブ化されて開始されていることを確認します。
- リモート ピアの Unified CM の管理ページで、[デバイス (Device) ] > [ トランク (Trunk) ] の順に選択し、関連付けられた SIP トランク セキュリティ プロファイルの着信ポートが発信側の SIP トランクの接続先ポートと同じポートに設定された SIP トランクが存在することを確認します。
- 発信側で、CLI コマンド `utils network ping <remote peer>` を使用してネットワーク接続を確認します。
- Local = 2 の原因としては、Unified CM でリモート ピアとのソケット接続を作成できないことが考えられます。

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- リモート ピアが Unified CM の場合は、リモート ピアの Serviceability アプリケーションで、[Tools] > [Control Center] ([Feature Services]) の順に選択し、Cisco CallManager サービスがアクティブ化されて開始されていることを確認します。
- リモート ピアの Unified CM の管理ページで、[デバイス (Device) ] > [ トランク (Trunk) ] の順に選択し、関連付けられた SIP トランク セキュリティ プロファイルの着信ポートが発信側の SIP トランクの接続先ポートと同じポートに設定された SIP トランクが存在することを確認します。
- 発信側で、CLI コマンド `utils network ping <remote peer>` を使用してネットワーク接続を確認します。
- Local = 3 の原因としては、DNS サーバに到達できないか、ローカルの SIP トランクで設定されたホスト名または SRV を解決するように DNS が適切に設定されていないことが考えられます。

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- OS の管理ページで、[表示 (Show) ] > [表示 (Show) ] の順に選択し、DNS の詳細が正しいことを確認します。正しくない場合は、CLI コマンド `set network dns primary` を使用して、DNS サーバの正しい情報を設定します。
- CLI コマンド `utils network ping <remote peer>` を使用して DNS サーバとのネットワーク接続を確認し、DNS サーバが適切に設定されていることを確認します。

## SoftwareLicenseNotValid

有効なソフトウェア ライセンスがありません。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを利用するには、有効なソフトウェア ライセンスが必要です。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

#### 重大度

警告

#### ルーティング リスト

SDI

イベント ログ

システム ログ

#### 推奨処置

有効なソフトウェア ライセンスをインストールし、Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動します。

## StationEventAlert

端末デバイスが、このアラームを生成するためにデバイスからのコンジットとして機能する Cisco Unified Communications Manager にアラートを送信しました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

#### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

警告

**パラメータ**

Protocol [String] TCP ProcessID [String] Device Text [String] Param1 [UInt] Param2 [UInt]

**推奨処置**

このアラームによって渡されるデバイス タイプと情報を参照し、適切な処置を決定します。

## TestAlarmWarning

警告アラームのテストです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/テスト

**重大度**

警告 (4)

**推奨処置**

なし

## TotalProcessesAndThreadsExceededThresholdStart

プロセスおよびスレッドの現在の合計数が、Cisco RIS Data Collector サービス パラメータに設定されている最大タスク数を超えています。この場合、あるプロセスがリークしているか、あるプロセスでスレッドリークが発生している可能性があります。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/System アクセス

**重大度**

警告 (4)

**パラメータ**

NumberOfProcesses [String] NumberOfThreads [String] Reason [String]  
ProcessWithMostInstances [String] ProcessWithMostThreads [String]

**推奨処置**

Cisco RIS Data Collector サービス パラメータの Maximum Number of Processes and Threads を調べて、このパラメータが低い値に設定されているかを確認します。低い値に設定されている場合、より高い値を設定するか、デフォルト値を使用します。その他の処置として、Cisco Unified Communications Manager (Cisco Unified CM) に新しいシスコ製品を統合するときに、新しいプロセスまたはスレッドをシステムに追加することもできます。処理の負荷が通常の場合でも、プロセスおよびスレッドの合計

数が Cisco RIS Data Collector サービス パラメータの Maximum Number of Processes and Threads に設定された値またはそのデフォルト値を超えている可能性があります。このパラメータを最大許容値に設定します。

また、このアラームの詳細を確認して ProcessWithMostThreads および ProcessWithMostInstances の説明を確認し、スレッドおよびインスタンスが最も多く含まれるプロセスを特定することができます。これらの値がこのプロセスにとって適切かどうかを判断します。適切ではない場合、このプロセスのオーナーに連絡し、スレッド カウントまたはプロセス インスタンス数が非常に高い原因を突き止めて解決します。また、Cisco RIS Data Collector が誤ったアラームを送信した可能性もあります。この場合、Cisco RIS Data Collector サービスに不具合が生じていることとなります。

これがアラームの原因であるかどうかを判断するには、ここで説明しているその他のすべてのエラーを確認した後で、RTMT を使用し、System オブジェクトでパフォーマンス カウンタの Total Threads and Total Processes を調べ、このカウンタの値が Cisco RIS Data Collector サービス パラメータの Maximum Number of Processes and Threads に設定された値を超えていないかどうかを確認します。このカウンタに表示される値がサービス パラメータに設定された値よりも高くない場合は、Cisco RIS Data Collector サービスを再起動します。サービスを再起動してもアラームが解消されない場合は、Cisco Unified Serviceability に移動して ([Trace] > [Configuration] で)、Cisco Syslog、Cisco RIS Data Collector、Cisco AMC Service、および Cisco RIS Perfmon Logs のトレース ログを収集してから、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) に詳細についてお問い合わせください。

## ThreadKillingError

CMI が CMI サービスを停止しようとしたときにエラーが発生しました。

CMI サービスを停止する処理の正常な一部として、オープンされているスレッドがクローズされました (削除されました)。このアラームは、タイムアウトが発生したことを示しており、シャットダウン処理が予想よりも長い時間かかったことが原因でオペレーティング システムがエラーを返したことを意味します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kThreadKillingError から名前が変更されました。 MediaResourceType の Enum 定義が更新されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CMIAAlarmCatalog/CMI

#### 重大度

警告

#### ルーティング リスト

イベント ログ

SDI

#### パラメータ

Error Information (String)

**推奨処置**

CMI サービスを再起動します。問題が続く場合は、システム/アプリケーション イベント ログとパフォーマンス (perfmon) ログを収集し、シスコ テクニカル アシスタンス センター (TAC) にお問い合わせください。

## UnableToSetorResetMWI

メッセージ受信インジケータ (MWI) のランプを設定中に、エラーが発生しました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

警告

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Directory Number (String)

**推奨処置**

ターゲット回線の MWI ランプを設定する要求を発行している回線では、ターゲット回線に到達できるようにパーティションおよびコーリング サーチ スペースが適切に設定されていない可能性があります。ターゲット回線の MWI の設定を要求している回線のパーティションおよびコーリング サーチ スペースを確認します。ターゲット回線は、MWI の設定を試行している回線からコールを受信できる必要があります。

## UserInputFailure

ユーザ クレデンシャルが無効かクレデンシャルの有効期限切れにより、ユーザ入力が無効なため、EMCC のログインに失敗しました。原因コード：2：認証エラー。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/EMAlarmCatalog

**重大度**

警告 (4)

**ルーティング リスト**

システム ログ

イベント ログ

Alert Manager

**パラメータ**

Device Name (String)

Login Date/Time (String)

Login UserID (String)

Reason (String)

**推奨処置**

有効なクレデンシャルを使用して再試行するか、クレデンシャルをリセットします。

## UserUserPrecedenceAlarm

User-to-user IE が宛先に正常にトンネリングされませんでした。詳細については原因コードを参照してください。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。</li> <li>• Enum 定義が更新されました。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

警告

**パラメータ**

Device Name. [String] Reason Code [Enum]

## Enum 定義

コード	定義
2	<p><b>HopCountExceeded</b>: 通過する User-to-User IE のホップ カウントが最大値の 10 を超えました。原因としては、Unified CM トランク インターフェイス (PRI、クラスタ間トランクなど) 間にルーティング ループが存在することが考えられます。推奨される処置は、アラームが示す失敗したコールに関連する Unified CM トランク インターフェイス (PRI、クラスタ間トランクなど) とゲートウェイ (H.323) デバイス間にルーティング ループが存在しないことを確認することです。アラームが示す失敗したコールのルーティングにかかわるすべての Unified CM ノードのトレース ファイルおよび CDR データと、ゲートウェイ (H.323) のルート パターンを調べることで、ループの一部となっている変換パターン、ルート リストなどのルーティング メカニズムを検出できることがあります。ループの原因となっているルーティング メカニズムを更新し、ループしているルート パターンが Unified CM にあった場合は、影響のあるルート リスト/パターンをリセットして、ルート ループをクリアします。それがうまくいかない場合は、影響のあるトランク/ゲートウェイをリセットするか、ループしているルート パターンが H.323 ゲートウェイ上にある場合は、ゲートウェイを再起動します。</p>
3	<p><b>UserUserIEDropped</b>: 通過する UserUserIE はドロップされました。アラームが示すデバイスが H.323 クラスタ間トランクである場合は、原因として、Unified CM の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンになっていないことが考えられます。推奨処置は、[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスをオンにすることです。アラームが示すデバイスが MGCP ゲートウェイで、そのデバイス プロトコルが [デジタル アクセス PRI (Digital Access PRI)] に設定されている場合、原因としては受信 UUIE メッセージにおいて、IEID が USER_USER_IE (126) に設定されていないか、ユーザ固有のプロトコル ID 値が PRI_4ESS_UUIE_DEFAULT_PROT_DISC (0x00) にセットされていないことが考えられます。推奨される処置は、設定されている PRI トランク インターフェイスの遠端側が PRI 4ESS UUIE ベースの MLPP をサポートしており、かつ IEID 値が USER_USER_IE (126) に設定された UUIE メッセージを送信していることと、ユーザ固有のプロトコル ID が PRI_4ESS_UUIE_DEFAULT_PROT_DISC (0x00) に設定されていることを確認することです。</p>

## 推奨処置

**HopCountExceeded** アラームでの推奨される処置は、指定の失敗したコールに関連する Unified CM トランク インターフェイス (PRI、クラスタ間トランクなど) とゲートウェイ (H.323) デバイス間にルーティング ループが存在しないことを確認することです。アラームが示す失敗したコールのルーティングにかかわるすべての Unified CM ノードのトレース ファイルおよび CDR データと、ゲートウェイ (H.323) のルート パターンを調べることで、ループの一部となっている変換パターン、ルート リストなどのルーティング メカニズムを検出できることがあります。

ループの原因となっているルーティング メカニズムを更新し、ループしているルート パターンが Unified CM にあった場合は、影響のあるルート リスト/パターンをリセットして、ルート ループをクリアします。それがうまくいかない場合は、影響のあるトランク/ゲートウェイをリセットするか、ループしているルート パターンが H.323 ゲートウェイ上にある場合は、ゲートウェイを再起動します。コール失敗の原因が **UserUserIEDropped** で、アラームが示すデバイスが H.323 クラスタ間トランクである場合、推奨される処置は、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンになっている

ることを確認することです。アラームが示すデバイスが MGCP ゲートウェイで、そのデバイス プロトコルが [ デジタル アクセス PRI (Digital Access PRI) ] に設定されており、さらにそのゲートウェイで [ UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE) ] がオンになっている場合、設定されている PRI トランク インターフェイスの遠端側が PRI 4ESS UUIE ベースの MLPP をサポートしており、かつ IEID 値が USER\_USER\_IE (126) に設定された UUIE メッセージを送信していることと、ユーザ固有のプロトコル ID 値が PRI\_4ESS\_UUIE\_DEFAULT\_PROT\_DISC (0x00) に設定されていることを確認します。

## BeginThrottlingCallListBLFSubscriptions

Cisco Unified Communications Manager は、システムのオーバーロードを防止するための予防策として CallList BLF サブスクリプションの制御を開始しました。このアラームは、アクティブ BLF サブスクリプションの総数が、Presence Subscription Throttling Threshold サービス パラメータで設定されている制限を超えた場合に発生します。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

警告 (4)

#### パラメータ

Active External Presence Subscriptions [UInt] CallList BLF Subscriptions Throttling Threshold [UInt]  
CallList BLF Subscriptions Resume Threshold [UInt] Total Begin Throttling CallList BLF Subscriptions [UInt]

#### 推奨処置

CallList BLF サブスクリプションのより高い要求を満たすために CPU およびメモリ リソースを使用できるかどうかを判断します。使用できる場合、CallListBLFSubscriptionsThrottlingThreshold を増加し、それに応じて CallListBLFSubscriptionsResumeThreshold も増加します。使用できない場合、要求を満たすようにシステム リソースを増加します。

## kANNAudioCreateDirFailed

アナウンス ファイルを格納するサブディレクトリを作成できません。原因としてはディスク領域の不足が考えられます。このエラーの結果、アナウンスが正しく再生されない可能性があります。

#### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	推奨処置の文章が追加されました。パラメータが更新され、重大度がエラーから警告に変更されました。

#### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告 (4)

**パラメータ**

OS Error Text (String)

Path Name (String)

**推奨処置**

共通データ記憶領域の空き領域を確認します。いっぱいの場合には、古いトレース ファイルを削除して領域を空けます。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動します。

**MOHDeviceRecoveryCreateFailed**

エラーがトリガーされ、Music On Hold (MOH; 保留音) デバイスが再起動されました。メモリ リソースの不足が原因の可能性がります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度がエラーから警告に変更され、ルーティング リスト要素が追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告 (4)

**ルーティング リスト**

SDI

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

ErrorText (String)

Error (ULong)

**推奨処置**

MOH デバイスのステータスを確認します。デバイスが登録されておらず使用可能な場合は、Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、サーバを再起動します。

## kDeviceMgrExitEventCreationFailed

デバイス マネージャの終了イベントを作成できませんでした。SW メディア デバイスの終了制御イベントを割り当てるときにエラーが報告されました。デバイスは CallManager に登録されず、アクティブになりません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
8.0(1)	ルーティング リスト要素が追加されました。重大度は「エラー」から「警告」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告 (4)

### ルーティング リスト

SDI

イベント ログ

システム ログ

### パラメータ

Device Name [String]

Trace Name [String]

OS Error Text [String]

### 推奨処置

このエラーの原因としては、メモリ リソースの不足が考えられます。Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを再起動するか、Cisco Unified CM サーバを再起動します。

## kMOHDeviceRecordNotFound

MOH デバイスがサーバにありません。このデバイスは、サーバを設定に追加するときに自動的に追加されます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
8.0(1)	説明文と推奨処置の文章が更新されました。注意文が追加されました。重大度が情報から警告に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

警告 (4)

### 推奨処置

MOH 機能が必要な場合、デバイスをデータベースから削除して再度追加する必要があります。



### 注意

デバイスを削除して追加すると、Cisco Unified Communications Manager グループやメディア リソース グループなど、他の設定に影響があります。

## kMOHBadMulticastIP

無効なマルチキャスト IP アドレス（範囲外）が見つかりました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
8.0(1)	ルーティング リスト要素が追加され、重大度がエラーから警告に変更されました。 次のパラメータが削除されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Audio Source ID [ULong]</li> <li>• Call/Conference ID [ULong]</li> <li>• Multicast IP Port [ULong]</li> </ul>

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

警告 (4)

**ルーティング リスト**

SDI

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Codec Type [String]

Multicast IP Address [String]

**推奨処置**

Music-on-Hold デバイス上でマルチキャスト アドレスの設定を修正します。

**SSODisabled**

Cisco Unified CM で Single Sign On (SSO; シングル サインオン) が無効になっています。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	このリリースで新たに追加されたアラームです。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/IMS

**重大度**

警告

**パラメータ**

Message (String)

**推奨処置**

CLI コマンドを実行して SSO を有効にします。

## SSONullTicket

渡されたチケットが null です。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	このリリースで新たに追加されたアラームです。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ System/IMS

#### 重大度

警告

#### パラメータ

Message (String)

#### 推奨処置

null でないチケットを取得して再試行します。

## SSOServerUnreachable

SSO サーバに到達できませんでした。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	このリリースで新たに追加されたアラームです。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ System/IMS

#### 重大度

警告

#### パラメータ

Message (String)

#### 推奨処置

SSO サーバへの到達可能性を確認します。

## WDStopped

WebDialer アプリケーションが停止し、Tomcat からアンロードされました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度がアラートから警告に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS\_TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

### 重大度

警告

### パラメータ

Servlet Name [String] Reason [String]

### 推奨処置

Tomcat サービスが稼動しているかを確認します。

## 通知レベルのアラーム

通知レベルのアラームは 5 で表され、予期しない情報でない限り、処置の必要はありません。このアラームでは、エラー状態ではなく、注目すべきシステム レベル状態について通知します。このアラームは、情報提供を目的としていますが、知っておくべき重要な情報を通知します。次に例を示します。

- システム全体に関する通知。
- プロセスが要求に従って正常にシャットダウンしようとしている。
- 以前に発生した状態の解消。
- デバイスまたはサブシステムが、予期される理由または通常の原因で登録解除またはシャットダウンされる（予期または通常どおりの登録解除またはシャットダウンに関連する個々の電話機では、情報レベルが使用されます）。
- パスワード変更通知およびアップグレード通知。

## authExpired

ソフト ロックの期限が切れているため、認証に失敗しました。ユーザ クレデンシャルの期限が切れています。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。
8.0(1)	ルーティング リスト要素が追加され、パラメータ リストが更新されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/IMS

#### 重大度

通知 (5)

#### ルーティング リスト

イベント ログ

#### パラメータ

Authentication failure due to expired soft lock. (String)

#### 推奨処置

管理者はクレデンシャルをリセットできます。

## authMustChange

ユーザによる変更が必要とマークされているため、認証に失敗しました。「User must change」がこのユーザ クレデンシャルに設定されています。ユーザはクレデンシャルを変更する必要があります。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。
8.0(1)	説明とルーティング リスト要素が追加されました。パラメータが修正されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/IMS

#### 重大度

通知 (5)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

**パラメータ**

UserID[String]

**推奨処置**

ユーザまたは管理者はクレデンシャルをリセットできます。

## BChannelISV

B チャンネルがイン サービスです。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度が情報から通知に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

通知

**パラメータ**

Channel Id. [UInt] Unique channel ID [String] Device name. [String]

**推奨処置**

なし

## CallManagerOnline

Cisco CallManager サービスは初期化を完了しオンラインです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

通知 (5)

**パラメータ**

CCM Version [String]

**推奨処置**

なし

## CertValidityOver30Days

このアラームは、証明書の有効期限切れが迫っているものの、期限まで 30 日以上あることを示します。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/CertMonitorAlarmCatalog

**重大度**

通知 (5)

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Message (String)

**推奨処置**

Cisco Unified Operating System にアクセスし Certificate Management に進むことで、期限切れになろうとしている証明書を再生成します。証明書が CA によって発行されている場合は、CSR を生成し、CSR を CA に送信して、CA から新しい証明書を入手し、Cisco Unified CM にアップロードします。

## CodeYellowExit

CodeYellow が終了します。Unified CM はコールの制御を停止し、Code Yellow 状態から別の状態に変化しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「通知」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

通知

**パラメータ**

Expected Average Delay [UInt] Entry Latency [UInt] Exit Latency [UInt] Sample Size [UInt] Time Spent in Code Yellow [UInt] Number of Calls Rejected Due to Call Throttling [UInt] Total Code Yellow Exit [UInt]

**推奨処置**

なし

## credReadFailure

データベース中のクレデンシャルの読み取りの試行中に、エラーが発生しました。原因としては、ネットワークまたはデータベースの問題が考えられます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。
8.0(1)	重大度が情報から通知に変更されました。パラメータが修正され、ルーティング リスト要素が追加されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/IMS

**重大度**

通知 (5)

**ルーティング リスト**

イベント

**パラメータ**

Credential read failure for (String)

**推奨処置**

クレデンシャル (ユーザ名) が存在するかを確認します。データベースの問題である可能性があります。

## DbInsertValidatedDIDFailure

IME で提供される e164DID を挿入できませんでした。Cisco Unified Active Link で学習した DID を挿入しようとして失敗しました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

通知

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

SNMP トラップ

データ コレクタ

**パラメータ**

e164 DID (String)

Granting Domain (String)

**推奨処置**

DID と許可ドメインを確認します。関連するその他のアラームを確認します。データベースの整合性を確認します。

## DChannelISV

アラームが示す D チャネルがイン サービスになりました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「情報」から「通知」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

通知

**パラメータ**

Channel Id. [UInt] Unique channel Id [String] Device Name. [String] Device IP address [String]

**推奨処置**

なし

## EMAppStopped

EM アプリケーションが開始されました。アプリケーションは Tomcat からアンロードされるため、正常にシャットダウンしています。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/EMAlarmCatalog

#### 重大度

通知

#### ルーティング リスト

システム ログ

イベント ログ

#### パラメータ

Servlet Name (String)

#### 推奨処置

処置は不要です。

## EndPointRegistered

このアラームは、デバイスが正常に Cisco Unified Communications Manager に登録された場合に発生します。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

通知

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

データ コレクタ

SNMP トラップ

代替 syslog

#### パラメータ

Device name (String)

Device MAC address (String)

Device IP address (String)

Protocol (String)

Device description (String)  
 User ID (String)  
 Load ID (String)  
 Associated directory numbers (String)  
 Performance monitor object type (Enum)  
 Device type (Enum)  
 Configured Gatekeeper Name (String)  
 Technology Prefix Name (String)  
 Zone Information (String)  
 Alternate Gatekeeper List (String)  
 Active Gatekeeper (String)  
 Call Signal Address (String)  
 RAS Address (String)  
 IPV6Address (String)  
 IPAddressAttributes (Enum)  
 IPV6AddressAttributes (Enum)  
 ActiveLoadId (String)  
 InactiveLoadId (String)

#### Enum の定義 : Performance monitor object type

値	定義
2	Cisco の電話機

#### Enum 定義 : デバイス タイプ

値	定義
1	CISCO_30SP+
2	CISCO_12SP+
3	CISCO_12SP
4	CISCO_12S
5	CISCO_30VIP
6	CISCO_7910
7	CISCO_7960
8	CISCO_7940
9	CISCO_7935
12	CISCO_ATA_186
20	SCCP_PHONE
61	H323_PHONE
72	CTI_PORT
115	CISCO_7941

値	定義
119	CISCO_7971
255	UNKNOWN
302	CISCO_7989
307	CISCO_7911
308	CISCO_7941G_GE
309	CISCO_7961G_GE
335	MOTOROLA_CN622
336	BASIC_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
348	CISCO_7931
358	CISCO_UNIFIED_COMMUNICATOR
365	CISCO_7921
369	CISCO_7906
374	ADVANCED_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
375	CISCO_TELEPRESENCE
404	CISCO_7962
412	CISCO_3951
431	CISCO_7937
434	CISCO_7942
435	CISCO_7945
436	CISCO_7965
437	CISCO_7975
446	CISCO_3911
468	CISCO_UNIFIED_MOBILE_COMMUNICATOR
478	CISCO_TELEPRESENCE_1000
479	CISCO_TELEPRESENCE_3000
480	CISCO_TELEPRESENCE_3200
481	CISCO_TELEPRESENCE_500
484	CISCO_7925
493	CISCO_9971
495	CISCO_6921
496	CISCO_6941
497	CISCO_6961
20000	CISCO_7905
30002	CISCO_7920
30006	CISCO_7970
30007	CISCO_7912
30008	CISCO_7902
30016	CISCO_IP_COMMUNICATOR
30018	CISCO_7961

値	定義
30019	CISCO_7936
30035	IP_STE

**Enum 定義 : IPAddressAttributes**

値	定義
0	Unknown : デバイスは、この IPv4 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。
2	Signal only : デバイスは、この IPv4 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

**Enum 定義 : IPV6AddressAttributes**

値	定義
0	Unknown : デバイスは、この IPv6 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。
2	Signal only : デバイスは、この IPv6 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal : デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

**推奨処置**

処置は必要ありません。

## H323Started

Cisco CallManager は、示された H323 デバイスのコールを処理する準備ができています。Cisco Unified Communications Manager は、アラームが示す H.323 デバイスと通信する準備ができています。このアラームでは、Unified CM が指定のデバイスと通信する準備ができていないことは示されますが、H.323 デバイスの状態に関する情報 (H.323 デバイスも通信の準備ができていかどうか) は示されないことに注意してください。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「情報」から「通知」に変更されました。</li> <li>次の情報が更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パラメータ</li> <li>DeviceType の Enum 定義</li> </ul> </li> </ul>

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

## 重大度

通知

## パラメータ

Device Name. [String] IP Address [String] Device type.[Optional] [Enum]Device description [Optional]. [String] The Server 1 IP Address/Host Name as configured in the Trunk Configuration window [String] Remote CallManager Server 2[Optional]. [String] Remote CallManager Server 3[Optional]. [String]

## DeviceType の Enum 定義

コード	デバイス タイプ
61	H323_PHONE
62	H323_GATEWAY
122	GATEKEEPER
125	TRUNK

## 推奨処置

なし

## ICTCallThrottlingEnd

Cisco CallManager は、アラームが示す H323 デバイスのコールの処理を開始します。Cisco CallManager は、アラームが示す H.323 デバイスに対するコールの制御を停止しました。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「エラー」から「通知」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

通知

**パラメータ**

Device Name. [String] IP Address [String] Device type.[Optional] [Enum]Device description [Optional]. [String]

**DeviceType の Enum 定義**

- 125—TRUNK

**推奨処置**

なし。

## kDeviceMgrMoreThan50SocketEvents

TCP リンクから、50 個を超えるイベントが返されました。指定された Cisco Unified Communications Manager TCP リンクから、多数の TCP イベントが返されました。これは、予期せぬイベントのフラグディングを示します。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。重大度は「情報」から「通知」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

通知

**パラメータ**

Trace Name [String]

**推奨処置**

処置は必要ありません。再発をモニタします。セキュリティ上の問題の兆候である場合があります。

## MGCPGatewayGainedComm

MGCP ゲートウェイが、Cisco Unified Communications Manager との通信を確立しました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「情報」から「通知」に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

通知

### パラメータ

Device Name [String]

### 推奨処置

情報提供だけを目的としているので、処置は必要ありません。

## MaxCallDurationTimeout

Maximum Call Duration Timer サービス パラメータで指定された時間が経過したため、アクティブなコールがクリアされました。許可されるコール期間が短すぎる場合は、値を大きくすることができます。アクティブなコールの期間について制限を設けない場合は、制限をディセーブルにできます。期間が正しくコールがその期間を超えたと思われない場合は、このアラームが発生した時刻の前後のトレース情報を確認し、ゲートウェイのポートがコールの解放に失敗していないか判断します。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 重大度は「情報」から「通知」に変更されました。</li> <li>• 次のパラメータが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– Originating Device name (String)</li> <li>– Destination Device name (String)</li> <li>– Call start time (UInt)</li> <li>– Call stop time (UInt)</li> <li>– Calling Party Number (String)</li> <li>– Called Party Number (String)</li> </ul> </li> </ul>

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

## 重大度

通知

## パラメータ

Maximum Call Duration (minutes) [UInt]

Originating Device name (String)

Destination Device name (String)

Call start time (UInt)

Call stop time (UInt)

Calling Party Number (String)

Called Party Number (String)

## 推奨処置

コールの期間が短すぎる場合は、Cisco CallManager のサービス パラメータを大きくするか、Maximum Call Duration Timer パラメータにゼロを設定して最大期間をディセーブルにします。ゲートウェイ ポートのハングが疑われる場合は、このアラームが発生した時刻の前後のトレース ファイルを確認し、コールに関わっているゲートウェイを検索し、そのゲートウェイのステータスを参照してすべてのポートが正常に機能しているかどうかを確認します。

## SDLLinkISV

リモート アプリケーションへの SDL リンクが復元されました。このアラームは、ローカルの Cisco CallManager がリモートの Cisco CallManager との通信を取得したことを示します。



(注)

また、リモートの Cisco CallManager には、異なる LinkID を含む SDLLinkISV が示されます。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「情報」から「通知」に変更されました。

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

**重大度**

通知

**パラメータ**

Remote IP address of remote application [String] Unique Link ID.[String] Local node ID [UInt] Local Application ID.[Enum]RemoteNodeID [UInt] Remote application ID.[Enum]

**LocalApplicationId と RemoteApplicationID の Enum 定義**

コード	理由
100	CallManager
200	CTI Manager

**推奨処置**

なし

## SIPNormalizationScriptOpened

Cisco Unified CM で SIP デバイスのスクリプトが開かれました。

アラームで示された SIP デバイスの正規化スクリプトが正常に Cisco Unified CM にロードされ、初期化およびアクティブ化されました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>このリリースで新たに追加されたアラームです。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

通知

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Device Name (String)

Script Name (String)

In Use Memory (UInt)

### 推奨処置

通知だけを目的としているため、処置は必要ありません。

## SIPNormalizationScriptClosed

Cisco Unified CM で SIP デバイスのスクリプトが閉じました。スクリプトは次のいずれかの条件が発生した場合に閉じます。

- 示されたデバイス (SIP トランク) が手動または自動でリセットされた場合。
- トランクが手動で削除された場合。
- スクリプト エラーやリソース エラーなどの内部エラーが発生した場合。

スクリプトが閉じている場合、Cisco Unified CM では、アラームで示された SIP デバイスの正規化スクリプト メッセージ ハンドラは呼び出されません。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• このリリースで新たに追加されたアラームです。</li> </ul>

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

通知

### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

### パラメータ

Device Name (String)

Script Name (String)

Reason Code (Enum)

Reason Text (String)

Additional Information (String)

## Enum 定義 : 原因コード

値	定義
1	DeviceResetManually : 関連付けられているデバイスが、Cisco Unified CM の管理ページを使用して手動でリセットされました。
2	DeviceResetAutomatically : 関連付けられているデバイスが自動的にリセットされました。リセットは、スクリプトの実行エラーが原因でトリガーされました。
3	DeviceDeleted : 関連付けられているデバイスが、Cisco Unified CM の管理ページで手動で削除されました。
4	ScriptDisassociated : Cisco Unified CM の管理ページで設定が変更され、スクリプトとデバイスの関連付けが解除されました。
5	ScriptInfoChanged : スクリプトのロジックが変更されたか、Cisco Unified CM の管理ページの [SIP 正規化スクリプト設定 (SIP Normalization Script Configuration) ] ウィンドウで 1 つ以上のフィールドの内容が変更されました。
6	ScriptError : スクリプトでエラーが発生しました。 SIPNormalizationScriptError アラームが発生していないかどうかを確認し、そのアラームの説明に従ってスクリプト エラーを修正するための推奨処置を実行します。

## 推奨処置

SIP トランクのメンテナンス ウィンドウやその他の予期しない理由でスクリプトが閉じたときにアラームが発生した場合、このアラームの目的はスクリプトが閉じたことを通知することです。このアラームが予期せぬものである場合、SIPNormalizationScriptError アラームが発生していないかどうかを確認し、SIPNormalizationScriptError アラームで示される原因コードに基づいて具体的な処置を参照してください。

## SIPNormalizationAutoResetDisabled

エラーが繰り返し発生し、Cisco Unified CM でスクリプトが無効になりました。

実行エラーが 10 分以内に 3 回発生したため、スクリプトが失敗しました。その結果、アラームで示された SIP デバイスの正規化スクリプトが無効になりました。Cisco Unified CM では、スクリプトの回復を目的としたスクリプトまたはデバイスの自動リセットは試行されません。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>このリリースで新たに追加されたアラームです。</li> </ul>

## ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

## Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

**重大度**

通知

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Device Name (String)

Script Name (String)

Script Type (String)

Reason Code (Enum)

Reason Text (String)

Additional Information (String)

**Enum 定義 : 原因コード**

値	定義
1	ScriptResetDisabled : スクリプトの実行エラーが原因でスクリプトの自動リセットが 10 分以内に 3 回実行された後、4 回めのエラーが発生したため、Cisco Unified CM でスクリプトが無効になりました。
2	TrunkResetDisabled : スクリプトの実行エラーが原因でトランクの自動リセットが 10 分以内に 3 回実行された後、4 回めのエラーが発生したため、Cisco Unified CM でスクリプトが無効になりました。

**推奨処置**

これは通知を目的としたアラームです。このアラームの前に発生した SIPNormalizationScriptError アラームで情報を確認し、対応する推奨処置を実行します。

## SIPStarted

Cisco CallManager は、示された SIP デバイスのコールを処理する準備ができています。このアラームは、Cisco CallManager が SIP デバイスとの間のコールを処理する準備ができて示し、SIP デバイスの現在の状態は示しません。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「情報」から「通知」に変更されました。</li> <li>InTransportType および OutTransportType の Enum 定義が更新されました。</li> </ul>
7.1	IPV6Address パラメータが追加されました。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

通知

#### パラメータ

Device Name. [String]  
 IP Address [Optional]. [String]  
 Device type.[Optional] [Enum]  
 Device description [Optional]. [String]  
 Incoming Port Number. [UInt]  
 Outgoing Port Number. [UInt]  
 Incoming Transport Type [Enum]  
 Outgoing Transport Type [Enum]  
 IPV6Address [Optional]. [String]

#### DeviceType の Enum 定義

- 131—SIP\_TRUNK

#### InTransportType の Enum 定義

コード	定義
1	TCP
2	UDP
3	TLS
4	TCP/UDP

#### OutTransportType の Enum 定義

コード	定義
1	TCP
2	UDP
3	TLS

#### 推奨処置

なし

## SIPTrunkISV

すべてのリモート ピアでこの SIP トランクのコールを処理できます。

このアラームは、すべてのリモート ピアでこの SIP トランクのコールを処理できることを示します。ピアごとに、解決された IP アドレスとポート番号、およびホスト名または SRV (SIP トランクで設定されている場合) が示されます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>このリリースで新たに追加されたアラームです。</li> </ul>

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

通知

### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

### パラメータ

SIP Trunk Name (String)

Available remote peers for this SIP trunk (String)

### 推奨処置

通知だけを目的としているため、処置は必要ありません。

## SMDICmdError

CMI は無効な着信 SMDI メッセージを受信しました。

Cisco Unified Communications Manager がボイス メッセージング システムから受け付ける着信メッセージの種類としては、OP:MWI(SP)nnnnnnn!(D) と RMV:MWI(SP)nnnnnnn!(D) の 2 種類があります (ここで nnnnnnnnn は 7 ~ 10 桁の端末番号)、(D) は End Of Transmission、(SP) はスペース)。最初のメッセージは Message Waiting Indicator (MWI; メッセージ待機インジケータ) をアクティブ化します。2 番目のメッセージは、メッセージ待機インジケータを非アクティブ化します。CMI は、受信した MWI メッセージが、上述の受け入れ可能な形式のいずれかになっていない場合に、このアラームをトリガーします。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kSMDICmdError から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CMIArmCatalog/CMI

**重大度**

通知

**ルーティング リスト**

イベント ログ

SDI

**パラメータ**

Invalid SMDI command (String)

**推奨処置**

サードパーティ製のボイス メッセージング システムのベンダーに連絡し、無効な形式の SMDI メッセージを送信している理由を質問します。

## SMDIMessageError

SMDI メッセージに無効な DN が含まれています。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kSMDIMessageError から名前が変更されました。

一部のボイス メッセージング システムは、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) に対し、Unified CM が正しく機能をしていることを確認することを目的として、無効な DN を使用した SMDI メッセージを送信します。その場合、Validate DNS サービス パラメータが True に設定されていると、Unified CM データベースにその DN が見つからないため、CMI はこのアラームをトリガーします。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CMIArmCatalog/CMI

**重大度**

通知

**ルーティング リスト**

イベント ログ

SDI

**パラメータ**

Invalid SMDI command (String)

**推奨処置**

Cisco Messaging Interface サービス パラメータ Validate DNs が false に設定されていることを確認します。

## TestAlarmNotice

通知アラームのテストです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/テスト

**重大度**

通知 (5)

**推奨処置**

なし

## TotalProcessesAndThreadsExceededThresholdEnd

プロセスおよびスレッドの現在の合計数が、Cisco RIS Data Collector サービス パラメータの Maximum Number of Processes and Threads に設定されている最大タスク数を下回っています。

これは、Cisco Unified Communications Manager に統合された製品が無効または非アクティブにされたために、システムで実行されているプロセスおよびスレッドの合計数が減少したために発生することがあります。また、1 つ以上のプロセスが停止されたために、システムで実行されているプロセスおよびスレッドの合計数が減少した場合にも、プロセスまたはスレッドの数が減少する可能性があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「情報」から「通知」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/System アクセス

**重大度**

通知

**パラメータ**

NumberOfProcesses [String] NumberOfThreads [String] Reason [String]

**推奨処置**

このアラームは情報提供だけを目的としているので、処置は必要ありません。

## 情報レベルのアラーム

情報レベルのアラームは 6 で表され、処置の必要はありません。情報メッセージは、アプリケーションの内部フローや要求ごとの情報などの履歴データを示します。情報メッセージは、基本的なアプリケーションフローを十分理解しているユーザがトラブルシューティングに使用します。たとえば、通常の（予期された）イベントが発生し、お客様に通知する必要がある場合などです。

## AdministrativeEvent

プライマリ ファイル パスに書き込めませんでした。このアプリケーションによって監査イベントが生成されます。

**Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ**

AuditLog

**重大度**

情報

**推奨処置**

プライマリ ファイル パスが有効であり、対応するドライブに十分なディスク領域があることを確認します。また、このパスにデフォルトのログ ファイル パスと同等のセキュリティ権限があることも確認します。

## AdminPassword

管理用のパスワードが変更されました。変更が失敗した場合も成功した場合も、メッセージが表示されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。
8.0(1)	説明文が追加されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/IMS

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

(String)

**推奨処置**

なし

## AuditEventGenerated

プライマリ ファイル パスへの書き込みに失敗したため、このアプリケーションによって監査イベントが生成されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/汎用

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

UserID (String)

ClientAddress (String)

EventType (String)

ResourceAccessed (String)

EventStatus (String)

AuditDetails (String)

ComponentID (String)

**推奨処置**

プライマリ ファイル パスが有効であり、対応するドライブに十分なディスク領域があることを確認します。また、このパスにデフォルトのログ ファイル パスと同等のセキュリティ権限があることも確認します。

## AgentOnline

エージェントはオンラインです。

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

情報 (6)

**推奨処置**

なし

## AgentOffline

エージェントはオフラインです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

情報 (6)

**推奨処置**

なし

## AuthenticationSucceeded

ログイン認証に成功しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TOMCAT\_APPS-LOGIN

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/ ログイン

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Login IP Address/Hostname [String] Login Date/Time [String] Login UserID [String] Login Interface [String]

**推奨処置**

このイベントが予期されていた場合、処置は必要ありません。予期されていなかった場合、管理者に通知します。

## authSuccess

このユーザは正常に認証されました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。
8.5(1)	パラメータが更新されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/IMS

#### 重大度

情報 (6)

#### パラメータ

UserID (String)

#### 推奨処置

なし

## BDIStarted

アプリケーションが正常に起動されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

#### 重大度

情報 (6)

#### 推奨処置

なし

## BuildStat

デバイス設定ファイルが構築されています。このアラームは、すべてのタイプの設定ファイルを構築する BUILD ALL 操作に関する情報を提供します。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TFTP-TFTP

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/TFTP

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**DeviceCount [Int] DeviceTime [Int] UnitCount [Int] UnitTime [Int] SoftkeyCount [Int]  
SoftkeyTime [Int] DialruleCount [Int] DialruleTime [Int] TotalTime [Int] BuildStatus [String]**推奨処置**

このアラームは情報提供だけを目的としているので、処置は必要ありません。

## CiscoDirSyncStarted

Cisco DirSync アプリケーションが起動されました。アプリケーションが正常に起動されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**推奨処置**

なし

## CiscoDirSyncProcessStarted

LDAPSync プロセスにより、設定されたアグリーメント ID でのユーザ データの同期が開始されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

AgreementId [String]

**推奨処置**

なし

## CiscoDirSyncProcessCompleted

特定の同期アグリーメントで LDAPSync プロセスが完了しました。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

AgreementId [String]

**推奨処置**

なし

## CiscoDirSyncProcessStoppedManually

特定の同期アグリーメントで LDAPSync プロセスが手動で停止されました。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

AgreementId [String]

**推奨処置**

なし

## CiscoDirSyncProcessStoppedAuto

特定の同期アグリーメントで LDAPSync プロセスが自動的に停止しました。このプロセスは自動的に再開されます。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Java アプリケーション

### 重大度

情報 (6)

### パラメータ

AgreementId [String]

### 推奨処置

なし

## CLM\_ConnectivityTest

Cisco Licensing Manager (CLM) の接続テストに失敗しました。Cluster Manager により、ネットワーク エラーが検出されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CLUSTERMANAGER/CLUSTERMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Cluster Manager

### 重大度

情報 (6)

### オペレーティング システム

アプライアンス

### パラメータ

Node's IP (String)

Error (String)

### 推奨処置

クラスタ ノード間の接続を確認します。

## CLM\_IPSecCertUpdated

IPSec 自己署名証明書が更新されました。変更が発生したため、クラスタ内のピア ノードから IPSec 自己署名証明書がインポートされました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CLUSTERMANAGER/CLUSTERMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Cluster Manager

### 重大度

情報 (6)

### オペレーティング システム

アプライアンス

### パラメータ

Node's or IP (String)

### 推奨処置

なし

## CLM\_IPAddressChange

クラスタ内の IP アドレスが変更されました。クラスタ内のピア ノードの IP アドレスが変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CLUSTERMANAGER/CLUSTERMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Cluster Manager

### 重大度

情報 (6)

### オペレーティング システム

アプライアンス

### パラメータ

Node's (String)

Node's Old IP (String)

Node's New IP (String)

### 推奨処置

なし

## CLM\_PeerState

現在の ClusterMgr のセッション状態です。クラスタ内の別のノードとの ClusterMgr のセッション状態が、現在の状態に変更されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CLUSTERMANAGER/CLUSTERMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Cluster Manager

### 重大度

情報 (6)

### オペレーティング システム

アプライアンス

### パラメータ

Node's or IP (String)

Node's State (String)

### 推奨処置

なし

## credFullUpdateSuccess

クレデンシャルが正常に更新されました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/IMS

### 重大度

情報 (6)

### パラメータ

(String)

### 推奨処置

なし

## credFullUpdateFailure

クレデンシャル フィールドの更新中に、エラーが発生しました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ System/IMS

#### 重大度

情報 (6)

#### パラメータ

(String)

#### 推奨処置

問題を特定し、再試行します。

## credReadSuccess

クレデンシャルを正常に読み取りました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ System/IMS

#### 重大度

情報 (6)

#### パラメータ

(String)

#### 推奨処置

なし

## credUpdateFailure

クレデンシャルの更新に失敗しました。最も可能性が高い原因は、クレデンシャルがセキュリティ要件に合格しなかったことです（短かすぎたり、クレデンシャルが以前使用されていたなど）。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。
8.0(1)	よりわかりやすい説明文が追加されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/IMS

#### 重大度

情報 (6)

#### パラメータ

Credential Update Failure for (String)

#### 推奨処置

(長さの要件などを確認して) このクレデンシャルの問題を特定し、再試行します。

## credUpdateSuccess

クレデンシャルが正常に更新されました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	エラー メッセージが追加されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/IMS

#### 重大度

情報 (6)

#### パラメータ

Credential Update success for (String)

#### 推奨処置

なし

## DirSyncScheduledTaskOver

ディレクトリ同期オペレーションが開始されました。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

SchedulerID [String] TaskID [String]

**推奨処置**

なし

## DirSyncSchedulerEngineStopped

DirSync スケジューラ エンジンが停止されました。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

DirSyncSchedulerVersion [String]

**推奨処置**

なし

## DirSyncNewScheduleInserted

DirSync スケジューラに新しいスケジュールが挿入されました。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS/JAVAAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

EngineScheduleID [String]

**推奨処置**

なし

## DRFLA2MAFailure

DRF ローカル エージェントからマスター エージェントへの接続に問題があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications Manager リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFLA2MAFailure から名前が変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS/JAVAAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

Master Agent が実行中でポートが認証されているかどうかを確認します。

## DRFMA2LAFailure

マスター エージェントは、ローカル エージェントにバックアップ / 復元要求を送信できませんでした。

**履歴**

Cisco Unified Communications Manager リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFMA2LAFailure から名前が変更されました。 説明文と推奨処置が変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS/JAVAAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

対応するローカル エージェントとマスター エージェントを再起動します。

## CiscoDRFComponentRegistered

DRF により、要求されたコンポーネントが正常に登録されました。

**履歴**

Cisco Unified Communications Manager リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFComponentRegistered から名前が変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

登録されたコンポーネントがバックアップまたは復元のオペレーションに必要なかどうかを確認します。

## CiscoDhcpdRestarted

DHCP デーモンが正常に再起動されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Reason [String]

**推奨処置**

なし

## CiscoHardwareLicenseInvalid

無効または古いハードウェア上でのインストール。ライセンス ファイルをアップロードできません。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

システム ログ

イベント ログ

SNMP トラップ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

正しいハードウェアを入手し再インストールします。

## CiscoLicenseFileInvalid

ライセンス ファイルが無効です。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

システム ログ

イベント ログ

SNMP トラップ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

ライセンス ファイルを再ホストします。

## CMInitializationStateTime

指定された状態の初期化を完了するのに必要な時間を示します。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Initialization State [String] Initialization Time [String] Initialization Time in Milliseconds [UInt]

**推奨処置**

なし

## CMIServiceStatus

CMI サービスは動作し正しく機能しています。Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCMIServiceStatus から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CMIAAlarmCatalog/CMI

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

イベント ログ

SDI

**パラメータ**

Service Priority (String)

**推奨処置**

情報提供だけを目的としており、処置は必要ありません。

## CMTotalInitializationStateTime

指定されたシステム全体の初期化状態を完了するのに必要な時間を示します。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Total Initialization Time [String] Total Initialization Time in Milliseconds [UInt]

**推奨処置**

なし

## ConnectionToPDPIInService

Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) と Policy Decision Point (PDP; ポリシー デシジョン ポイント) の間で接続が正常に確立されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報 (6)

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Policy Decision Point (String)

**推奨処置**

なし

## CriticalEvent

プライマリ ファイル パスに書き込めませんでした。このアプリケーションによって監査イベントが生成されます。

### Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ

AuditLog

#### 重大度

情報

#### 推奨処置

プライマリ ファイル パスが有効であり、対応するドライブに十分なディスク領域があることを確認します。また、このパスにデフォルトのログ ファイル パスと同等のセキュリティ権限があることも確認します。

## CtiDeviceClosed

アプリケーションがデバイスをクローズしました。

#### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiDeviceClosed から名前が変更されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CtiManager

#### 重大度

情報

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

#### パラメータ

Device Name (String)

RTP Address (String)

Reason code (Enum)

## Enum 定義 : 原因コード

値	定義
0	不明
1	要求を処理するための CallManager サービスが利用できません。CallManager サービスがアクティブであることを確認します。Cisco Unified CM の管理ページで、Cisco Unified Serviceability の [Control Center] セクションを確認します ([Tools] > [Control Center - Feature Services])。
2	デバイスが Cisco Unified Communications Manager から登録解除された
3	デバイスが Cisco Unified Communications Manager へのリホームに失敗しました。デバイスが登録されていることを確認します。
4	デバイスは Unified CM データベースから削除されています。
5	デバイスを制御しているアプリケーションが接続をクローズしました。
6	ルート ポイントは別のアプリケーションによってすでに登録済みです。
7	CTI ポートは別のアプリケーションによってすでに登録済みです。
8	CTI ポート/ルート ポイントは、動的ポート メディア終端を使用してすでに登録済みです。
9	デバイスに対するソフトキーのイネーブルに失敗しました。デバイスが登録されていることを確認します。
10	複数のアプリケーションが、一致しないメディア機能を使用してデバイスを登録しました。
11	このデバイスは別のアプリケーションによってすでに制御されています。
12	デバイスで使用されているプロトコルはサポートされていません。
13	デバイスで任意のアプリケーションによる制御が制限されています。
14	デバイス情報を取得するためにデータベースと通信できません。
15	デバイスはリセット中です。
16	指定されたメディア タイプがサポートされていないため、デバイスを登録できません。
17	サポートされていないデバイス設定です。
18	デバイスはリセット中です。
19	IPAddress モードは、Unified CM での設定に一致しません。

## 推奨処置

このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

## CtiDeviceInService

デバイスのサービスが再開されました。

## 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiDeviceInService から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Device Name (String)

**推奨処置**

このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

**CtiDeviceOpened**

アプリケーションがデバイスをオープンしました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiDeviceOpened から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

**パラメータ**

Device Name (String)

RTP Address (String)

**推奨処置**

このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

## CtiLineOpened

アプリケーションが回線をオープンしました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiLineOpened から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

**パラメータ**

Directory Number (String)

Partition (String)

Device Name (String)

**推奨処置**

このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

## CtiLineOutOfService

回線がアウト オブ サービスです。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiLineOutOfService から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Directory Number (String)

Device Name (String)

**推奨処置**

このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

**CtiProviderClosed**

CTI アプリケーションがプロバイダーをクローズしました。IP アドレスは、アプリケーションの IP アドレッシング モードに応じて、IPv4 または IPv6 のいずれかの形式で表示されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiProviderClosed から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

**パラメータ**

Login User Id (String)

IPAddress (String)

IPV6Address (String)

Reason code (Enum)

## Enum 定義 : 原因コード

値	定義
0	不明
1	アプリケーションからのハートビートの欠落。原因としては、ネットワーク接続の問題や、Unified CM ノードの CPU 使用率が高いことが考えられます。Cisco Unified OS の管理ページからアプリケーションサーバホストに ping を実行して、Unified CM とアプリケーションの間の接続を確認し、接続が失われている場合は接続を確立するための手順を実行します。また、アプリケーションサーバでネットワークの問題があるかどうかや、CPU 使用率が高くなっているかどうかを確認し、問題があれば解決します。
2	予期せぬシャットダウン。アプリケーションが TCP 接続を切断したことが考えられます。また、アプリケーションサーバでネットワークの問題があるかどうかや、CPU 使用率が高くなっているかどうかを確認し、問題があれば解決します。
3	プロバイダーをクローズすることをアプリケーションから要求
4	プロバイダーのオープン失敗。アプリケーションを初期化できませんでした。
5	ユーザの削除。アプリケーションに関連付けられているユーザが Unified CM の管理ページから削除されています。
6	アプリケーションに関連付けられている SuperProvider 権限が削除されています。Unified CM の管理ページの [ ユーザ管理 (User Management) ] > [ エンドユーザ (End User) ] または [ アプリケーションユーザ (Application User) ] でユーザのユーザグループ設定を確認します。ユーザを選択して、関連付けられている権限情報をチェックします。
7	アプリケーションによる重複する証明書の使用。Unified CM の管理ページの [ ユーザ管理 (User Management) ] > [ エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile) ]/[ アプリケーションユーザ CAPF プロファイル (Application User CAPF Profile) ] で、ユーザの CAPF プロファイル設定を確認します。ユーザの CAPF プロファイルを選択して、関連付けられている情報をチェックします。
8	CAPF 情報が利用できません。Unified CM の管理ページの [ ユーザ管理 (User Management) ] > [ エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile) ]/[ アプリケーションユーザ CAPF プロファイル (Application User CAPF Profile) ] で、ユーザの CAPF プロファイル設定を確認します。ユーザの CAPF プロファイルを選択して、関連付けられている情報をチェックします。
9	証明書が改ざんされています。Unified CM の管理ページの [ ユーザ管理 (User Management) ] > [ エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile) ]/[ アプリケーションユーザ CAPF プロファイル (Application User CAPF Profile) ] で、ユーザの CAPF プロファイル設定を確認します。ユーザの CAPF プロファイルを選択して、関連付けられている情報をチェックします。

値	定義
11	ユーザには、TLS を使用して CTI に接続する権限がありません。アプリケーションの設定とユーザのセキュリティ設定を検討し、TAPI アプリケーションの場合は、[コントロールパネル (Control Panel)] > [電話とモデムのオプション (Phone and Modem Options)] > [詳細設定 (Advanced)] で、[CiscoTSP] > [構成... (Configure...)] > [セキュリティ (Security)] の順に選択し、[CTIManager へのセキュア接続 (Secure Connection to CTIManager)] をディセーブルにします。JTAPI アプリケーションの場合は、[JTPrefs] で [セキュリティ (Security)] を選択し、[セキュア接続を有効にする (Enable Secure Connection)] をディセーブルにします。また、Unified CM の管理ページの [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] または [アプリケーションユーザ (Application User)] でユーザのユーザグループ設定をチェックします。ユーザを選択して、関連付けられている権限情報を確認します。
12	標準の CTI 使用権限が削除されました。アプリケーションに関連付けられているユーザは、「Standard CTI Enabled」ユーザグループに属している必要があります。Unified CM の管理ページの [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] または [アプリケーションユーザ (Application User)] でユーザのユーザグループ設定を確認します。ユーザを選択して、関連付けられている権限情報を確認します。

**推奨処置**

このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

## CtiProviderOpened

CTI アプリケーションが正常にプロバイダーをオープンしました。IP アドレスは、アプリケーションの IP アドレッシングモードに応じて、IPv4 または IPv6 のいずれかの形式で表示されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiProviderOpened から名前が変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

#### パラメータ

Login User Id (String)

Version Number (String)

IPAddress (String)

IPV6Address (String)

#### 推奨処置

このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

## CtiDeviceOutOfService

デバイスがアウト オブ サービスです。

#### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiDeviceOutOfService から名前が変更されました。 重大度は「通知」から「情報」に変更されました。

#### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CtiManager

#### 重大度

情報

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

#### パラメータ

Device Name (String)

#### 推奨処置

このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

## CtiLineClosed

アプリケーションが回線をクローズしました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiLineClosed から名前が変更されました。 重大度は「通知」から「情報」に変更されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CtiManager

#### 重大度

情報

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

#### パラメータ

Directory Number (String)

Partition (String)

Device Name (String)

Reason code (Enum)

#### Enum 定義 : 原因コード

値	定義
0	不明
1	CallManager 障害
2	デバイスが Cisco Unified Communications Manager から登録解除されました。デバイスが登録するのを待ちます。
3	CTI は回線のリホームに失敗しました。デバイスが登録されていることを確認します。
4	未定義の回線です。原因としては、エクステンション モビリティ ログ インまたはログアウトのため、回線がそのデバイスでアクティブでなくなっていることが考えられます。
5	デバイスが削除された
6	デバイスを制御しているプロバイダーがクローズされている
7	デバイスで使用されているプロトコルはサポートされていません。

値	定義
8	CTI Allow Control がイネーブルになっていないため、アプリケーションはこの回線を制御できません。管理者は、回線をアプリケーションによって制御可能に制限しました。管理者の意図が、この回線の制御を許可することである場合は、Unified CM の管理ページの [ コールルーティング (Call Routing) ] > [ 電話番号 (Directory Number) ] で [CTI からデバイスを制御可能 (Allow control of Device from CTI) ] というチェックボックスをオンにし、このアプリケーションによって制御する回線を選択します。
9	デバイスを登録できません。アプリケーションが指定したメディアタイプはサポートされていません。
10	デバイスはリセット中です。この回線をオープンする前に、デバイスが登録されていることを確認してください。
11	サポートされていないデバイス設定です。

**推奨処置**

このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

## CtiLineInService

回線はイン サービスに復帰しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	kCtiLineInService から名前が変更されました。 重大度は「通知」から「情報」に変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**推奨処置**

このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

## DatabaseDefaultsRead

データベースのデフォルト情報が正常に読み取られました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「通知」から「情報」に変更されました。

### ファシリティ/サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

情報

### パラメータ

なし

### 推奨処置

なし

## DefaultDurationInCacheModified

キャッシュ中の認証期間のデフォルト値が、[ サービス パラメータ (Service Parameter) ] ページで変更されています。通常これは、キャッシュ中の認証期間のデフォルト値が、[ サービス パラメータ (Service Parameter) ] ページで変更されていることを示します。

### Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ

System/TVS

### 重大度

情報

### ルーティング リスト

SDI

イベント ログ

データ コレクタ

システム ログ

### 推奨処置

なし

## DeviceApplyConfigInitiated

デバイスでの設定の適用が開始されました。

このアラームは、システム管理者が Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) で [設定の適用 (Apply Config)] ボタンを押した場合に発生します。[設定の適用 (Apply Config)] ボタンは、条件付き再起動をサポートしているデバイス上で、条件付き再起動を開始します。このボタンは、そのデバイスに該当するいずれかの設定が変更されているかどうかを判断するようシステムにトリガーします。設定変更を動的に適用できる場合、サービスを中断せずに適用されます。変更を適用するために Unified CM への再登録が必要な場合は、再登録が自動的に行われます。変更を適用するために再起動が必要な場合は、デバイスが自動的に再起動されます。デバイスのロード ID が変化した場合、デバイスは新しいファームウェアのバックグラウンドでのダウンロードを開始します。新しいファームウェアは、すぐに適用されるか、後で適用されます。条件付き再起動をサポートしていない電話機やデバイスでは、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックするとデバイスが再起動されます。

### 重大度

情報

### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

### パラメータ

Device name (String)

Product type (String)

Device type (Enum)

### デバイス タイプの Enum 定義

- 493—CISCO\_9971

### 推奨処置

なし

## DeviceApplyConfigResult

Cisco IP Phone の設定が適用されました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.1	DeviceApplyConfigResult が CallManager アラーム定義の電話機カタログに追加されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/Phone

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

DeviceName (String)

IPAddress (String)

UnifiedCM\_Result (String)

Phone\_Result (String)

Reason (String)

**推奨処置**

処置は必要ありません。

## DeviceDnInformation

デバイスに関連付けられているディレクトリ番号のリストです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Device Name [String] Device type.[Optional] [Enum]Station Desc [String] Station Dn [String]

**DeviceType の Enum 定義**

コード	デバイス タイプ
1	CISCO_30SP+
2	CISCO_12SP+
3	CISCO_12SP
4	CISCO_12S
5	CISCO_30VIP
6	CISCO_7910
7	CISCO_7960
8	CISCO_7940
9	CISCO_7935
10	CISCO_VGC_PHONE
11	CISCO_VGC_VIRTUAL_PHONE
12	CISCO_ATA_186

コード	デバイス タイプ
20	SCCP_PHONE
21	STATION_PHONE_APPLICATION
30	ANALOG_ACCESS
40	DIGITAL_ACCESS
41	DIGITAL_ACCESS_T1
42	DIGITAL_ACCESS+
43	DIGITAL_ACCESS_WS-X6608
47	ANALOG_ACCESS_WS-X6624
48	VGC_GATEWAY
50	CONFERENCE_BRIDGE
51	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE
52	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_HDV2
53	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_WS-SVC-CMM
61	H323_PHONE
62	H323_GATEWAY
70	MUSIC_ON_HOLD
71	DEVICE_PILOT
72	CTI_PORT
73	CTI_ROUTE_POINT
80	VOICE_MAIL_PORT
83	SOFTWARE_MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
84	CISCO_MEDIA_SERVER
85	CISCO_VIDEO_CONFERENCE_BRIDGE
90	ROUTE_LIST
100	LOAD_SIMULATOR
110	MEDIA_TERMINATION_POINT
111	MEDIA_TERMINATION_POINT_HARDWARE
112	MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
113	MEDIA_TERMINATION_POINT_WS-SVC-CMM
115	CISCO_7941
119	CISCO_7971
120	MGCP_STATION
121	MGCP_TRUNK
122	GATEKEEPER
124	7914_14_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
125	TRUNK
126	TONE_ANNOUNCEMENT_PLAYER
131	SIP_TRUNK
132	SIP_GATEWAY

コード	デバイス タイプ
133	WSM_TRUNK
134	REMOTE_DESTINATION_PROFILE
254	UNKNOWN_MGCP_GATEWAY
255	UNKNOWN
302	CISCO_7989
307	CISCO_7911
308	CISCO_7941G_GE
309	CISCO_7961G_GE
335	MOTOROLA_CN622
336	BASIC_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
358	CISCO_UNIFIED_COMMUNICATOR
365	CISCO_7921
369	CISCO_7906
374	ADVANCED_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
375	CISCO_TELEPRESENCE
404	CISCO_7962
412	CISCO_3951
431	CISCO_7937
434	CISCO_7942
435	CISCO_7945
436	CISCO_7965
437	CISCO_7975
20000	CISCO_7905
30002	CISCO_7920
30006	CISCO_7970
30007	CISCO_7912
30008	CISCO_7902
30016	CISCO_IP_COMMUNICATOR
30018	CISCO_7961
30019	CISCO_7936
30027	ANALOG_PHONE
30028	ISDN_BRI_PHONE
30032	SCCP_GATEWAY_VIRTUAL_PHONE
30035	IP_STE

**推奨処置**

なし

## DeviceImageDownloadStart

Cisco IP Phone でファームウェア ロード (イメージ) のダウンロードが開始されました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.1	DeviceImageDownloadStart が CallManager アラーム定義の電話機カタログに追加されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/Phone

#### 重大度

情報 (6)

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

代替 syslog

データ コレクタ

#### パラメータ

DeviceName (String)

IPAddress (String)

Active (String)

RequestedLoadId (String)

#### 推奨処置

処置は必要ありません。

## DeviceImageDownloadSuccess

Cisco IP Phone のイメージが正常にダウンロードされました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.1(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルーティング リストが追加されました。</li> <li>パラメータが更新されました。</li> <li>Method の Enum 定義が追加されました。</li> </ul>
7.1	DeviceImageDownloadSuccess が CallManager アラーム定義の電話機カタログに追加されました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/Phone

#### 重大度

情報 (6)

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

代替 syslog

データ コレクタ

#### パラメータ

DeviceName (String)

IPAddress (String)

Method (Enum)

Active (String)

Inactive (String)

Server from which the firmware was downloaded (String)

#### Enum 定義 : Method

値	定義
1	TFTP
2	HTTP
3	PPID

#### 推奨処置

処置は必要ありません。

## DeviceRegistered

デバイスが Cisco Unified Communications Manager に正常に登録されました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.5(1)	次の情報が更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パフォーマンス モニタ オブジェクト タイプの Enum 定義</li> </ul>
8.0(1)	次の情報が更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>パフォーマンス モニタ オブジェクト タイプの Enum 定義</li> <li>デバイス タイプの Enum 定義</li> </ul>
7.1	次のパラメータが IPv6 に追加されました。 IPV6Address[Optional].[String]、 IPAddressAttributes[Optional].[Enum]、IPV6AddressAttributes [Optional].[Enum]、および ActiveLoadId [Optional].[String]。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

情報 (6)

### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

データ コレクタ

SNMP トラップ

### パラメータ

Device name.[String]

Device MAC address [Optional].[String]

Device IP address [Optional].[String]

Protocol.[String]

Device description [Optional].[String]

User ID [Optional].[String]

Load ID.[Optional][String]

Associated directory numbers.[Optional].[String]

Performance monitor object type[Enum]  
 Device type.[Optional][Enum]  
 Configured GateKeeper Name [Optional].[String]  
 Technology Prefix Name [Optional].[String]  
 Zone Information [Optional].[String]  
 Alternate Gatekeeper List [Optional].[String]  
 Active Gatekeeper [Optional].[String]  
 Call Signal Address [Optional].[String]  
 RAS Address [Optional].[String]  
 IPV6Address[Optional].[String]  
 IPAddressAttributes[Optional].[Enum]  
 IPV6AddressAttributes [Optional].[Enum]  
 ActiveLoadId [Optional].[String]  
 InactiveLoadId [Optional].[String]

#### パフォーマンス モニタ オブジェクト タイプの Enum 定義

コード	理由
1	Cisco CallManager
3	Cisco Lines
4	Cisco H.323
5	Cisco MGCP Gateway
6	Cisco MOH Device
7	Cisco Analog Access
8	Cisco MGCP FXS Device
9	Cisco MGCP FXO Device
10	Cisco MGCP TICAS Device
11	Cisco MGCP PRI Device
12	Cisco MGCP BRI Device
13	Cisco MTP Device
14	Cisco Transcode Device
15	Cisco SW Conference Bridge Device
16	Cisco HW Conference Bridge Device
17	Cisco Locations
18	Cisco Gatekeeper
19	Cisco CallManager System Performance
20	Cisco Video Conference Bridge Device
21	Cisco Hunt Lists
22	Cisco SIP
23	Cisco Annunciator Device

コード	理由
24	Cisco QSIG Features
25	Cisco SIP Stack
26	Cisco Presence Features
27	Cisco WSMConnector
28	Cisco Dual-Mode Mobility
29	Cisco SIP Station
30	Cisco Mobility Manager
31	Cisco Signaling
32	Cisco Call Restriction
33	External Call Control
34	Cisco SAF Client
35	IME Client
36	IME Client Instance

#### DeviceType の Enum 定義

コード	理由
10	CISCO_VGC_PHONE
11	CISCO_VGC_VIRTUAL_PHONE
30	ANALOG_ACCESS
40	DIGITAL_ACCESS
42	DIGITAL_ACCESS+
43	DIGITAL_ACCESS_WS-X6608
47	ANALOG_ACCESS_WS-X6624
48	VGC_GATEWAY
50	CONFERENCE_BRIDGE
51	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE
52	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_HDV2
53	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_WS-SVC-CMM
62	H323_GATEWAY
70	MUSIC_ON_HOLD
71	DEVICE_PILOT
73	CTI_ROUTE_POINT
80	VOICE_MAIL_PORT
83	SOFTWARE_MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
84	CISCO_MEDIA_SERVER
85	CISCO_VIDEO_CONFERENCE_BRIDGE
90	ROUTE_LIST
100	LOAD_SIMULATOR
110	MEDIA_TERMINATION_POINT

111	MEDIA_TERMINATION_POINT_HARDWARE
112	MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
113	MEDIA_TERMINATION_POINT_WS-SVC-CMM
120	MGCP_STATION
121	MGCP_TRUNK
122	GATEKEEPER
124	7914_14_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
125	TRUNK
126	TONE_ANNOUNCEMENT_PLAYER
131	SIP_TRUNK
132	SIP_GATEWAY
133	WSM_TRUNK
134	REMOTE_DESTINATION_PROFILE
227	7915_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
228	7915_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
229	7916_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
230	7916_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
232	CKEM_36_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
254	UNKNOWN_MGCP_GATEWAY
255	UNKNOWN
30027	ANALOG_PHONE
30028	ISDN_BRI_PHONE
30032	SCCP_GATEWAY_VIRTUAL_PHONE

### IPAddrAttributes の Enum 定義

コード	理由
0	Unknown : デバイスは、この IPv4 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。
2	Signal only : デバイスは、この IPv4 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal : デバイスは、この IPv4 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

### IPV6AddrAttributes の Enum 定義

コード	理由
0	Unknown : デバイスは、この IPv6 アドレスの用途を通知しませんでした。
1	Administrative only : デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) のみで使用されることを通知しました。

コード	理由
2	Signal only : デバイスは、この IPv6 アドレスが制御シグナリングのみで使用されることを通知しました。
3	Administrative and signal: デバイスは、この IPv6 アドレスが管理用の通信 (Web インターフェイス) と制御シグナリングで使用されることを通知しました。

**推奨処置**

なし

## DeviceResetInitiated

示されるデバイスでデバイス リセットが開始されました。

このアラームは、Cisco Unified CM の管理ページの [リセット (Reset) ] ボタンでデバイスがリセットされた場合に発生します。リセットを行うと、デバイスがシャットダウンし、イン サービス状態に戻ることがあります。デバイスをリセットできるのは、デバイスが Cisco Unified Communications Manager に登録されている場合だけです。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>DeviceType の Enum 定義が更新されました。</li> <li>パラメータ Product type [String] が追加されました。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Device name [Optional]. [String] Device type.[Optional] [Enum] Product type [String]

**DeviceType の Enum 定義**

コード	デバイス タイプ
10	CISCO_VGC_PHONE
11	CISCO_VGC_VIRTUAL_PHONE
30	ANALOG_ACCESS
40	DIGITAL_ACCESS
42	DIGITAL_ACCESS+
43	DIGITAL_ACCESS_WS-X6608

47	ANALOG_ACCESS_WS-X6624
48	VGC_GATEWAY
50	CONFERENCE_BRIDGE
51	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE
52	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_HDV2
53	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_WS-SVC-CMM
62	H323_GATEWAY
70	MUSIC_ON_HOLD
71	DEVICE_PILOT
73	CTI_ROUTE_POINT
80	VOICE_MAIL_PORT
83	SOFTWARE_MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
84	CISCO_MEDIA_SERVER
85	CISCO_VIDEO_CONFERENCE_BRIDGE
90	ROUTE_LIST
100	LOAD_SIMULATOR
110	MEDIA_TERMINATION_POINT
111	MEDIA_TERMINATION_POINT_HARDWARE
112	MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
113	MEDIA_TERMINATION_POINT_WS-SVC-CMM
120	MGCP_STATION
121	MGCP_TRUNK
122	GATEKEEPER
124	7914_14_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
125	TRUNK
126	TONE_ANNOUNCEMENT_PLAYER
131	SIP_TRUNK
132	SIP_GATEWAY
133	WSM_TRUNK
134	REMOTE_DESTINATION_PROFILE
227	7915_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
228	7915_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
229	7916_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
230	7916_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
232	CKEM_36_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
254	UNKNOWN_MGCP_GATEWAY
255	UNKNOWN
30027	ANALOG_PHONE
30028	ISDN_BRI_PHONE
30032	SCCP_GATEWAY_VIRTUAL_PHONE

**推奨処置**

なし

## DeviceRestartInitiated

指定のデバイスで、デバイスの再起動が開始されたか、設定の適用が開始されました。

このアラームは、Cisco Unified CM の管理ウィンドウの [リスタート (Restart)] ボタンでデバイスを再起動した場合か、条件付き再起動がサポートされていないデバイスに対してシステム管理者が [設定の適用 (Apply Config)] ボタンを押した場合に発生します。再起動すると、デバイスはシャットダウンせずに登録解除され、更新された設定を受信し、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) に再登録します。デバイスを再起動できるのは、デバイスが Unified CM に登録されている場合だけです。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>DeviceType の Enum 定義が更新されました。</li> <li>パラメータ Product type [String] が追加されました。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Device name [Optional]. [String] Device type.[Optional] [Enum] Product type [String]

**DeviceType の Enum 定義**

コード	デバイス タイプ
10	CISCO_VGC_PHONE
11	CISCO_VGC_VIRTUAL_PHONE
30	ANALOG_ACCESS
40	DIGITAL_ACCESS
42	DIGITAL_ACCESS+
43	DIGITAL_ACCESS_WS-X6608
47	ANALOG_ACCESS_WS-X6624
48	VGC_GATEWAY
50	CONFERENCE_BRIDGE
51	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE
52	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_HDV2

53	CONFERENCE_BRIDGE_HARDWARE_WS-SVC-CMM
62	H323_GATEWAY
70	MUSIC_ON_HOLD
71	DEVICE_PILOT
73	CTI_ROUTE_POINT
80	VOICE_MAIL_PORT
83	SOFTWARE_MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
84	CISCO_MEDIA_SERVER
85	CISCO_VIDEO_CONFERENCE_BRIDGE
90	ROUTE_LIST
100	LOAD_SIMULATOR
110	MEDIA_TERMINATION_POINT
111	MEDIA_TERMINATION_POINT_HARDWARE
112	MEDIA_TERMINATION_POINT_HDV2
113	MEDIA_TERMINATION_POINT_WS-SVC-CMM
120	MGCP_STATION
121	MGCP_TRUNK
122	GATEKEEPER
124	7914_14_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
125	TRUNK
126	TONE_ANNOUNCEMENT_PLAYER
131	SIP_TRUNK
132	SIP_GATEWAY
133	WSM_TRUNK
134	REMOTE_DESTINATION_PROFILE
227	7915_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
228	7915_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
229	7916_12_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
230	7916_24_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
232	CKEM_36_BUTTON_LINE_EXPANSION_MODULE
254	UNKNOWN_MGCP_GATEWAY
255	UNKNOWN
30027	ANALOG_PHONE
30028	ISDN_BRI_PHONE
30032	SCCP_GATEWAY_VIRTUAL_PHONE

**推奨処置**

なし

## DirSyncScheduleInsertFailed

DirSync スケジュールの挿入に失敗しました。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/Java アプリケーション

**重大度**  
情報 (6)

**パラメータ**  
ScheduleID [String]

**推奨処置**  
DirSync 設定およびログを確認します。

## DirSyncSchedulerEngineStarted

DirSync スケジューラ エンジンが開始されました。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/Java アプリケーション

**重大度**  
情報 (6)

**パラメータ**  
DirSyncSchedulerVersion [String]

**推奨処置**  
なし

## DRFBackupCompleted

DRF バックアップが正常に完了しました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/DRF

**重大度**  
情報

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

バックアップ操作が正常に完了したことを確認します。

## DRFRestoreCompleted

DRF の復元が正常に完了しました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

イベント ログ

システム ログ

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

復元操作が正常に完了したことを確認します。

## DRFSchedulerUpdated

機能が登録解除されたため、DRF でスケジュールされたバックアップ設定が自動的に更新されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications Manager リリース	処置
8.0(1)	CiscoDRFSchedulerUpdated から名前が変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DRF\_LOCAL および CCM\_DRF\_MASTER/DRF

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DRF

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Reason (String)

**推奨処置**

新しい設定がバックアップまたは復元のオペレーションに適しているかどうかを確認します。

## EMAppStarted

EM アプリケーションが正常に起動されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/EMAlarmCatalog

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Servlet Name (String)

**推奨処置**

処置は不要です。

## EMCCUserLoggedIn

EMCC ログインに成功しました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/EMAlarmCatalog

**重大度**

情報 (6)

**ルーティング リスト**

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Device Name (String)

Login Date/Time (String)

Login UserID (String)

**推奨処置**

なし

## EMCCUserLoggedOut

EMCC ログアウトに成功しました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/EMAlarmCatalog

**重大度**

情報 (6)

**ルーティング リスト**

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Device Name (String)

Login Date/Time (String)

UserID (String)

**推奨処置**

なし

## EndPointResetInitiated

このアラームは、Cisco Unified CM の管理ページの [リセット (Reset)] ボタンでデバイスがリセットされた場合に発生します。リセットを行うと、デバイスがシャットダウンし、イン サービス状態に戻ります。デバイスをリセットできるのは、デバイスが Cisco Unified Communications Manager に登録されている場合だけです。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

代替 syslog

**パラメータ**

Device name (String)

Product type (String)

Device type (Enum)

**Enum 定義 : デバイス タイプ**

値	定義
1	CISCO_30SP+
2	CISCO_12SP+
3	CISCO_12SP
4	CISCO_12S
5	CISCO_30VIP
6	CISCO_7910
7	CISCO_7960
8	CISCO_7940
9	CISCO_7935
12	CISCO_ATA_186
20	SCCP_PHONE
61	H323_PHONE
72	CTI_PORT
115	CISCO_7941
119	CISCO_7971
255	UNKNOWN
302	CISCO_7989
307	CISCO_7911
308	CISCO_7941G_GE
309	CISCO_7961G_GE
335	MOTOROLA_CN622
336	BASIC_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
348	CISCO_7931
358	CISCO_UNIFIED_COMMUNICATOR
365	CISCO_7921
369	CISCO_7906
374	ADVANCED_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
375	CISCO_TELEPRESENCE
404	CISCO_7962
412	CISCO_3951
431	CISCO_7937
434	CISCO_7942
435	CISCO_7945
436	CISCO_7965

値	定義
437	CISCO_7975
446	CISCO_3911
468	CISCO_UNIFIED_MOBILE_COMMUNICATOR
478	CISCO_TELEPRESENCE_1000
479	CISCO_TELEPRESENCE_3000
480	CISCO_TELEPRESENCE_3200
481	CISCO_TELEPRESENCE_500
484	CISCO_7925
493	CISCO_9971
495	CISCO_6921
496	CISCO_6941
497	CISCO_6961
20000	CISCO_7905
30002	CISCO_7920
30006	CISCO_7970
30007	CISCO_7912
30008	CISCO_7902
30016	CISCO_IP_COMMUNICATOR
30018	CISCO_7961
30019	CISCO_7936
30035 I	P_STE

**推奨処置**

情報提供だけを目的としているので、処置は必要ありません。

## EndPointRestartInitiated

指定のデバイスで、デバイスの再起動が開始されたか、設定の適用が開始されました。

このアラームは、Cisco Unified CM の管理ウィンドウの [リスタート (Restart)] ボタンでデバイスを再起動した場合か、条件付き再起動がサポートされていないデバイスに対してシステム管理者が [設定の適用 (Apply Config)] ボタンを押した場合に発生します。再起動を行うと、デバイスは、シャットダウンせずに登録解除され、更新された設定ファイルを受信し、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM) に再登録します。デバイスを再起動できるのは、デバイスが Unified CM に登録されている場合だけです。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報

## ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

代替 syslog

## パラメータ

Device name (String)

Product type (String)

Device type (Enum)

## Enum 定義 : デバイス タイプ

値	定義
1	CISCO_30SP+
2	CISCO_12SP+
3	CISCO_12SP
4	CISCO_12S
5	CISCO_30VIP
6	CISCO_7910
7	CISCO_7960
8	CISCO_7940
9	CISCO_7935
12	CISCO_ATA_186
20	SCCP_PHONE
61	H323_PHONE
72	CTI_PORT
115	CISCO_7941
119	CISCO_7971
255	UNKNOWN
302	CISCO_7989
307	CISCO_7911
308	CISCO_7941G_GE
309	CISCO_7961G_GE
335	MOTOROLA_CN622
336	BASIC_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
348	CISCO_7931
358	CISCO_UNIFIED_COMMUNICATOR
365	CISCO_7921
369	CISCO_7906
374	ADVANCED_3RD_PARTY_SIP_DEVICE
375	CISCO_TELEPRESENCE

404	CISCO_7962
412	CISCO_3951
431	CISCO_7937
434	CISCO_7942
435	CISCO_7945
436	CISCO_7965
437	CISCO_7975
446	CISCO_3911
468	CISCO_UNIFIED_MOBILE_COMMUNICATOR
478	CISCO_TELEPRESENCE_1000
479	CISCO_TELEPRESENCE_3000
480	CISCO_TELEPRESENCE_3200
481	CISCO_TELEPRESENCE_500
484	CISCO_7925
493	CISCO_9971
495	CISCO_6921
496	CISCO_6941
497	CISCO_6961
20000	CISCO_7905
30002	CISCO_7920
30006	CISCO_7970
30007	CISCO_7912
30008	CISCO_7902
30016	CISCO_IP_COMMUNICATOR
30018	CISCO_7961
30019	CISCO_7936
30035	IP_STE

**推奨処置**

情報提供だけを目的としているので、処置は必要ありません。

## EndThrottlingCallListBLFSubscriptions

CallManager は、CallList BLF サブスクリプションを制御した後で、その受け入れを再開しました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「警告」から「情報」に変更されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報

**パラメータ**

EndThrottlingCallListBLFSubscriptionsActive External Presence Subscriptions [UInt] CallList BLF Subscriptions Throttling Threshold [UInt] CallList BLF Subscriptions Resume Threshold [UInt] Time Duration Of Throttling CallList BLF Subscriptions [UInt] Number of CallList BLF Subscriptions Rejected Due To Throttling [UInt] Total End Throttling CallList BLF Subscriptions [UInt]

**推奨処置**

CallList BLF サブスクリプションのより高い要求を満たすために CPU およびメモリ リソースを使用できるかどうかを判断します。使用できる場合、CallListBLFSubscriptionsThrottlingThreshold を増加し、それに応じて CallListBLFSubscriptionsResumeThreshold も増加します。使用できない場合、要求を満たすようにシステム リソースを増加します。

**IDSEngineDebug**

IDS データベース エンジンからのデバッグ イベントを示します。このアラームは、IDS データベース エンジンからの低レベル デバッグ情報を提供します。システム管理者は、このアラームを無視できます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	重大度は「デバッグ」から「情報」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_DB\_LAYER-DB

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/DB

**重大度**

情報

**パラメータ**

Event Class ID [String] Event class message [String] Event Specific Message [String]

**推奨処置**

なし

## IDSEngineInformation

エラーは発生していませんが、あるルーチン イベントが IDS データベース エンジンで完了しました。このアラームは、情報提供を目的としています。エラーは発生していませんが、あるルーチン イベントが IDS データベース エンジンで完了しました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_DB\_LAYER-DB

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DB

### 重大度

情報 (6)

### パラメータ

Event Class ID [String] Event class message [String] Event Specific Message [String]

### 推奨処置

なし

## IDSReplicationInformation

IDS の複製に関する情報です。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	推奨処置のコメントが追加されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

DB

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/DB

### 重大度

情報 (6)

### パラメータ

Event Class ID [String]

Event class message [String]

Event Specific Message [String]

### 推奨処置

情報提供のみです。処置は必要ありません。

## IPMAInformation

IPMA に関する情報です。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Servlet Name [String] Reason [String]

**推奨処置**

なし

## IPMAStarted

IPMA アプリケーションが正常に起動されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Servlet Name [String] Reason [String]

**推奨処置**

なし

## ITLFileRegenerated

新しい ITL ファイルが生成されました。通常これは、ITLFile に関連する新しい証明書が変更されたことを意味します。

**Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ**

System/TVS

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDI

イベント ログ

データ コレクタ

システム ログ

**推奨処置**

なし。

## kANNICMPErrorNotification

ANN ストリームに ICMP ポート到達不能エラーが発生しました。アナウンス RTP ストリームに ICMP ポート到達不能エラーが発生しました。ストリームは停止されました。この ICMP エラーは、宛先エンドポイントでパケットを受信するための UDP/RTP ポートがオープンされていないことによるものです。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0.1	パラメータ リストが更新されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Destination IP Address [String]

**推奨処置**

処置は必要ありません。これは、接続が停止またはリダイレクトされるときに発生することがあります。

## kCFBICMPErrrorNotification

CFB ストリームに ICMP エラーが発生しました。SW CFB RTP ストリームに ICMP ポート到達不能エラーが発生しました。ストリームは停止されました。この ICMP エラーは、宛先エンドポイントでパケットを受信するための UDP/RTP ポートがオープンされていないことによるものです。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 次のパラメータが削除されました。 Call ID [ULong] Party ID [ULong] IP Port [ULong]

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

情報 (6)

### パラメータ

Destination IP Address [String]

### 推奨処置

処置は必要ありません。これは、接続が停止またはリダイレクトされるときに発生することがあります。

## kReadCfgIpTosMediaResourceToCmNotFound

IP Type-of-Service Media Resource To Call Manager 値が見つかりません。IP Type-of-Service Media Resource To Call Manager サービス パラメータ値がデータベースで見つかりませんでした。この値は、CS3 (優先順位 3) DSCP (011000) ではデフォルトで 0x60 に設定されます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

情報 (6)

**推奨処置**

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスの IP Type-of-Service Media Resource To Call Manager サービス パラメータ値を設定します。

**kDeviceMgrLockoutWithCallManager**

Cisco Unified Communications Manager ロックアウトされています。指定の Cisco Unified Communications Manager は、制御メッセージに 응답しませんでした。Cisco Unified CM への TCP 制御接続が一時停止されています。このため、別の Cisco Unified CM が利用可能であればそれに切り替わり、利用できなければデバイスは使用不能になります。CPU リソースが不足しているか、Cisco Unified CM サーバでその他のエラー状態が発生している可能性があります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 重大度は「エラー」から「情報」に変更されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

情報

**パラメータ**

Trace Name [String]

**推奨処置**

Cisco Unified Communications Manager サービスのステータスを確認します。Cisco Unified CM サービスまたは Cisco Unified CM サーバの再起動が必要な場合があります。

## kDeviceMgrRegisterWithCallManager

Cisco Unified Communications Manager への登録です。指定された Cisco Unified Communications Manager にソフトウェア メディア デバイスが登録されました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

情報 (6)

### パラメータ

Trace Name [String]

### 推奨処置

なし

## kDeviceMgrThreadWaitFailed

デバイス マネージャ スレッドで wait コールに失敗しました。イベント待ちのシステム要求中にエラーが報告され、メディア デバイスが再起動されます。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「情報」に変更されました。</li> <li>次のパラメータが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>OS Error Code [Int]</li> <li>OS Error Description [String]</li> </ul> </li> </ul>

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
CallManager/IpVms

**重大度**  
情報

**パラメータ**  
Trace Name [String]  
OS Error Code [Int]  
OS Error Description [String]

**推奨処置**  
なし

## kDeviceMgrUnregisterWithCallManager

Cisco Unified Communications Manager からの登録解除です。指定された Cisco Unified Communications Manager からメディア デバイスが登録解除されました。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。

ファシリティ / サブファシリティ  
CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
CallManager/IpVms

**重大度**  
情報 (6)

**パラメータ**  
Trace Name [String]

**推奨処置**  
処置は必要ありません。メディア デバイスは自動的に再登録します。

## kIPVMSStarting

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスが開始されています。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 ProcessID [ULong] パラメータが削除されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

### 重大度

情報 (6)

### パラメータ

Version [String] IPAddress [String] Hostname [String] ServiceName [String]

### 推奨処置

処置は必要ありません。

## kIPVMSStopping

Cisco IP 音声メディア ストリーミング アプリケーションがシャットダウンされています。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 ProcessID [ULong] パラメータが削除されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/IpVms

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Version [String] IPAddress [String] Hostname [String] ServiceName [String]

**推奨処置**

処置は必要ありません。

## kMOHICMPErrorNotification

MOH ストリームに ICMP エラーが発生しました。Music-on-Hold 送信ストリームに ICMP ポート到達不能エラーが発生しました。ストリームは停止されました。コール終了シーケンスによって時折発生することがあります。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 次のパラメータが削除されました。 Call ID [ULong] Party ID [ULong] IP Port [ULong]

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Destination IP Address [String]

**推奨処置**

処置は必要ありません。

## kMOHMgrThreadWaitFailed

MOH マネージャ スレッドでの wait コールの失敗。非同期イベント シグナリングを待っている間に、Music-on-Hold オーディオ マネージャ サブコンポーネントでエラーが発生しました。MOH デバイスは再起動されます。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 重大度は「エラー」から「情報」に変更されました。</li> <li>• OS Error Description (String) パラメータが追加されました。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

情報

**パラメータ**

OS Error Description (String)

**推奨処置**

処置は必要ありません。

## kMOHMgrIsAudioSourceInUseThisIsNULL

MOH オーディオ マネージャで同期エラーが検出されました。同期エラーが検出されました。この状態は自動的に解決されました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

情報 (6)

**推奨処置**

処置は必要ありません。

## kMOHRewindStreamControlNull

非アクティブな MOH オーディオ ソースを巻き戻そうとしました。非アクティブな Music-on-Hold オーディオ ソースを巻き戻しまたは再起動しようとした。この操作は無視されています。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「情報」に変更されました。</li> <li>Audio Source ID [ULong] パラメータが削除されました。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

情報

**パラメータ**

Codec Type [String]

**推奨処置**

なし

## kMOHRewindStreamMediaPositionObjectNull

再生中でない MOH オーディオ ソースの巻き戻しエラーです。再生中でない Music-on-Hold wav ファイルを巻き戻しまたは再起動しようとした。この操作は無視されています。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>重大度は「エラー」から「情報」に変更されました。</li> <li>Audio Source ID [ULong] パラメータが削除されました。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

情報

**パラメータ**

Codec Type [String]

**推奨処置**

なし

## kMTPDeviceStartingDefaults

MTP デバイスの 1 つ以上の Cisco IP Voice Media Streaming App サービス パラメータ設定がデータベースに見つかりませんでした。アラームにはデフォルト値が含まれています。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
3.x および 4.x	Windows 向けに追加されました。
7.0(1)	廃止されました。
8.0(1)	このアラームは 8.0(1) で使用できます。 MTP Run Flag (String) パラメータが追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

MTP Run Flag (String)

**推奨処置**

MTP デバイスのサービス パラメータを設定します。

## kReadCfgMOHEnabledCodecsNotFound

有効な MOH コーデックが見つかりません。コーデック選択のための Music-on-Hold サービス パラメータをデータベースから読み込むことができませんでした。デフォルトで G.711 mu-law コーデックが使用されます。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_MEDIA\_STREAMING\_APP-IPVMS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

情報 (6)

**推奨処置**

Cisco IP Voice Media Streaming App サービスの Music-on-Hold サービス パラメータ値を設定します。

## LoadShareDeActivateTimeout

DeActivateLoadShare 確認応答の待機中に、タイムアウトが発生しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

情報 (6)

**推奨処置**

なし

## LogFileSearchStringFound

検索文字列がログ ファイル中に見つかりました。Trace & Log Central により、ユーザが設定した検索文字列が見つかりました。

**ファシリティ / サブファシリティ**  
CCM\_TCT-LPMTCT

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
System/LpmTct

**重大度**  
情報 (6)

**パラメータ**  
SearchString [String]

### 推奨処置

システム管理者が、アラート生成時刻前後のトレース収集に関心がある場合、Trace & Log Central を使用してそのサービスのトレースを収集します。

## MaxHoldDurationTimeout

Maximum Hold Duration Timer サービス パラメータで指定された時間が経過したため、保留中のコールがクリアされました。許可される保留期間が短すぎる場合は、値を大きくします。保留中のコールの期間について制限を設けない場合は、制限をディセーブルにします。

### 履歴

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	次のパラメータが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Originating Device Name (String)</li> <li>Destination Device Name (String)</li> <li>Hold start time (UInt)</li> <li>Hold stop time (UInt)</li> <li>Calling Party Number (String)</li> <li>Called Party Number (String)</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**  
CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
CallManager/CallManager

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Maximum Hold Duration (minutes) [Int]

Originating Device Name (String)

Destination Device Name (String)

Hold start time (UInt)

Hold stop time (UInt)

Calling Party Number (String)

Called Party Number (String)

**推奨処置**

保留時間の期間が短すぎる場合は、Cisco CallManager のサービス パラメータを大きくするか、Maximum Hold Duration Timer パラメータにゼロを設定して最大期間をディセーブルにします。

## PermissionDenied

このプロセスにはこの操作を実行する権限がないため、この操作を完了できませんでした。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/汎用

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

なし

**推奨処置**

なし

## PktCapServiceStarted

パケット キャプチャ サービスが開始されました。Cisco Unified Communications Manager サーバでパケット キャプチャ機能がイネーブルにされました。パケット キャプチャを行うには、Cisco CallManager サービス パラメータ Packet Capture Enable を True に設定する必要があります。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報 (6)

**推奨処置**

なし

## PktCapServiceStopped

パケット キャプチャ サービスが停止されました。Cisco Unified Communications Manager サーバでパケット キャプチャ機能がディセーブルにされました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報 (6)

**推奨処置**

なし

## PktCapOnDeviceStarted

パケット キャプチャがデバイス上で開始されました。パケット キャプチャがデバイス上で有効になっていることが示されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Device Name [String] Packet Capture Mode [String] Packet Capture Duration [String]

**推奨処置**

なし

## PktCapOnDeviceStopped

パケット キャプチャがデバイス上で停止されました。パケット キャプチャがデバイス上で無効になっていることが示されました。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

情報 (6)

### パラメータ

Device Name [String] Packet Capture Mode [String] Packet Capture Duration [String]

### 推奨処置

なし

## PublicationRunCompleted

パブリッシュされた DID パターンのパブリケーションの完了。

このアラームは、Unified CM が DID パターンの IME ネットワークへのパブリケーションを完了したときに生成されます。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

### 重大度

情報

### 推奨処置

このアラームは、履歴および情報目的で通知されます。システムが動作しており、IME ネットワークに正しく番号をパブリッシュしているというフィードバックを与えるために使用できます。また、トラブルシューティング目的でも使用できます。いずれかのパブリッシュが何らかの理由で失敗する場合、アラームには、パブリッシュされなかった番号のリストが格納されます。ユーザがコールを受信し、ユーザが IP 上にないものの、IP 上にあるべきだと考えられる場合、これらのアラームの履歴を参照して、その番号がネットワークへのパブリッシュに失敗しているかどうかを確認できます。

### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Start time (String)

End time (String)

DID count (UInt)

Failed DID count (UInt)

Failed DIDs (String)

## RedirectCallRequestFailed

CTIManager はコールをリダイレクトできません。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CtiManager

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

**パラメータ**

Directory Number (String)

Partition (String)

**推奨処置**

このアラームは情報提供だけを目的としているため、処置は必要ありません。

## RollBackToPre8.0Disabled

8.0 よりも前のリリースにロールバックする機能が、[エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)] ページでディセーブルにされました。一般にこれは、8.0 よりも前のリリースにロールバックする機能が、[エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)] ページで変更されていることを意味します。

**Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ**

System/TVS

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDI

イベント ログ  
データ コレクタ  
システム ログ

**推奨処置**

なし。

## RollBackToPre8.0Enabled

8.0 よりも前のリリースにロール バックする機能が、[エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameter) ] ページでイネーブルにされました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ**

System/TVS

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDI

イベント ログ  
データ コレクタ  
システム ログ

**推奨処置**

なし。

## RouteRemoved

ルートが自動的に削除されました。

このアラームは、UC Manager がそのルーティング テーブルからルートを削除するときに生成されます。ルートが削除されるのは、ルートが古く期限切れとなったか、そのドメインでその番号が到達不能になったことが遠端から通知された場合です。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

### パラメータ

E.164 number (String)

Domain name (String)

Route learned time (String)

Reason Code (Enum)

### Enum 定義 : 原因コード

値	定義
1	期限切れ
2	到達不要

### 推奨処置

このアラームは、履歴および情報目的で通知されます。特定の番号がルーティング テーブルにある理由や、他の番号がない理由を理解するのに役立ちます。この履歴情報は、特定の番号へのコールが IP 上で行われることが期待される場合にそうならない理由を判断するのに役立ちます。

## SAFPublishRevoke

CLI コマンドにより、指定したサービス ID またはサブサービス ID に対するパブリッシュ動作が取り消されました。

システム管理者が、SAF フォワード ルータ上で CLI コマンドを実行し、このアラームが示すサービス ID またはサブサービス ID に対するパブリッシュ動作を取り消しました。

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

情報

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

#### パラメータ

Client Handle (String)

Service ID (UInt)

Sub Service ID (UInt)

InstanceID1 (UInt)

InstancID2 (UInt)

InstanceID3 (UInt)

InstanceID4 (UInt)

#### 推奨処置

情報提供だけを目的としているので、処置は必要ありません。

## SAFUnknownService

パブリッシュの取り消しまたは撤回メッセージ内のサービス ID が、Unified CM によって認識されません。

Unified CM は Publish Revoke メッセージまたは Withdraw メッセージを SAF フォワーダから受信しましたが、メッセージ内のサービス ID は Unified CM によって認識されませんでした。Unified CM は、パブリッシュ取り消し CLI コマンド内でサービス ID を間違えて入力した場合や、サービスが以前撤回されている場合に、サービス ID を認識しないことがあります。

### Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ

CallManager/CallManager

#### 重大度

情報 (6)

#### ルーティング リスト

SDL

SDI

システム ログ

イベント ログ

#### パラメータ

Client Handle (String)

Service ID (UInt)

Sub Service ID (UInt)

InstanceID1 (UInt)

InstanceID2 (UInt)

InstanceID3 (UInt)

InstanceID4 (UInt)

#### 推奨処置

なし

## SecurityEvent

プライマリ ファイル パスに書き込めませんでした。このアプリケーションによって監査イベントが生成されます。

### Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ

AuditLog

#### 重大度

情報

#### 推奨処置

プライマリ ファイル パスが有効であり、対応するドライブに十分なディスク領域があることを確認します。また、このパスにデフォルトのログ ファイル パスと同等のセキュリティ権限があることも確認します。

## ServiceActivated

このサービスはアクティブになっています。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_SERVICEMANAGER-GENERIC

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Service Manager

#### 重大度

情報 (6)

#### パラメータ

Service Name (String)

#### 推奨処置

なし

## ServiceDeactivated

このサービスは非アクティブになっています。

### ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_SERVICEMANAGER-GENERIC

### Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ

System/Service Manager

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Service Name (String)

**推奨処置**

なし

## ServiceStarted

サービスが起動されました。

**履歴**

Cisco Unified Communications Manager リリース	処置
7.1	IPv6Address[Optional][String] パラメータが追加されました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CBB-GENERIC

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/ 汎用

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

IP Address of hosting node (String)

IPv6Address[Optional] (String)

Host name of hosting node (String)

Service Name (String)

Version Information (String)

**推奨処置**

なし

## ServiceStopped

サービスが停止されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/ 汎用

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

IP Address of hosting node (String)

Host of hosting node (String)

Service (String)

**推奨処置**

なし

## SoftwareLicenseValid

有効なソフトウェア ライセンスが Cisco IP Voice Media Streaming App サービスによって検出されました。

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/IpVms

**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDI

イベント ログ

**推奨処置**

処置は不要です。この情報メッセージは、アラーム SoftwareLicenseNotValid がクリアされることを示します。

## StationAlarm

端末デバイスが、このアラームを生成するためにデバイスからのコンジットとして機能する Cisco Unified Communications Manager にアラームを送信しました。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Protocol [String] TCP ProcessID [String] Device Text [String] Param1 [UInt] Param2 [UInt]

**推奨処置**

このアラームによって渡されるデバイス タイプと情報を参照し、適切な処置を決定します。

## StationConnectionError

端末デバイスは、このアラームで示される理由により、その Cisco Unified Communications Manager との接続を閉じました。

**履歴**

Cisco Unified Communications リリース	処置
8.0(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Reason Code[Enum] パラメータが追加されました。</li> <li>Reason Code テーブルの Enum 定義が追加されました。</li> </ul>

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/CallManager

**重大度**

情報

**パラメータ**

Device Name [String]

Reason Code[Enum]

**Enum 定義 : 原因コード**

コード	理由
0	deviceInitiatedReset : デバイスがリセットを開始しました。電源の再投入や内部エラーが考えられます。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
1	sccpDeviceThrottling : (SCCP のみ) アラームで示される SCCP デバイスは、SCCP デバイスあたりに許可されている最大イベント数を超えました。イベントには、通話のコール、KeepAlive メッセージ、過剰な SCCP または非 SCCP メッセージがあります。許可される最大イベント数は、Cisco CallManager サービス パラメータ Max Events Allowed で制御されます。個々のデバイスがこのサービス パラメータで設定されている数値を超えると、Unified CM によってそのデバイスへの TCP 接続が閉じられ、その後一般に再登録が自動的に実行されます。この動作は、Unified CM への悪意のある攻撃を防いだり、CPU 使用率が高くなりすぎるのを避けることを目的としています。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。

2	keepAliveTimeout : Unified CM はデバイスから KeepAlive メッセージを受信しませんでした。考えられる原因としては、デバイスの停電、ネットワークの停電、ネットワークの設定エラー、ネットワーク遅延、パケット ドロップ、パケット破損が挙げられます。また、Unified CM ノードの CPU 使用率が高い場合にもこのエラーが発生する可能性があります。デバイスの電源が投入されていて稼動していることと、デバイスと Unified CM の間のネットワーク接続、CPU 使用率が安全な範囲にあることを確認します（これは、RTMT を使用し、CPU Pegging Alert を通じてモニタできます）。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
3	dbChangeNotify : ApplyConfig コマンドが Unified CM の管理ページから実行され、その結果登録が解除されました。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。
4	deviceRegistrationSuperceded : 初期デバイス登録要求を受信しましたが、新しい登録要求を受信する前にまだ認証が完了していません。初期登録要求は廃棄され、再登録が正常に処理されます。処置は不要です。デバイスは自動的に再登録します。

**推奨処置**

なし

## TestAlarmAppliance

アプライアンス OS ベースのサーバだけに対するテスト アラームです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/テスト

**重大度**

情報 (6)

**推奨処置**

なし

## TestAlarmInformational

情報アラームのテストです。

**ファシリティ / サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/テスト

**重大度**

情報 (6)

**推奨処置**

なし

## TVSCertificateRegenerated

TVS Server の証明書が再生成されました。通常これは、TVS の証明書が再生成されたことを意味します。TVS サーバは自動的に再起動します。

**Cisco Unified Serviceability アラーム カタログ**  
System/TVS**重大度**

情報

**ルーティング リスト**

SDI

イベント ログ

データ コレクタ

システム ログ

**推奨処置**

なし。

## UserAlreadyLoggedIn

ユーザはすでにログインしています。

**ファシリティ / サブファシリティ**  
CCM\_TCD-TCO**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**  
CallManager/TCO SRV**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

UserID [String]

**推奨処置**

なし

## UserLoggedOut

ユーザがログアウトしました。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

UserID [String]

**推奨処置**

なし

## UserLoginSuccess

ユーザが正常にログインしました。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_TCD-TCD

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

CallManager/TCD SRV

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

UserID [String]

**推奨処置**

なし

## WDInformation

WebDialer に関する情報アラームです。

ファシリティ / サブファシリティ

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Servlet Name [String] Reason [String]

**推奨処置**

なし

## WDStarted

WebDialer アプリケーションが正常に起動されました。

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_JAVA\_APPS-TOMCATAPPLICATIONS

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/Java アプリケーション

**重大度**

情報 (6)

**パラメータ**

Servlet Name [String] Reason [String]

**推奨処置**

なし

## デバッグレベルのアラーム

デバッグレベルのアラームは 7 で表され、処置の必要はありません。デバッグ メッセージは、トラブルシューティングのために使用されます。

## TestAlarmDebug

デバッグ アラームのテストです。

**ファシリティ/サブファシリティ**

CCM\_CALLMANAGER-CALLMANAGER

**Cisco Unified Serviceability アラーム定義カタログ**

System/テスト

**重大度**

デバッグ (7)

推奨処置

なし

## Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(1) で廃止されたアラーム

ここでは、Cisco Unified Serviceability で廃止されたアラームについて説明します。

## CallManager カタログで廃止されたアラーム

アラーム名	重大度	説明
ConferenceCreated	情報	アプリケーションによって制御される会議が作成されます。
ConferenceDeleted	情報	アプリケーションによって制御される会議が削除されます。
CtiCallAcceptTimeout	警告	コール受け付けタイムアウト。
CtiStaleCallHandle	情報	CTI の古いコールハンドル。
DatabaseAuditInfo_074	情報	データベース監査情報。
DatabaseDeviceNoDirNum	通知	データベース デバイスのディレクトリ番号なし。
DatabaseInternalDataError_06e	アラート	データベースの内部データ エラーです。
DatabaseInternalDataError_06f	通知	データベースの内部データ エラーです。
DatabaseInternalDataError_070	情報	データベースの内部データ エラーです。
DatabaseInternalDataError_071	情報	データベースの内部データ エラーです。
DatabaseInternalDataError_072	情報	データベースの内部データ エラーです。
DatabaseInternalDataError_073	情報	データベースの内部データ エラーです。
DatabaseInternalDataError_075	情報	データベースの内部データ エラーです。
DnTimeout	エラー	DN タイムアウト。
GatewayAlarm	情報	ゲートウェイ アラーム。
H323AddressResolutionError	警告	H323 アドレス解決不可。
H323CallFailureAlarm	警告	H323 コール障害。
MWIPParamMismatch	警告	MWI パラメータの不一致。
NoConnection	情報	TCP 接続なし。
OutOfDnForAutoRegistration	警告	自動登録用のディレクトリ番号不足。
PktCapDownloadFailed	エラー	キャプチャしたパケットまたはキー ファイルの取得エラー。
PktCapDownloadOK	情報	キャプチャしたパケットまたはキー ファイルのダウンロード完了。
PktCapLoginFailed	エラー	パケットまたはキー ファイルを取得するためのログインに失敗しました。
PktCapLoginOK	情報	パケットまたはキー ファイルをキャプチャするためのログインに成功しました。
Redirection	警告	Redirection Manager をコール制御に登録できませんでした。
SIP IPPortConflict	警告	このデバイスのローカル ポートがすでに使用中。
ThrottlingSampleActivity	エラー	ThrottlingSampleActivity
TotalCodeYellowEntry	情報	TotalCodeYellowEntry

## CertMonitor アラーム カタログで廃止されたアラーム

アラーム名	重大度	説明
CertExpired	緊急	証明書の期限が切れ、できるだけ早く変更する必要があります。
CertExpiryApproaching	情報	証明書の有効期限が近づいており、期限が設定されている通知期間内にあることを示す情報アラーム。
CertExpiryDebug	デバッグ	証明書管理のデバッグ用のアラーム。
CertExpiryError	エラー	証明書期限モニタ プロセスのエラーを示すアラーム。

## CMI アラーム カタログで廃止されたアラーム

アラーム名	重大度	説明
CCMConnectionError	エラー	CMI は、Cisco Unified Communications Manager との接続を確立できません。
CMIDebugAlarm	デバッグ	このアラームは、デバッグ用のみを目的として生成されます。
CMIServiceStarted	通知	現在サービスは動作中です。
CMIServiceStopped	通知	現在サービスを停止中です。
COMException	アラート	CMI が COM 例外をキャッチしました。
ConfigParaNotFound	通知	CMI サービス設定パラメータがデータベース中に見つかりません。
DisconnectionToCCM	エラー	CMI が Unified Communications Manager との接続を失いました。
WSAStartupFailed	重要	Windows ソケットの起動時にエラーが発生しました。

## CTI Manager アラーム カタログで廃止されたアラーム

アラーム名	重大度	説明
kCtiDeviceOpenFailAccessDenied	警告	DeviceOpenRequest 障害。
kCtiDirectoryLoginFailure	警告	CTI ディレクトリ ログインに失敗しました。
kCtiEnvProcDevListRegTimeout	エラー	ディレクトリ変更通知要求がタイムアウトしました。
kCtiExistingCallNotifyArrayOverflow	警告	CTI ExistingCall イベントの生成中に、内部配列がオーバーフロー状態になった可能性があります。
kCtiIllegalEnumHandle	警告	列挙型処理が無効です。
kCtiIllegalFilterSize	エラー	ProviderOpenRequest のフィルタ サイズが不正です。
kCtiIllegalQbeHeader	エラー	QBE ヘッダーが不正です。

アラーム名	重大度	説明
kCtiInvalidQbeSizeAndOffsets	エラー	InvalidQBESizeAndOffsets の QBE メッセージのデコーディングで、不正なサイズまたはオフセットが発生しました。
kCtiLineCallInfoResArrayOverflow	警告	コール情報のアプリケーション要求に対する応答の生成中に、内部配列がオーバーフロー状態になった可能性があります。
kCtiLineOpenFailAccessDenied	警告	回線のオープンに失敗しました。
kCtiMYTCPSendError	エラー	MYTCP_Send : 送信エラーが発生しました。
kCtiMytcpErrSocketBroken	警告	ソケット接続が切断されました。
kCtiNewCallNotifyArrayOverflow	警告	CTI NewCall イベントの生成中に、内部配列がオーバーフロー状態になった可能性があります。
kCtiNullTcpHandle	警告	TranslateCtiQbeInputMessage : TCP ハンドルが NULL です (QBE パケットはドロップされます)。
kCtiProviderOpenInvalidUserNameSize	エラー	ProviderOpen 要求の userName のサイズが無効です。
kCtiQbeLengthMismatch	エラー	OutputQbeMessage : 長さが一致しません。
kCtiQbeMessageTooLong	警告	着信した QBE メッセージは入力バッファ サイズを超えています。
kCtiSdlErrorvException	重要	Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ/テレフォニー インテグレーション) アプリケーションを処理するのに必要な内部プロセスの作成に失敗しました。
kCtiSsRegisterManagerErr	エラー	CtiLine を Supplementary Services Application Programming Interface (SSAPI) に登録できません。
kCtiTcpInitError	エラー	CTIManager サービスが TCP 接続を初期化できません。
kCtiUnknownConnectionHandle	警告	接続ハンドルが無効です。

## DB アラーム カタログで廃止されたアラーム

アラーム名	重大度	説明
ErrorChangeNotifyReconcile	アラート	変更通知に関して、共有メモリの調整が発生しました。

## IpVms アラーム カタログで廃止されたアラーム

アラーム名	重大度	説明
kANNAudioComException	エラー	ANN TFTP COM 例外が発生しました。
kANNAudioOpenFailed	エラー	アナウンス ファイルをオープンできませんでした。
kANNAudioTftpFileMissing	エラー	ANN TFTP ファイルがありません。
kANNAudioTftpMgrCreate	エラー	TFTP クライアントを作成できません。
kANNAudioTftpMgrStartFailed	エラー	TFTP 起動ファイルを転送できませんでした。
kANNAudioThreadException	エラー	ANN TFTP 転送例外が発生しました。
kANNAudioThreadWaitFailed	エラー	ANN TFTP イベント待ちでエラーが発生しました。
kANNAudioThreadxFailed	エラー	ANN TFTP 転送スレッドを作成できませんでした。
kANNAudioXmlLoadFailed	エラー	ANN XML 解析エラーです。
kANNAudioXmlSyntax	エラー	ANN XML の無効な要素です。
kAddIpVmsRenderFailed	エラー	IP VMS レンダ フィルタ間グラフでエラーが発生しました。
kCfgListComException	エラー	設定用 COM 例外が発生しました。
kCfgListDbIException	エラー	設定用 DBL 例外が発生しました。
kCfgListUnknownException	エラー	不明な設定用例外が発生しました。
kCreateGraphManagerFailed	エラー	グラフ マネージャの取得に失敗しました。
kDeviceMgrThreadException	エラー	デバイス マネージャ スレッドで例外が発生しました。
kDownloadMOHFileFailed	エラー	ダウンロード要求でエラーが発生しました。
kFixedInputAddAudioCaptureDeviceFailed	エラー	固定のオーディオ ソースをフィルタ グラフに追加できませんでした。
kFixedInputAddG711AlawIpVmsRenderFailed	エラー	固定の G711 a-law IP VMS レンダ フィルタ間グラフを追加できませんでした。
kFixedInputAddG711UlawIpVmsRenderFailed	エラー	固定の G711 ulaw IP VMS レンダ フィルタ間グラフを追加できませんでした。
kFixedInputAddG729IpVmsRenderFailed	エラー	固定の G729 IP VMS レンダ フィルタ間グラフを追加できませんでした。
kFixedInputAddMOHEncoderFailed	エラー	固定の MOH エンコード フィルタ間グラフを追加できませんでした。
kFixedInputAddWideBandIpVmsRenderFailed	エラー	固定のワイドバンド IP VMS レンダ フィルタ間グラフを追加できませんでした。

アラーム名	重大度	説明
kFixedInputAudioCapMOHEncoderConnFailed	エラー	固定のオーディオ キャプチャ デバイスを MOH エンコーダに接続できませんでした。
kFixedInputAudioCaptureCreateFailed	エラー	固定のシステム デバイス列挙子を取得できませんでした。
kFixedInputClassEnumeratorCreateFailed	エラー	固定のクラス列挙子を作成できませんでした。
kFixedInputCreateGraphManagerFailed	エラー	固定のグラフ マネージャを取得できませんでした。
kFixedInputFindAudioCaptureDeviceFailed	エラー	固定のオーディオ ソース デバイスが見つかりません。
kFixedInputGetEventNotificationFailed	エラー	固定の通知イベントを取得できませんでした。
kFixedInputGetFileNameFailed	エラー	固定のオーディオ ソース デバイス名を取得できませんでした。
kFixedInputGetG711AlawIpVmsRenderInfFailed	エラー	固定の G711 a-law IP VMS レンダ フィルタ プライベート インターフェイスを取得できませんでした。
kFixedInputGetG711AlawIpVmsRenderFailed	エラー	固定の G711 a-law IP VMS レンダ フィルタを取得できませんでした。
kFixedInputGetG711UlawIpVmsRenderInfFailed	エラー	固定の G711 mu-law IP VMS レンダ フィルタ プライベート インターフェイスを取得できませんでした。
kFixedInputGetG711UlawIpVmsRenderFailed	エラー	固定の G711 mu-law IP VMS レンダ フィルタを取得できませんでした。
kFixedInputGetG729IpVmsRenderInfFailed	エラー	固定の G729 IP VMS レンダ フィルタ プライベート インターフェイスを取得できませんでした。
kFixedInputGetG729IpVmsRenderFailed	エラー	固定の G729 IP VMS レンダ フィルタを取得できませんでした。
kFixedInputGetMOHEncoderFailed	エラー	固定の MOH エンコード フィルタを取得できませんでした。
kFixedInputGetMediaControlFailed	エラー	固定のメディア制御を取得できませんでした。
kFixedInputGetMediaPositionFailed	エラー	固定のメディア位置を取得できませんでした。
kFixedInputGetWideBandIpVmsRenderInfFailed	エラー	固定のワイドバンド IP VMS レンダ フィルタ プライベート インターフェイスを取得できませんでした。
kFixedInputGetWideBandIpVmsRenderFailed	エラー	固定のワイドバンド IP VMS レンダ フィルタを取得できませんでした。
kFixedInputMOHEncG711AlawRenderConnFail	エラー	固定の MOH エンコーダを G711 a-law IP VMS レンダ フィルタに接続できませんでした。
kFixedInputMOHEncG711UlawRenderConnFail	エラー	固定の MOH エンコーダを G711 u-law IP VMS レンダ フィルタに接続できませんでした。
kFixedInputMOHEncG729RenderConnFailed	エラー	固定の MOH エンコーダを G729 IP VMS レンダ フィルタに接続できませんでした。

アラーム名	重大度	説明
kFixedInputMOHEncWidebandRenderConnFail	エラー	固定 MOH エンコーダからワイドバンド IP VMS レンダ フィルタへの接続の失敗。
kFixedInputSetNotifyWindowFailed	エラー	固定の通知ウィンドウの設定の失敗。
kGetEventNotificationFailed	エラー	通知イベントを取得できませんでした。
kGetIpVmsRenderFailed	エラー	IP VMS レンダ フィルタの取得の失敗。
kGetIpVmsRenderInterfaceFailed	エラー	IP VMS レンダ フィルタのプライベート インターフェイスの取得失敗。
kGetMediaControlFailed	エラー	メディア制御の取得の失敗。
kGetMediaPositionFailed	エラー	メディア位置の取得の失敗。
kMOHFilterNotifyError	エラー	DirectShow がエラーを返したかユーザによる中止。
kMOHMgrThreadCreateWindowExFailed	エラー	MOH マネージャのメッセージ ウィンドウの作成の失敗。
kMOHPlayStreamControlNull	エラー	ストリーム制御ポインタが null です。
kMOHPlayStreamMediaControlObjectNull	エラー	メディア位置 COM インターフェイスが null です。
kMOHThreadException	エラー	MOH マネージャ スレッドでの例外です。
kMTPICMPErrorNotification	情報	MTP ストリームに ICMP エラーが発生しました。
kPWavMgrExitEventCreateFailed	エラー	必要なイベントの作成に失敗しました。
kPWavMgrThreadException	エラー	WAV ファイル マネージャ スレッドの例外です。
kReadCfgANNComException	エラー	COM エラー。
kReadCfgANNDbException	エラー	データベース例外です。
kReadCfgANNListComException	エラー	COM エラー。
kReadCfgANNListDbException	エラー	データベース例外です。
kReadCfgANNListUnknownException	エラー	不明な例外です。
kReadCfgANNUnknownException	エラー	不明な例外です。
kReadCfgCFBComException	エラー	COM エラー。
kReadCfgCFBDbException	エラー	データベース例外です。
kReadCfgCFBListComException	エラー	COM エラー。
kReadCfgCFBListDbException	エラー	データベース例外です。
kReadCfgCFBListUnknownException	エラー	不明な例外です。
kReadCfgCFBUnknownException	エラー	不明な例外です。
kReadCfgDbGetChgNotifyFailed	情報	変更通知ポートの取得の失敗です。
kReadCfgDbGetNodeNameFailed	エラー	データベース レイヤの自プロセス ノードの選択の失敗。
kReadCfgEnterpriseComException	エラー	COM エラー。
kReadCfgEnterpriseDbException	エラー	データベース例外です。
kReadCfgEnterpriseException	エラー	エンタープライズ全体の設定例外が発生しました。

アラーム名	重大度	説明
kReadCfgEnterpriseUnknownException	エラー	不明な例外です。
kReadCfgMOHAudioSourceComException	エラー	COM エラー。
kReadCfgMOHAudioSourceDbException	エラー	データベース例外です。
kReadCfgMOHAudioSourceUnknownException	エラー	不明な例外です。
kReadCfgMOHComException	エラー	COM エラー。
kReadCfgMOHDbException	エラー	データベース例外です。
kReadCfgMOHListComException	エラー	COM エラー。
kReadCfgMOHListDbException	エラー	データベース例外です。
kReadCfgMOHListUnknownException	エラー	不明な例外です。
kReadCfgMOHServerComException	エラー	COM エラー。
kReadCfgMOHServerDbException	エラー	データベース例外です。
kReadCfgMOHServerUnknownException	エラー	不明な例外です。
kReadCfgMOHTFTPAddressNotFound	エラー	MOH TFTP IP アドレスが見つかりません。
kReadCfgMOHUnknownException	エラー	不明な例外です。
kReadCfgMTPComException	エラー	COM エラー。
kReadCfgMTPDbException	エラー	データベース例外です。
kReadCfgMTPListComException	エラー	COM エラー。
kReadCfgMTPListDbException	エラー	データベース例外です。
kReadCfgMTPListUnknownException	エラー	不明な例外です。
kReadCfgMTPUnknownException	エラー	不明な例外です。
kRenderFileFailed	エラー	レンダ フィルタ間グラフでエラーが発生しました
kSetNotifyWindowFailed	エラー	通知ウィンドウを設定できませんでした。

## Test アラーム カタログで廃止されたアラーム

アラーム名	重大度	説明
TestAlarmWindows	情報	INFORMATIONAL_ALARM のテストです。

■ Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(1) で廃止されたアラーム